

沖縄県立博物館・美術館年報

(令和2年度 実績報告)

No. 14

2021

沖縄県立博物館・美術館

目 次

概要

I 沿革

II 日誌抄

III 施設・設備

IV 組織

V 沖縄県立博物館・美術館協議会

VI 予算

VII 収蔵資料現在高

2

9

11

14

20

20

21

利用統計

I 入館者統計

II 施設利用者統計

1. 総入館者集計

2. 団体別入館者集計

3. 展覧会別入館者集計

4. 2020年度（令和2）月間別入館者数

5. 年間入館者数の年次推移

6. 減免申請集計

7. 団体入館内訳

23

27

1. 月別施設利用集計

2. 当館主催事業及び施設貸出内訳

3. 県民ギャラリー貸出件数

博物館

I 調査研究等の活動

II 展示活動

III 教育普及活動

IV 資料の収集・保存管理

1. 調査研究の概要

2. 博物館総合調査－宮古諸島総合調査－

3. 博物館共同研究事業

4. 「一括交付金」活用事業

5. 博物館収蔵品WEB図鑑製作発信事業

6. 調査・研究・講演・著作論文等

7. 職員研修

42

1. 展示活動概要

2. 常設展

3. 常設展 部門展示替え／ミニ企画／エントランスホール展示

4. 特別展 「「岩石」一石ころから見える地球のダイナミズム－

5. 企画展 「激動の明治・大正の沖縄 第11代斎藤用之助の足跡から」

6. 企画展 「新収蔵品展 令和元年度収蔵資料－

7. 企画展 「博物館コレクション展 博物館の秘蔵品展」

8. 企画展 「沖縄の藍 自然と人が織りなす製藍の技－

9. 企画展 大嶺薫コレクション「文化復興の礎 戦後最初の博物館長・大嶺薫」

10. 琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展「手わざ」

57

1. 博物館教育普及活動の概要

2. 学校連携事業

3. 博物館体験学習教室

4. 博物館文化講座

5. 学芸員講座

6. 学芸員による常設展示解説会

7. 学芸員によるバックヤードツアー

8. こどもフェスタ秋2020

9. 博物館ボランティア活動

10. ふれあい体験室

11. 常設展に関する取り組み

12. 普及資料の貸出

13. ボランティアによる展示ガイド

79

1. 収蔵資料現在高

2. 2020年度（令和2）新収蔵資料高

3. 2020年度（令和2）新収蔵資料目録

4. 所蔵指定文化財

5. 修理事業

6. 資料保存管理事業 レプリカ・剥製製作（生物資料）

7. 資料収集事業

8. 資料貸出

9. 写真貸出

86

美術館

I 調査研究等の活動

II 展示活動

III 教育普及活動

1. 調査研究の概要

2. 調査・研究・講演・著作論文等

97

1. 展示活動概要

2. コレクション展（常設展）

3. 企画展 「沖縄の美術シリーズⅦ 稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」

4. 企画展 「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」

99

1. 美術館教育普及活動の概要

2. 鑑賞活動支援

3. ミュージアム・ツアー

4. コレクション・企画展開連催事

5. ワークショップ

6. 美術館招待事業（美術館へ行こう2020）

105

7. アートコンクール	8. 学芸員講座	9. 教職員講座・実技研修会
10. ボランティア活動	11. 出前授業	12. 慰霊の日関連催事
13. 複製制作	14. 首里城瓦利活用アイデアプロジェクト	
IV 資料収集・保存管理	118	
1. 収蔵作品現在高	2. 2020年度（令和2）新収蔵作品高	
3. 2020年度（令和2）新収蔵作品目録	4. 作品収集事業	5. 保存管理事業
6. 作品貸出		
一般財団法人 沖縄美ら島財団（指定管理者）	125	
I 沖縄美ら島財団概要	126	
II 運営方針	126	
1. 管理運営の基本方針	2. 管理理念	3. 運営方針
III 組織	128	
1. 職員構成	2. 管理組織図	
IV 展示活動	130	
1. 展示活動概要		
V 教育・イベント活動	134	
1. ワークショップ等		
VI 広報事業に関する業務	136	
VII 調査・研究・講演・著作論文等の活動	139	
1. 調査・研究等	2. 職員研修（研修会）	
全館共通事業	141	
I 学芸員実習	142	
1. 博物館実習	2. 美術館実習	3. 職場体験
II 国際博物館の日	144	
III 移動展	144	
IV 燻蒸・消毒処理	145	
V 刊行物	145	
VI 展示会一覧	146	
その他の活動	149	
I 沖縄県博物館協会	150	
II 全国の組織との関わり	150	
1. 日本博物館協会	2. 九州博物館協議会	3. 全国歴史民俗系博物館協議会
III 沖縄県立博物館友の会	151	
IV 特定非営利活動法人沖縄県立美術館支援会 happ	151	
関係法規抄録	156	
○博物館法	157	
○博物館法施行令	162	
○博物館法施行規則	162	
○博物館の登録に関する規則	168	
○沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則	172	
○沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則	172	
○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例	174	
○沖縄県立博物館・美術館管理規則	177	
○沖縄県立博物館・美術館保管資料の利用に関する取扱要領	186	
○沖縄県立博物館・美術館共催及び後援等に関する取扱要領	193	
○沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱	196	

概 要

- I 沿革
- II 日誌抄
- III 施設・設備
- IV 組織
- V 沖縄県立博物館・美術館協議会
- VI 予算
- VII 収蔵資料現在高

I 沿革

【前史】

1936年（昭和11）、旧首里城北殿に沖縄県教育会附設郷土博物館が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦後、米国海軍政府ウィラード・A・ハンナ少佐とJ・T・ワトキンス少佐が、アメリカに沖縄の歴史文化を紹介するために焼土の中から仏像や陶器などの文化財を収集し、1945年（昭和20）8月石川市（現うるま市）東恩納に沖縄陳列館を創設した。

一方、首里城周辺では、廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）3月頃、首里市汀良に首里市立郷土博物館が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）4月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、東恩納博物館と改称した。また、1947年（昭和22）12月には、首里市立郷土博物館も沖縄民政府に移管され、首里博物館と改称した。

【発展】

1953年（昭和28）、東恩納博物館が移転して、首里博物館と合併した。5月には、龍潭池畔に赤瓦屋根の本館とペルリ記念館が建設され、落成式の当日、戦後アメリカに持ち去られていた「おもろさうし」等の文化財が返還された。

1955年（昭和30）9月、沖縄民政府立首里博物館から琉球政府立博物館に改称した。さらに、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。

1972年（昭和47）の日本復帰に伴い、名称を沖縄県立博物館と改め、1973年（昭和48）に2階部を増築し、展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。

2004年（平成16）、那覇新都心（おもろまち）に新館の建設を着工した。首里在の博物館（旧博物館）は新館への移転準備のため、2006年（平成18）3月に閉館した。

2007年（平成19）11月1日、美術館を併設した沖縄県立博物館・美術館として開館した。

【あゆみ】

- | | | |
|------------|-----|--|
| 1946（昭和21） | 4月 | 沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（24日） |
| 1947（昭和22） | 12月 | 前年3月に首里汀良町に設立された「首里市立郷土博物館」が民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。 |
| 1953（昭和28） | 3月 | 「東恩納博物館」を「首里博物館」に移転合併する。 |
| | 5月 | 「首里博物館」は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。
米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、「ペルリ記念館」を附設して落成、贈呈される。
落成当日、米国大統領から戦後にアメリカに渡っていた「おもろさうし」等文化財が返還された。（26日） |
| 1954（昭和29） | 8月 | ハワイから三線「江戸与那」が返還される。 |
| 1955（昭和30） | 9月 | 「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。 |
| 1963（昭和38） | 4月 | 米国民政府から河島コレクションが贈呈される。 |
| 1965（昭和40） | 9月 | 大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。 |
| 1966（昭和41） | 10月 | 米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。 |
| | 11月 | 新館開館記念「現代美術展」が開催され、同時に尚家所蔵文化財も特別陳列された。（3日） |
| 1968（昭和43） | 9月 | 太宰府天満宮から鄭元偉書「徳高」扁額が寄贈される。（30日） |
| 1970（昭和45） | 10月 | 沖縄タイムス社及びG. H. カー博士より前庭に花園を贈呈される。 |
| 1971（昭和46） | 2月 | 八重山出土の陶器類約500点、検察庁より譲渡される。 |
| 1972（昭和47） | 2月 | サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展が開催される。
サントリー美術館寄贈の植樹造園譲与式が行われた。（27日） |
| | 5月 | 琉球切手原画及び切手類、郵政庁より譲渡される。（13日）
日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」と改称する。 |
| 1973（昭和48） | 2月 | 国庫補助により2階部を増築し、展示室を3室増設する。 |
| | 5月 | 「田名家文書」の寄託をうける。（9日） |
| | 7月 | 琉球切手原画が沖縄郵政管理事務所より譲渡される。（16日） |
| | 12月 | 琉球新報社から映画フィルム「沖縄」「海の民・沖縄島物語」「南の島・琉球」の3巻を寄贈される。（17日） |

1973 (昭和48)	12月	多和田真淳氏考古資料の寄託をうける。(19日)
1974 (昭和49)	11月	大阪天満宮から浦添王子朝熹書「徳馨」の寄託をうける。(27日) 糸満市摩文仁の平昌博物館から全資料譲与される。
1976 (昭和51)	4月	創立30周年記念式典を行う。(24日)
	7月	大英博物館から皇太子殿下に贈られた始祖鳥のレプリカ標本が寄贈される。
	12月	『博物館30年の歩み展』開催。
1977 (昭和52)	9月	玉陵石獅子を玉陵へ移管。
	11月	円覚寺の鐘、前庭に展示。
1978 (昭和53)	3月	G. H. カー博士より資料寄贈。
	7月	円覚寺の鐘楼が前庭に完成。
1979 (昭和54)	2月	尚裕氏より玉陵石獅子レプリカ 2 体が寄贈される。
	6月	特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催。
1980 (昭和55)	1月	特別展『日本の美－救世熱海美術館名品展－』及び『沖縄県立博物館名品展』開催。
	2月	「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する。(2008年度からは「移動展」に改称)
	8月	特別展『琉球のシダ植物』開催。
	11月	特別展『失われた生物たち－大恐竜展』開催
1981 (昭和56)	3月	博物館法に基づき「登録博物館」として登録される。(3月30日付け)
	5月	仲嶺俊子氏より貝類標本約2,000点が寄贈される。
	8月	G. H. カー博士より図書、写真等が寄贈される。
	10月	特別展『沖縄の美－日本民芸館蔵－』及び『戦前の沖縄写真展』開催。
1982 (昭和57)	5月	新たに常設展として自然部門を設置。
	7月	企画展『沖縄の昆虫』開催。
	10月	特別展『熊本県・沖縄県交流展－熊本の歴史と文化』開催。
1983 (昭和58)	5月	企画展『琉球の漆工芸』開催。
	11月	特別展『沖縄県・熊本県交流展－沖縄の美 風土と美術工芸』を熊本県立美術館にて開催。
1984 (昭和59)	6月	企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀』開催。
	7月	企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催。
	10月	企画展『今帰仁グスク展』開催。
1985 (昭和60)	2月	企画展『紅型衣装と型紙展』開催。
	3月	大嶺薫コレクションが贈呈される。
	11月	特別展『グスクグスクが語る古代琉球の歴史とロマン』開催。
1986 (昭和61)	2月	特別展『大嶺薫コレクション－美術工芸の美を求めて』開催。
	12月	天野鉄夫コレクション1,588点の寄贈をうける。
1987 (昭和62)	7月	「旧大安禅寺の鐘」が米国より返納寄贈され、泊高校で贈呈式が行われる。 天野ハル氏より亡夫鉄夫氏収集コケ類1,562点が寄贈される。
	10月	スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然・歴史・文化』『沖縄近代の絵画－物故作家』開催。 企画展『田名家収蔵品展－ある首里士族の400年』開催。
	12月	企画展『現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション』開催。
1988 (昭和63)	8月	特別展『ヤンバルの自然』開催。
	11月	特別展『三線名器100挺展』開催。
1989 (平成元)	11月	特別展『岡田コレクション・インドネシア更紗展』開催。
	12月	企画展『真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」』開催。
1990 (平成2)	1月	特別展『大アンデス文明展』開催。
	6月	湧田窯搬入。
	8月	企画展『沖縄の野鳥』開催。
	11月	企画展『沖縄の祭り』開催。
1991 (平成3)	2月	企画展『技と美－大城志津子の世界－』開催。
	8月	企画展『沖縄のチョウ展』開催。
	9月	企画展『壺屋陶工遺作展』開催。
	10月	特別展『アジアの祭りと芸能』開催。
1992 (平成4)	2月	企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催。
	3月	仲嶺俊子氏より貝類コレクションを寄贈される。
	4月	旧中城御殿の石牆整備工事に伴う第1次埋蔵文化財発掘調査開始。(～7月3日)
	6月	特別展『古代メキシコ至宝展』開催。

- 1992（平成4） 8月 特別展『沖縄の貝類―海からの贈りもの』開催。
10月 復帰20周年記念特別展『琉球王国―大交易時代とグスク』開催。
- 1993（平成5） 1月 特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催。
2月 企画展『謝花雲石展』開催。
3月 ハワイ在住の伊福盛寿氏から50点余のコレクションが寄贈される。
7月 旧中城御殿石垣工事にかかる第2次発掘調査開始。（～9月2日）
企画展『芭蕉布と平良敏子』開催。
8月 特別展『沖縄の川と生きもの』開催。
10月 企画展『刻まれた歴史―沖縄の石碑と拓本』開催。
企画展『琉球王朝時代の楽器―三線と御座楽』開催。
- 1994（平成6） 7月 特別展『子どもの世界』開催。
旧中城御殿石垣工事にかかる第3次発掘調査開始。（～8月20日）
- 1995（平成7） 3月 横浜国立大学教授長谷川善和氏より鹿類の化石約25,000点が寄贈された。
6月 戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催。
- 1996（平成8） 3月 栗田文子氏よりワラザン資料を寄贈される。
7月 特別展『大久米島展―しぜん・ひと・もの』開催。
10月 『新収蔵品展・ワラザン展』開催。
福田経子氏より「フクダコレクション」贈呈
12月 企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
- 1997（平成9） 4月 特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催。
- 1998（平成10） 7月 企画展『琉球王国時代の植物標本―ペリーが持ち帰った植物たち』開催。
11月 特別展『包むころ ふろしき』開催。
- 1999（平成11） 8月 特別展『三線のひろがり可能性』開催。
10月 企画展『日本の技―伝統のかたち』開催。
（第7回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展）
11月 ホノルル美術館からG.H.カー博士コレクション（考古資料6,000点余）寄贈。
- 2000（平成12） 2月 企画展『工芸王国―きらめく手わざの世界を沖縄から』開催。
7月 サミット開催記念特別展『大琉球展』開催。
11月 ハワイ移民100周年記念特別展『日系移民1世紀展―From Bento to Mixed Plate』開催。
- 2001（平成13） 2月 企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催。
3月 企画展『工芸王国―人・技・心』開催。
11月 特別展『かざりとかたち』開催。
- 2002（平成14） 8月 特別展『港川人展』開催。
10月 企画展『沖縄の文化財展』開催。
- 2003（平成15） 2月 企画展『おきなわナースものがたり』開催。
7月 企画展『旅する種子―運ばれるための巧妙なしかけ』開催。
10月 企画展『あじまゝ 沖縄の伝統とくらし―沖縄県立博物館収蔵資料展』を国立民族学博物館で開催。
特別企画展『沖縄織物へのメッセージ―田中俊雄の研究』開催。
- 2004（平成16） 2月 企画展『戦前・戦後の文化財保護―仲座久雄の活動をとらえて』開催。
3月 企画展『工芸王国―てわざの今、そして未来へ』開催。
8月 企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』（沖縄コレクター友の会主催）開催。
11月 企画展『自然界のエイリアン―海をこえて持ちこまれた動物たち』開催。
- 2005（平成17） 2月 特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会―入江正彦 児童文化史コレクション』開催。
- 2006（平成18） 2月 閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼―柳宗悦の民藝と巨匠たち展』開催。
3月 『ありがとう・さよなら』キャンペーン。（22日～31日 無料入館）
企画展『わたしの宝もの展』（博物館友の会主催）開催。
4月1日から博物館新館移転準備のため2007年（平成19）10月末まで休館する。
7月 博物館新館展示工事安全祈願祭。（於：波之上）
8月 宮城宏友氏より鳥籠7点寄贈。（11日）
10月 尚順男爵関係資料寄贈。（19日）
謝花雲石書「萬國陽和」屏風の寄贈。（26日）
12月 稲嶺一郎関係資料寄贈。（26日）
- 2007（平成19） 2月 坂口總之輔氏カメラ寄贈。（16日）

2007（平成19）	3月	新館へ事務所移転(29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30日)を行い、全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31日)。
	4月	新館での事務を開始する。（1日）
	7月	沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として文化の杜共同企業体が指定を受ける。
	8月	指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめ。
	11月	那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。（1日） 同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅ー港川人の来た道ー』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』を開催する。
2008（平成20）	2月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成17・18年度収蔵資料』開催。
	3月	指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催。 美術館常設展開会式。（25日）
	5月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成19年度収蔵資料』開催。 指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間でー無言館・沖縄・画家たちの表現』開催。 美術館企画展『新収蔵品展 ポリエドールー沖縄・アジアの多様性』開催。
	7月	指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催。 指定管理者企画展『しまくとぅば』開催。
	9月	博物館企画展『ずしがめの世界』開催。 開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催。
2009（平成21）	11月	美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催。
	1月	博物館企画展『発掘された日本列島2008』開催。 博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催。 美術館企画展『移動と表現ー変容する身体・言語・文化』開催。
	4月	指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ in 沖縄』開催。
	5月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成20年度資料』開催。 指定管理者自主事業『王昭展』開催。
	7月	指定管理者企画展『豊潤の美を求めてー金城安太郎と高島華宵』開催。 指定管理者企画展『琉球絵画展』開催。
2010（平成22）	9月	指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催。
	10月	博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く！』開催。 美術館企画展『名渡山愛順展ー名渡山愛順が愛した沖縄』開催。
	12月	博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
	1月	美術館企画展『タカエズトシコ展』開催。
	2月	博物館企画展『造礁サンゴ展ー楽園をつくった偉大な建築家』開催。 博物館企画展『ものづくり今昔』開催。
2011（平成23）	4月	総務班が設置され、3班体制となる。 指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催。 指定管理者自主事業『石川直樹写真展』開催。
	5月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成21年度収蔵資料』開催。 指定管理者企画展『遠き道ーはて無き精進の道程』開催。
	7月	指定管理者企画展『沖縄マンガ』展開催。
	9月	指定管理者企画展『風土と建築』開催。 博物館特別展『海のクロスロード 八重山展』開催。
	11月	美術館企画展『母たちの神ー比嘉康雄』展開催。
2011（平成23）	12月	博物館・指定管理者企画展『アイヌー美を求める心』開催。
	1月	美術館企画展『安谷屋正義』展開催。 博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催。
	2月	博物館企画展『骨の科学』開催。
	3月	博物館企画展平成22年度『大嶺薫コレクション展』開催。
	4月	博物館企画展平成23年度『大嶺薫コレクション展』開催。 指定管理者企画展『國古清尚』開催。
2011（平成23）	5月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成22年度収蔵資料』開催。 指定管理者企画展『生誕100年記念展 岡本太郎と沖縄ーここが世界の中心だ』開催。
	7月	指定管理者企画展『ロボット展』開催。 指定管理者企画展『印象派の誕生展』開催。
	9月	美術館企画展『東松照明展<太陽へのラブレター>』開催。

2011（平成23）	10月	博物館企画展『第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」』開催。 博物館企画展『沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年記念「工芸王国ー受けつがれる琉球のわざと美」』開催。
	11月	博物館特別展『宇宙ー遙かなるロマンを求めて』開催。
2012（平成24）	1月	博物館企画展『檀王法林寺開創400年記念「琉球と袋中上人ーエイサーの起源をさぐる」』開催。 美術館企画展『沖縄の美術シリーズ3 玉那覇正吉』開催。
	3月	指定管理者企画展『本土復帰40周年記念「田中一村展ー琉球弧で開花した美の世界」』開催。
	4月	博物館企画展『沖縄復帰40周年記念「紅型BINGATA 琉球王朝のいろとかたち」』開催。
	5月	指定管理者企画展『土門拳の昭和と沖縄』開催。
	6月	博物館企画展『新収蔵品展ー平成23年度収蔵資料』開催。 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
	7月	指定管理者企画展『旅する仮面』開催。 指定管理者自主事業『お化け屋敷で科学する』展開催。（沖縄テレビ共催）
	9月	美術館企画展『山田實展ー人と時の往来』開催。 博物館特別展『本土復帰40年記念「OKINAWAから沖縄へ」』開催。
	11月	美術館企画展『復帰40周年記念「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」』開催。
	12月	博物館企画展『大山盛保生誕100年記念 発見への情熱』開催。
2013（平成25）	2月	指定管理者自主事業『マリー・アントワネット物語』展開催。（沖縄タイムス共催） 指定管理者企画展『スタジオジブリ・レイアウト展』開催。
	5月	博物館企画展『大嶺薫コレクションー探求する心とその世界ー』展開催。 博物館企画展『新収蔵品展ー平成24年度収蔵資料』開催。 指定管理者企画展『佐川美術館蔵 平山郁夫ー大唐西域画への道ー』開催。
	7月	博物館特別展『海山川のおくりもの 目からウロコの大生き物展ー生物多様性ホットスポットJAPAN』開催。 指定管理者自主事業『ジミー大西作品展ー挑戦と革新ー』開催。
	9月	美術館企画展『沖縄の美術シリーズ4 安次嶺金正展ー緑の抒情ー』開催。
	11月	指定管理者企画展『京都 清水寺展』開催。
2014（平成26）	1月	美術館企画展『森山大道 終わらない旅 北/南』開催。
	2月	博物館企画展『サキタリ洞遺跡発掘調査速報展』開催。 博物館企画展『三線のチカラー形之美と音の妙ー』開催。
	4月	指定管理者企画展『木下晋展 生命の旅路』開催。
	5月	指定管理者企画展『麗しき琉球の記憶ー鎌倉芳太郎が発見した“美”』開催。 博物館企画展『新収蔵品展ー平成25年度収蔵資料』開催。
	7月	指定管理者企画展『20世紀フランス絵画展ー山形美術館 服部コレクションー』開催。
	9月	博物館企画展 久米崇聖会創立100周年記念『久米村（クニンダ）ー琉球と中国の架け橋ー』開催。 美術館企画展『色彩と風のシンフォニー 内間安理の世界』開催。
	11月	博物館企画展『大嶺薫コレクションーアジアへの眼差しー』開催。 博物館特別展『水中文化遺産ー海に沈んだ歴史のカケラー』開催。
2015（平成27）	1月	美術館企画展『ゴー・ビトゥイーンズ展 こどもを通して見る世界』開催。
	2月	博物館企画展『イノシシとブタと私たち』開催。
	3月	指定管理者企画展『報道カメラマン大城弘明×山城博明写真展ー二人が撮らえた沖縄・終わらない戦後』開催。
	4月	博物館企画展『うちくいー沖縄のふろしきー』開催。 指定管理者企画展『ディズニー 夢と魔法の90年展ーミッキーマウスからピクサーまで』開催。
	6月	美術館特別企画展『戦後70年 特別企画展 ニシムイ 太陽のキャンバス』開催。
	7月	指定管理者企画展『深海探検 海底二万里の世界』開催。 指定管理者自主事業『大哺乳類展 ぼくらのなかまたち』開催。
	9月	美術館企画展『石田尚志 渦まく光』開催。 博物館特別展『琉球弧の葬墓制ー風とサンゴの吊いー』開催。

2015（平成27）	11月	美術館企画展『沖縄の美術シリーズ5 大嶺政寛展－情熱の赤瓦 沖縄の原風景を求めて－』開催。
	12月	博物館企画展『新収蔵品展－平成26年度収蔵資料－』開催。 博物館企画展『大嶺薫コレクション－探求する心とその世界－』開催。
2016（平成28）	1月	博物館企画展『大気と気象～見えない空気の“力と技”～』開催。 九州歴史資料館×沖縄県立博物館・美術館 企画展『沖縄の旧石器人と人類の起源』を九州歴史資料館にて開催。
	2月	美術館企画展『木梨憲武展×20years』開催。 沖縄県立芸術大学×沖縄県立博物館・美術館 コラボ企画展『芸大の御宝展～ものとひとをつくる～』開催。
	3月	美術館企画展『パブロ・ピカソ ゲルニカ（タピスリ）沖縄特別展－戦後70年、今ゲルニカで考える－』開催。
	4月	沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として一般財団法人沖縄美ら島財団が指定を受ける。 美術館企画展 文化勲章受章記念『志村ふくみー母衣への回帰－』開催。
	5月	博物館企画展『大嶺コレクション展－美をもとめて－』開催。 博物館企画展『新収蔵品展－平成27年度収蔵資料－』開催。
	7月	博物館企画展『目からウロコの生物実験展～今年の夏は、ジッケン、タイケン、大ハッケン！』開催。
	9月	博物館企画展 日本民藝館80周年『沖縄の工芸展－柳宗悦と昭和10年代の沖縄』開催。
	11月	博物館特別展『港川人の時代とその後－琉球弧をめぐる人類の起源と展開－』開催。
	12月	美術館企画展『夢の美術館－めぐりあう名画たち－ 福岡市美術館・北九州市立美術館名品コレクション』開催。
2017（平成29）	1月	博物館企画展『琉球・沖縄の地図展～時空を超えて沖縄がみえる～』開催。
	2月	博物館常設展示の充実強化を図るため、県指定文化財の梵鐘7口を加えて展示をリニューアル。屋外に大聖禅寺鐘（実物）を設置。
	3月	美術館企画展 沖縄の美術シリーズVI『山元恵一展－まなざしのシュルレアリスム－』開催。
	4月	美術館特別展『写真家が見つめた沖縄1972～2017』開催。 美術館特別企画展『開館十周年企画 安次富長昭展』開催。
	5月	指定管理者企画展『やんばるの森の美』開催。 博物館企画展『新収蔵品展－平成28年度収蔵資料－』開催。 博物館企画展『博物館70年のあゆみ』開催。 美術館『《今帰仁城盛衰記》－知られざる金城安太郎の仕事』開催。 指定管理者企画展『やんばるの森の美－写真展－』開催。
	7月	美術館『ベトナム絵画展』開催。 指定管理者企画展『水族館でも出会えない、海のビックリ生物展』開催。 大阪府立弥生博物館共催『沖縄の旧石器人と南島文化』（場所：弥生博物館）開催。
	9月	博物館企画展『ウィルソンが見た沖縄』開催。
	11月	博物館特別展『開館10周年特別展 海の沖縄』開催。 美術館企画展『開館10周年特別企画展 彷徨の海－旅する画家・南風原朝光と台湾、沖縄』開催。
	12月	美術館企画展『開館10周年特別企画展 邂逅の海－交差するリアリズム』開催。
2018（平成30）	1月	人間国宝島袋正雄氏より県指定有形文化財「三線 与那城型 名玉城與那」の寄贈を受ける。
	2月	博物館企画展『大嶺コレクション展－かざる－』開催。 美術館『大和コレクションⅦ』開催。
	4月	美術館企画展『涯テノ詩聲 詩人 吉増剛造展』開催。
	5月	博物館企画展『新収蔵品展－平成29年度収蔵資料－』開催。
	7月	美術館『儀間比呂志の世界』開催。
	9月	美術館企画展『宮城健盛展』開催。
	11月	博物館特別展『縄文と沖縄－火焔型土器のシンボリズムとヒスイの道』開催。 サキタリ洞遺跡の発掘調査で、県内最古となる5500年前（縄文時代前期）の赤色顔料を確認。
	12月	新島ユキ氏より、亡き夫で植物学者の新島義龍氏の植物関係写真資料9,881点が寄贈される。

2019（平成31）	1月	美術館『伊志嶺隆と平敷兼七』開催。 博物館企画展『大嶺薫コレクション展－吉祥－』開催。
2019（平成31）	2月	博物館企画展『琉球三線楽器保存・育成会創立30周年記念事業 沖縄が誇る家宝の三線展』開催。
	3月	指定管理者企画展『ホキ美術館名品展』開催。
	4月	博物館企画展『新収蔵品展－平成30年度収蔵資料－』開催。 博物館企画展『大嶺薫コレクション展－探求する心とその世界－』開催。
2019（令和元）	7月	美術館コレクション展『金城安太郎展』、『沖縄を描いた画家 1930 - 1950's』開催。
	9月	博物館企画展『台湾－黒潮でつながる隣（とうない）ジマー』開催。 美術館企画展『上條文穂と波多野泉 現代彫刻展』開催。 美術館コレクション展『真喜志勉 ドローイング展』開催。
	10月	美術館コレクション展『作家の視点、作品の視点』開催。
	11月	博物館特別展『グスク・ぐすく・城－動乱の時代に生み出された遺産－』開催。
	12月	美術館企画展『作家と現在』開催。
2020（令和2）	2月	博物館特別展『手わざー琉球王国の輝きー』開催。 美術館コレクション展『石田尚志展』開催。 美術館コレクション展『大城精徳の仕事』開催。 指定管理者企画展『みんなのレオ・レオーニ展』開催。
	4月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、4月10日から臨時休館（～5月20日）
	5月	博物館企画展『激動の明治・大正の沖縄 第11代齋藤用之助の足跡から』開催 博物館企画展『新収蔵品展－令和元年度収蔵資料－』開催
	8月	新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、8月2日から臨時休館。（～9月5日）
	9月	博物館特別展『岩石 THE ROCK ー石ころから見える地球のダイナミズムー』開催。 美術館企画展『稲嶺成祚 The Exhibition of INAMINE Seiso』開催。
	12月	博物館企画展『沖縄の藍 ー自然と人の織りなす製藍の技ー』開催。 博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催
	2月	指定管理者企画展『よみがえる正倉院宝物 ー再現模造にみえる天平の技ー』開催。
	3月	美術館企画展『石川真生展 Exhibition of ISHIKAWA Mao』開催。

【歴代館長】

東恩納博物館

大嶺 薫（1946年4月～1953年3月）

首里博物館

豊平 良顕（1947年12月～1948年3月）

原田 貞吉（1948年8月～1953年3月）

沖縄民政府立首里博物館

原田 貞吉（1953年3月～1955年5月）

琉球政府立博物館

山里 永吉（1955年5月～1958年8月）

大城 知善（1962年2月～1969年11月）

金城増太郎（1958年9月～1961年12月）

外間 正幸（1969年12月～1972年4月）

沖縄県立博物館

外間 正幸（1972年5月～1981年3月）

大城 立裕（1983年4月～1986年3月）

宜保榮治郎（1992年4月～1994年3月）

當間 一郎（1996年4月～1999年3月）

平田 興進（2000年4月～2002年3月）

名嘉 政修（2005年4月～2006年3月）

新垣 隆雄（2007年4月～2007年10月）

大城徳次郎（1981年4月～1983年3月）

大城 宗清（1986年4月～1992年3月）

糸数 兼治（1994年4月～1996年3月）

大城 将保（1999年4月～2000年3月）

當眞 嗣一（2002年4月～2005年3月）

宮城 清志（2006年4月～2007年3月）

沖縄県立博物館・美術館

牧野 浩隆（2007年11月～2011年3月）

安里 進（2013年5月～2016年3月）

白保 台一（2011年4月～2013年2月）

田名 真之（2016年4月～）

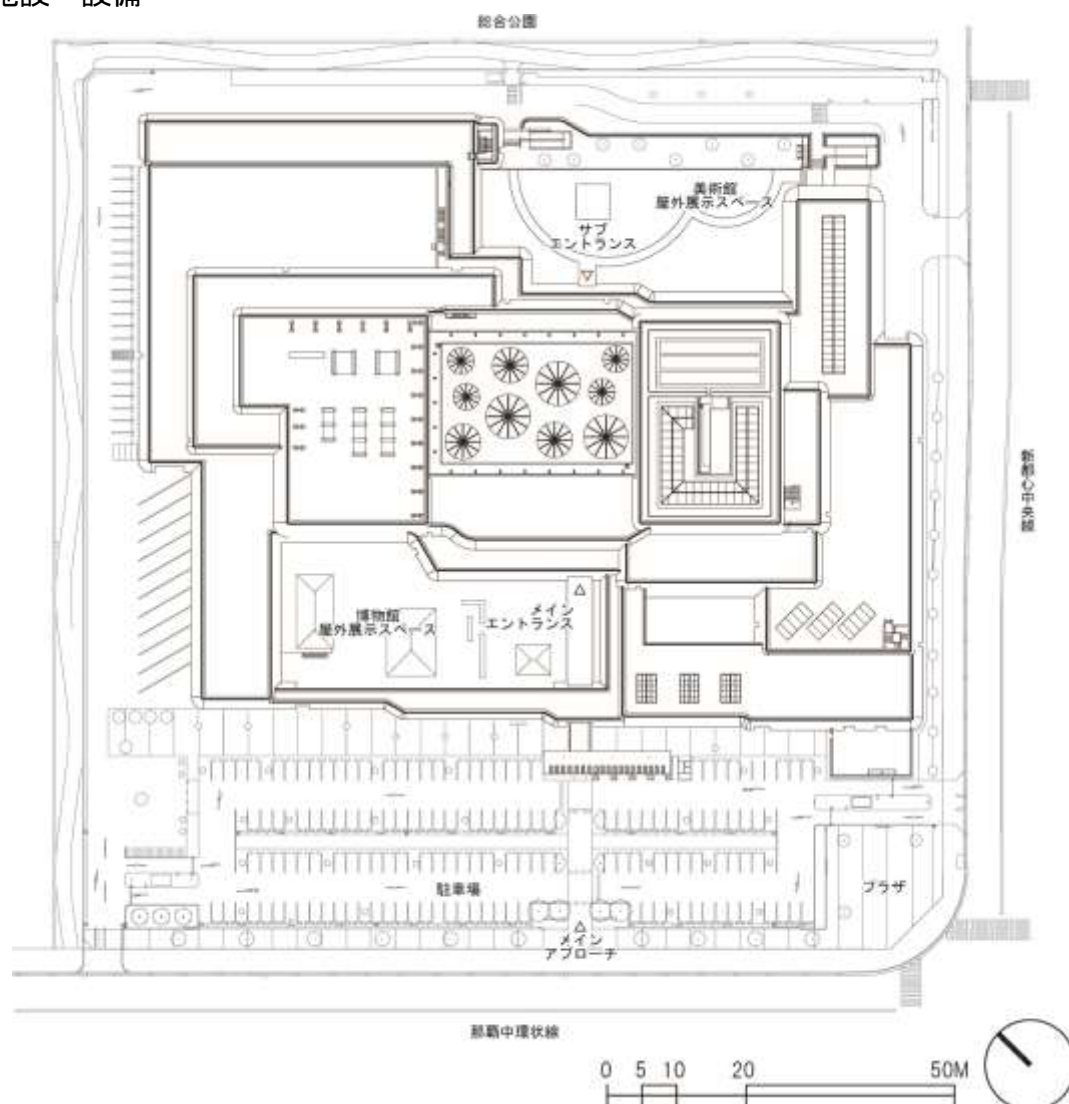
Ⅱ 日誌抄（2020年4月1日～2021年3月31日）

2020年（令和2）

- 4月
 - 1日 令和2年度人事異動発令式
 - 1日 ふれあい体験室の休室（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
 - 9日 情報センターの休室（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
 - 10日 臨時休館（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）（～5月6日）
 - 10日 沖縄県博物館協会監査
 - 26日 5月開催予定イベントの中止をHP発表
- 5月
 - 7日 臨時休館の延長（～20日）
 - 13日 デジタルミュージアム推進事業 令和2年度動画コンテンツ制作委託業務第一次審査
 - 21日 開館（一部施設は当面の間引き続き使用停止（情報センター、ふれあい体験室、施設貸出、ミュージアムカフェ））
 - 21日 「激動の明治・大正の沖縄 第11代斎藤用之助の足跡から」開幕（～8月1日）
 - 21日 「新収蔵品展－令和元年度収蔵資料－」開幕（～6月21日）
 - 21日 博物館常設展美術工芸部門展示「よみがえる首里城」開幕（～9月6日）
 - 21日 「国際博物館の日2020」パネル展・WEB展覧会（～6月7日）
 - 21日 デジタルミュージアム推進事業 令和2年度動画コンテンツ制作委託業務第二次審査
 - 23日 「国際博物館の日2020」博物館常設展・美術館コレクション展無料開放
 - 29日 第2回国民文化祭準備委員会（館長）
- 6月
 - 2日 情報センター、ふれあい体験室、ミュージアムカフェの再開
 - 9日 エントランスミニ展示「稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿－先島諸島と久米島の遺跡を見る－」開幕（～7月19日）
 - 9日 第11管区海上保安本部 藤田次長来館（館長）
 - 16日 エントランスミニ展示「慰霊の日関連 子どもたちと沖縄戦」開幕（～28日）
 - 24日 消防自主点検の実施（指定管理者）（～30日）
 - 29日 メンテナンスのため臨時休館（全館燻蒸消毒）（～7月7日）
- 7月
 - 8日 東京国立博物館・九州国立博物館・NHK関係者来館、復帰50周年展会議（～9日）（館長）
 - 14日 博物館コレクション展「博物館の秘蔵品」開幕（～8月1日）
 - 15日 琉球王国文化遺産集積・再興事業監修者会議（三線）
 - 19日 琉球王国文化遺産集積・再興事業監修者会議（木彫）
 - 21日 エントランスミニ展示「化石展 ～アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界～」（～10月25日）
 - 23日 企画展「描かれた首里城」開幕（～9月6日）
 - 28日 情報センター、ふれあい体験室の休室及び当面の間一部イベントの中止又は延期（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
 - 30日 指定管理者制度運用委員会
- 8月
 - 2日 臨時休館（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）（～15日）
 - 4日 沖縄県観光振興計画第1回アドバイザー会議出席（館長）
 - 16日 臨時休館の延長（～29日）
 - 30日 臨時休館の再延長（～9月5日）
- 9月
 - 3日 次期指定管理者募集に係る現地説明会
 - 6日 開館（引き続き一部施設は当面の間休室（情報センター、ふれあい体験室）及び当面の間一部イベント中止又は延期）
 - 6日 台風10号の接近により午前中臨時休館（午後1時から開館）
 - 8日 ミュージアムカフェ再開
 - 8日 特別展「『岩石』－石ころから見える地球のダイナミズム」開幕（～11月15日）
 - 8日 令和2年度博物館学芸員実習（前期1）（～11日）
 - 11日 沖縄県観光振興計画第2回アドバイザー会議出席（館長）
 - 15日 博物館常設展美術工芸部門展示替え「自然が織りなす琉球の美－岩石展・琉球藍点関連展示－」（～12月6日）
 - 15日 博物館常設展歴史部門展示替え「重要文化財指定記念－中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜－」（～12月6日）
 - 15日 令和2年度博物館学芸員実習（前期2）（～18日）
 - 18日 「稲嶺成祚展」開幕（～11月3日）
 - 19日 情報センター再開

9月	28日	消防訓練
10月	13日	令和2年度博物館学芸員実習（後期1）（～19日）
	20日	令和2年度博物館学芸員実習（後期2）（～26日）
	20日	美術館コレクション展「沖縄美術の流れ(写真)」 「子どもの情景」 「沖縄美術の流れ」 開幕
	21日	鄭氏門中会来館（館長）
	25日	館内勤務する職員1名の新型コロナウイルス感染を確認・HP発表
	26日	令和2年度美術館学芸員実習（10月26日～11月28日の期間中に10日間の分散実習）
	27日	エントランスミニ展示「首里城収蔵品パネル展」 開幕（～11月8日）
	28日	指定管理者制度運用委員会
	30日	夜間消防訓練（指定管理者）
11月	3日	沖縄県功労者表彰式出席（館長）
	3日	おきみゅー誕生祭開催・博物館常設展・美術館コレクション展無料開放
	4日	伊江村教育長来館（館長）
	5日	九州博物館協議会職員研修会（～6日）
	8日	「手わざー琉球王国の文化ー」巡回展（宮古島市） 開幕（～11月22日）
	9日	沖縄県文化功労者表彰式 出席（副館長）
	16日	美術館収集委員会
	20日	国民文化祭企画会議（館長）
12月	1日	「沖縄の藍ー自然と人が織りなす製藍の技ー」、「大嶺薫コレクション展」 開幕（～1月24日）
	4日	指定管理者募集に係る現地説明会
	6日	「手わざー琉球王国の文化ー」巡回展（石垣市） 開幕（館長）（～12月20日）
	11日	ミハイル・ガルージン駐日ロシア大使夫妻来館視察（館長）
	14日	東京富士美術館館長来館（館長）
	15日	「名画を読み解くー珠玉の東京富士美術館コレクションー」 開幕（～1月31日）
	15日	久米崇聖会理事長来館（館長）
	28日	仕事納め
1月	4日	仕事始め
	19日	博物館常設展歴史部門展示「世界遺産登録20周年展」 開幕（～2月21日）
	20日	沖縄研究奨励賞授賞式（館長）
	21日	情報センターの休室（新型コロナウイルス感染症拡大防止のため）
	21日	「手わざー琉球王国の文化ー」巡回展（首里城） 開幕（館長）（～2月28日）
	27日	令和2年度情報セキュリティ内部監査
	28日	指定管理者制度運用委員会
2月	9日	御大典記念特別展「よみがえる正倉院宝物ー再現模造にみる天平の技ー」 開幕（～3月28日）
	9日	博物館常設展美術工芸部門企画展「修理と復元でよみがえる！ー琉球の美を未来へ伝えるためにー」 開幕
	10日	沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科「第32回卒業・修了作品展」 開幕（～2月14日）
	12日	沖縄県立芸術大学卒展表彰式（館長）
	14日	「手わざー琉球王国の文化ー」巡回展（県立芸術大学） 開幕（館長）（～2月28日）
	16日	沖縄県観光振興計画第4回アドバイザリー会議出席（館長）
	17日	定期監査
	24日	沖縄県立博物館・美術館協議会
	24日	夜間防災訓練
3月	2日	メンテナンスのため臨時休館（全館燻蒸消毒）（～4日）
	5日	「石川真生展ー醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。ー」 開幕
	5日	情報センター及び一部イベントの再開
	5日	美術館コレクション展「沖縄美術の流れ(写真)」 「子どもの情景」の展示作品の展示替え
	8日	琉球王国文化遺産集積・再興事業監修者会議（三線）（副館長）
	15日	臨時開館（コロナ禍により減少した観覧機会の提供等のため）
	22日	臨時開館（コロナ禍により減少した観覧機会の提供等のため）
	26日	沖縄県文化財審議委員会（館長）
	29日	館内県職員向け会計事務勉強会

Ⅲ 施設・設備



建築概要

●敷地面積……………	31,287㎡
●建築面積……………	13,452㎡
●延床面積……………	23,721㎡
博物館専有面積…	10,478㎡
美術館専有面積…	7,537㎡
共有面積……………	5,708㎡
●高さ・最高高さ…	GL+21.8m
●駐車場	
一般駐車場……………	158台
(うち身障者用4台)	
大型バス駐車場…	10台
駐輪場……………	25台
関係者駐車場……………	22台

供用施設

●エントランスホール	724㎡
●情報センター……………	217㎡
●講堂 (212席) ……	349㎡

博物館の主たる施設

●展示施設	
総合展示室……………	1,252㎡
部門展示室……………	1,344㎡
自然史部門……………	360㎡
考古部門……………	262㎡
美術工芸部門……………	180㎡
歴史部門……………	120㎡
民俗部門……………	421㎡
屋外展示場……………	1,425㎡
企画展示室……………	351㎡
特別展示室……………	459㎡
●教育普及施設	
ふれあい体験室……………	110㎡
博物館講座室……………	191㎡
実習室……………	108㎡

●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

自然史収蔵庫……………	417㎡
化石収蔵庫……………	245㎡
考古・陶磁器収蔵庫……………	613㎡
特別収蔵庫……………	439㎡
民俗収蔵庫……………	668㎡
大型収蔵庫……………	358㎡
液浸標本室……………	97㎡
一時保管庫……………	119㎡

●調査研究施設

研究室……………	176㎡
研究資料室……………	111㎡
会議室……………	72㎡

美術館の主たる施設

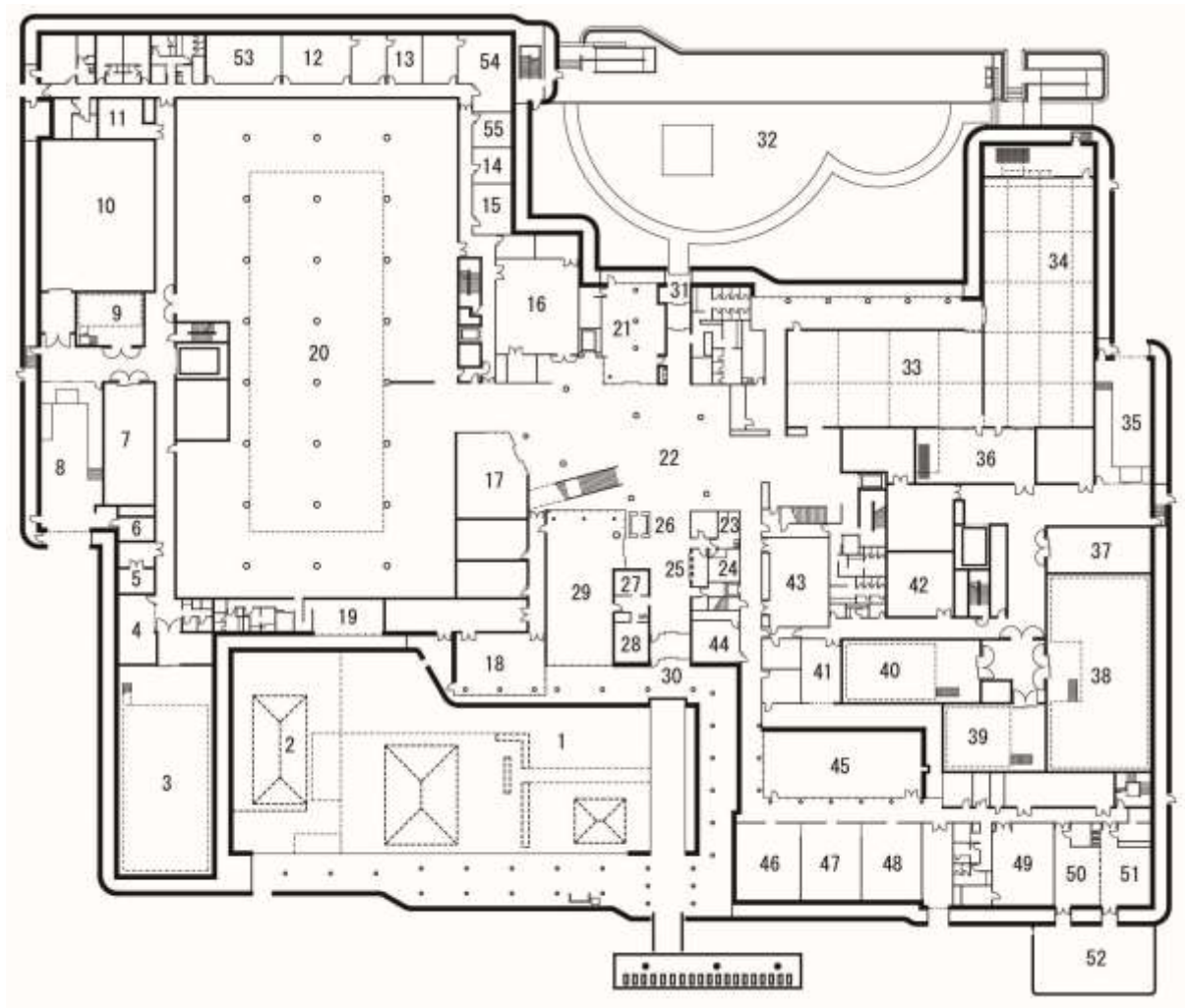
●展示施設	
企画ギャラリー1……………	394㎡
企画ギャラリー2……………	490㎡
コレクションギャラリー1……………	164㎡
コレクションギャラリー2……………	284㎡
コレクションギャラリー3……………	370㎡
県民ギャラリー(1～3)……………	277㎡
県民ギャラリー(スタジオ)……………	111㎡
県民アトリエ……………	65㎡
こどもアトリエ……………	70㎡
屋外展示場……………	1,368㎡
●教育普及施設	
美術館講座室……………	109㎡

●収蔵施設 (ダブルデッキ含む)

収蔵庫A……………	683㎡
収蔵庫B……………	248㎡
収蔵庫C……………	204㎡

●調査研究施設

研究室……………	98㎡
研究資料室……………	98㎡
会議室……………	58㎡



1 階

1 階

(博物館)

- 1 博物館野外展示
- 2 湧田古窯
- 3 民俗収蔵庫
- 4 写真撮影室
- 5 冷凍庫
- 6 石工室
- 7 一時保管庫
- 8 トラックヤード
- 9 液浸標本室
- 10 大型収蔵庫
- 11 修理修復室
- 12 博物館・美術館庶務室
- 13 館長室
- 14 支援会室
- 15 博物館ボランティア室
- 16 博物館講座室
- 17 博物館ふれあい体験室
- 18 博物館実習室
- 19 博物館常設展示休憩室
- 20 博物館常設展示室

(共有)

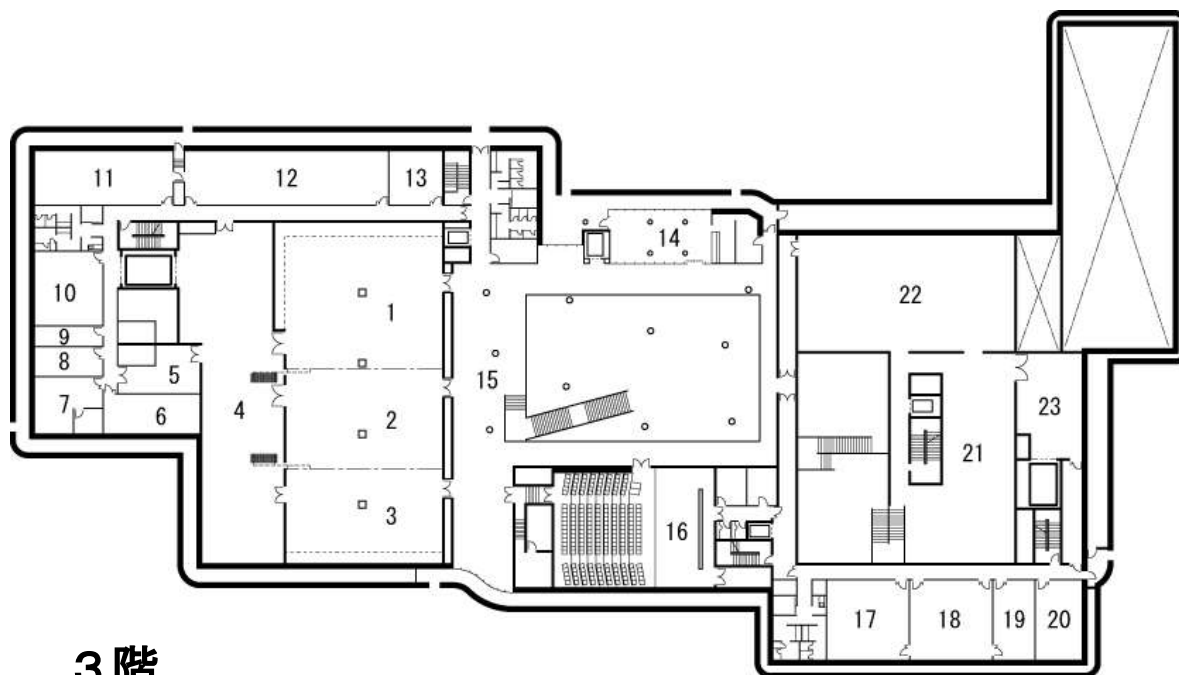
- 21 ミュージアムショップ
- 22 エントランスホール
- 23 授乳室
- 24 託児室
- 25 券売
- 26 総合案内
- 27 救護室
- 28 コインロッカー
- 29 情報センター
- 30 メインエントランス
- 31 サブエントランス

(美術館)

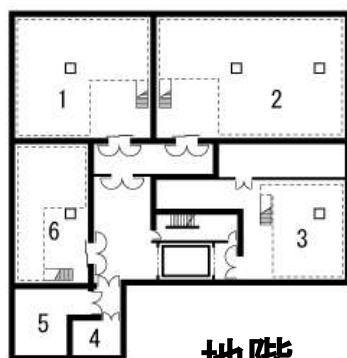
- 32 美術館野外展示
- 33 美術館企画ギャラリー1
- 34 美術館企画ギャラリー2
- 35 トラックヤード
- 36 展示準備室
- 37 一時保管庫
- 38 収蔵庫A
- 39 収蔵庫B
- 40 収蔵庫C
- 41 保存修復室
- 42 工作室
- 43 美術館講座室
- 44 美術館ボランティア室
- 45 中庭
- 46 県民ギャラリー1
- 47 県民ギャラリー2
- 48 県民ギャラリー3
- 49 県民ギャラリー (スタジオ)
- 50 県民アトリエ
- 51 こどもアトリエ
- 52 屋外活動スペース

(指定管理者)

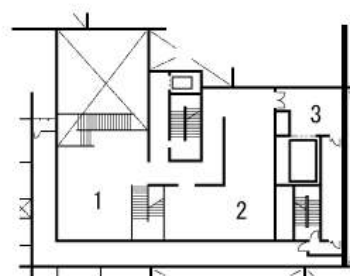
- 53 会議室
- 54 事務室
- 55 展示交流員控室



3階



地階



2階

3階

(博物館)

- 1 企画展示室
- 2 特別展示室 1
- 3 特別展示室 2
- 4 展示準備室
- 5 工作室
- 6 自然史実験室
- 7 保存科学室
- 8 フィルム保管庫
- 9 映像編集室
- 10 学芸員会議室
- 11 研究資料室
- 12 学芸員研究室
- 13 研修室

(共有)

- 14 喫茶室
- 15 ホワイエ
- 16 講堂

(美術館)

- 17 研究資料室
- 18 学芸員研究室
- 19 情報処理室
- 20 学芸員会議室
- 21 コレクションギャラリー 2
- 22 コレクションギャラリー 3
- 23 展示準備室

地階

(博物館)

- 1 特別収蔵庫
- 2 考古陶磁器収蔵庫
- 3 自然史収蔵庫
- 4 劣化フィルム収蔵庫
- 5 写真パネル収蔵庫
- 6 化石収蔵庫

2階

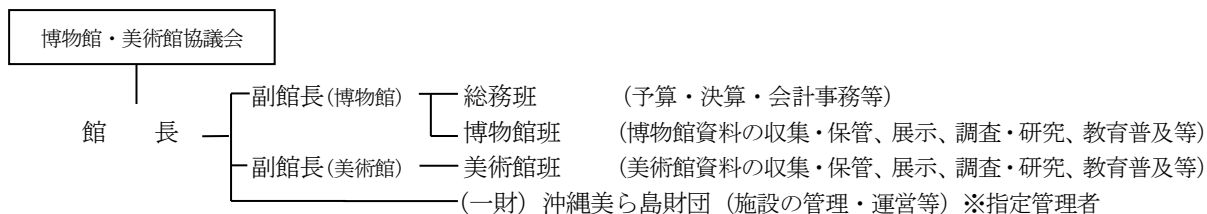
(美術館)

- 1 ホワイエ
- 2 コレクションギャラリー 1
- 3 展示準備室

IV 組 織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館の組織は、「総務班」「博物館班」「美術館班」の県組織と、指定管理者である（一財）沖縄美ら島財団の4つにより構成されている。なお、（一財）沖縄美ら島財団に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】

2020年4月1日現在

職 名	氏 名	担 当 業 務
館 長	田名 真之	◎博物館・美術館の総括に関すること。
博 物 館 副 館 長	上原 毅	◎博物館業務の統括に関すること。 ◎総務班・博物館班の指揮監督に関すること。
副 館 長 兼美術館班長	仲嶺 香代	◎美術館業務の統括に関すること。 ◎美術館班の総括に関すること。

(総務班)

職 名	氏 名	担 当 業 務
総 務 班 長	古堅 陽子	◎総務班の総括に関すること ◎出納員に関すること ◎指定管理者との調整に関すること ◎視察対応の総括に関すること ◎博物館・美術館協議会に関すること ◎博物館・美術館の広報宣伝に関すること ◎防災・危機管理に関すること ○その他特に上司が命ずる事項に関すること
主 査	當間 千春	◎出納業務に関すること ◎美術館班の会計業務に関すること ◎職員の給与、福利、服務及び研修業務に関すること ◎監査に関すること ◎文書の管理業務に関すること ◎労働安全衛生業務に関すること ◎物品に関すること ◎施設・財産関連業務に関すること ○その他特に上司が命ずる事項に関すること
主 任	上原 隆大	◎予算（歳入・歳出）及び決算に関すること ◎博物館・美術館保全・修繕事業に関すること ◎博物館班の会計業務に関すること ◎情報管理に関すること ○指定管理者との調整に関すること ◎公用車の管理業務（支出含む）に関すること ◎公印の管理に関すること ○その他特に上司が命ずる事項に関すること
事務補助員	古堅 幸絵	○文書受付に関すること。 ○業務補助に関すること。

(博物館班)

職 名	氏 名	担 当 業 務
班 長	大湾 ゆかり	◎博物館班の総括に関すること ◎令和2年度博物館班予算及び博物館班の全体計画に関すること

職 名	氏 名	担 当 業 務
班 長	大湾 ゆかり	◎企画展「沖縄の藍一人と自然が織りなす製藍の技ー」に関する事 ◎沖縄県博物館協会、日本博物館協会、九州博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に関する事 ◎視察対応・県議会対応に関する事 ◎博物館特別展示室・企画展示室の管理・運営に関する事 ◎首里城被災資料の管理及び「里帰り事業」に関する事 ◎学芸員実習・県職員研修等の受け入れに関する事 ◎指定管理者との調整及び友の会に関する事 ◎学芸員ゼミの運営に関する事 ◎毒物劇物管理責任者（博物館班）に関する事 ○一括交付金事業「琉球王国文化遺産集積・再興事業」、「デジタルミュージアム推進事業」に関する事 ○台湾国立故宫博物院の展示会に関する事 ○その他、上司が特に命ずる事項に関する事
主任学芸員 (歴史)	崎原 恭子	◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎常設展示総合展示・博物館総合・部門展示（歴史分野）・屋外展示（鐘楼）に関する事 ◎「里帰り事業」に関する事 ◎資料収集事業に関する事 ◎台北国立故宫博物院「万国津梁ー琉球王国の歴史と文化ー」展に関する事 ○一括交付金「デジタルミュージアム推進事業」に関する事 ○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関する事 ○沖縄県博物館協会・日本博物館協会・九州博物館協議会に関する事 ○全国歴史民俗系博物館協議会に関する事 ○企画展「沖縄の藍展」に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員 (歴史)	外間 一先	◎人文系（歴史・美術工芸）グループの統括に関する事 ◎歴史資料（近・現代）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎常設総合展示室・博物館総合・部門展示（歴史分野）に関する事 ◎令和2年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の統括及び予算に関する事 ◎企画展「齋藤用之助展」に関する事 ◎令和4年度「復帰50周年記念展」に関する事 ◎文化庁主催「建築展」（首里城模型の貸し出し）に関する事 ◎沖縄県博物館協会に関する事 ◎劣化フィルム保管庫の空調設備の修理及び資料の管理に関する事 ○令和3年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の統括に関する事 ○「里帰り事業」に関する事 ○「国際博物館の日」関連事業に関する事 ○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関する事 ○博物館協会（日博協・九博協）に関する事 ○写真資料の貸出、博物館資料の撮影に関する事 ○その他、上司が特に命ずる事項に関する事
学 芸 員 (美術工芸)	篠原 あかね	◎美術工芸（染織・陶芸・三線）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎常設展総合・部門展示（美術工芸等）に関する事 ◎令和2年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の巡回展及び製作（三線）に関する事 ◎令和3年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の巡回展及び統括に関する事 ◎博物館資料収集事業（美術品購入基金）に関する事 ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影に関する事 ○博物館資料修復事業に関する事 ○「里帰り事業」に関する事 ○首里城被災資料の管理に関する事

職 名	氏 名	担 当 業 務
学 芸 員 (美術工芸)	篠原 あかね	○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関すること ○琉球三線楽器保存・育成会に関すること ○その他、上司特に命じる事項に関すること
学 芸 員 (美術工芸)	伊禮 拓郎	◎美術工芸（書跡・絵画・彫刻・漆芸）の収集・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（美術工芸等）に関すること ◎令和2年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の巡回展及び製作（木彫・漆芸）に関すること ◎博物館資料修理事業に関すること ◎大嶺薫コレクション展に関すること ◎公開承認施設申請に関すること ◎情報化推進リーダーに関すること ○令和3年度「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の巡回展及び総括に関すること ○新収蔵品展に関すること ○IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒、施設管理に関すること ○博物館資料収集事業(博物館美術品購入基金)に関すること ○首里城被災資料の管理に関すること ○「里帰り事業」に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること
主任学芸員 (考 古)	山本 正昭	◎民俗・考古・教育普及グループの統括に関すること ◎考古資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門（考古分野）・屋外展（湧田窯）に関すること ◎移動展に関すること ◎考古資料の複製・修復に関すること ◎全国歴史民俗系博物館協議会に関すること ◎博物館『年報』の編集・発行に関すること ◎大嶺薫コレクション展に関すること ○劣化フィルム保管庫の空調設備の修理及び資料の管理に関すること ○文化庁主催「建築展」及び国立歴史民俗博物館の展示会への資料貸し出しに関すること ○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関すること ○情報センターの図書・データに関すること ○民俗文化財調査（厨子甕）に関すること ○常設総合展示室に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること
主任学芸員 (教育普及)	大城 久表	◎教育普及の統括に関すること ◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関すること ◎博物館学習等の調査研究に関すること ◎常設・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること ◎展示ガイド養成、博物館友の会・ボランティア活動事業に関すること ◎体験学習教室・夏休み子ども教室の企画及び野外展示の活用に関すること ◎文化講座・学芸員講座の企画調整に関すること ◎学校連携及び博物館教育普及モデル事業に関すること ◎ふれあい体験室の運営に関すること ○移動展に関すること ○令和4年度「復帰50周年記念展」に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること
学 芸 員 (民 俗)	阿利 よし乃	◎民俗資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（民俗部門）・屋外展示（高倉・民家）に関すること ◎一括交付金事業「デジタルミュージアム推進事業」に関すること ◎民俗文化財調査（厨子甕）に関すること ◎保存環境調査（展示室・収蔵庫）に関すること ◎IPM及び博物館資料のくん蒸・消毒に関すること ◎琉球三線楽器保存・育成会に関すること ○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関すること

職 名	氏 名	担 当 業 務
学 芸 員 (民 俗)	阿利 よし乃	○令和2年度企画展「沖縄の藍展」に関する事 ○全国歴史民俗系博物館協議会に関する事 ○「里帰り事業」に関する事 ○全国歴史民俗系博物館協議会に関する事 ○その他、上司が特に命ずる事項に関する事
主任学芸員 (自然史・地学)	宇佐美 賢	◎自然史資料（岩石・化石）の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎博物館総合・部門（地質化石等）・屋外展示に関する事 ◎自然史（生物・地学・人類）グループの統括に関する事 ◎令和2年度特別展「岩石展」に関する事 ◎化石資料の整理事業に関する事 ◎博物館ホームページに関する事 ○IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関する事 ○情報化推進リーダーに関する事 ○博物館班広報連絡調整に関する事 ○令和3年度特別展「進化展」に関する事 ○新収蔵品展に関する事 ○毒物劇物管理責任者（博物館班） ○収蔵品データの総括管理（データベース、収蔵品台帳）に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員 (自然史・生物)	菊川 章	◎生物資料の収集・保管・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎博物館総合・部門展示（自然史「動物・植物」）・屋外展示（植生）に関する事 ◎「坂口総一郎植物標本整理・発信事業」に関する事 ◎令和3年度特別展「進化展」に関する事 ◎博物館総合調査に関する事 ◎常設展モニターの修理に関する事 ◎S-NETに関する事 ◎毒物劇物管理の博物館班担当 ◎博物館協会（科博協）に関する事 ○博物館紀要の編集・発行に関する事 ○新収蔵品展に関する事 ○学芸研究資料室の図書に関する事 ○沖縄県博物館協会に関する事 ○令和2年度特別展「岩石展」に関する事 ○令和4年度「復帰50周年記念展」に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員 (人 類)	山崎 真治	◎自然史資料（先史人類学）の収集・保管（港川人骨）・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎博物館総合・部門展示（自然史「人類学」）に関する事 ◎図書の受入・整理及び写真資料等の整理に関する事 ◎令和3年度企画展「貝塚展（仮称）」に関する事 ◎港川人骨の管理に関する事 ◎共同研究事業に関する事 ◎科学研究費受託機関の認定に関する事 ◎博物館ホームページに関する事 ◎「国際博物館の日」関連事業に関する事 ○公開承認施設の申請に関する事 ○新収蔵品展に関する事 ○「里帰り事業」に関する事 ○広報連絡会議に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
学 芸 員 (人 類)	澤浦 亮平	◎自然史資料（先史人類学）の収集・保管（港川人骨）・整理・調査研究・公開等に関する事 ◎博物館総合・部門展示（人類学分野）に関する事 ◎収蔵品データの総括管理（データベース、収蔵品台帳）に関する事 ◎IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関する事 ◎博物館紀要の編集・発行に関する事

職 名	氏 名	担 当 業 務
学 芸 員 (人 類)	澤 浦 亮 平	◎新収蔵品展に関する事 ○劣化フィルム保管庫の空調設備の修理及び資料の管理に関する事 ○移動展に関する事 ○共同研究事業に関する事 ○港川人骨の管理に関する事 ○博物館ホームページに関する事 ○民俗文化財調査（厨子甕）に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員 (学芸業務補佐)	與那嶺 一子	◎公文書の整理に関する事 ○美術工芸資料の収集・保管・整理・調査研究・展示公開等の支援に関する事 ○博物館総合・部門展示（美術工芸等）の支援に関する事 ○博物館班業務全般の支援に関する事 ○写真資料等の整理の支援に関する事 ○大嶺薫コレクション展の支援に関する事 ○博物館資料修理事業の支援に関する事 ○博物館資料収集事業（博物館美術品購入基金）の支援に関する事 ○「里帰り事業」の支援に関する事 ○「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の支援に関する事 ○首里城火災資料の管理に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
学芸業務 補助員	勝 連 涼 子	◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関する事 ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等の受付に関する事 ◎寄贈図書類の回覧に関する事 ○展示公開事業の補佐に関する事 ○学芸員の補佐に関する事 ○写真資料等の整理に関する事 ○公文書の整理に関する事 ○学芸研究資料室の図書に関する事 ○発送業務等の集約に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
教育普及業務 補助員	塩 屋 尚 子	○教育普及担当学芸員の補佐に関する事 ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関する事 ○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関する事 ○博物館学習等の調査研究、照会事項対応の補助に関する事 ○ボランティア活動の連絡調整に関する事 ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関する事 ○視聴覚機器の整理・保管に関する事 ○文化講座の企画等に関する事 ○その他上司が特に命じる事項に関する事
事務補助員	玉 城 知 子	○「琉球王国文化遺産集積・再興事業」の補助に関する事 ○その他特に上司が命じる事項に関する事
事務補助員	松 本 芙 多 葉	○「坂口総一郎等当館植物標本整理・発信事業」に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事

(美術館班)

職 名	氏 名	担 当 業 務
副館長 兼美術館班長	仲 嶺 香 代	◎美術館業務の総括に関する事 ◎館長の補佐に関する事 ◎外郭団体等への対応に関する事 ◎指定管理者との連絡調整に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員	豊 見 山 愛	◎調査研究活動に関する事 ◎近現代美術の収集・展覧会等、研究に関する事 ◎紀要の発行に関する事 ◎「子どもの情景」「大城精徳展」に関する事 ◎外部からの沖縄美術に関する情報提供依頼への対応

職 名	氏 名	担 当 業 務
主任学芸員	豊見山 愛	○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主任学芸員	富原 圭子	◎教育普及活動に関する事 ◎教育普及活動の調査・研究に関する事 ◎「沖縄美術の流れ」展に関する事 ◎教育普及事業・団体見学受入・出前授業等に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
主 任	梶原 正史	◎資料保存管理活動に関する事 ◎保存修復の研究に関する事 ◎移動展に関する事 ◎フィルムデジタル化事業に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
学 芸 員	亀海 史明	◎資料収集活動に関する事 ◎写真・映像の研究に関する事 ◎「石川真生」展、「沖縄美術の流れ」展に関する事 ◎美術館資源発信基盤整備事業に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
学 芸 員	大城 さゆり	◎展示公開活動に関する事 ◎展覧会計画策定に関する事 ◎「稲嶺成祐」、「REFLECTIONS」展に関する事 ◎共催・後援・協力に関する事 ○その他、上司が特に命じる事項に関する事
美術品調査員	金城 知美	◎写真資料の貸出、撮影、閲覧等の受付に関する事 ◎収蔵品データベースに関する事 ○調査研究、資料収集、展示公開事業の補佐に関する事 ○2次資料の整理に関する事
学芸業務 補助員	並里 千佳	◎展示公開事業の補佐に関する事 ◎学芸業務の補佐に関する事 ○美術館資料調査、収集及び整理に関する事 ○収蔵品目録等の編集業務の補佐に関する事
事務補助員	奥平 こずえ	◎文書の収受、発送に関する事 ◎図書の受付、整理に関する事 ○文書等の整理、保管に関する事 ○業務補助に関する事
事務補助員	玉利 咲	◎美術館資源発信基盤整備事業の補佐に関する事

※◎は主担当業務、○は副担当業務。

【人事異動】

2020年4月1日 現在

	班 名	職 名	氏 名	摘 要
転出	総務班	参事兼副館長	金城 健	定年退職(※3月31日)
	総務班	班長	大城 美千代	福祉政策課
	博物館班	主任	野原 寿浩	物品管理課
	博物館班	主幹	久部良 和子	定年退職(※3月31日)
	博物館班	主任学芸員	園原 謙	空手振興課
転入	博物館班	主任学芸員	大川 剛	宇栄原小学校
	総務班	博物館副館長	上原 毅	産業政策課
	総務班	班長	古堅 陽子	具志川職業能力開発校
	博物館班	主査	當間 千春	会計課
	博物館班	主任学芸員	崎原 恭子	空手振興課
	博物館班	主任学芸員	大城 久表	松島中学校

V 沖縄県立博物館・美術館協議会

日 時：2021年2月24日（水） 10:00～11:30

議 題（資料送付）

- ・令和2年度事業実績報告
- ・令和3年度事業計画

沖縄県立博物館・美術館協議会委員名簿

（任期：2020年7月10日～2022年7月9日）

分 野		氏 名	所 属	職 名
学識経験者	自然史	濱口 寿夫	中城村護佐丸歴史資料図書館	館 長
	歴 史	里井 洋一	琉球大学教育学部	教 授
	考 古	池田 榮史	琉球大学国際地域創造学部	教 授
	民 俗	稲福みき子	元沖縄国際大学	名誉教授
	人 類	○土肥 直美	元琉球大学医学部	元准教授
	美術（画）	◎宮城 篤正	元沖縄県立芸術大学	元 学 長
	美術（立体）	西村 貞雄	元琉球大学	名誉教授
	美術（写真）	仲本 賢	沖縄県立芸術大学美術工学部	教 授
	観光行政学	下地 芳郎	沖縄コンベンションビューロー	会 長
学校教育関係者	小学校教育	宮國 義人	沖縄県小学校長会	副 会 長
	中学校教育	斉藤 美喜夫	沖縄県中学校長会	副 会 長
	高校教育	大瀨 裕司	沖縄県高等学校長会	副 会 長
社会教育・ 家庭教育関係者	社会教育	森田 孟則	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会 長
	家庭教育	下地 イツ子	沖縄県高等学校PTA連合会	副 会 長

（◎会長、○副会長 2021年3月31日現在）

VI 予 算

2020年度 歳出状況（決算）

単位：千円

	博物館・美術館指定管理費	博物館・美術館費	博物館・美術館保全修繕事業	琉球王国文化遺産集積・再興事業	デジタルミュージアム推進事業	映像フィルム作品の修復・デジタル化事業	美術館資源発信基盤整備事業	在外琉球王国文化財里帰り事業	合 計
報 酬		14,159		1,966			1,966		18,091
報償費		232		191					423
旅 費		2,499		1,647	11		92		4,249
需用費		32,218	26,447				100		58,765
役務費		3,071							3,071
委託料	351,315	33,133		61,741	19,879	3,291	332		469,691
使用料及び賃借料		3,585		45					3,630
備 品購入費		16,770					103		16,873
負担金、補助及び交付金		93							93
公課費		57							57
繰出金		12							12
合 計	351,315	105,829	26,447	65,590	19,890	3,291	2,593	0	574,955

※本庁執行分を含む

	収入金額	説 明
土 地 使 用 料	32	自動販売機土地使用料等
建 物 使 用 料	2,610	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料等
国 庫 補 助 金	111,627	沖縄振興特別推進交付金等
違 約 金	268	館内設備修繕に係る業務委託先の契約解除に伴う違約金
雑 入	7,606	土地使用に係る電気料金、雇用保険料等
文化財修復事業助成	4,000	住友財団文化財維持・修復事業助成金
展示会等助成金	1,968	芸術文化振興基金助成金、全国化学博物館活動等助成金
合 計	128,111	※本庁収納分を除く

VII 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2021年3月31日 現在

	分 類	件 数	小 計
博 物 館	自 然 史	57,257	100,490
	人 類	130	
	美 術 工 芸	11,003	
	歴 史	14,407	
	考 古	9,768	
	民 俗	7,925	
美 術 館	平 面	1,895	4,800
	立 体	281	
	写 真 ・ 映 像	2,595	
	そ の 他	29	
総 計			105,290

利用統計

- I 入館者統計
- II 施設利用者統計

I 入館者統計

1 総入館者集計

(単位：人)

年	月	博 物 館												美 術 館												全 体				総入館者	開館日数	入館者数 一日平均
		常 設 展			企 画 展			特 別 展			全 体			コレクション展			企 画 展			全 体			展示室合計			展示以外 (共有)						
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計							
2020 (令和2)	4	303	97	400	0	0	0	0	0	0	303	97	400	125	49	174	990	119	1,109	1,115	168	1,283	1,418	265	1,683	1,850	3,389	8	424			
	5	245	290	535	290	194	484	0	0	0	535	484	1,019	110	195	305	0	0	0	110	195	305	645	679	1,324	1,324	1,774	10	177			
	6	1,078	552	1,630	848	335	1,183	0	0	0	1,926	887	2,813	545	162	707	0	0	0	545	162	707	2,471	1,049	3,520	3,520	7,272	24	303			
	7	1,606	707	2,313	1,379	475	1,854	0	0	0	2,985	1,182	4,167	762	219	981	403	216	619	1,165	435	1,600	4,150	1,617	5,767	5,767	9,116	21	434			
	8	67	34	101	69	31	100	0	0	0	136	65	201	24	10	34	29	15	44	53	25	78	189	90	279	279	316	1	316			
	9	1,367	432	1,799	0	0	0	1,333	449	1,782	2,700	881	3,581	594	151	745	655	171	826	1,249	322	1,571	3,949	1,203	5,152	5,152	8,558	21	408			
	10	1,833	1,180	3,013	0	0	0	1,999	1,053	3,052	3,832	2,233	6,065	628	573	1,201	1,196	565	1,761	1,824	1,138	2,962	5,656	3,371	9,027	9,027	15,428	27	571			
	11	2,224	3,356	5,580	0	0	0	1,737	1,031	2,768	3,961	4,387	8,348	1,230	1,235	2,465	312	151	463	1,542	1,386	2,928	5,503	5,773	11,276	11,276	20,395	25	816			
	12	2,546	1,666	4,212	3,333	806	4,139	0	0	0	5,879	2,472	8,351	1,065	666	1,731	5,454	205	5,659	6,519	871	7,390	12,398	3,343	15,741	15,741	21,949	26	844			
2021 (令和3)	1	1,847	1,160	3,007	2,653	920	3,573	0	0	0	4,500	2,080	6,580	902	440	1,342	18,788	846	19,634	19,690	1,286	20,976	24,190	3,366	27,556	27,556	28,544	27	1,057			
	2	1,564	683	2,247	5,320	434	5,754	0	0	0	6,884	1,117	8,001	897	335	1,232	0	0	0	897	335	1,232	7,781	1,452	9,233	9,233	16,848	24	702			
	3	2,995	987	3,982	7,777	1,081	8,858	0	0	0	10,772	2,068	12,840	917	425	1,342	1,327	209	1,536	2,244	634	2,787	13,016	2,702	15,718	15,718	23,090	25	924			
合 計		17,675	11,144	28,819	21,669	4,276	25,945	5,069	2,533	7,602	44,413	17,953	62,366	7,799	4,460	12,259	29,154	2,497	31,651	36,953	6,957	43,910	81,366	24,910	106,276	106,276	156,679	239	656			
目 標		82,592			36,125			6,739			125,456			28,809			47,183			75,992			201,448									
達成率(%)		24.89%			419.94%			47.73%			51.18%			41.48%			18.35%			20.80%			30.77%									

2 団体別入館者集計

(単位：人)

項目	県内										県外										国外								合計		
	小中生		高大生		特別支援		その他		小計		小中生		高大生		特別支援		その他		小計		小中生		高大生		特別支援		小計				
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6月	0	0	4	74	0	0	0	0	0	4	74	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	74	
7月	2	168	0	0	0	0	0	0	0	2	168	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	168	
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	1	8	0	0	0	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8	
10月	14	644	2	73	0	0	2	37	18	754	1	71	1	17	0	0	0	0	0	2	88	0	0	0	0	0	0	0	20	842	
11月	18	1,318	4	80	2	17	0	0	24	1,415	1	86	1	31	0	0	0	0	2	117	0	0	0	0	0	0	0	0	26	1,532	
12月	16	974	5	169	1	4	0	0	22	1,147	0	0	1	20	0	0	0	0	1	20	0	0	0	0	0	0	0	0	23	1,167	
1月	4	362	3	95	0	0	1	19	8	476	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	476		
2月	3	127	1	166	0	0	0	0	4	293	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	293		
3月	1	145	1	195	1	8	1	14	4	362	0	0	4	992	0	0	0	0	4	992	0	0	0	0	0	0	0	0	8	1,354	
合計	58	3,738	21	860	4	29	4	70	87	4,697	2	157	7	1,060	0	0	0	0	9	1,217	0	0	0	0	0	0	0	0	96	5,914	

※「その他」の団体に含まれるのは、保育園、幼稚園、学童クラブなどの教育施設団体

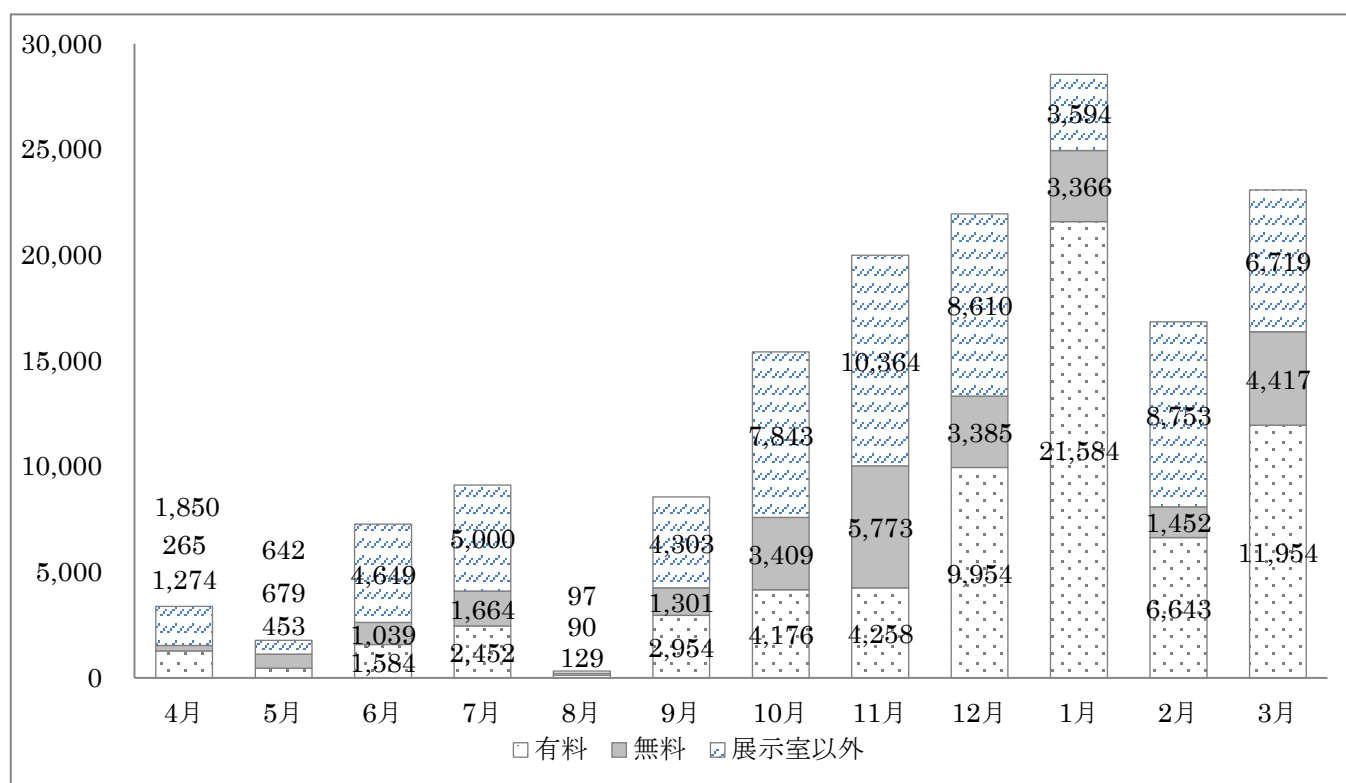
3 展覧会別入館者集計

(単位：人)

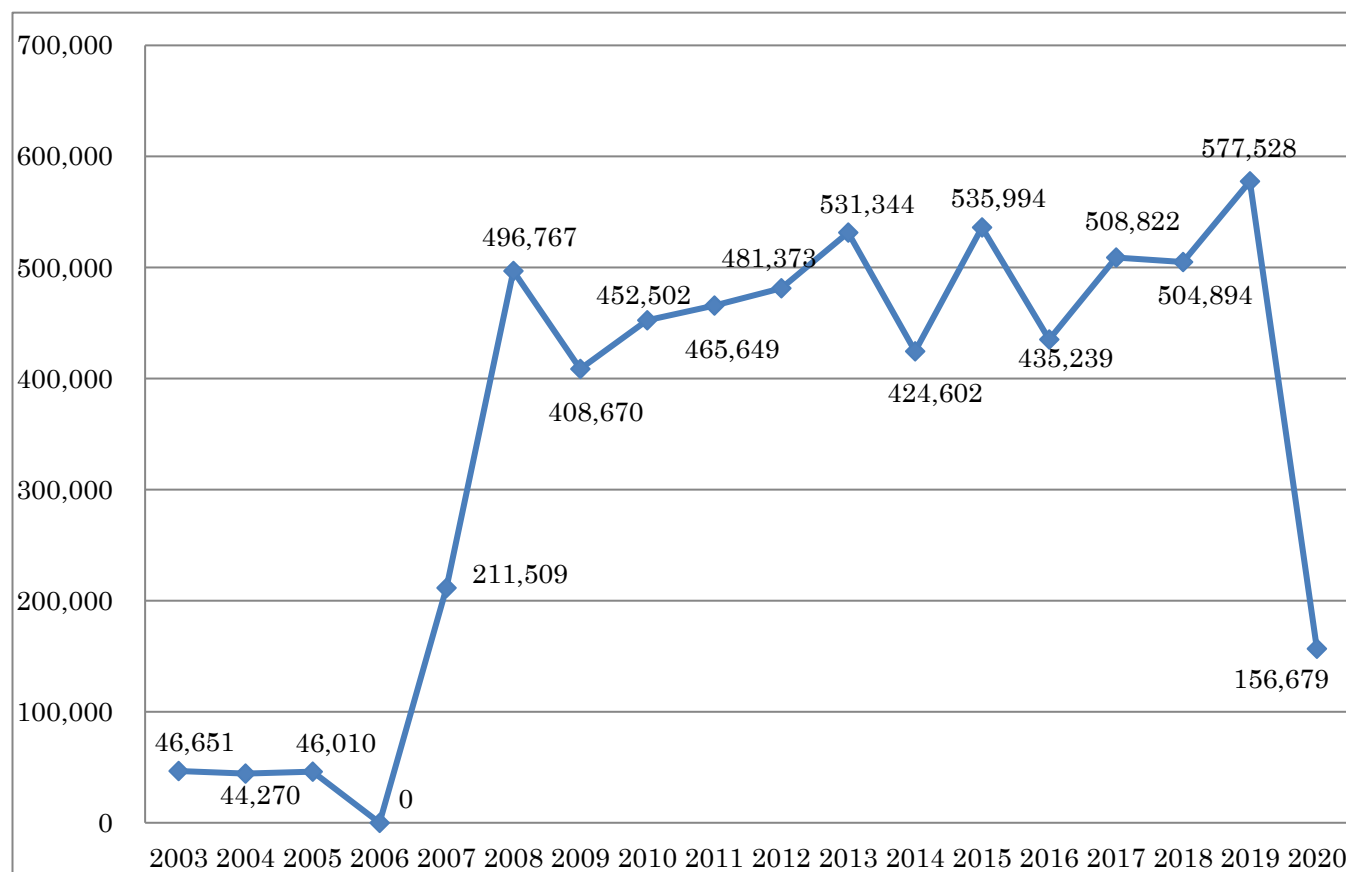
展覧会名		観覧者区分	当日券	団体券	前売券	1Day passport	セット券	年間パス	その他 割 引	優 待 (障がい)	有料者 合 計	優 待 (障がい)	無料者数	総合計	
博 物 館	企画展「激動の明治・大正の沖縄 第11代齋藤用之助の足跡から」	一 般	310	0	0	821	0	81	8	0	1,220	191	131	1,542	
		高・大学生	24	0	0	134	0	0	11	0	169	2	0	171	
		小・中学生	0	0	0	15	0	0	0	0	0	15	4	85	104
	企画展「新収蔵品展－令和元年度 収蔵資料－」	一 般	117	0	0	232	0	54	7	0	0	410	92	164	666
		高・大学生	11	0	0	37	0	0	2	0	0	50	0	0	50
		小・中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	39	41
	企画展「博物館コレクション展」	一 般	214	0	0	361	0	46	2	0	0	623	120	154	897
		高・大学生	17	0	0	66	0	0	7	0	0	90	2	0	92
		小・中学生	0	0	0	9	0	0	0	0	0	9	2	47	58
	特別展「岩石－石ころから見える 地球のダイナミズム－」	一 般	2,345	26	8	743	551	253	310	149	0	4,385	0	788	5,173
		高・大学生	319	49	0	113	46	0	105	2	0	634	0	0	634
		小・中学生	0	0	0	39	11	0	0	0	0	50	1	1,744	1,795
	企画展「沖縄の藍－自然と人が 織りなす製藍の技－」	一 般	1,238	2	27	892	557	247	488	0	0	3,451	383	560	4,394
		高・大学生	72	18	1	112	68	0	65	0	0	336	3	0	339
		小・中学生	0	0	0	33	0	0	0	0	0	33	8	282	323
	企画展「大嶺薫コレクション展」	一 般	532	0	0	766	508	142	0	0	0	1,948	127	215	2,290
		高・大学生	57	0	0	80	47	0	0	0	0	184	0	10	194
		小・中学生	18	0	0	14	2	0	0	0	0	34	0	138	172
美 術 館	企画展「稲嶺成祚展」	一 般	752	0	9	402	133	142	268	83	1,789	0	757	2,546	
		高・大学生	54	0	0	64	30	0	20	1	169	0	0	169	
		小・中学生	121	0	0	9	0	0	29	2	161	0	118	279	
	企画展「石川真生展：醜くも美しい 人の一生、私は人間が好きだ」	一 般	650	0	9	253	0	118	40	60	0	1,130	0	136	1,266
		高・大学生	62	0	0	93	0	0	20	3	178	0	0	178	
		小・中学生	0	0	0	19	0	0	0	0	0	19	0	73	92
指 定 管 理 者	企画展「みんなのレオ・レオーニ展 READING LEO LIONNI, AGAIN.」	一 般	324	0	211	57	0	44	122	18	776	0	19	795	
		高・大学生	21	0	9	12	0	0	8	1	51	0	0	51	
		小・中学生	70	0	58	3	0	0	29	3	163	0	100	263	
	企画展「描かれた首里城」	一 般	158	0	0	209	0	41	6	0	0	414	64	142	620
		高・大学生	7	0	0	48	0	0	2	0	0	57	2	0	59
		小・中学生	0	0	0	5	0	0	0	0	0	5	0	35	40
	企画展「名画を読み解く－珠玉の東京 富士美術館コレクション－」	一 般	9,776	0	1,241	795	0	435	7,302	812	0	20,361	0	355	20,716
		高・大学生	1,097	0	234	116	0	0	516	12	0	1,975	0	0	1,975
		小・中学生	1,150	0	119	44	0	0	570	23	0	1,906	0	696	2,602
	企画展「よみがえる正倉院宝物 －再現模造にみる天平の技－」	一 般	7,365	0	1,012	660	0	356	1,393	499	0	11,285	0	1,266	12,551
高・大学生		481	0	40	156	0	0	129	9	0	815	0	0	815	
小・中学生		709	0	99	53	0	0	120	16	0	997	0	249	1,246	
合 計	一 般	23,781	28	2,517	6,191	1,749	1,959	9,946	1,621	0	47,792	977	4,687	53,456	
	高・大学生	2,222	67	284	1,031	191	0	885	28	0	4,708	9	10	4,727	
	小・中学生	2,068	0	276	243	13	0	748	44	0	3,392	17	3,606	7,015	

※博物館企画展に関しては、優待（障がい者）は無料者数へ含む。

4 2020年度（令和2）月間別入館者数



5 年間入館者数の年次推移



6 減免申請集計

(単位：人)

項 目		学校関係 (下見)		旅行社関係 (視察・引率)		マスコミ関係 (視察)		福祉関係 (引率)		博物館・美術館 関係者 (視察)		その他		合計	
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
2020	4月	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
	5月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	6月	2	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5
	7月	2	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	6
	8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	9月	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	10月	6	21	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	7	24
	11月	10	28	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	11	32
	12月	5	11	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	6	13
2021	1月	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	8
	2月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	3月	3	9	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	5	16
合 計		33	98	5	16	0		0	0	0	0	0	0	38	114

7 団体入館内訳

県内 小学校

のべ52校 3,429名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	7	10	天底小学校	34	19	11	12	南風原小学校	154	36	12	4	座安小学校	93
2		22	天久小学校	134	20			松島小学校	112	37			普天間第二小学校3年生	114
3	10	1	翔南小学校	83	21		13	長嶺小学校	83	38			普天間第二小学校5年生	114
4		6	志真志小学校	63	22			とよみ小学校	107	39			中城小学校	42
5		7	志真志小学校	62	23		17	高嶺小学校	59	40		10	豊見城小学校	111
6		8	佐敷小学校3年生	72	24			新城小学校	43	41		11	瀬喜田小学校	13
7			佐敷小学校4年生	66	25		18	坂田小学校	158	42		17	曙小学校	53
8		9	安富祖小学校	13	26		19	本部小学校	90	43		23	銘苺小学校	55
9		16	阿波連小学校	7	27		20	室川小学校	48	44		24	銘苺小学校	55
10		22	仲里小学校	28	28		26	那覇小学校	74	45	1	14	若狭小学校	51
11		23	川崎小学校	71	29		27	真地小学校	79	46		20	中城南小学校5年生	121
12			与那国小学校	14	30			大道小学校	50	47		22	中城南小学校3年生	147
13		28	ニューライフアカデミー	9	31	12	1	松川小学校	76	48		26	壺屋小学校	43
14		30	上間小学校	86	32			天久小学校	33	49	2	12	安謝小学校	105
15			百名小学校	32	33		2	天妃小学校	65	50		24	伊平屋小学校	16
16	11	6	海星小学校	27	34			天久小学校	31	51			野甫小学校	6
17			城南小学校	81	35		3	天久小学校	99	52	3	12	泊小学校	145
18			諸見小学校	70										

県内 中学校

のべ6校 141名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	9	上野中学校	38	3	11	25	黒島中学校	5	5	12	19	伊良波中学校	10
2	11	4	城北中学校若夏分校	30	4		27	高嶺中学校	48	6			鏡原中学校	10

県内 高校

のべ11校 379名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	6	9	沖縄水産高校	18	5	11	6	那覇工業高校	12	9	1	8	北部農林高校	35
2		10	星槎国際高校	9	6		18	星槎国際高校	25	10			22	陽明高校
3	9	24	石川高校	8	7	12	1	沖縄水産高校	17	11	3	12	向陽高校	195
4	11	5	首里東高校	15	8		9	那覇西高校	41					

県内 専門学校・大学

のべ10校 481名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	6	11	沖縄国際大学	20	5	11	12	沖縄県立芸術大学	28	9	1	7	インターナショナル・デザインアカデミー	56
2		27	エルケア医療保育専門学校	27	6	12	18	インターナショナル・デザインアカデミー	45	10	2	12	ゴレスアカデミー 日	166
3	10	16	サイテクカレッジ那覇	53	7	22	インターナショナル・デザインアカデミー	40	本文化経済学院					
4		22	沖縄国際大学	20	8	24	ヒューマンアカデミー那覇校	26						

県内 特別支援学校					のべ4校 29名				
No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11	4	南風原高等支援学校	8	3	12	18	森川特別支援学校	4
2		10	南風原高等支援学校	9	4	3	17	安岡中学校特別支援学級	8

県内 幼稚園・保育園・その他					のべ4校 70名				
No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	16	じどうくらぶ KANASA	19	3	1	19	オキナワインターナショナルスクール	19
2		23	美ら夢こども園	18	4	3	12	オキナワインターナショナルスクール	14

県外 小学校					のべ1校 71名				
No.	月	日	学校名	人数					
1	10	27	和光小学校（東京都）	71					

県外 中学校					のべ1校 86名				
No.	月	日	学校名	人数					
1	11	27	大阪朝鮮中級学校（大阪府）	86					

県外 高校学校					のべ5校 1,016名				
No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	30	福岡工業高校（福岡県）	17	3	3	23	三島高校（大阪府）	366
2	11	20	横浜翠嵐高校（神奈川県）	31	4		27	宇都宮短期大学付属高校（栃木県）	408
					5	3	31	宇都宮短期大学付属高校（栃木県）	194

県外 専門学校・大学のべ2校 44名									
No.	月	日	学校名	人数					
1	12	2	東洋きもの専門学校（大阪府）	20					
2	3	17	サンデザイン専門学校（愛知県）	24					

Ⅱ 施設利用者統計

1 月別施設利用集計

（単位：日数）

項目	博 物 館					美 術 館										共有		その他								
	企画展示室	特別展示室	博物館講座室	博物館実習室	博物館屋外展示場	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	こどもアトリエ	スタジオ	県民ギャラリー1	県民ギャラリー2	県民ギャラリー3	美術館屋外展示場	中庭	講堂	エントランス	3階回廊	講堂前ホワイエ	正面玄関雨端	計	貸出可能日	貸出可能時間	貸出可能日 (金・土除く)	貸出可能日 (金・土)
4月	2	2	3	2	0	8	8	4	0	0	0	3	0	0	0	0	1	8	0	0	0	41	8	76	6	2
5月	10	10	1	1	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	10	0	0	0	42	10	98	6	4
6月	24	24	11	6	0	0	0	9	7	5	0	3	0	0	0	0	3	0	0	0	0	92	24	232	16	8
7月	21	21	15	7	1	15	0	13	4	3	2	8	3	3	0	0	5	21	0	0	0	142	21	203	14	7
8月	1	1	0	1	0	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	7	1	11	0	1
9月	21	21	15	7	0	21	16	12	0	7	0	4	2	4	0	0	6	0	0	0	0	136	21	201	15	6
10月	27	24	22	19	3	27	27	19	8	7	7	20	19	12	0	0	11	27	0	0	0	282	27	263	17	10
11月	25	25	15	12	1	7	7	19	13	9	3	11	10	11	1	0	17	20	0	0	1	207	25	241	17	8
12月	26	26	17	12	0	18	18	18	4	3	8	23	18	18	0	0	10	0	0	0	0	219	26	250	18	8
1月	27	27	15	12	0	27	27	11	5	4	2	11	11	8	1	0	12	0	0	0	0	200	27	261	18	9
2月	24	24	16	7	0	22	22	16	1	0	10	18	12	12	0	0	13	18	0	0	0	215	24	232	16	8
3月	25	25	17	11	0	25	25	14	4	1	7	18	18	9	0	0	18	25	0	0	0	242	25	241	17	8
貸出件数	233	233	147	97	5	171	150	135	47	40	49	119	93	77	2	0	96	130	0	0	1	1,825	239	2,309	160	79
今年度稼働率	97.5%	97.5%	61.5%	40.6%	2.1%	71.5%	62.8%	56.5%	19.7%	16.7%	20.5%	49.8%	38.9%	32.2%	0.8%	0.0%	40.2%	54.4%	0.0%	0.0%	0.4%					

※3階回廊、講堂前ホワイエ、正面玄関、博物館屋外展示場、美術館屋外展示場、中庭は県主催、指定管理者主催イベントのみ稼働。

2 当館主催事業及び施設貸出内訳

【2020年4月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	水	博物館 講座室	新年度顔合わせ会【館全体対】	10	5	日	美術館 講座室	マニュアル研修
2	1	水	博物館 講座室	NHK 沖縄放送局営業部 営業部・全体会議	11	9	木	博物館 講座室	沖縄県経営品質研究会 定時総会
3	2	木	博物館 講座室	株式会社リベル 面接会場	12	18	土	スタジオ	NPO 法人沖縄県マンション管理組合連合会 2020 年度第 1 回マンション管理組合のための情報交換会
4	2	木	美術館 講座室	オム・ファム㈱ 第 26 期経営計画発表会	13	1 (水) ～ 9 (木)		エントランスホール	レオ・レオーニ展関連展示【一角】
5	3	金	博物館 実習室	NPO 沖縄呼吸ケア研究会 社員総会	14	1 (水) ～ 2 (木)		博物館 企画展示室	展示環境調整期間
6	3	金	美術館 講座室	株式会社リベル 面接会場	15	1 (水) ～ 2 (木)		博物館特別展示室 1・2	展示環境調整期間
7	4	土	共講 有堂	いしかわピアノ教室 ピアノ発表会	16	1 (水) ～ 9 (木)		美術館企画ギャラリー1	レオ・レオーニ展
8	4	土	博物館 実習室	株式会社リベル 面接会場	17	1 (水) ～ 9 (木)		美術館企画ギャラリー2	レオ・レオーニ展
9	4	土	美術館 講座室	㈱サン・エージェンシー 新年度 経営計画発表会					

【2020年5月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	21	木	博物館 実習室	デジタルミュージアム 第二次審査 控室	5	21 (木) ～ 31 (日)		博物館 企画展示室	新収蔵品展一令和元年度収蔵資料一
2	28	木	博物館 講座室	打ち合わせ	6	21 (木) ～ 31 (日)		博物館特別展示室 1	新収蔵品展一令和元年度収蔵資料一
3	21 (木) ～ 31 (日)		スタジオ	レオーニ展 物販保管場所	7	21 (木) ～ 31 (日)		博物館特別展示室 2	企画展 激動の明治・大正の沖縄 第 11 代斎藤用之助の足跡から
4	21 (木) ～ 31 (日)		エントランスホール	国際博物館の日パネル展					

【2020年6月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	2	火	美術館 講座室	株式会社リベル 面接会場	19	14	日	博物館 講座室	沖縄タイムスサービスセンター 写真甲子園
2	3	水	博物館 講座室	沖縄通信ネットワーク株式会社 2021 年新卒向け 沖縄通信ネットワーク会社説明会	20	14	日	博物館 実習室	沖縄タイムスサービスセンター 写真甲子園
3	3	水	博物館 講座室	(一財) 沖縄美ら島財団・国際ビル産業 会議	21	14	日	美術館 講座室	夢を語ろう会 琉球インターナショナル/青山朋佳
4	3	水	美術館 講座室	株式会社リベル 面接会場	22	16	火	博物館 実習室	安全衛生委員会会議
5	3	水	県民 アトリエ	企画班会議	23	17	水	博物館 講座室	首里城被災資料に関する打ち合わせ
6	4	木	博物館 講座室	打ち合わせ	24	19	金	博物館 講座室	入札
7	5	金	美術館 講座室	令和 2 年度沖縄観光コンテンツ開発支援事業 事業者説明会 沖縄県/株式会社アドスタッフ博報堂	25	19	金	博物館 実習室	県総務班ヒヤリング
8	5	金	博物館 講座室	2019 年度第 3 回全班長研修会議 NTT 労組沖縄分会	26	19	金	美術館 講座室	タマホーム(株) 沖縄支店安全協力会 総会・業者会
9	7	金	美術館 講座室	沖縄タイムスサービスセンター 女性のためのマネーセミナー	27	20	土	こども アトリエ	沖縄県造形教育連盟 理事会
10	6	土	こども アトリエ	沖縄県造形教育連盟 理事会	28	21	日	博物館 講座室	育英義塾教員養成学院 明星大学通信教育部スクーリング「初等体育科教育法」
11	10	水	博物館 講座室	I・TEC インターナショナル 再生美容講習会	29	23	火	博物館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 サンワコム沖縄支店 安全衛生協議会
12	10	水	博物館 実習室	オリエンテーション 星槎国際高等学校 (一財) 沖縄美ら島財団	30	24	水	博物館 講座室	広報会議
13	11	木	美術館 講座室	株式会社求人おきなわ 新卒採用試験	31	24	水	博物館 講座室	第 3 回 IPM 会議
14	12	金	美術館 講座室	沖縄塾 経営者勉強会	32	24	水	博物館 実習室	琉球三線楽器保存育成会/博物館班 三線調査会
15	13	土	博物館 講座室	博物館学芸員講座『記録の中の沖縄 OkiMu コレクションから』 第 2 会場	33	24	水	美術館 講座室	㈱プレナスワールド 医療費削減協議会
16	13	土	美術館 講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟 理事会	34	26	金	博物館 講座室	沖縄県交易促進事業協同組合 定例総会
17	13	土	共講 有堂	博物館学芸員講座『記録の中の沖縄 OkiMu コレクションから』	35	26	金	美術館 講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 班長教育
18	14	日	博物館 講座室	沖縄全戦没者追悼式のあり方を考える会/比嘉豊光 説明会とトークショー	36	28	日	博物館 講座室	生活協同組合・沖縄県高齢者協同組 第 21 回 通常総代会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
37	28	日	美術館講座室	株式会社トリムフーズ 社員総会	44	24（水）～ 28（日）		共有情報センター	関連図書コーナー「稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿」
38	2（火）～ 7（日）		エントランスホール	国際博物館の日パネル展	45	25（木）～ 27（土）		県民アトリエ	産廃 集積
39	3（水）～ 4（木）		博物館実習室	ふれあい体験室 WS 試作	46	26（金）～ 27（土）		共有講堂	株式会社エフアンドエム F&M マネジメントスクール成果発表&合同修了式
40	9（火）～ 11（木）		県民アトリエ	財団 WS 試作	47	2（火）～ 28（日）		博物館企画展示室	新収蔵品展－令和元年度収蔵資料－
41	9（火）～ 11（木）		こどもアトリエ	財団 WS 試作	48	2（火）～ 28（日）		博物館特別展示室 1	新収蔵品展－令和元年度収蔵資料－
42	9（火）～ 28（日）		エントランスホール	稲村生誕 125 年記念パネル展	49	2（火）～ 28（日）		博物館特別展示室 2	企画展 激動の明治・大正の沖縄 第 11 代斎藤用之助の足跡から
43	16（火）～ 28（日）		エントランスホール	慰霊の日展示・絵本読み聞かせ動画放映					

【2020年 7 月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	8	水	博物館講座室	復帰 50 周年記念特別展 調整会議	30	21	火	県民アトリエ	稲嶺成祥展プレ ワークショップ
2	8	水	博物館講座室	沖縄県立博物館友の会 理事会	31	21	火	こどもアトリエ	稲嶺成祥展プレ ワークショップ
3	8	水	美術館講座室	沖縄塾 経営者勉強会	32	22	水	博物館講座室	ボランティア研修
4	8	水	県民アトリエ	エリア改善会議 中村猛/グラクソスミスクライン ㈱	33	22	水	博物館実習室	オリエンテーション/那覇市立天久小学校
5	9	木	博物館講座室	復帰 50 周年記念特別展 調整会議	34	22	水	博物館実習室	令和 2 年度沖縄ハワイ協力推進事業 審査会 エキスティブエビセンター株式会社
6	10	金	博物館実習室	ふれあい体験室ワークショップ事前準備	35	22	水	美術館講座室	ボランティア研修④
7	11	土	博物館実習室	専門学校「オンライン説明会」 有限会社メディアックス	36	22	水	美術館講座室	㈱プレナスワールド 医療費削減協議会
8	11	土	美術館講座室	将来に備える資産形成の基本と保険の活用法 有限会社ライブアップ	37	23	木	共有講堂	みんなの想火 in おもろまち実行委員会 講演会（トークセッション）
9	11	土	共有講堂	博物館学芸員講座『貝摺奉行所で作られた漆器』	38	25	土	美術館講座室	久米島研究会 「2020 年度 第 2 回研究会」
10	12	日	博物館講座室	うちなー芝居、踊る、組踊や、なまからちやーばてい いちゆが？ しまくとうばプロジェクト/比嘉豊光	39	25	土	共有講堂	株式会社海燕社 映画監督 野村岳也 追悼上映会
11	12	日	美術館講座室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会	40	25	土	博物館屋外展示場	「琉球古典音楽演奏会」
12	12	日	共有講堂	第 13 回韓国語弁論大会 在日本大韓民国沖縄県 地方本部	41	26	日	博物館講座室	ウチナーの民話上映会
13	14	火	博物館講座室	公益財団法人沖縄県文化振興会 新型コロナウイルス感染症対策支援 「おきなわの文化芸術がふたたび歩み出すための緊急応援プログラム」	42	26	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟 第 4 回理事会
14	15	水	博物館講座室	三線 監修者会議	43	28	火	博物館講座室	サンワコムシスエンジニアリング株式会社 安全衛生協議会
15	15	水	博物館実習室	サキタリ洞遺跡調査関係 ミーティング	44	28	火	美術館講座室	IPM 会議
16	17	金	博物館講座室	打ち合わせ会議	45	28	火	美術館講座室	広報会議
17	17	金	博物館実習室	バイオアロマ株式会社 説明会	46	29	水	博物館講座室	博物館 資料調査対応
18	17	金	博物館実習室	事前学習の打ち合わせ（那覇市立天久小学校）	47	29	水	博物館実習室	ふれあい体験室ワークショップ事前準備
19	17	金	美術館講座室	一般社団法人沖縄県損害保険代理業協会 「おきな なわの中小企業経営支援連携会議」	48	29	水	美術館講座室	株式会社 東横イン 九州・沖縄エリア会議
20	17	金	スタジオ	沖縄県立博物館・美術館復帰 50 周年記念展示打 ち合わせ	49	30	木	博物館講座室	次期指定管理について 沖縄県文化振興課
21	18	土	博物館講座室	happ 理事会 美術館県立美術館支援会 happ	50	30	木	美術館講座室	株式会社スマ・エンタープライズ/沖縄県商工労働部雇用対策課 沖 縄県雇用対策推進協議会幹事会「第 2 回ワークチーム会議」
22	18	土	博物館実習室	バイオアロマ株式会社 説明会	51	30	木	美術館講座室	沖縄型産業中核人材育成事業 実行委員会 内閣府/ゆいまーる沖縄
23	18	土	美術館講座室	沖縄の教育を良くする会 テレビ「生命の光」を 観る会	52	30	木	共有講堂	～中小企業魅力発見月間～中小企業・小規模事業者政 策に関する講演会 自由民主党沖縄県第一選挙区支部
24	18	土	美術館講座室	タマホーム㈱沖縄支店 安全協力会業者会 タマ ホーム沖縄支店 安全協力会	53	31	金	博物館講座室	一般財団法人沖縄オープンラボラトリ フォー ラム
25	19	日	博物館講座室	集積再興事業 会議	54	31	金	美術館講座室	デジタル時代に備えよう！！ BGS/いいとこど り シニアクラブ
26	19	日	博物館講座室	琉球独立実践ネットワーク 「琉球の歴史と文 化・政治・経済」講演会	55	31	金	スタジオ	首里城被災資料調査
27	19	日	美術館講座室	シマクトゥパプロジェクト シマクトゥパの辞典 をつくろう	56	16（木）～ 17（金）		博物館講座室	サキタリ洞遺跡調査関係 ミーティング
28	21	火	博物館講座室	連合沖縄 執行委員会（会議）	57	25（土）～ 26（日）		県民アトリエ	Okimu no 展示室であそぼ♪ Okimu de 振り子 アート ワークショップ
29	21	火	美術館講座室	令和 2 年度第 1 回インバウンド対応医療体制整備協議会 沖縄県/一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー	58	25（土）～ 26（日）		こどもアトリエ	Okimu no 展示室であそぼ♪ Okimu de 振り子 アート ワークショップ

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
59	8（水）～ 31（金）		共有 情報 センター	関連図書コーナー「稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿」	64	8（水）～ 12（日）		博物館特別 展 示 室 1	博物館の秘蔵品展 準備
60	8（水）～ 19（日）		エントランス ホ ー ル	稲村生誕 125 年記念パネル展	65	13（月）～ 31（金）		博物館特別 展 示 室 1	博物館の秘蔵品展
61	21（火）～ 31（金）		エントランス ホ ー ル	岩石展ブレイバント「化石展～アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界」	66	8（水）～ 31（金）		博物館特別 展 示 室 2	企画展 激動の明治・大正の沖縄 第 11 代斎藤用之助の足跡から
62	8（水）～ 12（日）		博 物 館 企画展示室	博物館の秘蔵品展 準備	67	15（水）～ 22（水）		美術館企画 キ ャ ラ ー 1	描かれた首里城 準備
63	13（月）～ 31（金）		博 物 館 企画展示室	博物館の秘蔵品展	68	23（木）～ 31（金）		美術館企画 キ ャ ラ ー 1	描かれた首里城

【2020年 8 月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	土	博 物 館 企画展示室	博物館の秘蔵品展	3	1	土	博物館特別 展 示 室 2	企画展 激動の明治・大正の沖縄 第 11 代斎藤用之助の足跡から
2	1	土	博物館特別 展 示 室 1	博物館の秘蔵品展	4	1	土	美術館企画 キ ャ ラ ー 1	描かれた首里城 美術館班/（一財）沖縄美ら島財団

【2020年 9 月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	6	日	博 物 館 実 習 室	沖縄眼科集談会	27	18	金	共 有 講 堂	沖縄ワタベウェディング（株） プロジェクト報告会
2	6	日	博 物 館 講 座 室	㈱大鏡建設 かりゆし倶楽部	28	18	金	博 物 館 講 座 室	（一社）沖縄しまたて協会/沖縄県土木建築部 都市計画・モノレール課 令和 2 年度景観行政コーディネーター研修
3	6	日	博 物 館 講 座 室	沖縄眼科集談会	29	18	金	博 物 館 実 習 室	博物館班 学芸員実習
4	8	火	博 物 館 講 座 室	博物館班 学芸員実習	30	18	金	美 術 館 講 座 室	タマホーム沖縄支店 安全協議会業者会
5	8	火	博 物 館 講 座 室	博物館班 集積再構事業の工程会議	31	19	土	共 有 講 堂	博物館文化講座「石と化石からわかる島の生い立ち」
6	9	水	共 講 有 堂	社会福祉法人名護学院 障害者職業・生活支援センター & 県庁 障害者雇用啓発セミナー/障害者の理解と支援リハサル	32	19	土	博 物 館 講 座 室	友利とモーリーの愉快的仲間たち/久田病院 仲間たちのトークショー
7	9	水	博 物 館 講 座 室	日本トランスオーシャン航空労働組合 JTA 労組 新任役員研修	33	19	土	美 術 館 講 座 室	沖縄の教育を良くする会 テレビ「生命の光」を観る会
8	9	水	博 物 館 実 習 室	沖縄県中学校文化連盟 第 26 回沖縄県中学校総合文化祭 展示の部会議	34	19	土	美 術 館 講 座 室	happ 理事会
9	9	水	美 術 館 講 座 室	（一財）沖縄美ら島財団 支援団体との打ち合わせ	35	20	日	博 物 館 講 座 室	ウチナーの民話上映会
10	10	木	博 物 館 講 座 室	プロジェクター動作確認	36	21	月	共 講 有 堂	小宮 光二/ピースオブライフ㈱ Kojis Deep Max 勉強会
11	11	金	博 物 館 講 座 室	建設事業所のための雇用管理研修会 （一社）沖縄県労働基準協会/県労働調査会	37	21	月	博 物 館 講 座 室	ローフードスクール・ピオ 医師が伝える、今、必要な「食」の知識ベジタリアン食によるコロナ対策と体調管理について
12	11	金	博 物 館 実 習 室	博物館班 学芸員実習	38	24	木	美 術 館 講 座 室	ジブラルタ生命保険株式会社 ATP 研修
13	11	金	美 術 館 講 座 室	第 6 次沖縄県観光振興基本計画策定事業 第 2 回アト・バ・イザ・リー会議 沖縄県観光振興課/アト・バ・イザ・リー㈱	39	24	木	博 物 館 講 座 室	沖縄県労働政策課/株式会社プラスキャリア 労働環境課題改善セミナー
14	12	土	共 講 有 堂	社会福祉法人名護学院障害者就業生活支援センター & 県庁 沖縄県障害者等雇用開拓・定着支援事業「自閉症の理解と支援」	40	24	木	博 物 館 実 習 室	博物館班 資料閲覧 琉球文化財研究室
15	12	土	博 物 館 講 座 室	沖縄県立博物館友の会 運営委員会	41	25	金	博 物 館 実 習 室	日本トランスオーシャン航空労働組合 JTA 労組 第 52 回組合定期大会
16	12	土	美 術 館 講 座 室	沖縄県美術家連盟 理事会 （一社）沖縄県美術家連盟	42	25	金	博 物 館 講 座 室	日本トランスオーシャン航空労働組合 JTA 労組 第 52 回組合定期大会
17	12	土	美 術 館 講 座 室	大嶺三郎/未来ビジョン 研修会	43	25	金	博 物 館 講 座 室	博物館班 監展調整会議
18	13	日	博 物 館 実 習 室	琉球岳風会 指導者研修及び吟和会	44	26	土	共 講 有 堂	（一財）沖縄美ら島財団総合研究センター 第 4 回活動報告会「美ら島再発見～動物、植物、琉球文化から追う」
19	13	日	美 術 館 講 座 室	大嶺三郎/未来ビジョン 研修会	45	26	土	博 物 館 講 座 室	株式会社日本 IPFS 事業説明会
20	15	火	博 物 館 講 座 室	博物館班 学芸員実習	46	26	土	美 術 館 講 座 室	シマクトゥバプロジェクト シマクトゥバの辞典をつくろう
21	15	火	博 物 館 講 座 室	連合沖縄 第 13 回執行委員会	47	29	火	博 物 館 講 座 室	沖縄県立博物館友の会 臨時理事会
22	15	火	博 物 館 実 習 室	博物館班 手わざプロポーザル	48	29	火	博 物 館 実 習 室	日新火災海上保険㈱ 日新火災㈱代理店研修会
23	15	火	美 術 館 講 座 室	県総務 会議	49	29	火	美 術 館 講 座 室	（一財）沖縄美ら島財団会議
24	16	水	博 物 館 講 座 室	金城電気工事株式会社 安全衛生大会	50	30	水	博 物 館 講 座 室	沖縄県高等学校文化連盟弁論専門部 第 44 回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 抽選会
25	16	水	美 術 館 講 座 室	㈱プレナスワールド 医療費削減協議会健康セミナー	51	30	水	美 術 館 講 座 室	第 44 回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 抽選会
26	17	木	博 物 館 講 座 室	（一社）沖縄しまたて協会/沖縄県土木建築部 都市計画・モノレール課 令和 2 年度景観行政コーディネーター研修	52	15（火）～ 22（火）		こ ど も ア ト リ エ	（一財）沖縄美ら島財団 首里城パネル保管

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
53	21（月）～ 22（火）		美術館 講座室	大嶺三郎／未来ビジョン 研修会	57	6（日）～ 30（水）		博物館特別 展示室 2	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～
54	6（日）～ 30（水）		エントランス ホール	岩石展ブレイイベント「化石展～アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界」	58	6（日）～ 11（金）		美術館企画 ギャラリー 1	描かれた首里城
55	6（日）～ 30（水）		博物館 企画展示室	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～	59	12（土）～ 30（水）		美術館企画 ギャラリー 1	稲嶺成祥展
56	6（日）～ 30（水）		博物館特別 展示室 1	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～	60	12（土）～ 30（水）		美術館企画 ギャラリー 2	稲嶺成祥展

【2020年10月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	木	博物館 実習室	株式会社オカノ 会議	33	13	火	博物館 実習室	（一財）沖縄美ら島財団 会議
2	1	木	美術館 講座室	大鏡建設株式会社 企業価値向上のための財務戦略セミナー	34	13	火	美術館 講座室	令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業「沖縄染織の名産地を牽引する次世代人材育成プログラム」ゆいまー沖縄株式会社
3	2	金	博物館 実習室	岩石展体験教室事前準備（博物館班）	35	13	火	美術館 講座室	（一財）沖縄美ら島財団 自衛消防組織における役割についての勉強会
4	2	金	美術館 講座室	琉球大学美術工芸科 OB 首里城再興を語る	36	13	火	美術館 講座室	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 沖縄県高等学校文化連盟弁論部
5	3	土	博物館 講座室	有限会社ライブアップ 将来に備える資産運用	37	14	水	共講 有堂	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 沖縄県高等学校文化連盟弁論部
6	3	土	博物館 実習室	岩石展関連催事 体験学習教室「手作り石獅子を通して学ぶ琉球石灰岩の魅力」	38	14	水	博物館 講座室	沖縄県汚水処理事業の広域化・共同化計画検討業務」のワーキンググループ会議 沖縄県土木建築部下水道課/株式会社日水コン沖縄事務所
7	3	土	博物館屋 外展示場	岩石展関連催事『沖縄の石獅子』作品展	39	14	水	博物館 実習室	（一財）沖縄美ら島財団 班長主任会議
8	3	土	県民 アトリエ	稲嶺成祥展関連催事 色を楽しもう！ワークショップ	40	14	水	スタジオ	株式会社 E アファン 非分解プレゼンタ勉強会
9	3	土	こども アトリエ	稲嶺成祥展関連催事 色を楽しもう！ワークショップ	41	14	水	美術館 講座室	医療費削減協議会健康セミナー ㈱プレナスワールド
10	4	日	共講 有堂	ミキグループワクワクゼミ沖縄 三基商事株式会社 九州支店	42	15	木	博物館 講座室	首里城被災資料打ち合わせ
11	4	日	博物館 講座室	ミキワールド沖縄	43	15	木	博物館 実習室	博物館ボランティア事前研修
12	4	日	博物館 実習室	『琉球玩具への招待⑨ 干支の張り子を作ろう』（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター	44	15	木	スタジオ	株式会社ノイズ・バリュー社 勉強会
13	4	日	美術館 講座室	シマクトゥバプロジェクト 診て学ぶみゃーくふつ入門	45	15	木	美術館 講座室	年金者組合那覇支部 第19回定期大会 全日本年金者組合那覇支部
14	6	火	博物館 実習室	株式会社オカノ 会議	46	16	金	博物館 講座室	琉球芸能実演家向け ウェブ活用セミナー ムーン企画
15	7	水	博物館 講座室	（一社）沖縄県経営者協会 実践経営塾後継者育成セミナー 第2講	47	16	金	博物館 実習室	博物館ボランティア事前研修
16	7	水	美術館 講座室	沖縄 MICE ネットワーク第1回産業部会 沖縄 MICE ネットワーク事務局/沖縄県観光コンベンションビューロー	48	16	金	美術館 講座室	タマホーム沖縄支店安全協力会 業者会
17	8	木	美術館 講座室	令和2年度 第1回国際物流拠点産業集積推進連絡会議 沖縄県商工労働部企業立地推進課/株式会社エマエンタープライズ	49	17	土	共講 有堂	岩石展関連催事 博物館文化講座「恐竜が見た森-琉球列島とつながること-」
18	9	金	博物館 講座室	琉球芸能実演家向け ウェブ活用セミナー ムーン企画	50	17	土	博物館 講座室	令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業 UX 技術研修第8回・9回対面研修 一般社団法人 IIOT
19	9	金	美術館 講座室	宮古島市立上野中学校修学旅行 体験プログラム 株式会社アイランドエクスパート	51	17	土	博物館 講座室	文化講座「恐竜が見た森-琉球列島とつながること-」サテライト会場
20	9	金	美術館 講座室	沖縄塾 経営者勉強会	52	17	土	県民 アトリエ	OKINAWA アートワークショップ 2020（美術館班）
21	10	土	共講 有堂	首里城再興学術ネットワークシンポジウム 2020 国立大学法人琉球大学	53	17	土	美術館 講座室	レッズスター！ウチナネットワーク事業指導者養成講座（教員向け） 沖縄県文化観光スポーツ部交流推進課/NPO 法人沖縄 NGO センター
22	10	土	博物館 講座室	博物館学芸員講座「歯のはなし」	54	17	土	美術館 講座室	沖縄県立美術館支援会 happ 理事会
23	10	土	博物館 実習室	『琉球玩具への招待⑨ 干支の張り子を作ろう』（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター	55	17	土	こども アトリエ	OKINAWA アートワークショップ 2020（美術館班）
24	10	土	県民 アトリエ	企業理念研修Ⅰ ㈱バンダイナムコアミュージメント	56	18	日	共講 有堂	重要文化財指定記念講座「琉球の正史～中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜～」第1会場
25	10	土	こども アトリエ	沖縄県造形教育連盟 役員会	57	18	日	博物館 講座室	重要文化財指定記念講座「琉球の正史～中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜～」第2会場
26	11	日	博物館 講座室	しまくとうば鼎談(比嘉豊光) しまくとうばプロジェクト(比嘉豊光)	58	18	日	博物館 実習室	重要文化財指定記念講座「琉球の正史～中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜～」第3会場
27	11	日	博物館 実習室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会	59	18	日	美術館 講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟 第6回理事会
28	11	日	県民 アトリエ	企業理念研修Ⅰ ㈱バンダイナムコアミュージメント	60	20	火	共講 有堂	博物館ボランティア全体会議
29	13	火	共講 有堂	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 沖縄県高等学校文化連盟弁論部	61	20	火	博物館 講座室	博物館実習生 開講式
30	13	火	博物館 講座室	連合沖縄 第14回執行委員会（会議）	62	20	火	博物館 実習室	株式会社オカノ 会議
31	13	火	博物館 講座室	博物館実習生 開講式	63	21	水	博物館 講座室	手わざ展HP会議
32	13	火	博物館 講座室	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 沖縄県高等学校文化連盟弁論部	64	21	水	美術館 講座室	企業価値向上のための財務戦略セミナー 大鏡建設株式会社

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
65	22	木	共講 有堂	おきみゅーシネマラボ リハーサル	89	28	水	美 術 館 講 座 室	PA 養成講座 ソニー生命保険 沖縄営業所
66	22	木	博 物 館 講 座 室	久米島町立仲里小学校/オリエンテーション	90	28	水	ス タ ジ オ	指定管理者制度運用委員会 沖縄県文化振興課
67	22	木	博 物 館 屋 外 展 示 場	琉球古典音楽 演奏会	100	29	木	共 講 有堂	第7回 世界遺産サミット 世界文化遺産登録20周年記念事業実行委員会
68	22	木	ス タ ジ オ	展示準備 沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	101	29	木	博 物 館 講 座 室	第7回 世界遺産サミット 世界文化遺産登録20周年記念事業実行委員会
69	22	木	美 術 館 講 座 室	第44回沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部 審査処理・引率者控室 沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	102	29	木	博 物 館 実 習 室	デジタルミュージアム監修者会議
70	23	金	博 物 館 講 座 室	琉球文化財研究室 ワーキング会議	103	29	木	美 術 館 講 座 室	第7回 世界遺産サミット 世界文化遺産登録20周年記念事業実行委員会
71	24	土	共 講 有堂	美術館 稲嶺展シンポジウム	104	30	金	博 物 館 講 座 室	第1回 就労アセスメント研修（基礎編） 社会福祉法人若竹福祉 障がい者就業・生活支援センターから
72	24	土	博 物 館 実 習 室	『琉球玩具への招待⑨ 干支の張り子を作ろう』（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター	105	30	金	博 物 館 実 習 室	こどもフェスタ準備
73	25	日	共 講 有堂	おきみゅーシネマラボ	106	30	金	美 術 館 講 座 室	学芸員実習
74	25	日	博 物 館 講 座 室	奇跡のおこし方 インフルエンシャル沖縄/上野由加里様	107	31	土	共 講 有堂	尚学院国際ビジネスアカデミー メディア部作品「ストレプトカーパス」上映会 尚学院国際ビジネスアカデミー
75	25	日	美 術 館 講 座 室	第44回沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部 審査処理・引率者控室/沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部	108	31	土	博 物 館 講 座 室	ウチナーの民話上映会
76	27	火	共 講 有堂	CA ADVANCE TECH AWARD 2020 株式会社シーエアーアドバンス	109	31	土	博 物 館 実 習 室	こどもフェスタ秋 2020「勾玉つくり体験/石と友達になろう」
77	27	火	博 物 館 講 座 室	広報会議	110	31	土	県 民 ア ト リ エ	こどもフェスタ秋 2020「ヒージャー山羊博士/首里城の瓦でこねてねじってつくもがみ」
78	27	火	博 物 館 実 習 室	（一財）沖縄美ら島財団 会議	111	31	土	こ ど も ア ト リ エ	こどもフェスタ秋 2020「ヒージャー山羊博士/首里城の瓦でこねてねじってつくもがみ」
79	27	火	県 民 ア ト リ エ	美術館班 学芸員実習	112	1（木）～ 11（日）		エントランス ホ ー ル	岩石展ブレイイベント「化石展～アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界」
80	27	火	美 術 館 講 座 室	PA 養成講座 ソニー生命保険 沖縄営業所	113	13（火）～ 25（日）		エントランス ホ ー ル	世界のウチナーンチュの日パネル展/岩石展「化石展～アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界」
81	27	火	こ ど も ア ト リ エ	美術館班 学芸員実習	114	15（木）～ 16（金）		県 民 ア ト リ エ	コンクール審査会場
82	27	火	博 物 館 屋 外 展 示 場	琉球古典音楽 演奏会	115	15（木）～ 16（金）		こ ど も ア ト リ エ	コンクール審査会場
83	28	水	共 講 有堂	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 予備日 沖縄県高等学校総合文化祭弁論部	116	23（金）～ 25（日）		ス タ ジ オ	第44回沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部作品展/沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部
84	28	水	共 講 有堂	動作確認	117	27（火）～ 31（土）		エントランス ホ ー ル	世界のウチナーンチュの日 パネル展【/アートコンクール/秋のこどもフェスタ】
85	28	水	博 物 館 講 座 室	研修会(GSTC トレーニングプログラム) 沖縄県観光政策課(観光庁モデル事業)/株JTB 総合研究所	118	1（木）～ 31（土）		博 物 館 企画展示室	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～
86	28	水	博 物 館 講 座 室	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 予備日 沖縄県高等学校総合文化祭弁論部	119	1（木）～ 31（土）		博 物 館 特別展示室	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～
87	28	水	博 物 館 実 習 室	株式会社オカノ 会議	120	1（木）～ 31（土）		美術館企画 ギャラリー1	稲嶺成祐展
88	28	水	美 術 館 講 座 室	第44回沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会 予備日 沖縄県高等学校総合文化祭弁論部	121	1（木）～ 31（土）		美術館企画 ギャラリー2	稲嶺成祐展

【2020年11月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	日	博 物 館 実 習 室	こどもフェスタ秋 2020「手羽先で骨格標本を作ろう！/貝の矢じりを作ろう！」	13	4	水	県 民 ア ト リ エ	エリア改善会議 グラクソスミスクライン(株)/村 猛
2	1	日	美 術 館 講 座 室	シマクトゥパプロジェクト 諺で学ぶみゃーくふつ入門	14	4	水	こ ど も ア ト リ エ	ワークショップ 準備
3	1	日	県 民 ア ト リ エ	『OKINAWA』アートワークショップ 糸満ハリコ 絵付け体験	15	5	木	博 物 館 講 座 室	琉球大学 ゼミ会
4	1	日	こ ど も ア ト リ エ	『OKINAWA』アートワークショップ 糸満ハリコ 絵付け体験	16	5	木	博 物 館 実 習 室	令和2年度 第2回生活支援サポーター養成講座 那覇市福祉部ちやーがんじゅ課/那覇市社会福祉協議会
5	3	火	博 物 館 講 座 室	おきみゅー祭 コンサートスタッフ控室（一財）沖縄美ら島財団	17	5	木	こ ど も ア ト リ エ	ワークショップ
6	3	火	博 物 館 実 習 室	こどもフェスタ秋 2020「沖縄の土で作るクレヨンで絵を描こう/動物の歯の石膏レプリカ/貝の矢じり」（博物館班）	18	5	木	共 講 有堂	九州博物館協議会
7	3	火	県 民 ア ト リ エ	おきみゅー祭	19	6	金	博 物 館 講 座 室	民具体験
8	3	火	こ ど も ア ト リ エ	おきみゅー祭	20	6	金	博 物 館 実 習 室	民具体験/那覇市立城南小学校
9	3	火	ス タ ジ オ	おきみゅー祭	21	6	金	博 物 館 実 習 室	コープおきなわ 共済センター CO・CP共済推進政策検討会議
10	3	火	博 物 館 屋 外 展 示 場	沖縄最古の鐘を鳴らそう	22	6	金	県 民 ア ト リ エ	OKINAWAアートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦」 準備
11	3	火	共 講 有堂	Okimu de 上映会	23	6	金	こ ど も ア ト リ エ	OKINAWAアートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦」 準備
12	4	水	美 術 館 講 座 室	「Art's Center」におけるアーティスト人材育成・環境整備事業 第4回研修会（一財）沖縄観光コンベンションビューロー/株JTB沖縄	24	6	金	共 講 有堂	令和2年度「沖縄県地産地消シンポジウム」 沖縄県農林水産部流通・加工推進課/光文堂コミュニケーションズ㈱

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
25	7	土	博 物 館 講 座 室	年金者組合那覇支部 沖縄県本部第 32 回定期大会 年金者組合沖縄県本部	63	18	水	博 物 館 講 座 室	知的情報処理と生物医学国際会議 2020 ICIIBMS2020 国際会議/沖縄工業高等専門学校
26	7	土	博 物 館 実 習 室	『琉球玩具への招待⑨ 干支の張り子を作ろう』（一財）沖縄美ら島財団 総合研究センター	64	18	水	博 物 館 実 習 室	オリエンテーション/星槎国際高等学校
27	7	土	美 術 館 講 座 室	美術館学芸員講座 山田實『こどもたちのオキナワ 1955-1965』	65	18	水	博 物 館 実 習 室	東博・九博調整会議
28	7	土	共 講 有 堂	親のためのキャリア教育講演会 ㈱りゅうせきフロンタライン（沖縄県キャリアセンター）	66	18	水	美 術 館 講 座 室	㈱プレナスワールド 医療費削減協議会（健康セミナー）
29	8	日	博 物 館 実 習 室	琉球岳風会 指導者研修及び吟和会	67	18	水	県 民 ア ト リ エ	生活協同組合・沖縄県高齢者協同組合 11 月度所長・厨房責任者会議
30	8	日	美 術 館 講 座 室	北星学園余市高等学校 教育講演・相談会	68	19	木	博 物 館 講 座 室	日本賃貸管理住宅管理協会 令和 2 年度 第 1 回 日管協沖縄県支部 定例会
31	8	日	美 術 館 講 座 室	（一社）沖縄県美術家連盟 理事会	69	19	木	美 術 館 講 座 室	美術館班 自衛消防の説明会
32	8	日	共 講 有 堂	琉球大学学生部教育支援課 命を守る！医師・看護師・薬剤師・獣医師になりたいあなたに	70	19	木	共 講 有 堂	沖縄空手アカデミー
33	8	日	共 講 有 堂	ミキグループ ワクワクゼミ 三基商事株式会社九州支部	71	20	金	博 物 館 講 座 室	株式会社オンデーズ 基礎研修
34	10	火	美 術 館 講 座 室	沖縄県生活協同組合連合会 行政・生協懇談会	72	20	金	美 術 館 講 座 室	サンワコムシスエンジニアリング㈱ フルハーネス特別講習
35	11	水	博 物 館 実 習 室	沖縄県立博物館友の会 運営委員会	73	20	金	こ ど も ア ト リ エ	令和 2 年度沖縄県工芸製品新ニーズモデル創出事業 中間報告会 ゆいまる沖縄㈱
36	11	水	美 術 館 講 座 室	沖縄塾 経営者勉強会	74	20	金	共 講 有 堂	沖縄地域 PPP/PFI プラットフォーム第 7 回セミナー 沖縄地域 PPP/PFI プラットフォーム/沖縄振興開発金融公庫
37	11	水	美 術 館 講 座 室	美術館班 学芸員実習	75	21	土	博 物 館 講 座 室	沖縄県労働組合総連合 県労連第 31 回定期大会
38	11	水	共 講 有 堂	文化講座リモート リハーサル	76	21	土	博 物 館 講 座 室	NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ 理事会
39	12	木	博 物 館 講 座 室	九州・沖縄ブロック令和 2 年度 PPP/PFI 推進首長会議 国土交通省/株式会社 YMFGZONE プランニング	77	21	土	美 術 館 講 座 室	タマホーム沖縄支店安全協力会 業者会
40	12	木	博 物 館 実 習 室	九州・沖縄ブロック令和 2 年度 PPP/PFI 推進首長会議 第 2 会場国土交通省/株式会社 YMFGZONE プランニング	78	21	土	美 術 館 講 座 室	沖縄の教育を良くする会 テレビ「生命の光」を観る会
41	12	木	博 物 館 実 習 室	民具体験/松島小学校	79	21	土	共 講 有 堂	宮城園子/園ピアノ教室 合同ピアノ発表会
42	12	木	美 術 館 講 座 室	沖縄県文化振興課/県総務班 打ち合わせ	80	22	日	博 物 館 講 座 室	講演会「琉球王朝から継ぐ沖縄のツバキ文化」 NPO 法人沖縄有用植物研究会
43	12	木	共 講 有 堂	沖縄のインフラの維持補修・予防保全にかんする技術講習会（一社）日本インフラ保全機構	81	22	日	美 術 館 講 座 室	シマクトゥパプロジェクト シマクトゥパの辞典をつくる会
44	13	金	博 物 館 講 座 室	㈱ワンスペース コーディネーター研修	82	22	日	ス タ ジ オ	ピースボート 地球一周の船旅説明会
45	13	金	博 物 館 実 習 室	自主民具体験/豊見城市立 とよみ小学校	83	22	日	共 講 有 堂	首里城再興研究会 首里城再興について公開討論会
46	13	金	美 術 館 講 座 室	波動療法勉強会 波動療法勉強会/岩下ゆうじ/島袋加代子	84	25	水	美 術 館 講 座 室	ソニー生命保険 沖縄営業所 PA 養成講座
47	13	金	美 術 館 講 座 室	小淵教育プログラム奨学金説明会	85	25	水	共 講 有 堂	労働環境課題改善セミナー 沖縄県 労働政策課 / (株) プラスキャリア
48	13	金	美 術 館 講 座 室	令和 2 年度 電力負荷平準化・省エネルギー社会実現セミナー エキスディックエビセンター㈱	86	26	木	博 物 館 講 座 室	（一社）日本損害保険代理業協会 2020 年度 第一回 コンサルティングコースセミナー
49	13	金	共 講 有 堂	CA ADVANCE TECH AWARD 2020 ㈱シーエー・アドバンス	87	26	木	博 物 館 実 習 室	民具体験/那覇小学校
50	14	土	県 民 ア ト リ エ	造形ワークショップ 社会福祉法人若竹福祉会	88	26	木	美 術 館 講 座 室	学芸員実習（美術館班）
51	14	土	こ ど も ア ト リ エ	造形ワークショップ 社会福祉法人若竹福祉会	89	26	木	美 術 館 講 座 室	E アファン非分解プラセンタ勉強会 ㈱E アファン
52	14	土	共 講 有 堂	博物館文化講座「ミクロネシアの考古学」	90	26	木	共 講 有 堂	沖縄県都市モノレール課/丸正印刷 ㈱「心のよりどころ」としての風景づくり～沖縄らしい景観まちなみシンポジウム～
53	14	土	美 術 館 講 座 室	第 25 回初級ソフトウェア品質技術者資格試験 ㈱シーヴィ・コンベンション	100	27	金	博 物 館 講 座 室	株式会社沖縄県物産企業連合 臨時株主総会
54	15	日	博 物 館 講 座 室	日本秘書クラブ沖縄支部 秘書技能検定試験	101	27	金	美 術 館 講 座 室	WEB 会議
55	15	日	美 術 館 講 座 室	日本秘書クラブ沖縄支部 秘書技能検定試験	102	27	金	ス タ ジ オ	（同）NEXT IN NOVATON LA レッスン
56	15	日	県 民 ア ト リ エ	視覚障がい者向け体験学習教室	103	27	金	共 講 有 堂	NTT 労組 沖縄分会 2020 年度 フロンティアコース
57	15	日	こ ど も ア ト リ エ	視覚障がい者向け体験学習教室	104	28	土	博 物 館 講 座 室	未来洞察ワークショップ オリックスビジネスセンター沖縄㈱
58	15	日	共 講 有 堂	（一社）沖縄俳優協会 座談会「芝居人生・役者魂 今昔を語る！」	105	28	土	美 術 館 講 座 室	Art ギャラリートーク（美術館班）
59	17	火	博 物 館 講 座 室	（一社）沖縄県労働基準協会/㈱労働調査会 コミュニケーションスキル等向上コース	106	1（日）～8（日）		エントランスホー ル	世界のウチナーンチュの日 パネル展
60	17	火	博 物 館 実 習 室	民具体験/新城小学校	107	1（日）～8（日）		エントランスホー ル	アートコンクール
61	17	火	博 物 館 実 習 室	民具体験/高嶺小学校	108	7（土）～8（日）		県 民 ア ト リ エ	OKINAWA アートワークショップ 「漆喰シーサーに挑戦」
62	17	火	共 講 有 堂	LGBT 対応セミナー 沖縄県/㈱オリエンタルコンサルタンツ	109	7（土）～8（日）		こ ど も ア ト リ エ	OKINAWA アートワークショップ 「漆喰シーサーに挑戦」

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
110	9（月）～ 23（月）		エントランス ホール	アートコンクール/首里城瓦利活用展示	116	4（水）～ 8（日）		美術館企画 ギャラリー1	稲嶺成祚展撤収
111	25（水）～ 29（日）		県民 アトリエ	漆喰シーサー作品保	117	4（水）～ 8（日）		美術館企画 ギャラリー2	稲嶺成祚展撤収
112	1（日）～ 3（火）		美術館企画 ギャラリー1	稲嶺成祚展	118	16（月）～ 23（月）		博物館 企画展示室	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～ 撤収
113	1（日）～ 3（火）		美術館企画 ギャラリー2	稲嶺成祚展	119	16（月）～ 23（月）		博物館特別 展示室 1・2	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～ 撤収
114	1（日）～ 15（日）		博物館 企画展示室	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～	120	25（水）～ 29（日）		博物館 企画展示室	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技― 準備
115	1（日）～ 15（日）		博物館特別 展示室 1・2	特別展 岩石～石ころから見える地球のダイナミズム～	121	25（水）～ 29（日）		博物館特別 展示室 1	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技― 準備/大嶺薫展 準備

【2020年12月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	火	県民 アトリエ	漆喰シーサー作品保管	31	9	水	美術館 講 座 室	医療費削減協議会（健康セミナー）（㈱ブレナスワールド
2	1	火	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校 第15回クリエイティブ アーツコース卒業記念展	32	9	水	共 講 有 堂	市民公開講座「専門医に聞く肝臓のお話」リハーサル（公財）ウイ ルス肝炎研究財団/琉球大学第一内科/日本肝臓学会沖縄県支部
3	2	水	博物館 講 座 室	（一財）沖縄美ら島財団 WEB 会議	33	10	木	共 講 有 堂	市民公開講座「専門医に聞く肝臓のお話」リハーサル（公財）ウイ ルス肝炎研究財団/琉球大学第一内科/日本肝臓学会沖縄県支部
4	2	水	博物館 実 習 室	民具体験/天妃小学校	34	10	木	共 講 有 堂	おきなわ彩発見バスツアー促進事業 事業者向け説明会・セミナー 事前準備 沖縄県/（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
5	2	水	美術館 講 座 室	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会 小規模法人 ネットワーク事業	35	11	金	博物館 講 座 室	BF1439 リアル限定《沖縄開催》DX 化の最前線 クラウド化 で変わるバックオフィスの現状 大阪中小企業投資育成株
6	2	水	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校 第15回クリエイティブ アーツコース卒業記念展	36	11	金	共 講 有 堂	おきなわ彩発見バスツアー促進事業 事業者向け説明会・セミナー 事前準備 沖縄県/（一財）沖縄観光コンベンションビューロー
7	3	木	博物館 講 座 室	㈱東京リーガルマインド若年者地域連携事業事務局 コミュニケーション力UPセミナー&労働法講座	37	12	土	博物館 講 座 室	博物館学芸員講座 「八重山の年中行事と供え物」
8	3	木	博物館 実 習 室	民具体験/喜瀬武原小学校	38	12	土	博物館 実 習 室	市民公開講座「肝臓の病気を正しく理解するた めに」 日本肝臓学会 沖縄県支部
9	3	木	美術館 講 座 室	ゆいまーる沖縄県 内閣府沖縄型産業中核人材育 成事業第3回実行委員会	39	12	土	美術館 講 座 室	「絵図とはどんなものか」 絵図から考える首里 城の会/大龍柱を考える会
10	3	木	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校 第15回クリエイティブ アーツコース卒業記念展	40	12	土	共 講 有 堂	市民公開講座「肝臓の病気を正しく理解するた めに」 日本肝臓学会 沖縄県支部
11	4	金	博物館 講 座 室	那覇商工会議所 令和2年分年末調整等説明会	41	13	日	博物館 講 座 室	教授者連絡会議 表千家同門会沖縄県支部
12	4	金	博物館 実 習 室	民具体験/座安小学校	42	13	日	博物館 実 習 室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会
13	4	金	博物館 実 習 室	民具体験/中城村立中城小学校	43	13	日	美術館 講 座 室	第8回 理事会 （一社）沖縄県美術家連盟
14	4	金	美術館 講 座 室	コムジェストアセットマネジメント株式会社 高橋 社長講演会（有）小山企画沖縄支店/I Life 唐沢	44	13	日	美術館 講 座 室	非分解プラセンタ勉強会 ㈱E アフアン
15	4	金	美術館 講 座 室	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会 小規模法人 ネットワーク事業	45	13	日	スタジオ	発酵・・・食改善で細胞から若返る 株式会社ウ イルサーチ
16	4	金	県民 アトリエ	指定管理者 現地説明会 沖縄県文化振興課	46	13	日	共 講 有 堂	武道を通しての家庭講演会 真の家庭運動推進協 議会
17	4	金	こども アトリエ	指定管理者 現地説明会 沖縄県文化振興課	47	15	火	博物館 講 座 室	足からの健康～健康長寿をいきるには～ 友利静 佳/ベネ/足管理健康協会
18	4	金	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校 第15回クリエイティブ アーツコース卒業記念展	48	15	火	博物館 実 習 室	東京富士美術館館長 五木田聡氏による講演会 第2会場
19	5	土	博物館 講 座 室	第10回沖縄ふるさとづくり写真コンクール表彰 式 （一社）沖縄しまたて協会	49	15	火	美術館講 座 室	ゆいまーる沖縄県 令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業 「沖縄染織の名産地を牽引する次世代人材育成プログラム」
20	5	土	博物館 実 習 室	「体験教室「リュウキュウアイから泥藍を作っ てみよう」 藍展関連ワークショップ	50	15	火	県民 アトリエ	OKINAWA アートワークショップ 打ち合わせ
21	5	土	美術館 講 座 室	ギャラリートーク 木下晋トーク ― 体が壊れて も、命は生き続ける。	51	15	火	こども アトリエ	OKINAWA アートワークショップ 打ち合わせ
22	5	土	スタジオ	第15回クリエイティブアーツコース卒業記念展 沖縄県立真和志高等学校	52	15	火	スタジオ	MVNO 勉強会 スター沖縄
23	5	土	共 講 有 堂	（一社）ウチナーグチスクール 沖縄芝居「棒しば り」	53	15	火	共 講 有 堂	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション 関連催事東京富士美術館館長 五木田聡氏による講演会
24	6	日	博物館 実 習 室	令和2年度中小企業組合検定試験 全国中小企業 団体中央会/沖縄県中小企業団体中央会	54	16	水	博物館 講 座 室	～コロナ禍を乗り越える～ アフターコロナの経 営戦略セミナー 那覇商工会議所
25	6	日	美術館 講 座 室	シマクトゥバプロジェクト 診で学ぶみゃーくふ つ入門	55	16	水	美術館 講 座 室	アートサポーター養成講座(美術/応用編) NPO 法人まる/九州障害者アートサポートセンター
26	6	日	スタジオ	第15回クリエイティブアーツコース卒業記念展 沖縄県立真和志高等学校	56	17	木	博物館 実 習 室	民具体験/曙小学校
27	8	火	博物館 講 座 室	令和2年度 第2回評議員会 （一財）沖縄県高 等学校野球連盟	57	17	木	美術館 講 座 室	アートサポーター養成講座(美術/応用編) NPO 法人まる/九州障害者アートサポートセンター
28	8	火	美術館 講 座 室	講座「沖縄から貧困がなくなる本当のわけ」 那覇第五民生委員児童委員協議会	58	17	木	博物館 講 座 室	沖縄県地歴科公民科教育研究会 教育セミナー
29	9	水	博物館 講 座 室	博物館班 資料調査	59	18	金	博物館 講 座 室	精神障がい者の働くを考える。 医療法人陽和会 南部地区障がい者就業・生活支援センター
30	9	水	博物館 実 習 室	会議（正倉院展関連）	60	18	金	博物館 講 座 室	㈱沖縄銀行 証券国際部 外為法令研修

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
61	18	金	美術館講義室	令和2年度 歴史・文化講座 沖縄県自治研修所	75	23	水	博物館実習室	WEB会議
62	19	土	博物館講義室	大和ハウス工業九州地区協会の沖縄支部 フォーネス特別教育	76	23	水	共有講義室	マンガ科2年生卒業作成プレゼンテーション 専修学校インターナショナルデザインアカデミー
63	19	土	美術館講義室	NPO法人沖縄県立美術館支援会 happ 理事会	77	24	木	共有講義室	マンガ科2年生卒業作成プレゼンテーション 専修学校インターナショナルデザインアカデミー
64	19	土	美術館講義室	博物館文化講座「藍植物と世界の製藍」 第2会場	78	24	木	博物館講義室	那覇市立銘苅小学校/オリエンテーション
65	19	土	県民アトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 「干支紅型でお正月支度」	79	24	木	美術館講義室	株式会社リベル 社内説明会
66	19	土	こどもアトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 「干支紅型でお正月支度」	80	25	金	共有講義室	第9回沖縄県アンダー40 設計競技「ディードフラッグス2020」プレゼンテーション&最終審査 沖縄県/（公社）沖縄県建築士会
67	19	土	共有講義室	博物館文化講座「藍植物と世界の製藍」	81	26	土	美術館講義室	㈱ブリスジャパン BGS 事業説明会
68	20	日	博物館講義室	令和2年度琉球文化日本遺産普及啓発事業 市民講座 琉球文化日本遺産推進協議会/丸正印刷株式会社	82	15（火）～30（水）		エントランスホール	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-
69	20	日	美術館講義室	沖縄の教育現場・地域社会における舞台芸術の可能性と活用をさぐる勉強会 エスバランサプロジェクト	83	1（火）～30（水）		博物館企画展示室	沖縄の藍 -自然と人の織りなす製藍の技-
70	22	火	博物館実習室	WEB会議準備	84	1（火）～30（水）		博物館特別展示室1	沖縄の藍 -自然と人の織りなす製藍の技-
71	22	火	美術館講義室	テーマ：真実と目醒の講和&量子について ㈱デルマ	85	1（火）～30（水）		博物館特別展示室2	大嶺薫展
72	22	火	共有講義室	沖縄県スマートエネルギーアイランド シンポジウム“沖縄独自の島しょ型エネルギー社会の実現を目指して” 沖縄県/（一財）南西地域産業活性化センター	86	10（木）～13（日）		美術館企画キョウリ-1	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション- 準備
73	22	火	博物館講義室	マンガ科2年生卒業作成プレゼンテーション 専修学校インターナショナルデザインアカデミー	87	10（木）～13（日）		美術館企画キョウリ-2	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション- 準備
74	23	水	博物館講義室	那覇市立銘苅小学校/オリエンテーション	88	15（火）～30（水）		美術館企画キョウリ-1	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-
					89	15（火）～30（水）		美術館企画キョウリ-2	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-

【2021年1月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	4	月	美術館屋外展示場	仕事始めのセレモニー	22	14	木	美術館講義室	ものづくり補助金活用説明会 沖縄県中小企業団体中央会
2	7	木	美術館講義室	WEB会議	23	15	金	こどもアトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 事前準備
3	8	金	共有講義室	アスベスト飛散防止及びフロン排出規制に係る法令説明会 沖縄県環境部環境保全課	24	15	金	共有講義室	第17回 生活発表会 事前準備 社会福祉法人 雅福社会みやび認定こども園
4	8	金	博物館実習室	民具体験レクチャー	63	15	金	共有講義室	令和2年度赤土等流出防止交流集会 沖縄県環境保全課
5	9	土	共有講義室	博物館学芸員講座 「山の暮らしと琉球藍について」	64	15	金	県民アトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 事前準備
6	9	土	博物館講義室	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-関連催事「講座①」	65	15	金	博物館講義室	「辺野古住民訴訟」中間報告学習会 「辺野古住民訴訟」学習会実行委員会
7	9	土	博物館実習室	沖縄の藍ワークショップ準備	66	15	金	博物館講義室	大和ハウス工業九州地区協会の沖縄支部 安全衛生協議会
8	9	土	美術館講義室	博物館学芸員講座「山の暮らしと琉球藍について」第二会場	67	15	金	博物館実習室	民具体験下見
9	10	日	共有講義室	うちなーコンサート シンポジウム実行委員会/沖縄朝鮮友好の会	68	15	金	美術館講義室	㈱開成 SDGeに貢献する食品リサイクルセミナー
10	10	日	県民アトリエ	素質論基礎講座Ⅱ ヒューマンリレーション研究所/仲村綾子	69	16	土	こどもアトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 「不思議な金属『錫』を溶かしてネームプレートをつくろう」
11	10	日	博物館講義室	（一社）日本社会連帯機構沖縄県本部評議会「労働者協同組合法」法制化勉強会	70	16	土	共有講義室	第17回 生活発表会 本番 社会福祉法人雅福社会 みやび認定こども園
12	10	日	博物館実習室	「琉球藍展（仮称）」ワークショップ	71	16	土	共有講義室	博物館 文化講座『藍とわたし』
13	10	日	美術館講義室	一般社団法人沖縄県美術家連盟理事会	72	16	土	県民アトリエ	OKINAWA アートワークショップ2020 「不思議な金属『錫』を溶かしてネームプレートをつくろう」
14	10	日	美術館講義室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会	73	16	土	博物館講義室	博物館 文化講座『藍とわたし』 第2会場
15	13	水	共有講義室	第17回生活発表会 リハーサル 社会福祉法人 雅福社会みやび認定こども園	74	16	土	美術館講義室	沖縄の教育を良くする会 テレビ「生命の光」を観る会
16	13	水	共有講義室	文化講座「藍とわたし」 リハーサル	75	17	日	共有講義室	㈱玄米酵素 食と健康セミナー in 那覇
17	13	水	博物館講義室	サンパール健康セミナー サンパール/寺本 良江	76	17	日	博物館講義室	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-関連催事「講座②」
18	13	水	博物館実習室	沖縄県立博物館友の会 三役会	77	17	日	博物館実習室	琉大ハカセ塾選抜会議 「県立博物館特別講義〜生物の形について考える〜」 琉球大学ジュニアドクター育成塾（琉大ハカセ塾）
19	14	木	博物館講義室	沖縄セルラー電話㈱ 自社主催 OBOG 交流会	78	17	日	美術館講義室	BGS（Be Gaming Station）事業説明会 株式会社ブリスジャパン
20	14	木	博物館実習室	デジタルミュージアム監修会議	79	19	火	博物館講義室	令和2年度 地域見守り隊交流会 社会福祉法人 那覇市社会福祉協議会
21	14	木	博物館実習室	民具体験/若狭小学校	80	19	火	美術館講義室	令和2年度「農産物活用支援強化事業」販路開拓研修会 沖縄県農林水産部営農支援課/光文堂コミュニケーションズ株式会社

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
81	20	水	こどもアトリエ	キャリア教育フォーラム 2020「これからの時代における産学官連携の価値」 株式会社ワンスペース	105	28	木	こどもアトリエ	次期指定管理者選考会 控室 沖縄県文化振興課
82	20	水	県民アトリエ	キャリア教育フォーラム 2020「これからの時代における産学官連携の価値」 株式会社ワンスペース	106	28	木	スタジオ	次期指定管理者選考会 控室 沖縄県文化振興課
83	20	水	博物館講義室	求人票に出せない仕事を知るセミナー 内閣府沖縄総合事務局/県りゅうせきフロントライン	107	28	木	県民アトリエ	次期指定管理者選考会 控室 沖縄県文化振興課
84	20	水	美術館室	沖縄県立博物館友の会 運営委員会	108	28	木	博物館講義室	求人票に出せない仕事を知るクロストーク 株式会社りゅうせきフロントライン/ハイサイプロジェクト事務局
85	20	水	美術館室	株式会社リベル 社内会議	109	28	木	美術館室	次期指定管理者選考会 沖縄県文化振興課
86	21	木	博物館講義室	レンアイ型採用戦略セミナー 内閣府沖縄総合事務局/県りゅうせきフロントライン	110	28	木	美術館室	沖縄セルラー電話(株) 会議
87	21	木	博物館実習室	旧正月イベントの練習	111	29	金	共有講義室	BGS(Be Gaming Station)事業説明会 株式会社ブリスジャパン
88	21	木	美術館講義室	医療費削減協議会健康セミナー 株式会社ブレナスワールド	112	29	金	博物館講義室	第2回就労アセスメント研修《実践編》 社会福祉法人 若竹福祉会 南部地区障がい者・生活支援センターから
89	22	金	美術館講義室	令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業UX技術研修 一般社団法人 IIOT	113	29	金	博物館実習室	民具借用レクチャー
90	22	金	共有講義室	第1回女性ヘルスケアセミナー Naoko 女性クリニック	114	30	土	共有講義室	エルケア医療保育専門学校福祉保育科保育発表会(学) KBC 学園エルケア医療保育専門学校
91	22	金	博物館講義室	株式会社オンデーズ 基礎研修	115	30	土	博物館講義室	総合研究センター 琉球食文化調査研究業務報告会「琉球・沖縄の食文化の探求」 一般財団法人 沖縄美ら島財団 総合研究センター(琉球文化財研究室)
92	22	金	博物館講義室	令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業 UX 技術研修 第16回対面研修個人報告会 一般社団法人 IIOT					
93	22	金	博物館実習室	沖縄県立南部商業高等学校/オリエンテーション	116	31	日	共有講義室	エルケア医療保育専門学校福祉保健部発表会(学) KBC 学園エルケア医療保育専門学校
94	22	金	博物館実習室	民具体験/中城南小学校	117	31	日	博物館講義室	専修学校インターナショナルデザインアカデミー 在校生向け企業講話会(クリエイターズナイト) 学校法人 KBC 学園専修学校インターナショナルデザインアカデミー
95	22	金	博物館実習室	藍展ワークショップ準備					
96	22	金	スタジオ	沖縄ヤマト運輸株式会社最終面接	118	19(火)～31(日)		エントランスホール	世界遺産登録 20周年関連作品展
97	23	土	共有講義室	第20回芸術教養コース 第20回発表会 沖縄県立小禄高等学校 芸術教養コース	119	2(土)～24(日)		博物館企画展示室	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技―
98	24	日	美術館講義室	診で学ぶみゃーくふつ入門 シマクトゥバプロジェクト	120	2(土)～24(日)		博物館特別展示室1	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技―
99	24	日	美術館講義室	ヨーロッパ流リバースエイジング美容 アットモア	121	2(土)～24(日)		博物館特別展示室2	大嶺薫展
100	26	火	博物館講義室	辻・本郷税理士法人 沖縄事務所 令和3年税制改正(個人・資産税)の概要座談会	122	2(土)～31(日)		美術館企画ギャラリー1	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-
101	26	火	博物館実習室	沖縄ヤマト運輸株式会社 春の定期採用最終面接	123	2(土)～31(日)		美術館企画ギャラリー2	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクション-
102	27	水	博物館講義室	コーディネーター研修 株式会社ワンスペース	124	25(月)～31(日)		博物館企画展示室	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技― 撤収
103	27	水	博物館実習室	民具体験説明会	125	25(月)～31(日)		博物館特別展示室1	沖縄の藍 ―自然と人の織りなす製藍の技― 撤収
104	27	水	美術館講義室	入札	126	25(月)～31(日)		博物館特別展示室2	大嶺薫展

【2021年2月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	2	火	共有講義室	デザイン経営セミナー 内閣府沖縄総合事務局	12	9	火	美術館講義室	正倉院展関連講座 動画撮影
2	3	水	博物館講義室	第10回執行委員会(会議) ANA 沖縄空港労働組合	13	10	水	共有講義室	内閣府沖縄総合事務局(運輸部企画室) 継続可能な海洋観光に関するセミナー
3	3	水	美術館講義室	令和2年度沖縄型産業中核人材育成事業「沖縄染織の各産地を牽引する次世代人財育成プログラム」商品・マーケティング開発研修 ゆいまーる沖縄株式会社	14	10	水	博物館講義室	おきなわデザイン経営第5回ワークショップ/成果発表会 一般社団法人沖縄県発明協会
					15	10	水	博物館講義室	辻・本郷税理士法人 沖縄事務所 令和3年税制改正シンポジウム
4	5	金	共有講義室	尚学院国際ビジネスアカデミー 卒業製作発表会	16	10	水	美術館講義室	沖縄における観光地域づくり法人(DMO)等意見交換会 内閣府沖縄総合事務局(運輸部企画室)
5	5	金	博物館講義室	第2回 日管協沖縄県支部 定例会 (公財)日本賃貸住宅管理協会 沖縄県支部	17	10	水	美術館講義室	医療費削減協議会 健康セミナー 株式会社ブレナスワールド
6	6	土	スタジオ	ピースボート地球一周の船旅説明会 ピースボート	18	11	木	共有講義室	BGS(Be Gaming Station)事業説明会 株式会社ブリスジャパン
7	6	土	美術館講義室	診で学ぶみゃーくふつ入門 シマクトゥバプロジェクト	19	12	金	博物館実習室	民具体験/那覇市立安謝小学校(博物館班)
8	7	日	博物館講義室	シンポジウム「専門家が思う日本刀の魅力」 琉球大学教育学部/博物館班	20	12	金	美術館講義室	JSTQB 認定テスト技術者資格試験 準備 株式会社シーヴィ・コンベンション
9	7	日	県民アトリエ	「研究課題:BET デジタルアーカイブ化に向けた討論会」 琉球大学教育学部	21	13	土	共有講義室	首里城再建についてのシンポジウム 首里城再興研究会
10	9	火	博物館講義室	㈱SRJ・㈱エデュケーションネットワーク共催教育セミナー通年教材展示会	22	13	土	博物館講義室	首里城再建についてのシンポジウム 第2会場 首里城再興研究会
11	9	火	博物館実習室	民具体験	23	13	土	美術館講義室	JSTQB 認定テスト技術者資格試験 株式会社シーヴィ・コンベンション

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
24	14	日	博 物 館 実 習 室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会	53	25	木	博 物 館 実 習 室	WEB 会議
25	14	日	美 術 館 講 座 室	第 48 回 沖縄・兵庫 冬季友愛オンライン交流 株式会社国際旅行社・沖縄県友愛交流構築事業実行委員会	54	25	木	美 術 館 講 座 室	博物館友の会 会議
26	16	火	共 講 有 堂	尚学院国際ビジネスアカデミー 卒業製作発表会	55	26	金	共 講 有 堂	令和 2 年度エネルギー使用合理化シンポジウム 内閣府 沖縄総合事務局/株式会社環境エネルギー総合研究所
27	16	火	美 術 館 講 座 室	2020 年度ビルクリーニング科通信訓練 一般財 団法人建築物管理訓練センター	56	26	金	博 物 館 講 座 室	沖縄地域 PPP/PFI プラットフォーム 第 8 回セミナー 沖 縄地域 PPP/PFI プラットフォーム/沖縄振興開発金融公庫
28	17	水	共 講 有 堂	尚学院国際ビジネスアカデミー 卒業製作発表会	57	26	金	美 術 館 講 座 室	SDG s に貢献する食品リサイクルセミナー（開 成
29	17	水	博 物 館 講 座 室	連絡調整会議	58	26	金	美 術 館 講 座 室	コムジェストアセットマネジメント株式投資セミ ナー アイライフ/唐沢祐香
30	17	水	博 物 館 講 座 室	打ち合わせ	59	27	土	スタジオ	沖縄・朝鮮友好の会「オンライン会議」
31	17	水	美 術 館 講 座 室	2020 年度ビルクリーニング科通信訓練 一般財 団法人建築物管理訓練センター	60	27	土	共 講 有 堂	県障害者等雇用開拓・定着支援事業「障がいのあ る人の職場定着について」 社会福祉法人名護学 院 障害者就業・生活支援センターティータ&チ ムチム
32	18	木	共 講 有 堂	令和 2 年度技術環境研究所 研究発表会 一般社 団法人 沖縄しまて協会					
33	18	木	博 物 館 講 座 室	博物館班 資料撮影対応	61	27	土	博 物 館 講 座 室	令和 2 年度九州ブロック管理運営研修会 日本理 学療法士協会/公益社団法人沖縄県理学療法士協会
34	18	木	博 物 館 講 座 室	博物館班文化講座リモート 確認	62	27	土	美 術 館 講 座 室	令和 2 年度予算編成委員会 公益社団法人沖縄県 理学療法士協会九州ブロック
35	18	木	美 術 館 講 座 室	2020 年度ビルクリーニング科通信訓練 一般財 団法人建築物管理訓練センター	63	28	日	共 講 有 堂	保護者のための教育講演会 日経教育グループ株 式会社/東進衛星予備校那覇安里校
36	19	金	美 術 館 講 座 室	2020 年度ビルクリーニング科通信訓練 一般財 団法人建築物管理訓練センター	64	28	日	博 物 館 講 座 室	第 4 回沖縄スリランカ教育交流事業/公開ワーク ショップ『〜マインドフルネス〜心の健康を得て 安定を保つ方 特定非営利活動法人日本スリラン カ次世代育成サポート
37	20	土	スタジオ	コロナ禍で苦しむ中小企業支援について私的に勉 強会を開催。 川満克己様					
38	20	土	博 物 館 講 座 室	博物館文化講座「世界遺産の現状を知る 一海外と 沖縄県内の事例から」 動画撮影	65	2（火）～ 14（日）		エントランス ホ ー ル	旧正月のパネル展
39	20	土	博 物 館 実 習 室	親子体験会 アートヨガ アトリエほっち KISS/ 富山薫	66	2（火）～ 14（日）		エントランス ホ ー ル	世界遺産登録 20 周年関連作品展
40	20	土	美 術 館 講 座 室	スターサービス沖縄 通信事業の未来	67	9（火）～ 14（日）		スタジオ	沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科 第 32 回卒業・修了作品展 沖縄県立芸術大学
41	21	日	共 講 有 堂	第 2 回おきなわ edu 祭り 県おきなわ edu	68	23（火）～ 28（日）		エントランス ホ ー ル	サンゴ礁ウィークパネル展【階段下】
42	21	日	博 物 館 講 座 室	（一社）日本社会連帯機構沖縄県本部定期総会 「ワーカーズ被災地に起つ」 試写会	69	2（火）～ 5（金）		美術館企画 ギャラリー 1	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクシ ョン- 撤回
43	21	日	博 物 館 実 習 室	沖縄の藍展関連催事 体験教室「泥藍から布を染 めてみよう」	70	2（火）～ 5（金）		美術館企画 ギャラリー 2	名画を読み解く-珠玉の東京富士美術館コレクシ ョン- 撤回
44	21	日	美 術 館 講 座 室	シマクトゥバの辞典をつくろう シマクトゥバプ ロジェクト	71	2（火）～ 7（日）		博 物 館 企画展示室	よみがえる正倉院宝物ー再現構造成にみる天平の技 ー準備
45	23	火	博 物 館 講 座 室	博物館班 資料調査対応	72	2（火）～ 7（日）		博 物 館 特別展示室	よみがえる正倉院宝物ー再現構造成にみる天平の技 ー準備
46	24	水	博 物 館 講 座 室	内閣府沖縄型産業中核人材育成事業成果報告会 ゆいまーる沖縄株式会社	73	6（土）～ 16（火）		美術館企画 ギャラリー 1	沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科 第 32 回卒業・修了作品展
47	24	水	博 物 館 実 習 室	伊平屋村立野甫小学校／オリエンテーション（荷 物保管場所）	74	6（土）～ 16（火）		美術館企画 ギャラリー 2	沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科 第 32 回卒業・修了作品展
48	24	水	美 術 館 講 座 室	広報会議	75	8（月）～ 28（日）		博 物 館 企画展示室	よみがえる正倉院宝物ー再現構造成にみる天平の技 ー
49	24	水	美 術 館 講 座 室	令和 2 年度 沖縄県立博物館・美術館協議会	76	8（月）～ 28（日）		博物館特別 展示室 1・2	よみがえる正倉院宝物ー再現構造成にみる天平の技 ー
50	25	木	スタジオ	内閣府 沖縄型産業中核人材育成事業 第 4 回実 行委員会 ゆいまーる沖縄株式会社	77	19（金）～ 28（日）		美術館企画 ギャラリー 1	石川真生展 準備
51	25	木	共 講 有 堂	学校法人南星学園サイ・テク・カレッジ那覇 建 築デザイン科 学習発表会	78	19（金）～ 28（日）		美術館企画 ギャラリー 2	石川真生展 準備
52	25	木	博 物 館 講 座 室	経営者講演会 那覇商工会議所					

【2021年 3 月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	5	金	博 物 館 講 座 室	令和 2 年度 二級建築士免許証明書交付式 公益 社団法人日本沖縄県建築士会	8	7	日	博 物 館 実 習 室	親子体験会「アートヨガ」 アトリエほっち KISS/ 富山薫
2	6	土	共 講 有 堂	博物館学芸員講座「琉球王国時代の辞令書ヒスト リー 〜館収蔵の辞令書を中心に〜」	9	9	火	こ ど も アトリエ	小祿高等学校「旧正月イベント」
3	6	土	博 物 館 実 習 室	ブロムナードコンサート 控室	10	9	火	共 講 有 堂	学校法人南星学園サイ・テク・カレッジ那覇 国 際情報ビジネス科 校内学習発表会
4	6	土	美 術 館 講 座 室	特別非営利活動法人沖縄県立美術館支援会 happ 理事会	11	9	火	県 民 アトリエ	小祿高等学校「旧正月イベント」
5	7	日	共 講 有 堂	ソナーレピアノ教室 発表会	12	9	火	博 物 館 講 座 室	講演会「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現プロジェクトに ついて
6	7	日	共 講 有 堂	世界緑内障週間 市民公開講座第 4 回「緑内障に 負けない」 世界緑内障週間沖縄事務局	13	9	火	博 物 館 講 座 室	ISO 内部監査
7	7	日	県 民 アトリエ	沖縄県芸術文化祭特別展に係る作品受付 公益社 団法人沖縄県文化振興会	14	9	火	博 物 館 実 習 室	講演会「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現プロジェクトに ついて第三会場

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
15	9	火	博 物 館 実 習 室	泊小学校打ち合わせ	50	20	土	県 民 アトリエ	沖縄県芸術文化祭特別展に係る作品返却 公益財 団法人沖縄県文化振興会
16	9	火	美 術 館 講 座 室	講演会「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現プロジェクトに ついて第二会場	51	20	土	博 物 館 講 座 室	首里城公園友の会 文化講演会
17	10	水	共 講 有 講 座 堂	学校法人南星学園サイ・テク・カレッジ那覇 情 報システム科 校内学習発表会	52	20	土	博 物 館 実 習 室	トラムで未来をつくる会
18	10	水	県 アトリエ	memory photo 前原 汐	53	20	土	美 術 館 講 座 室	沖縄県立美術館支援会 happ 理事会
19	10	水	博 物 館 講 座 室	令和2年度沖縄県工芸製品新ニーズモデル創出事 業成果報告会 ゆいまーる沖縄株式会社	54	20	土	美 術 館 講 座 室	テレビ「生命の光」を観る会 沖縄の教育を良く する会
20	10	水	美 術 館 講 座 室	BGS（Be Gaming Station）事業説明会 ㈱プリスジ ヤパン	55	21	日	ス タ ジ オ	沖縄・朝鮮友好の会「オンライン会議」
21	11	木	共 講 有 講 座 堂	2022 新卒採用 沖縄セルラー役員講演会 沖縄 セルラー電話株式会社	56	21	日	共 講 有 講 座 堂	第2回琉球人骨問題に関する「対話」シンポジウ ム ニライ・カナィぬ会
22	11	木	博 物 館 講 座 室	デジタルミュージアム監修者会議	57	22	月	博 物 館 実 習 室	ピアノ保守点検 作業場
23	11	木	博 物 館 講 座 室	漆芸監修者会議	58	23	火	博 物 館 講 座 室	令和2年度 第1層協議会 那覇市社会福祉協議 会
24	11	木	博 物 館 講 座 室	相続（資産税）セミナー 辻・本郷税理士法人 沖 縄事務所	59	23	火	美 術 館 講 座 室	NAIL TRON セミナー 株式会社篠/ワラカス沖 縄
25	11	木	美 術 館 講 座 室	ガイアの水135 代理店研修 有限会社ビビアン	60	25	木	博 物 館 講 座 室	健康セミナー勉強会 友寄鈴子/寺田良江/サンベ ール
26	12	金	共 講 有 講 座 堂	2022 新卒採用 沖縄セルラー役員講演会 沖縄 セルラー電話株式会社	61	25	木	博 物 館 実 習 室	㈱オカノ 会議
27	12	金	博 物 館 講 座 室	「よみがえる正倉院」展開連催事 学芸員による 展示解説会	62	26	金	共 講 有 講 座 堂	菌ちゃん先生「元気野菜作りと食育」講演会 株 式会社フードリボン
28	12	金	博 物 館 講 座 室	沖縄県高等学校体育連盟 第7回常任理事会 第 4回理事会 沖縄県高等学校体育連盟	63	26	金	博 物 館 講 座 室	沖縄タイムス新人研修 一般財団法人沖縄美ら島財 団
29	12	金	美 術 館 講 座 室	沖縄塾 勉強会	64	26	金	博 物 館 実 習 室	Web 会議
30	13	土	共 講 有 講 座 堂	博物館文化講座「琉球の石碑」	65	26	金	美 術 館 講 座 室	2020 年度 第二回コンサルティングコースセミナー 一般社 団法人日本損害保険協会/一般社団法人沖縄県損害保険代理業協会
31	13	土	博 物 館 講 座 室	公益社団法人日本航空機操縦士協会 沖縄支部講 演会	66	27	土	共 講 有 講 座 堂	博物館学芸員講座「明和津波襲来250年 津波の痕跡を 探る 一過去の自然災害からその脅威をかいま見る一
32	13	土	美 術 館 講 座 室	第24回 卒業設計作品選奨 公益社団法人日本 建築家協会 沖縄支部	67	27	土	博 物 館 講 座 室	シンポジウム専門家が思う日本刀の魅力 琉球大 学教育学部
33	14	日	共 講 有 講 座 堂	アクセルモバイル代理店様向け説明会 アクセル モバイル運営事務局/㈱レキオス	68	28	日	共 講 有 講 座 堂	2020 年度ビティナ・ピアノステップ那覇春季地区 ビティナ那覇ミュージアムステーション
34	14	日	共 講 有 講 座 堂	沖縄いのちの電話 自殺予防 公開講演会	69	28	日	博 物 館 講 座 室	しまくとうばプロジェクト鼎談「首里城再興やウ チナーぬ主体なさな！」
35	14	日	博 物 館 講 座 室	マングース、ヒアリ、グリーンアノール 沖縄の外 来種問題を考えよう！「オンラインセミナー」「パ ネル展」 沖縄県環境部自然保護課/一般財団法人 沖縄県環境科学センター	70	28	日	美 術 館 講 座 室	フリーペル大道セルカセントロ管理組合 総会 フリー ペル大道セルカセントロ管理組合/㈱松山ハウジング
					71	28	日	美 術 館 講 座 室	LaLaparty vol.2 おさんぽ婚 沖縄県 life 倶楽部協 同組合
36	14	日	博 物 館 実 習 室	指導者研修及び吟和会 琉球岳風会	72	30	火	博 物 館 講 座 室	2022 年度新卒向け 沖縄通信ネットワーク 会 社説明会
37	14	日	美 術 館 講 座 室	令和2年度各種専門分野（難聴・中途失聴者向け） を対象にした手話講座：「中途失聴・難聴者の手 話学習会」 一般社団法人沖縄聴覚障害者協会沖 縄聴覚障害者情報センター	73	31	水	共 講 有 講 座 堂	令和2年度 移動・退職者の送別会
					74	5（金）～ 28（日）	エントランス ホー ル	サンゴ礁ウィークパネル展	
38	14	日	美 術 館 講 座 室	一般社団法人沖縄県美術家連盟 理事会	75	5（金）～ 19（金）	エントランス ホー ル	こどもワークショップ	
39	17	水	共 講 有 講 座 堂	沖縄県健康経営フォーラム 「理論と実践から学ぶ with コロナ時代 の健康経営」 準備 沖縄県保健医療部健康長寿課/丸正印刷株式会社	76	9（火）～ 14（日）	ス タ ジ オ	第19回那覇市障がい者美術展 一般社団法人那 覇市身体障害者福祉協会	
40	17	水	博 物 館 講 座 室	令和2年度 産業廃棄物処理に関する研修会 沖 縄県環境整備課/（一社）沖縄県産業資源循環協会	77	15（月）～ 16（火）	共 講 有 講 座 堂	ピアノメンテナンス	
41	17	水	美 術 館 講 座 室	医療費削減協議会健康セミナー 株式会社ブレナ スワールド	78	20（土）～ 31（水）	エントランス ホー ル	世界児童画展	
42	18	木	共 講 有 講 座 堂	沖縄県健康経営フォーラム「理論と実践から学ぶ with コロナ 時代の健康経営」 沖縄県保健医療部健康長寿課/丸正印刷株式	79	30（火）～ 31（水）	博 物 館 実 習 室	正倉院展撤収作業業者控室	
43	18	木	博 物 館 講 座 室	沖縄県健康経営フォーラム「理論と実践から学ぶ with コロナ時代 の健康経営」 控室 沖縄県保健医療部健康長寿課/丸正印刷株式	80	5（金）～ 28（日）	博 物 館 企画展示室	よみがえる正倉院宝物―再現構造にみる天平の技 ―	
44	18	木	美 術 館 講 座 室	おきなわ SDGs WEB セミナー＆パートナーWEB 交流会 沖 縄県商工労働部企業立地推進課/㈱エマエンタープライズ	81	5（金）～ 28（日）	博物館特別 展示室 1・2	よみがえる正倉院宝物―再現構造にみる天平の技 ―	
45	19	金	博 物 館 講 座 室	「よみがえる正倉院」展開連催事 学芸員による 展示解説会	82	5（金）～ 31（水）	美術館企画 キョーリ―1	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が 好きだ。	
46	19	金	博 物 館 講 座 室	沖縄県企業立地推進事業 国際物流拠点産業集積地域制度の連絡 協議会及び講義 沖縄県商工労働部企業立地推進課/㈱エマエンタープライズ	83	5（金）～ 31（水）	美術館企画 キョーリ―2	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が 好きだ。	
47	19	金	博 物 館 実 習 室	世界児童画展 準備	84	30（火）～ 31（水）	博 物 館 企画展示室	よみがえる正倉院宝物―再現構造にみる天平の技 ― 撤収	
48	19	金	美 術 館 講 座 室	タマホーム沖縄支店安全協力会 業者会	85	30（火）～ 31（水）	博物館特別 展示室 1・2	よみがえる正倉院宝物―再現構造にみる天平の技 ― 撤収	
49	20	土	共 講 有 講 座 堂	ピアノ発表会 音楽教室スキエット					

3 県民ギャラリー貸出件数

No.	使用ギャラリー	貸出期間	イベント名	主催者
1	県民ギャラリー1	4月7日(火)～4月9日(木)	「沖縄・東京女子カーレンの末裔たち」	吉野 孝雄
2	県民ギャラリー1	6月19日(金)～6月21日(日)	にこにこがある展	自然の音
3	県民ギャラリー1	7月22日(水)～7月26日(日)	2020年 公文大里仲間・那覇真嘉比・壺川書写教室成果発表会	公文大里仲間書写教室
4	県民ギャラリー1.2.3	7月29日(水)～7月31日(金)	国際バカロレアディプログラム Visual arts 展覧会	学校法人尚学学園沖縄尚学高等学校
5	県民ギャラリー1	9月17日(木)～9月20日(日)	仲間展	友利とモーリーの愉快的仲間たち
6	県民ギャラリー3	9月24日(木)～9月27日(日)	稲嶺成祚展開連展覧会 LETS OPEN THE WINDOWS	沖縄県立博物館・美術館美術館班
8	県民ギャラリー2	9月29日(火)～10月4日(日)	シントアイ展	並里 幸太
9	県民ギャラリー1.2.3	10月7日(水)～10月11日(日)	田名洋子の書-沖縄哀歌-	田名洋子の書実行委員会
10	県民ギャラリー1.2	10月13日(火)～10月18日(日)	cosmic art水華「宇宙点描画展」	水華cosmic art planning
12	県民ギャラリー1.2.3	10月22日(木)～10月25日(日)	第44回沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部 作品展	沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部
13	県民ギャラリー1	10月27日(火)～11月1日(日)	RIE∞COSMIC ART展	徳田理江
14	県民ギャラリー3	10月29日(木)～11月1日(日)	ゆきえのイロイロ展	東由希恵
15	県民ギャラリー1.2.3	11月3日(火)～11月8日(日)	沖縄県立開邦高等学校 芸術科 第11回美術コース作品展	沖縄県立開邦高等学校芸術科・美術コース
16	県民ギャラリー1.2.3	11月26日(木)～11月29日(日)	「小さな絵本展」 Vol.11	My Piece Art Project
17	県民ギャラリー2	12月1日(火)～12月3日(木)	Monotone美の世界	石垣裕子
18	県民ギャラリー1	12月1日(火)～12月5日(土)	第10回沖縄ふるさとづくりコンクール中学・高校生写真コンクール2020	(一社)沖縄しまて協会
19	県民ギャラリー3	12月1日(火)～12月6日(日)	第15回クリエイティブアーツコース卒業記念展	沖縄県立真和志高等学校
20	県民ギャラリー2	12月4日(金)～12月6日(日)	(一社)沖縄県発明協会 第37回未来の科学の夢絵画展	(一社)沖縄県発明協会
21	県民ギャラリー1.2.3	12月8日(火)～12月13日(日)	沖縄県立浦添工業高等学校インテリア科 第36回卒業作品展	沖縄県立浦添工業高等学校インテリア科
22	県民ギャラリー1.2.3	12月15日(火)～12月20日(日)	第26回 沖縄県中学校総合文化祭 展示の部	沖縄県中学校文化連盟
23	県民ギャラリー1	12月22日(火)～12月27日(日)	ミラクルくんアーティストブランド設立記念展示「Everybody gonna be happy!!」	(株)モーアシビー
24	県民ギャラリー1.2	1月8日(金)～1月10日(日)	「沖縄こども美術教室」生徒作品展	沖縄こども美術教室(アーケイド)
26	県民ギャラリー1.2.3	1月21日(木)～1月24日(日)	第20回沖縄県立小禄高等学校 芸術教養コース発表会	沖縄県立小禄高等学校芸術教養コース
27	県民ギャラリー1.2.3	1月28日(木)～1月31日(日)	専修学校インターナショナルデザインアカデミー主催 DESIGN COMP	専修学校インターナショナルデザインアカデミー
28	県民ギャラリー1	2月2日(火)～2月7日(日)	一般社団法人沖縄県美術家連盟 2020年度沖美連新春展	一般社団法人沖縄県美術家連盟
29	県民ギャラリー2.3	2月5日(金)～2月7日(日)	第52回 沖縄県高等学校美術工芸教育生徒作品展・第20回 沖縄県高等学校教員作品展	沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部
30	県民ギャラリー1.2.3	2月9日(火)～2月14日(日)	沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科 第32回卒業・修了作品展	沖縄県立芸術大学
31	県民ギャラリー1.2.3	2月19日(金)～2月21日(日)	第13回卒業・進級展示会	総合学園ヒューマンアカデミー那覇校
32	県民ギャラリー1	2月25日(木)～2月28日(日)	ウェルカルチャスクール&木彫り教室ゆん 合同作品展	ウェルカルチャスクール&木彫り教室ゆん
33	県民ギャラリー1.2.3	3月9日(火)～3月14日(日)	第19回 那覇市障がい者美術展	一般社団法人那覇市身体障害者福祉協会
34	県民ギャラリー1.2	3月16日(火)～3月21日(日)	押し花&ガラスアート作品展	沖縄ガイア押し花会

No.	使用ギャラリー	貸出期間	イベント名	主催者
35	県民ギャラリー3	3月17日（水）～3月19日（金）	Alaris Japan 2021春夏展示会	ams株式会社
37	県民ギャラリー1.2	3月23日（火）～3月28日（日）	幸喜石子「水茎の跡」展	幸喜石子

博 物 館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という4つの大きな柱によって構成されている。これらは相互に関連しあっているが、中でも調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。当館（博物館班）における調査研究活動は大きく3つに分けられる。全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員自身がテーマを設けて行う個別の調査研究である。

まず、「博物館総合調査」は、1980年から博物館の学芸員が県内離島各地の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告することを目的に実施しているものである。本調査が、他の学術調査と異なるのは、総合博物館の特性を活かし、自然史から人文まで各分野の学芸員を中心に調査員を構成することで、分野を越えた総合的な調査ができることにある。また、その成果は、報告書や展覧会という形で県民へ還元され、島々の自然・歴史・文化について学習する機会を提供するとともに、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する理解を深めていただくことに役立てられている。

これまでの「博物館総合調査」は、栗国島を皮切りに2018年度までに20の島々で実施し、各々調査報告書を刊行してきた。主な調査地は、栗国島（1980年）、渡名喜島（1981年）、座間味島（1983年）、伊計島（1987年）、瀬底島（1988年）、与那国島（1989年）、浜比嘉島（1990年）、古宇利島（1991年）、久米島（1992年）、波照間島（1995年）、西表島（1997年）、小浜島（2002年）、与那国島（2005年）、竹富島（2012年）、鳩間島・新城（上地・下地）島・黒島（2016年）、伊是名島・伊平屋島（2018年）である。

そして、2019年度から2023年度までは、宮古諸島（宮古島市および多良間村）を対象に、5か年で調査を実施する計画を立て、2019年度には、自然史分野（生物・地学・人類）と歴史、民俗分野が多良間島で、考古と民俗分野が宮古島で調査を行った。しかし、2年目にあたる2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のため離島への渡航を自粛することになり、総合調査は1年延期することになった。2021年度以降、感染症対策を十分に講じた上で、まだ実現していない水納島での調査を含め、宮古諸島を広く範囲かつあらゆる分野の視点で調査し、また、これまでに踏査されていない自然や歴史上の遺跡等を記録していく計画である。

つぎに、共同研究事業としては、国立科学博物館及び東京大学と共同で、南城市玉城のハナダガマ遺跡（2006・2007年度）、南城市玉城おきなワールド内の武芸洞（2007～2010年度）、2011年度は武芸洞に加えて同敷地内のサキタリ洞を対象とした調査を行った。さらに、2012年度からは、沖縄振興特別推進交付金対象事業（一括交付金）「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」を立ち上げ、サキタリ洞遺跡の本格的な調査を実施。これまでに9千年前よりさらに前のものと考えられる人骨や、世界最古級（2.3万年前）の釣針、先史時代の貝器などが出土し、全国的にも世界的にも注目される貴重な成果をあげている。一括交付金による事業の終了後も、国立科学博物館等と連携して調査を継続している。

一括交付金を活用した事業は他にも2件ある。このうち「琉球王国文化遺産集積・再興事業」では、琉球王国時代の文化遺産を科学的根拠に基づいて現代の人々の手で模造復元するもので、そのための調査研究が8分野65件の資料を対象に実施している。2020年度は、木彫、漆芸、三線分野の5件の模造復元品完成によって製作事業は完了し、さらに「手わざー琉球王国の美」の巡回展として宮古島市、石垣市、那覇市の3か所で展覧会を開催した。また、当館ホームページから模造復元における調査分析の結果や製作工程等を閲覧できるページを作成し、県内外への発信に努めた。2021年度は、本事業の最終年度として、久米島市及び東京国立博物館、九州国立博物館での展覧会を予定している。

つぎに、2016年度から5か年計画で実施している「デジタルミュージアム推進事業」は、2020年度を最終年度とし、当初の計画通り80話の動画コンテンツを制作し公開した。本事業は、1973年から沖縄各地で収集された伝承話の音声資料を音源としたもので、無形文化財の活用を図る試みとして実施した。古老が語るオリジナルの音源をもとに、制作した80話の動画コンテンツと、約3.3万話の伝承話音声資料のデータベースを検索できるウェブサイト「ウチナー民話のへや」を開設した。これにより、沖縄の多様な言語文化や伝承話の世界を広く紹介することができた。今後は、制作したコンテンツを広く発信するため、上映会の開催や学校教育への普及啓発に努めることとする。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形で生かされている。

2019年度における学芸員個々の調査研究等の活動状況は、p48～p57のとおりである。

（大湾 ゆかり）

2 博物館総合調査 一宮古諸島総合調査一

博物館総合調査事業は県内離島の自然・歴史・文化について、博物館各分野の学芸員が総合的に調査を実施し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展覧会等をとおして、島々の自然や文化を多くの県民に伝えることを目的としている。これまで、久米島、波照間島、西表島、小浜島、与那国島、竹富島、鳩間島、新城

島、黒島、伊是名島、伊平屋島について現地調査をおこない、それらの成果をもとに1996年に久米島展、2010年に八重山展を実施した。2019年度からは5年計画で宮古諸島の調査を実施することとしており、2019年度は多良間島を中心に調査を実施した。

【組織】

本調査の組織は博物館班の学芸員(自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗)によって構成することとしている。また、調査の精度を高めるため、予算の範囲内で館外の専門家を調査員として委嘱することがある。各調査員でテーマを設定し、適切な時期に調査を実施する。調査の際、テーマに沿ったデータの収集だけでなく、展覧会を想定し、資料の収集(借用の可能性)や撮影にも努めている。

【2020年度調査実績】

2020年度は、新型コロナ感染拡大にともなう措置として、離島への渡航を自粛したため、実地調査の実績はない。

(菊川 章)

3 博物館共同研究事業

【趣 旨】

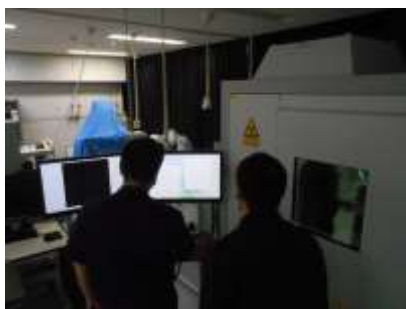
更新世の隆起サンゴ礁からなる石灰岩に広く覆われた沖縄では、約3万6000年前の日本最古の人骨である山下町第一洞穴人(那覇市)や、約2万2000年前の港川人(八重瀬町)など、旧石器時代の人骨化石が数多く発見されている。旧石器時代の人骨化石の発見例は、日本本土では1か所(浜北人:静岡県浜松市)のみのところ、本県からは10か所ほどの旧石器人骨出土地が知られており、近年では白保竿根田原洞穴遺跡(石垣市)やサキタリ洞遺跡(南城市)において新たな人骨等の発見が相次いでいる。

沖縄の旧石器人骨は、日本列島における人類のルーツを解明する重要な鍵となる資料であり、本県は旧石器人骨の調査場所として圧倒的に有利な立場にあることは明らかである。そこで、本事業では沖縄県立博物館・美術館による継続的な調査によって、多くの成果があげられてきたサキタリ洞遺跡の発掘と調査研究をいっそう推進し、沖縄の旧石器時代人とその文化に関する新たな知見を得るとともに、県立博物館の価値増大を図ることを目的とする。

【事業概要】

これまでの調査によって、サキタリ洞遺跡の3か所の調査区から出土した人骨や遺物等について調査研究を実施した。今年度の現地での発掘調査は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、中止とした。そのため、今年度は既存資料の調査研究を中心として作業を進めた。沖縄県工業技術センターのCTスキャン機器を利用することにより、サキタリ洞遺跡出土品の3Dデータを得るとともに、当館においても三次元プリンターを導入し、立体模型を製作し、比較研究を行った。また、サキタリ洞遺跡出土の赤色顔料と貝製ビーズに関する新たな知見について学術論文を執筆し、日本旧石器学会が刊行する『旧石器研究』誌に投稿・受理された。

このほか、下地原洞穴遺跡(久米島町)の現地調査を行い、出土品について放射性炭素年代測定を実施したほか、ツツビスキアブ遺跡(宮古島市)の出土品に関する調査研究を行った。



出土品のマイクロCT撮影の様子
(沖縄県工業技術センターにて)



サキタリ洞遺跡出土の赤色顔料関連資料

(山崎 真治)

4 「一括交付金」活用事業

(1) 琉球王国文化遺産集積・再興事業

一括交付金とは、沖縄の実情に即して、沖縄振興に資する沖縄の特殊性に基因する事業等を沖縄県が自主的に実施できる制度として創設された国から地方への交付金のことである。本事業は、それを活用し、戦後70年

余を経て、戦災等により失われた王国時代の文化遺産を模造復元し、沖縄の手わざの力を、琉球王国文化のブランドとし、モノ（模造復元品）を通して発信し沖縄をアピールする事業である。本事業には模造復元製作業務と発信業務があり、2015年度（平成27）から2021年度（令和3）までの7か年計画で、初年度の実施計画に沿って、模造復元製作（2016～2020年度：製作／2020年～2021年：報告書作成）を実施し、2019～2021年度には模造復元品を活用した発信を予定している。

2020年度（令和2）は、一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体と契約し、模造復元製作業務を実施した。復元にあたっては、各分野ごとに3名の監修者（3分野・計9名）を委嘱し、2～3回の監修者会議を開いた。各製作工程の中で、試作による製作指導、本製作の技法確認などを行った。

本事業において2016年からスタートした模造復元製作業務は2020年度で最終年度を迎えた。前年度までに8分野60件が完成しており、残るは3分野5件の模造復元となった。3分野5件の内訳は木彫3件、漆芸1件、三線1件である。詳細は以下のとおりである。

5件【木彫（円覚寺仁王像 朱漆巴紋牡丹沈金透彫足付盆 聖観音像）、漆芸（黒漆雲龍螺鈿東道盆）、三線（東博蛇皮線）】が完成した。

また復元した資料を活用した発信業務では、県内離島及び首里城公園等での巡回展を実施した。県内離島の巡回展会場は宮古島市総合博物館（2020年11月8日～11月22日）及び石垣市立八重山博物館（2020年12月6日～12月20日）の2か所。首里城公園においては世誇殿（2021年1月21日～2月28日）を第一会場として開催し、沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館（2021年2月14日～2月28日）を第二会場として実施した。

展示は模造復元資料に加え、宮古島や石垣島在住の職人が製作した模造復元資料を中心に製作工程を記録した映像などを紹介した。宮古島市総合博物館の入館者数は12日間の会期中にのべ1053人、石垣市立八重山博物館は13日間の会期中にのべ552人の入館者数であった。首里城公園の第一会場である世誇殿は39日間の会期中にのべ8,032人の入館者数を記録。第二会場の県立芸術大学附属図書館・芸術資料館では12日間の会期中にのべ678人の来館があった。

新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染症予防の観点から各会場でソーシャルディスタンスを保つためのフロアマーカを示し、また3会場それぞれに十分な量の手指消毒用アルコールを設置した。さらに事業の内容をインターネット上で効果的に発信するためにWebサイトを構築。展覧会場に来れない人にも資料の魅力が伝わるよう内容を工夫して発信している。

一方で2020年8月に予定していた久米島町立博物館での巡回展は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会期日程が県独自の緊急事態宣言下にあったため次年度以降に開催を延期した。

〔展 示〕 琉球王国文化遺産集積・再興事業 発信業務 巡回展「手わざ-琉球王国の文化」
場 所：宮古島市総合博物館
日 時：2020年11月8日～11月22日
入 館 者：1,053名

〔展 示〕 琉球王国文化遺産集積・再興事業 発信業務 巡回展「手わざ-琉球王国の文化」
場 所：石垣市立八重山博物館
日 時：2020年12月6日～12月20日
入 館 者：552名

〔展 示〕 琉球王国文化遺産集積・再興事業 発信業務 巡回展「手わざ-琉球王国の文化」
場 所：第一会場 首里城公園 有料区域 世誇殿
日 時：2021年1月21日～2月28日
入 館 者：8032名
場 所：第二会場 沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館
日 時：2021年2月14日～2月28日
入 館 者：678名

〔報告会〕 「手わざ-琉球王国の文化-」 関連イベント

○第1回

日 時：2020年11月8日（日）10:00～11:00

場 所：宮古島市総合博物館 研修室

講 師：篠原あかね、新里玲子（宮古上布保持団体 代表）、豊見山カツ子（宮古上布保持団体）、仲宗根みち子（宮古上布保持団体）

参 加 者：15名

○第2回

日 時：2020年11月8日（日）14:00～15:00

場 所：宮古島市総合博物館 研修室
講 師：篠原あかね、新里玲子（宮古上布保持団体 代表）、豊見山カツ子（宮古上布保持団体）、
仲宗根みち子（宮古上布保持団体）

参 加 者：15名

○第3回

日 時：2020年11月22日（日）

場 所：宮古島市総合博物館 研修室

講 師：篠原あかね、新里玲子（宮古上布保持団体 代表）、豊見山カツ子（宮古上布保持団体）、
仲宗根みち子（宮古上布保持団体）

参 加 者：15名

○第4回

日 時：2020年12月6日（日）

場 所：石垣市結い心センター

講 師：篠原あかね、新垣幸子（八重山上布 県指定無形文化財技能保持者）

参 加 者：15名

○第5回

日 時：2020年12月20日（日）

場 所：石垣市結い心センター

講 師：篠原あかね、新垣幸子（八重山上布 県指定無形文化財技能保持者）

参 加 者：15名

〔論 文〕

- ・篠原あかね 宇保朝輝 仲嶺幹「琉球王国文化遺産集積・再興事業におけるべっ甲巻三線の調査報告」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月



巡回展 宮古島市総合博物館



巡回展 石垣市立八重山博物館



首里城公園 有料区域 世誇殿（第一会場）



沖縄県立芸術大学附属図書館・芸術資料館（第二会場）

（外間 一先）

（2）デジタルミュージアム推進事業

本事業は、2015年度に当館に寄贈された沖縄の伝承話音声資料の保存と活用を目的としている。2016年度から2020年度までの5か年計画でデジタルミュージアムを開設し、資料の体系的な保存・管理と80話の民話の動画コンテンツを制作してWeb上や常設展示室等で公開することにより、遠隔地へのサービス提供や来館者誘致、顧客満足度向上の実現を目指している。

題材とした伝承話音声資料は、1973年から故遠藤庄治とその協力者たちが沖縄各地で収集した76,000話余の音声記録のうち、デジタル化済みの33,000話分の記録（カセットテープとデジタルデータ）である。沖縄では、戦争や標準語励行運動、生活の画一化等で口承伝承されてきた民話や伝説等が急速に失われつつある。また、方言の話し手が減少し、地域性が薄くなった現代では、口承だけで民話を残すことが難しくなった。そのため、

40年余をかけて収集された伝承話資料は沖縄県民にとって貴重な財産である。その貴重な資料の保存と活用は博物館の重要な使命である。当館では伝承話音声資料を無形文化遺産の一つとして捉え、適切な保管とデジタルデータを活用した展示コンテンツの開発を進めている。

2020年度は、優良民話に選定した80話のうち、以下に掲げた24話の動画コンテンツを制作した。さらには、これまでに作成した80話のコンテンツを博物館のホームページ内にある「ウチナー民話のへや」で公開した。

【2020年度制作の動画コンテンツ】

	地区	市町村	題 名		地区	市町村	題 名
1	北部	国頭村奥間	赤い糸伝説	13	中部	うるま市石川	に一ぶい次良
2	北部	国頭村浜	貧乏神と福の神	14	中部	宜野湾市野嵩	我如古の化け猫
3	北部	大宜味村田嘉里	カラスとコハル	15	中部	宜野湾市愛知	城間仲 大歳の盗人
4	北部	東村宮城	天福地福	16	中部	宜野湾市伊佐	普天間権現由来
5	北部	名護市宇茂佐	後生や雨垂れの下	17	南部	粟国村西	弁当のお返し
6	北部	恩納村南恩納	子どもの肝	18	南部	糸満市与座	キジムナーと友達
7	北部	恩納村谷茶	幽霊と櫛の角	19	宮古	宮古島市伊良部佐和田	通り池のユガタイ
8	中部	読谷村座喜味	十二支由来	20	八重山	竹富町竹富島	老ガラスの知恵
9	中部	読谷村高志保	ハブ女房ー鐘つきのはじまりー	21	八重山	竹富町黒島	大力ガッフェ
10	中部	西原町兼久	モーイ親方・殿様の難題	22	八重山	竹富町鳩間島	感冒の神様
11	中部	北中城村喜舎場	鉄門の福分	23	八重山	与那国町祖納	雀孝行
12	中部	うるま市具志川田場	もの言う亀	24	八重山	与那国町久部良	嫁と姑 猫と鼠

【上映会】

2020年度は館内外での上映会や展示会での上映を行った。館外での上映では、地域の公民館での上映会とデイサービスセンターでの上映を実施した。そのうち、地域での上映会では令和元年度に作成したデジタルコンテンツのうち、北谷町桃原の話者である阿波根昌栄さんの音源をもとに作成した「抱死（だちじん）の話」を桃原公民館で上映した。

	内 容	日 付	参加人数
館 内	新収蔵品展	5月19日～6月21日	37
	上映会①	7月26日	50
	上映会②	9月20日	43
	上映会③	10月31日	44
	岩石展	9月8日～11月15日	380
館 外	北谷町桃原公民館	10月9日	20
	デイサービスセンターおもろまち	3月10日～3月18日	117
合 計			691



館内での上映会の様子



デイサービスセンターでの上映会

(阿利 よし乃)

5 博物館収蔵品WEB図鑑製作発信事業

(1) 岩石鉱物図鑑

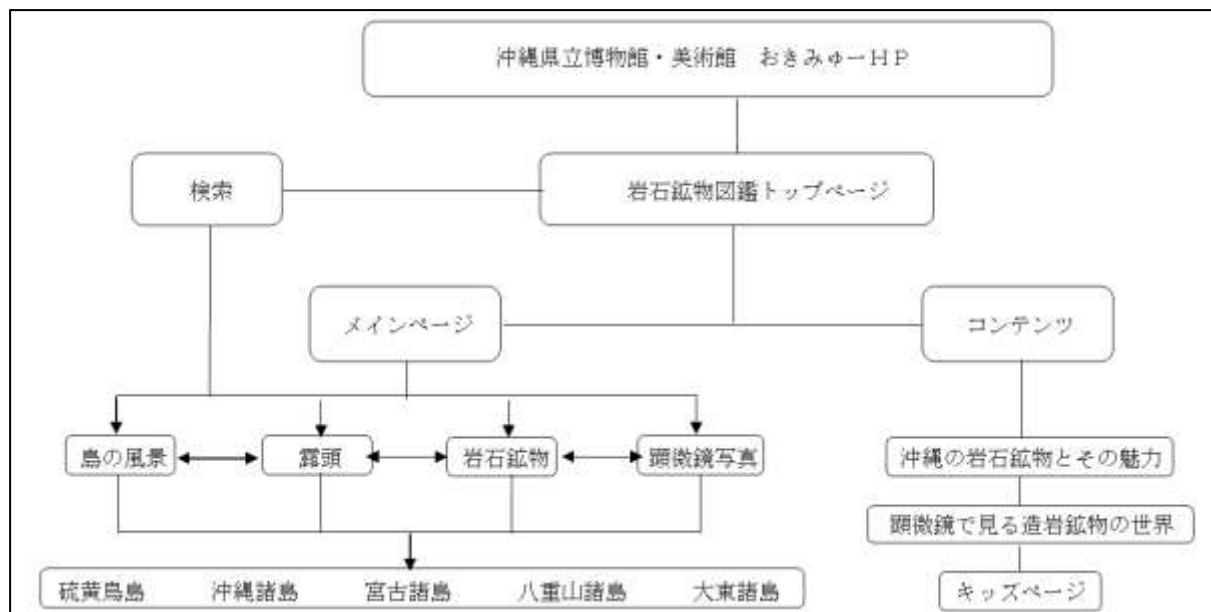
平成30年度、平成31年度博物館収蔵品WEB図鑑（岩石鉱物図鑑）製作発信事業において、岩石鉱物図鑑を製作し、令和2年度特別展「岩石」の開催に合わせて発信した。岩石鉱物図鑑とは、当館のホームページ（<https://okimu.jp/>）上のWEB図鑑である。地学分野の主な収蔵資料である岩石鉱物標本（一部の化石標本を含む）と展示資料、岩石薄片写真（顕微鏡写真）、野外の露頭写真（岩石鉱物の産状）等の一部を掲載している。

【図鑑製作の目的】

当館の地学分野の収蔵標本は、沖縄県内産出の標本を中心に令和元年4月末現在、31,604点を収蔵している。また岩石薄片は、標本収集とともに、薄片製作ボランティアである宮城宏之、宮城直樹の両氏のご協力のもと、新館が開館してから現在までの13年間に1,000枚以上を製作し収蔵してきた。岩石薄片から得られる情報は、造岩鉱物の種類と組織であり、岩石鉱物を同定する際に、大変重要なものである。また、岩石鉱物標本にとって、野外の露頭の情報も岩石の成因や産状を知るうえで大変重要である。そこで、岩石鉱物の収蔵標本と野外の露頭、顕微鏡下のミクロの世界の情報を相互に結びつけ、研究、教育機関等に幅広く利用していただくとともに、沖縄県の地質情報を記録することを目的とし製作した。

【図鑑の構成】

メインページから、次の各サブページ（①島の風景を見る、②露頭を探す（野外）、③岩石鉱物を探す（収蔵標本）、④顕微鏡写真を探す（薄片写真））、へ目的に応じて移動し、閲覧、検索できる構成とした。それらの各ページは相互にリンクしており、利用目的に応じてページ間を移動できる構成とした。また、図鑑内コンテンツとして、キッズページ、用語の説明、沖縄の岩石鉱物とその魅力、顕微鏡でみる造岩鉱物の世界を紹介するページも掲載している。



岩石鉱物図鑑（<https://okimu.jp/ganseki/>）サイトマップ

（宇佐美 賢）

(2) 植物標本

当館には、大正から昭和初期に活躍した和歌山県出身の生物学者、坂口総一郎氏が沖縄県を含む日本各地で採集した植物標本（以下「坂口資料」という）をはじめ、多くの植物標本が収蔵されている。また、昭和から平成にかけて、生物教員で植物研究科の新島義龍氏により撮影された植物写真資料が収蔵されている。これらの植物資料や写真資料は県民の財産であり、その損失を防ぎ、広く一般に活用できるかたちにするためには、資料整理のための人員を確保し、的確に整理・保存するとともに、効果的に発信する必要がある。本事業は、当館所蔵の貴重な植物標本資料や植物写真資料を整理し、WEB図鑑として一般に公開することで、広く教育や研究に資することを目的とする。

本事業では、まず未整理の植物標本を整理し、台紙に貼り付け、保存、閲覧が可能な状態（さく葉標本）にする。その後、当該標本を写真に収め、種名や学名、生態写真などの情報を付加し、公開可能な状態にする。また、アナログの写真資料についてはスキャンし、デジタル化する。最終的には、WEB図鑑として公開するためのシステムを構築し、当館ホームページ上で公開する。

令和2年度は、会計年度任用職員を雇用し、坂口資料のうち、沖縄県産の植物標本について整理し、台紙に貼り付ける作業を進め、全体の約3分の1程度を完了した。今後は、同作業を継続するとともに、WEB図鑑の製作・発信の方法についても情報を収集する。

(菊川 章)

6 調査・研究・講演・著作論文等

大湾 ゆかり（博物館班班長／民俗）

○調査・研究等

- ・藍展関連調査（南風原町）（2020年5月29～30日、6月16日）
- ・泥藍製造調査（名護市・大宜味村）（2020年6月4～5日）
- ・藍展関連調査（大阪府・京都府）（2020年6月19～23日）
- ・泥藍製造の撮影（本部町）（2020年7月2～5日）
- ・南風原文化センターでの琉球藍の藍建て研修（南風原町）（2020年6月25～27日）

○講演等

- ・名称：第50回九州博物館協議会学芸員・事務職員研修会 事例報告「被災資料の受け入れと緊急時ネットワークづくり」
期 日：2020年11月5日（木）
- ・名称：博物館学芸員講座「山の暮らしと琉球藍について」
期 日：2021年1月9日（土）

○著作論文等

- ・「琉球藍関係資料からの一考察」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・「南風原町新川の宇久田家御拝領墓に関する調査報告」（共著）『沖縄県立博物館・美術館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月

外間 一先（主任学芸員／歴史：近・現代）

○調査・研究等

- ・企画展『激動の明治・大正の沖縄～第11代斎藤用之助の足跡から』展に関する調査（佐賀県、那覇市、糸満市、与那原町、県立図書館、琉球大学附属図書館等）（2020年4月10日～8月30日）
- ・歴史部門展示『登録20周年 世界遺産出土品巡回展～未来に継ぐ琉球の宝～』展に関する調査（今帰仁村、うるま市、中城村、南城市、那覇市、南風原町、県立埋蔵文化財センター等）（2020年10月23日～2021年3月1日）
- ・沖縄ガラス乾板共同研究（那覇市、首里城公園、東京都）（2020年4月7日～2021年3月31日）
- ・大田昌秀と90年代の沖縄 大田昌秀自筆原稿資料の調査研究（那覇市、県公文書館等）（2020年4月14日～2021年3月31日）
- ・琉球王国文化遺産集積・再興事業模造復元製作に関する調査（那覇市、沖縄市、宮古島市、愛知県等）（2020年5月17日～2021年3月26日）
- ・劣化フィルムのデジタル化に関する調査（東京都、南風原町等）（2020年8月4日～2021年3月31日）
- ・九州博物館協議会「首里城火災と復興の取り組み」（沖縄県立博物館・美術館）（2020年11月5日）
- ・九州博物館協議会「首里城の現状とその周辺」（那覇市、首里城公園）（2020年11月6日）
- ・刀剣プロジェクト～科学技術で日本刀の歴史を紐解くに関する調査（那覇市、琉球大学等）（2020年6月9日～2021年3月31日）

○講演・学会発表等

- ・名称：博物館学芸員講座「記録に残る沖縄Part2 Okimuおきみゅーコレクションから」
期 日：2020年6月13日（土）
- ・名称：琉球大学 刀剣プロジェクト「専門家が思う日本刀の魅力」
期 日：2021年2月7日（日）
依頼機関：琉球大学

○著作論文等

- ・「大田昌秀と90年代の沖縄 自筆原稿資料」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月31日
- ・「沖縄 道の記憶」『運輸と経済』2020年9月号 一般社団法人交通経済研究所 2020年9月
- ・「南風」『琉球新報』琉球新報社 2021年4月8日～6月17日

崎原 恭子（主任学芸員／歴史：琉球・近世）

○調査・研究

- ・令和2年度 博物館企画展（沖縄の藍展）事前調査・調整（大城幸正氏、南風原町文化センター）（2020年6月2日）
- ・令和2年度 博物館企画展（沖縄の藍展）事前調査・調整（加治工紅型）（2020年6月3日）
- ・令和2年度 博物館企画展（沖縄の藍展）事前調査・調整（名護市源河）（2020年6月4日）
- ・令和2年度 博物館企画展（沖縄の藍展）泥藍製造事前勉強会（南風原文化センター）（2020年6月25～27日）
- ・令和2年度 博物館企画展（沖縄の藍展）資料借用作業（京都府、大阪府）（2020年10月7～10日）／（名護博物館）（2020年10月16日）／（沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、南風原文化センター）（2020年10月30日）
- ・令和2年度九州博物館協議会 現地研修会（首里城周辺）（2020年11月6日）
- ・文化庁文化財調査官等による有形文化財（辞令書）に係る現地調査（2020年12月9日）／依頼機関：沖縄県教育庁文化財課
- ・令和2年度博物館企画展（沖縄の藍展）資料返却作業（大阪府）（2021年2月9～12日）
- ・平成の首里城復元（木彫）に係る資料調査及び寄贈調整（2021年3月17～19日）／依頼機関：沖縄県知事公室特命振興課

○講演等

- ・名称：2020年度沖縄空手アカデミー「糸洲安恒と「唐手十カ条」について」
期 日：2020年11月19日（木）
場 所：沖縄県立博物館・美術館
依頼機関：沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課
- ・名称：第4回歴史・文化講座（県立博物館見学）（沖縄の歴史と文化の紹介及び博物館常設展示案内）
期 日：2020年12月18日（金）
場 所：沖縄県立博物館・美術館
依頼機関：沖縄県自治研修所
- ・名称：博物館学芸員講座「琉球王国時代の辞令書ヒストリー～館収蔵の辞令書を中心に～」
期 日：2021年3月6日（土）
場 所：沖縄県立博物館・美術館 講堂
依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

○著作論文等

- ・「映画「琉球の風物」に関する一考察～空手関連を中心として～」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 2021年3月
- ・「琉球国時代石碑」『那覇市の文化財』那覇市 2021年3月
- ・「新指定 重要文化財「中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜」」『博物館ボランティア通信』第154号 2020年9月
- ・「松村宗棍の伝書」（遺訓、遺稿）『博物館ボランティア通信』第156号 2020年11月
- ・歴史部門展示室「刻まれた歴史ー石碑・拓本ー」『博物館ボランティア通信』第160号 2021年3月

與那嶺 一子（主任学芸員／美術工芸）

○調査・研究等

- ・玉那覇有勝氏作品調査（ユンタンザミュージアム）（2020年11月6日）
- ・首里城火災対応に伴う沖縄美ら島財団蔵染織品の調査等（2020年9月11日、10月15日）
- ・首里城火災対応に伴う沖縄美ら島財団蔵染織品クリーニング作業／一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター依頼（2020年12月28～29日）

○講演・学会発表等

- ・名称：沖縄染織の各地を牽引する次世代人材育成プログラム「沖縄の染織」
期 日：2020年9月25日（金）
依 頼：ゆいまー沖縄株式会社
場 所：沖縄産業支援センター
- ・名称：戦後舞台の琉装あれこれ 基調講話「琉服・琉装について」
期 日：2021年1月31日（日）
依 頼：知念範紺琉装文化学院
場 所：沖縄県男女参画センターにいるるホール ※シンポジウムの様子を撮影し、後日インターネットにて配信

○著作論文等

- ・「沖縄と田中俊雄―田中俊雄の足跡と研究」『民藝 第810号』日本民藝協会 2020年6月
- ・「西表島の節祭〔干立〕の衣装―トウチのタナシ」『タナシ修理新調記録集』干立公民館 2021年3月
- ・“CASE STUDY OKINAWA(2) Reconstruction and Challenges of Crafts(dyeing and Weaving)after World War II”“PROJECT REPORT FY 2017-2020 STUDY OF EMERGENCY PROTECTION OF INTANGIBLE CULTURAL HERITAGE IN CONFLICT-AFFECTED COUNTRIES IN ASIA” International Research Centre for Intangible Cultural Heritage in the Asia-Pacific Region Under the Auspices of UNESCO (IRIC:アジア太平洋無形文化遺産研究センター) 2021,03

篠原 あかね (学芸員／美術工芸)

○調査・研究等

- ・琉球王国文化遺産集積・再興事業に係る調査(2020～2021年)：三線監修者会議(7月15日、3月8日)／漆芸監修者会議(6月15日、3月11日)／徳川美術館所蔵べっ甲巻き三線調査(9月10日)／大宜味村登り窯調査(9月20日)／孫億「四季翎毛花卉図巻」撮影(9月23日)／東京音楽大学附属民族音楽研究所所蔵べっ甲巻き三線調査(10月8日)／沖縄美ら島財団所蔵べっ甲巻き三線調査(2021年2月19日)
- ・宮古上布調査(11月21日)
- ・宮良殿内板戸絵調査(11月29日)

○講演・学会など

- ・名称：首里城講座「手わざ―琉球王国の文化―」展について
日時：2021年1月29日(金)
場所：首里城公園首里杜館

○著作論文等

- ・資料解説『那覇市の文化財』那覇市教育委員会 2021年3月
- ・「琉球王国文化遺産・集積再興事業におけるべっ甲巻き三線の調査報告」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月

伊禮 拓郎 (学芸員／美術工芸)

○調査・研究等

- ・琉球王国文化遺産集積・再興事業に係る調査(2020～2021年)：漆芸部門監修者会議(6月15日、3月11日)／木彫監修者会議(7月19日、2月20日、3月25日)／木彫ワーキング 聖観音像造形確認調査(10月10日)、仁王像造形確認調査(12月5～6日、2月21～23日)／聖観音像原資料調査 X線CT画像解析(6月12日)、彩色確認調査(3月17日)
- ・旧東恩納博物館調査(2020年9月24日、2021年3月12日)
- ・大嶺薫コレクション展関係資料調査(2020年11月10～11日、19日)
- ・蒔絵箏調査(個人宅/読谷村)(2020年9月24日)
- ・御供飯調査(個人宅/南風原町)(2020年12月24日)
- ・浦添市美術館資料調査(2021年1月17日)

○講演・学会など

- ・名称：常設展示解説会
日時：2020年7月9日(木)
場所：博物館常設展示室
- ・名称：学芸員講座「貝摺奉行所で作られた漆器」
日時：2020年7月11日(土)
場所：講堂
- ・名称：大嶺薫コレクション展展示案内
日時：2020年12月9日(水)
場所：博物館特別展示室2
- ・名称：出前授業 沖縄県立知念高等学校「美術工芸品の鑑賞基礎知識」
日時：2021年1月6日、7日、12日
依頼機関：沖縄県立知念高等学校

○著作論文等

- ・文化「大嶺薫コレクション展の意義―没後50年に考える」沖縄タイムス 2021年1月19日付
- ・資料解説『那覇市の文化財』那覇市教育委員会 2021年3月
- ・「1955年収蔵の伊東忠太旧蔵資料について」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月

- ・「令和元年度 博物館資料修理報告―組踊関係資料に関する修理報告―」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月

山本正昭（主任学芸員／考古）

○調査・研究等

- ・令和2年度博物館特別展『岩石』に係る資料調査 鹿児島県徳之島町（2020年7月14～16日）
- ・第50回九州博物館協議会学芸員・事務職員研修（首里城公園）（2020年11月6日）
- ・移動展in渡嘉敷島会場下見・調整（2020年9月30日、11月17日）
- ・宮古島市平良地区戦争遺跡詳細確認調査指導（2020年12月24～25日）
- ・国立歴史民俗博物館展示プロジェクト「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」展示監修者会議並びに令和3年度博物館エントランス展示「大津波の痕跡を探る―発掘調査で確認された、いわゆる明和津波の痕跡―」に係る資料借用（2021年3月14～16日）
- ・令和3年度博物館エントランス展示「大津波の痕跡を探る―発掘調査で確認された、いわゆる明和津波の痕跡―」に係る資料借用（宮古島市・2021年3月19日）（石垣市・2021年3月30日～31日）

○講演・学会発表等

- ・名称：令和2年度 博物館エントランスミニ展示「稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿―先島諸島と久米島の遺跡を見る―」ギャラリートーク（リモート開催）
期 日：2020年6月17日（水）
場 所：沖縄県立博物館・美術館エントランス
- ・名称：令和2年度地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業第1回文化講座「近年における戦争遺跡を取り巻く状況について―主に沖縄本島を中心に―」
期 日：2020年7月11日（土）
依頼機関：宮古島市教育委員会
場 所：宮古島市未来創造センター
- ・名称：法政大学沖縄文化研究所主催シンポジウム「グスクとしての首里城―東アジアの視点から―」（リモート開催）
期 日：2020年11月23日（月）
依頼機関：法政大学沖縄文化研究所
場 所：法政大学市谷キャンパス ボアソナーDタワー26F
- ・名称：沖縄県立博物館・美術館 学芸員講座「津波の痕跡を探る―過去の自然災害からその脅威をかいま見る―」
期 日：2021年3月27日（金）
場 所：講堂

○ワークショップ等

- ・名称：博物館秋フェスタ学芸員教室「勾玉づくり」
期 日：2020年10月31日（土）
場 所：博物館実習室
- ・名称：沖縄県立糸満青少年の家主催事業「糸数グスクの歴史を訪ねる―最も異質な大規模グスク―」
期 日：2020年12月7日
依頼機関：沖縄県立糸満青少年の家
場 所：沖縄県立糸満青少年の家研修室・糸数グスク
- ・名称：沖縄県立玉城青少年の家主催事業「歴史散歩―王族ゆかりの地―」
期 日：2021年1月17日（日）
依頼機関：沖縄県立玉城青少年の家
場 所：グスクロード公園～南城市玉城富里
- ・名称：沖縄県立糸満青少年の家主催事業「ファミリーキャンプpartIII ワークショップ『勾玉づくり』」
期 日：2021年3月28日（日）
依頼機関：沖縄県立糸満青少年の家
場 所：沖縄県立糸満青少年の家研修室

○著作論文等

- ・「沖縄県立博物館・美術館所蔵『火矢』をモデルとした火器兵器模型の製作―原寸大模型の製作を通して見えてきた火矢の構造―」（共著、仲程勝哉）『南島考古 創立50周年記念号』第39号 沖縄考古学会 2020年8月
- ・「福建省に分布する倭寇関連の城郭遺跡―14世紀後半から16世紀半ばにかけて―」『令和元年度地域の特色ある埋蔵文化財公開活用事業』No.4 宮古島市教育委員会
- ・「沖縄県立博物館・美術館エントランスミニ展示『稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿』における新たな試

み」『宮古郷土史研究会会報』No.239 同研究会

- ・「石積みと配置から見た与論グスクの特徴」『明らかにする与論城跡 発表資料集』 与論町教育委員会
- ・「首里城正殿についての一考察-グスク時代における象徴的な空間を考える-」『法政大学沖縄文化研究所主催シンポジウム グスクとしての首里城-東アジアの視点から- 報告集』同研究所
- ・「中国大陸沿岸部における倭寇関連の小規模城郭遺跡-福建省北部・霞浦県を事例にして-」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・「今に残る沖縄戦後初の博物館施設-沖縄民政府立東恩納博物館の歴史的意義について-」『法政大学沖縄文化研究所所報』第87号 法政大学沖縄文化研究所
- ・「コラム 最北端の大規模グスク-与論グスク-」『特集展示 海の帝国 琉球-八重山・宮古・奄美からみた中世-』国立歴史民俗博物館
- ・「宮古、八重山諸島に見られる津波石」、「嘉良嶽東方古墓群-近世の墓を襲った津波の痕跡-」、「プロローグ-津波の脅威とその後-」『3月学芸員講座・エントランスミニ時展示資料 大津波の痕跡を探る-発掘調査で確認された、いわゆる明和津波の痕跡-』沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・「書評『シリーズ遺跡を学ぶ 琉球王国の象徴 首里城』」『南島文化』第43号 沖縄国際大学南島文化研究所
- ・「書評 中世学研究会編『琉球の中世』」『宮古研究』第14号 宮古郷土史研究会
- ・新聞記事「『グスクとしての首里城』シンポによせて」『南海日々新聞』11月6日
- ・新聞記事「書評『図説 首里城の創建者 初代「琉球国中山王察度」』」『琉球新報』8月1日
- ・新聞記事「首里城から最古の基壇」『沖縄タイムス』2月17日

○兼任

- ・国立歴史民俗博物館展示プロジェクト「海の帝国琉球-八重山・宮古・奄美からみた中世-」展示監修委員

阿利よし乃（学芸員／民俗）

○調査・研究等

- ・平安座島調査：岩石展関連平安座ハッター調査（6月16日）／五月ウマチー調査（7月5日）／生活用水の確保に関する調査（10月7日）
- ・デジタルミュージアム推進事業調査：国頭村浜、大宜味村田嘉里、名護市、恩納村太田（6月5日）、大宜味村塩屋、読谷村長浜、北谷町桃原（9月25日）、那覇市小禄宇栄原、糸満市与座、南風原町大名、うるま市田場、うるま市石川、読谷村高志保、宜野湾市伊佐（10月2日）宜野湾市神山、西原町兼久（3月9日）
- ・藍展調査：上山和男氏調査（6月19日、6月23日、7月29日）、江上幹幸先生資料調査（8月8日）
- ・その他調査：北中城村島袋の砥石調査（11月10日）、うるま市浜比嘉島の神扇調査（1月17日）、うるま市勝連南風原のムーチー行事調査（1月19日）、糸満旧正月調査（2月13日）

○講演等

- ・名 称：国立歴史民俗博物館共同研究「水をめぐる生活世界-実用と信仰の視点から」第1回研究会「沖縄の生活と水-沖縄本島中部平安座島の事例-」
日 時：2020年7月23日（木）
場 所：オンライン
- ・名 称：国立歴史民俗博物館共同研究「水をめぐる生活世界-実用と信仰の視点から」第2回研究会「沖縄県中部平安座島における生活用水の確保」
日 時：2020年11月1日（日）
場 所：オンライン
- ・名 称：学芸員講座「八重山の年中行事と供え物」
日 時：2020年12月12日（土）
場 所：博物館講座室

○著作論文等

- ・「南風原町新川の宇久田家御拝領墓に関する調査報告」『沖縄県立博物館・美術館博物館紀要』第14号 2021年3月

宇佐美 賢（主任学芸員／地学）

○調査・研究等

- ・平安座島の岩石民俗資料、読谷村の地質調査（2020年6月16日）
- ・沖縄島中南部（石川岳、嘉陽層）調査（2020年7月4日）
- ・学芸員講座（フィールドツアー）の下見：①名護市/嘉津宇岳（2020年10月27日）、②八重瀬町/ぐし

ちゃん浜（2021年1月27日、2月4日）

- ・ 砥石資料調査（北中城村）（2020年11月10日）
- ・ 伊平屋村ジオツアーの下見（2020年11月12～13日）
- ・ 地質・地形調査：本部町（2021年3月2日）、宮古島（2021年3月19日）、阿嘉島（2021年3月25日、3月31日）
- ・ 東恩納博物館資料調査（2021年3月12日）

○講演等

- ・ IPM研修（新任職員対象）
期 日：2020年4月1日（水）
- ・ 名称：宜野湾市立博物館わらばー体験じゅく（沖縄の石と化石の不思議に迫ろう）
期 日：2020年9月26日（土）30名
場 所：宜野湾市立博物館、森川公園
依頼機関：宜野湾市立博物館
- ・ 名称：学芸員教室「石と友達になろう！石割り体験と黒曜石のアクセサリ作り」
期 日：2020年10月31日（土）小・中学生 8名
場 所：博物館実習室
- ・ 名称：まちなかジオツアー（岩石展関連催事）
期 日：2020年11月1日（日）15名
場 所：博物館屋外展示場と博物館周辺
- ・ 名称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー① 沖縄本島北部の自然観察に行こう！」
期 日：2020年11月7日（土）15名
場 所：名護市嘉津宇岳
- ・ 名称：沖縄の地形と岩石を知るワークショップ
期 日：2020年11月15日（日）盲学校生徒11名
場 所：美術館アトリエ
- ・ 名称：伊平屋村ジオツアー 伊平屋村と共催（岩石展関連催事）
期 日：2020年11月21日（土）15名
場 所：伊平屋村（伊平屋島、野甫島）
- ・ 名称：コザ高等学校定時制出前授業「沖縄の地質と地形について」
期 日：2021年1月18日（月）15名
場 所：沖縄県立コザ高等学校
- ・ 名称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー② 沖縄本島南部の自然観察に行こう！」
期 日：2021年2月13日（土）16名
場 所：八重瀬町ぐしちゃん浜～ホロホローの森

○著作論文等

- ・ 「特別展「岩石」ーコロナ禍における開催と自己評価ー」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・ 特別展『「岩石」ー石ころから見える地球のダイナミズムー』展示会図録 沖縄県立博物館・美術館 2020年9月

菊川 章（主任学芸員／生物）

○調査・研究等

- ・ 学芸員講座（フィールドツアー）の下見：①名護市嘉津宇岳（2020年10月27日）、②八重瀬町ぐしちゃん浜（2021年2月4日）
- ・ 令和3年度特別展に係る資料調査：琉球大学風樹館（西原町、12月10日）、沖縄県環境科学センター（浦添市 12月8日）国立科学博物館（茨城県、3月11～12日）、美ら島財団総合研究センター（本部町、7月30日、1月14日）、GODAC（名護市、7月14日）
- ・ 調査研究：ハマダンゴムシ分布調査（宜野座村、7月3日）

○講演等

- ・ 名称：学芸員教室「手羽先で骨格標本をつくろう！」
期 日：2020年11月1日（日）小・中学生 20名
場 所：博物館実習室
- ・ 名称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー① 沖縄本島北部の自然観察に行こう！」
期 日：2020年11月7日（土）15名
場 所：名護市 嘉津宇岳
- ・ 名称：中部農林高等学校定時制出前授業「沖縄の自然について」

- 期 日：2020年12月22日（火）30名
- 場 所：中部農林高等学校
- ・名 称：琉大ジュニアドクター育成塾 特別講義「生物の形について考える」 小中学生 10名
- 期 日：2021年1月17日（土）
- 場 所：博物館実習室および常設展示室
- 依頼機関：琉球大学
- ・名 称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー② 沖縄本島南部の自然観察に行こう！」
- 期 日：2021年2月13日（土）20名
- 場 所：八重瀬町 ぐしちゃん浜

○著作論文等

- ・「沖縄県立博物館・美術館通信 100年の時を越えた植物たち」那覇商工会議所会報誌（NAHA CCI NEWS）8月号（通巻807号）
- ・「体験学習教室 タッチカービング・ワークショップ」沖縄県立博物館・美術館 季刊誌 おきみゅー通信vol.18 冬号
- ・「多良間島における昆虫類調査報告」『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月

山崎 真治（主任学芸員／人類）

○調査・研究等

- ・うるま市勝連城跡東の郭出土人骨調査（2020年4月2～3日、7日）
- ・南城市サキタリ洞遺跡調査（2020年6月4日、7月16日）
- ・武芸洞遺跡現地調査（2020年7月29～30日、9月21日、23日）
- ・サキタリ洞遺跡出土品分析作業：沖縄県工業技術センター（2020年6月9日、8月4日、6日、14日、11月10日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：沖縄市立郷土博物館（2020年6月17日、7月28日、1月19日、2月18日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：那覇市歴史博物館 北谷町教育委員会（2020年7月21日）
- ・次年度貝塚展関連現地調査：うるま市内の貝塚（2020年8月10日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：八重瀬町教育委員会（2020年9月15日、10月21日、12月9日）
- ・うるま市旧東恩納博物館撮影：（2020年8月24日～25日）
- ・次年度貝塚展示関連調整・調査：浦添市歴史にふれる館（2020年9月29日、11月12日、27日、12月24日）
- ・次年度貝塚展関連現地調査：名護市教育委員会 伊江村教育委員会（2020年10月1～2日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：久米島（2020年10月5日～7日）
- ・八重瀬町ガンルマンドウ原洞穴遺跡現地視察（2020年10月16日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：東京大学総合研究博物館（2020年10月28～29日）
- ・次年度貝塚展関連現地調査：北谷町教育委員会（2020年10月30日）
- ・次年度貝塚展関連現地調査：南城市教育委員会（2020年11月11日、26日、12月15日、1月13日）
- ・次年度貝塚展関連現地調査：沖縄県立埋蔵文化財センター（2020年11月3日、1月15日）
- ・読谷村トリステーション内遺跡調査視察（2020年12月8日）
- ・ガンガラーの谷現地調査立ち合い（福岡大学・石原与四郎氏）（2020年12月25～26日）
- ・次年度貝塚展関連資料調査：那覇市文化財資料室（2020年1月19日）
- ・ガンガラーの谷・うるま市藪地洞穴現地調査立ち合い（福岡大学・石原与四郎氏）（2月23～25日、27日）

○講演・学会など

- ・名 称：「沖縄における後期更新世から完新世にかけての打製石器技術に関する検討」
- 日 時：2020年5月
- 場 所：日本考古学協会第86回総会（誌上発表）
- ・名 称：「沖縄における現代の廃棄貝類に関する民族考古学的調査」
- 日 時：2020年7～8月
- 場 所：考古学研究会 第66回総会・研究集会ポスターセッション（オンライン）
- ・名 称：「沖縄の島々をめぐる縄文コネクションと近海ネットワーク」
- 日 時：2020年9月27日（日）
- 場 所：関西縄文文化研究会9月例会（オンライン）
- 依頼機関：開催縄文文化研究会
- ・名 称：発掘講演会「サキタリ洞遺跡の発掘成果と沖縄の海洋文化史」
- 日 時：2021年2月6日（土）
- 場 所：ガンガラーの谷 ケイブカフェ（YouTubeにて配信）

依頼機関：株式会社南都 ガンガラーの谷

- ・ 名 称：博物館学芸員講座「アフリカから沖縄へー700万年の人類史」
- 日 時：YouTubeにて配信

○著作論文等

- ・「洞窟遺跡の調査方法」『季刊考古学』151 2020年4月
- ・「1999年初春元岡遺跡群の思い出」『遺跡学研究の地平ー吉留秀敏氏追悼論文集ー』吉留秀敏氏追悼論文集刊行会 2020年6月
- ・「沖縄における打製石器技術とその特質」『遺跡学研究の地平ー吉留秀敏氏追悼論文集ー』吉留秀敏氏追悼論文集刊行会 2020年6月
- ・「南島先史土器の起源」『九州縄文早期研究ノート』6 九州縄文時代早期研究会 2020年7月
- ・「彰化県新発見の番仔園文化伏臥葬の重要な意義」『南島考古』39 2020年8月（何傳坤2020「彰化県新発見番仔園文化伏臥葬の重要な意義」『国立自然科学博物館館訊』232期 の翻訳）
- ・「わたしたちと祖先のつながり」那覇商工会議所会報誌 No. 806 那覇市商工会広報誌 2020年7月
- ・「琉球列島の人類と石」特別展『岩石ー石ころから見える地球のダイナミズムー』図録 2020年8月
- ・「旧石器人と海」『九州旧石器』24 2020年11月
- ・「沖縄先史時代の赤色顔料関連資料ー伊江村具志原貝塚・宮古島市浦底遺跡からの報告」（共著：玉榮飛道・久貝弥嗣）『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・「サキタリ洞遺跡の発掘」『考古学ジャーナル』2021年
- ・The Migration, Culture, and Lifestyle of the Paleolithic Ryukyu Islanders. Rintaro Ono, Alfred Pawlik eds. Pleistocene Archaeology - Migration, Technology, and Adaptation. IntechOpen. <https://doi.org/10.5772/intechopen.92391>（共著：藤田祐樹・澤浦亮平）

○競争的研究資金の獲得状況

- ・「更新世ー完新世の環境激変期における人類適応史の解明」『（公財）住友財団2019年度環境研究助成』（2019年11月～2021年11月）

澤浦 亮平（学芸員／人類）

○調査・研究等

- ・発掘調査：勝連城東の曲輪 埋葬人骨（2020年4月2～3、14日）
- ・発掘調査：勝連城東の曲輪地区（2021年2月26日、3月2日）
- ・共同研究事業：サキタリ洞遺跡共同研究事業WEB会議（4月21日）
- ・共同研究事業：サキタリ洞出土遺物検討会（7月14～17日、12月16～18日、2021年3月9～12日）
- ・共同研究事業：科学研究費補助金関係WEB会議（3月3日）
- ・資料調査：沖縄県工業技術センターX線CT撮影（4月7日、6月9、11日、7月10日、8月4、6、14、20、28日、10月7、28日、11月10、25日、2021年2月10日）
- ・資料調査：勝連城出土人骨資料調査（与那城歴史民俗資料館）（7月7、22日、8月27日、11月4日）
- ・資料調査：旧東恩納博物館 ドローンによる測量調査（うるま市）（9月24～25日）
- ・資料調査：久米島町 下地原洞穴遺跡踏査（10月6日、2021年3月17～19日）
- ・資料調査：群馬県立自然史博物館 資料調査（3月24日）
- ・資料調査：飯田市美術博物館 資料調査（3月25日）
- ・尻労安部洞窟調査団WEB会議（4月8日、11月7日）
- ・伊江村教育委員会 村内遺跡出土人骨の借用（10月2日）
- ・九州博物館協議会（11月5～6日）
- ・南城市HP製作用取材対応（11月30日、12月1日）
- ・ガンガラーの谷スタッフ研修会対応（2021年1月21日、2月9日）
- ・ガンガラーの谷HP製作用取材対応（3月16日、30日）

○展示活動

- ・ 名 称：常設展部門展示室（地学）ミニ企画「絶滅シカ類の怪我」
- 期 日：2020年9月8日（火）～11月15日（日）
- 場 所：沖縄県立博物館・美術館 博物館1F 博物館常設展示室
- ・ 名 称：博物館ロビー展「暮らしと分かちがたく結びつくウシ」
- 期 日：2020年12月22日（火）～2021年1月24日（日）
- 場 所：沖縄県立博物館・美術館 博物館1F エントランスホール

○講演・学会発表等

- ・ 名 称：沖縄考古学会例会「伊江島具志原貝塚から出土した埋葬人骨について」
- 期 日：2020年9月18日（金）

- 場 所：Zoomによるオンライン開催
- ・名 称：学芸員講座「歯のはなし」
- 期 日：2020年10月10日（土）
- 場 所：当館講座室
- ・名 称：日本人類学会第74回大会「沖縄県宮古島市ツヅビスキアブにおけるイノシシとシカの時間的関係」（藤田祐樹他との共著による発表）
- 期 日：2020年11月1日（日）
- 場 所：Zoomによるオンライン開催
- ・名 称：向陽高等学校 地歴・公民科巡検事前学習会「港川人はどのような人だったのか？」
- 期 日：2020年11月13日（金）
- 場 所：向陽高等学校

○著作論文等

- ・「伊江村具志原貝塚から出土した埋葬人骨について（補遺）」（共著：土肥直美・玉榮飛道）『沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要』第14号 沖縄県立博物館・美術館 2021年3月
- ・Migration, culture, and lifestyle of the Paleolithic Ryukyu Islanders. In Rintaro ONO, Shuji KADOWAKI, Alfred PAWLIK (eds) Pleistocene Archaeology - Migration, Technology, and Adaptation. DOI: 10.5772/intechopen.92391 (online published: May 15th 2020) (Masaki Fujita, Shinji Yamasakiとの共著)

○競争的研究資金の獲得状況

- ・「後期更新世大型シカ類の動物考古学的研究」『日本学術振興会 科学研究費助成事業 若手研究 平成30年度～令和3年度』（研究代表者）
- ・「東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明」『日本学術振興会 科学研究費助成事業 国際共同研究加速基金 令和2年度～令和6年度』（研究分担者）

○兼任

- ・国立科学博物館 人類研究部 協力研究員
- ・東北大学大学院歯学研究科 口腔器官解剖学分野 大学院非常勤講師

7 職員研修

（1）沖縄県博物館協会

総会及び春の研修会は5月に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症予防のため、総会は書面決議とし、研修会は中止。秋の研修会においても、感染予防のため11月に予定していた研修会を中止した。

（2）九州博物館協議会

① 秋の研修会・現地研修

日 時：2020年11月5日（木）～11月6日（金）
場 所：沖縄県立博物館・美術館／首里城公園
参 加 者：博物館班全員

（3）博物館学芸員ゼミ（仮称） 以下「回、期日、担当者、題」の順に記す（原則毎週月曜日に実施）

回	累計回	月 日	担当者	備 考
第1回	300	04/13	篠原 あかね	ICOM京都大会2019の参加レポート
第2回	301	05/25	伊禮 拓郎	館蔵 朱漆巴紋沈金大御供飯の現状と研究史上の意義
第3回	302	06/01	外間 一先	映像・写真記録の沖縄 ～OkiMu（博物館）コレクションから～
第4回	303	06/08	崎原 恭子	歴史分野の新収蔵品展展示資料について（琉球王国時代担当分）
第5回	304	06/15	山本 正昭	倭寇対策の城－後期倭寇から考える－
第6回	305	06/29	阿利 よし乃	厨子甕調査事業について
第7回	306	07/06	大城 久表	小中学校に係る新学習指導要領について
第8回	307	07/20	大湾 ゆかり	令和2年度博物館企画展「沖縄の藍－自然と人の織りなす製藍の技－」について
第9回	308	07/27	勝連 涼子	沖縄大へり墜落事故について
第10回	309	08/03	山崎 真治	現代沖縄の海浜部に見られる廃棄貝類の調査
第11回	310	08/24	田名 真之	琉球の御茶の話
第12回	311	09/14	宇佐美 賢	岩石展の展示解説

回	累計回	月 日	担当者	備 考
第13回	312	10/12	菊川 章	坂口總一郎植物標本コレクションについて
第14回	313	10/19	澤浦 亮平	復顔ーその魅力と方法ー
第15回	314	11/02	與那嶺 一子	なぜ西表島にでかけているのか？ー西表島干立節祭の衣裳新調ー①
		11/09	與那嶺 一子	なぜ西表島にでかけているのか？ー西表島干立節祭の衣裳新調ー②
第16回	315	11/16	篠原 あかね	鼈甲巻き三線について
第17回	316	12/07	伊禮 拓郎	貝摺奉行所製と推定される館蔵漆器～螺鈿・沈金編～
第18回	317	12/21	外間 一先	大田昌秀と90年代沖縄
第19回	318	01/12	大城 久表	教育普及催事について
第20回	319	01/18	大湾 ゆかり	「沖縄の藍」展の展示解説
第21回	319	02/01	崎原 恭子	短編映画「琉球の風物」について①
		02/08	崎原 恭子	短編映画「琉球の風物」について②
第22回	320	02/15	山本 正昭	遺跡から見えてきた自然災害の痕跡ー先島諸島地域を中心にしてー
第23回	321	03/15	阿利 よし乃	祖先を祀るということー那覇・読谷の士族門中と糸満の百姓門中の事例からー

Ⅱ 展示活動

1 展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展1本、企画展数本、大嶺薫コレクション展及び、新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」と改称して2008年度（平成20）からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して行われた日本本土や中国をはじめとするアジア諸国との交流により独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きるー豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2020年度（令和2）は特別展1本と企画展を3本、ロビー展、部門展示の展示替えを行った。具体的には特別展「岩石ー石ころから見える地球のダイナミズムー」、企画展「沖縄の藍ー自然と人が織りなす製藍の技ー」、企画展「大嶺薫没後50年記念コレクション展」等を開催した。

2 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によって互いに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つ一つが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形成している。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中・戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きるー豊かさ、美しさ、平和を求めてー」とした。

常設展のうち、総合展示は、開館以来展示替えを実施してこなかったが、開館10周年を節目に、2017年（平成29）2月に展示の魅力アップを図るため、旧首里城正殿鐘を単品で紹介する展示をはじめ、当館が所蔵する県指定文化財等の梵鐘7口を新たに加え、展示の充実強化を図る初めての展示リニューアルを行った。また、屋外（駐車場側）に鐘楼を設けて、現存する最古の鐘のひとつである大聖禅寺鐘（実物）を吊り、対外的に博物館の魅力発信につなげた。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がる珊瑚礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化について情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫」沖縄から発見された様々な化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海に暮らした生き物をはじめ、日本人のルーツとされる2万2千年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石がステージ上に展開している。また、正面のスクリーンでは、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

○貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代、それぞれの地域に有力者が登場すると、防御などを目的とした様々なグスクが築かれるようになる。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富を築いた。各地の勢力は、やがて北山・中山・南山の3つに収斂し、激しい抗争を繰り返した。しかし、15世紀はじめ頃に、これらの3つの勢力は尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史が始まる。

○王国の繁栄（古琉球）

尚巴志によって統一された琉球王国は国家として成立したが、国内の権力基盤は不安定な状態であった。そのため、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起きた。一方で、中国との冊封・進貢貿易によって富を蓄えた琉球王国は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を盛んに行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。この時代、琉球は東アジア有数の貿易国家として繁栄し、より強固な国家体制をつくりあげていった。展示リニューアルでは、常設展示に、旧首里城正殿鐘の単体の紹介を中心に、仏教文化と梵鐘や碑文に刻まれた王都の整備、円覚寺の創建、屋外には旧大聖禅寺鐘の展示を行った。

○薩摩の琉球支配と王国（近世琉球期）

1609年薩摩島津氏による琉球侵攻後、琉球王国は江戸幕府の影響下に置かれるようになる。しかし、中国との冊封・進貢関係は維持され、他方で江戸への謝恩・慶賀使の派遣が義務づけられた。

近世琉球期は、王国の危機を向かえて、羽地朝秀、蔡温などの強力な政治家による王国の経営が行われ、琉球独自の文化が花開く時代でもある。江戸文化の影響をうけ、組踊などの芸能が確立し、『中山世鑑』『球陽』等の歴史書が編纂され、首里王府内に多くの役職が確立した。さらに貝摺奉行所を中心に琉球漆器・紅型などの様々な工芸品が数多く製作された。

○王国の衰亡

19世紀頃には、欧米諸国の船舶がアジア進出を目指して琉球近海に頻繁に来航し、首里王府にも開国をせまってきた。一方で、中国・日本との関係を保ちながら体制を維持してきた琉球王国だが、農村の疲弊や災害などが原因で、王府の財政難は顕著となっていた。

○沖縄の近代

江戸幕府が崩壊し、明治政府が発足すると日本と琉球との関係性も変化した。1879年（明治12）に明治政府は琉球藩を廃し、沖縄県を設置した（琉球処分）。琉球王国は消滅し、近代日本国家の一部としての沖縄県が誕生した。

政府は旧慣温存政策を実施したが、その結果、沖縄県の土地所有権の確立や国政参加は大きく遅れ、教育制度の確立も大正期になってようやく整った。しかし、日本は次第に領土拡大と戦争へと突入していき、沖縄も戦争体制に組み込まれていった。1945年（昭和20）、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が展開され、24万人余りの尊い命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

○戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移譲され、27年間のアメリカ統治下に置かれた。アメリカは東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化を進めた。軍事優先の政策は、住民の生活を侵害し、米軍関係の事件・事故が多発したため、日本への復帰を望む運動が高まっていった。その結果、1972年（昭和47）に沖縄の施政権は日本に返還されたが、多くの基地が残されるなど未解決の問題が山積したままである。

○沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄では大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機にリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化した。2000年（平成12）には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、沖縄文化の優位性が広く認知されてきている。今日では観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピローグの「沖縄の現代生活」は、開館時に募集した写真作品で構成され、まさに「現代生活」のドキュメント資料である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の5つの部門展示室を設け、沖縄の自然・文

化・歴史・民俗の特徴をより深く理解していただくために、それぞれのテーマをより特化した形での展示している。部門展示で扱うテーマは可変性を持ち、頻繁に展示替えを行っている。

○自然史部門展示 「生物が語る沖縄2億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示 「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○美術工芸部門展示 「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすい形で、1年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○歴史部門展示 「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを経験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとく、歴史の醍醐味や楽しさを紹介する。

○民俗部門展示 「沖縄の伝統と暮らし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

3 常設展 部門展示替え／ミニ企画／エントランスホール展示

【美術工芸部門】

沖縄は、潤潤亜熱帯の気候風土にあり、中国、朝鮮、日本、東南アジアの中継地点に位置している。かつては琉球王国として独自の文化を育んでいた。美術工芸部門展示室では、展示資料を通して琉球の美を紹介している。当館が収蔵する美術工芸品をテーマに合わせて選定し、下記のテーマで展示替えを行った。

(1) 「よみがえれ首里城 ―王国の輝き―」

展示期間：2020年（令和2）4月14日（火）～9月6日（日）

趣 旨：首里城を起点に育まれた琉球の美を見つめなおし、同時に、昨年焼失した首里城復興への願いを込め、当館の誇る美術工芸品の逸品を紹介した。

展示資料：33件39点

四季翎毛花卉図巻（模造復元品）／首里城の図／国王位牌下図／首里城関係の琉球切手原画／「壽」尚温王筆／「四時歌」尚育王筆／「游南苑」林鴻年筆／玉御冠（模造復元品）／龍瑞雲青海立波文唐織衣裳／祝儀用着／芭蕉布緋衣裳／久米島紬綿入／縹珍帯／絹紺地紅型風呂敷／白地花籠牡丹燕模様衣裳／絹浅地龍文様唐フイーター／祝儀用着／芭蕉布緋衣裳／灰色紬衣裳／冠裂／浅地鶴に松梅模様衣裳／赤絵巴紋碗／緑釉嘉瓶／褐釉流掛稜花形カラカラ／黒漆雲龍螺鈿椀／朱漆瑞雲沈金面取盆／黒漆水禽螺鈿料紙箱／『御書院并南風御殿御床飾』／「雲裡帝城雙鳳闕／雨中春樹萬人家」鄭其昌筆／朱漆山水樓閣人物堆錦中央卓／錫製瓶子／青磁香炉／白釉細首瓶



(2) 「自然が織りなす琉球の美―岩石展・琉球藍展関連展示―」

展示期間：2020年（令和2）9月15日（火）～2021年（令和3）1月31日（日）

主 旨：博物館で開催した岩石展と沖縄の藍展に関連する作品を展示した。岩石展関係では、石の彫刻や岩を描いた作品を紹介、藍展関係では藍色が美しい染織品や陶器を展示した。

展示資料：26件30点

朱漆山水樓閣人物箔絵方形東道盆／潤塗葡萄栗鼠箔絵螺鈿硯箱／黒漆薔薇堆錦軸盆／「竹田街道地藏堂風景」鄭元偉筆／「秋」翁宏烈筆／「相思」趙文楷筆／「老人峯」李鼎元筆／「花鳥図」殷元良／「梅花」鄭嘉訓書画／「雪景山水図」吳著仁／「美人



折花図／世持橋勾欄羽目（貝文）／世持橋勾欄羽目（魚文）／玉陵勾欄獅子①／玉陵勾欄獅子②／石彫獅子像①／石彫獅子像②／「海表恭藩」の印／鉄絵灰釉碗／線描二彩松竹梅文瓶／二彩からから／紺地首里風景模様紅型壁掛／絹紺地総緋上衣／絹白地流水に鳥松菊模様衣裳／木綿黄色地斜格子に菊梅牡丹模様衣裳／木綿深淺地経緯緋衣装／白地木綿緋衣装／芭蕉淺地格子に緋衣裳

（３）「修理と復元でよみがえる！ 一琉球の美を未来へ伝えるために」

展示期間：2021年（令和3）2月9日（火）～5月30日（日）

趣 旨：本展では、資料を守り継いでいくための「修理」と、技術を伝えていく「復元」に焦点をあて、沖縄県が行っている修理・復元事業について紹介した。

展示資料：31件50点

宜湾朝保・八田知紀・高崎正風「和歌五首」／西園寺公望書「陶庵贈鷺泉宛漢詩」／中山樂童子翁維恒書「五言對句」／孫億筆「松鶴図」／毛長禧筆「花鳥図」／「樂童子白馬騎乗之図」／「古琉球風俗田舎娘之図」／黒漆朱巴紋漆絵小櫃（伊是名村指定有形文化財・伊是名村教育委員会からの寄託品）／黒漆虫竹螺鈿漆絵盆（那覇市歴史博物館からの寄託品）／木彫円覚寺白象（県指定有形文化財）／木彫円覚寺白象趣意書木札（県指定有形文化財）／志多伯開鐘（県指定有形文化財）／志多伯開鐘（模造復元品）／緑釉抱瓶／赤絵雲龍文急須／線彫雲龍文呉須手焙／焼締徳利／緑釉四方燭台（模造復元・試作品）／緑釉四方燭台（模造復元・完成品）／木綿白地貝飛鳥模様衣裳（城間榮喜作古作品の模造）／絹浅葱地花倉織衣裳（宮平初子作 日本民藝館所蔵品の模造復元）／木綿白地飛鳥に流水蛇籠葵菖蒲模様衣裳（藤村玲子作 模造復元）／紅型の型紙（表用・裏用）／御絵図／ムルドウッチリ裕衣裳（御絵図を参考にした模様復元）／聞得大君雲龍黄金簪（県指定有形文化財）／聞得大君雲龍黄金簪（レプリカ）／聞得大君雲龍黄金簪（模造復元品）／修理前の旧表具・表装裂



（篠原 あかね・伊禮 拓郎）

【歴史部門展示室】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解く展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。また、様々なテーマに沿って年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

歴史部門では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示を通年で展示しつつ、令和2年度は琉球王国の正史である『中山世鑑』『蔡鐸本中山世譜』『蔡温本中山世譜』がまとめて国の重要文化財（書跡・典籍）に指定されたことを記念した展示や、琉球王国時代から近代にかけて活躍した空手の大家の一人・松村宗棍の伝書を展示した。

また「琉球王国のグスク及び関連遺産群」世界遺産登録20周年記念事業の一環として「世界遺産出土品巡回展～未来に継ぐ琉球の宝～」を開催。那覇市や今帰仁村など3市4村と県立埋蔵文化財センターなどと連携・協力し、世界遺産として登録された遺産群の紹介を中心にそれら遺跡より出土した遺物等を展示した。

さらに令和元年7月23日付で重要文化財（古文書）に指定された琉球王国時代石碑25基関連資料を中心に石碑の実物資料と刻まれた文字や文様を写し取った拓本を展示した。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

（１）「那覇港～往来する人とモノ～」

展示期間：通年展示

趣 旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に引き上げ、3つのテーマに分けて紹介する。「1 王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「2 往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「3 那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々の姿を示す。

展示資料：首里那覇港図屏風、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島并三十六島之図）、他

（２）重要文化財指定記念「中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜」

展示期間：2020年（令和2）9月15日（火）～11月8日（日）

趣 旨：2020年（令和2）3月19日に開催された国の文化審議会は、当館所蔵であり沖縄県指定有形文化

財でもある『中山世鑑』6冊及び『蔡鐸本中山世譜』7冊、『蔡温本中山世譜』12冊を国の重要文化財（書跡・典籍の部）に指定するよう答申した。今秋頃に予定されている官報告示を受けて正式に指定される見込みであるため、県民の皆様へお披露目した。

展示資料：『中山世鑑』6冊、『蔡鐸本中山世譜』7冊、『蔡温本中山世譜』12冊

関連催事：重要文化財指定記念講座「琉球の正史～中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜～」

講師：田名真之（当館館長）

日時：2020年（令和2年）10月18日（日）9:30～11:30

場所：講堂

参加者：115名

備考：2020年（令和2年）9月30日付の官報掲載により、『中山世鑑』等は正式に国の重要文化財に指定された。



（3）「松村宗棍の伝書（遺訓、遺稿）」

展示期間：2020年（令和2）11月17日（火）～2021年（令和3）1月11日（月・祝）

主旨：沖縄を発祥の地とする空手は、厳しい鍛錬を通して強靱な身体と不屈の精神を培うとともに、心を磨き礼節を重んじる「平和の武」として受け継がれ、現在では世界中に、1億3千万人も空手愛好家がいるといわれるほど普及している。本展では、琉球王国時代から近代にかけて活躍した大家の一人である松村宗棍が、高弟・桑江良正に与えた空手の心構えともいえる伝書（遺訓、遺稿）を紹介した。

展示資料：松村宗棍の伝書（寄託資料）、松村宗棍ゆかりの地の写真（識名園の番屋、崎山公園の空手古武術首里手発祥の地碑）



（4）「登録20周年記念 世界遺産出土品巡回展～未来に継ぐ琉球の宝」

展示期間：2021年（令和3）1月19日（火）～2月23日（火）

趣旨：沖縄県の「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が2000年（平成12）に日本で11番目の世界遺産に登録されて20年を迎える節目の年に、県教育庁文化財課と連携した巡回展を開催した。グスク等の遺産群は戦後、地域の人々や市村・県・国など関係者の努力により整備が進められ、現在では往時の姿を取り戻しつつある。この関連遺産群が沖縄文化の発信に繋がったことは言うまでもなく、児童生徒の歴史学習や県民の生涯学習に活用されるだけでなく、来訪者が増加し続ける沖縄観光の一翼を担っているといえる。一方、保全と活用に関わる新たな課題等もあり、登録時と比較すると、来訪者については国際化が進み、資産周辺の開発による景観保全の問題はより顕在化している。そこで、県・国・関係市村等では、20年の節目を契機として、関連する事業を実施する計画を進めてきた。20周年記念事業の一つである世界遺産展（出土品展覧会・巡回展）は、世界遺産として登録された遺産群の紹介を中心に、それらの遺跡より出土した遺物等の展示で構成した。本展により「世界の宝」を存分にご覧いただき、世界遺産登録の価値を再認識しながら遺産群の現状と課題に触れ、これからの時代にふさわしい文化財の保全と活用に対する理解を深める機会を創出することとなった。

展示資料：今帰仁城跡出土品23件、座喜味城跡出土品9件、中城城跡出土品20件、斎場御嶽出土品2件、玉陵出土品9件、勝連城跡出土品7件、首里城跡出土品17件、世界遺産登録時の報道新聞（県内紙）、他

関連展示：令和2年度文化財愛護事業「私たちの文化財」（世界文化遺産の図画作品展示）（当館エントランスホール）



（4）「刻まれた歴史—石碑・拓本—」

展示期間：2021年（令和3）3月4日（金）～6月27日（日）

趣 旨：現在、私たちが何かを「記録」するときに、ほとんどは紙やデータに記している。その他に個人の偉業や社会的な記念事項を記録して後世に残す方法として、金属や石に文字を刻み、その出来事を讃えることもある。金属や石、木などに刻まれた文字を金石文といい、遠い昔から「記録」する手段として使われてきた。琉球王国時代の沖縄では、記念碑、墓碑、国王の業績を讃える碑、伝来や由来記、名所碑など、石を素材とした多くの記念碑が造られた。それらの石碑に刻まれた文字からは、王国時代の歴史や人々の考え方、書の文化など様々なことを知ることができる。しかし沖縄戦によって、破壊・亡失してしまった石碑も数多くある。本展では、2019年（令和元）7月23日付で重要文化財（古文書）に指定された琉球王国時代石碑



25基の関連資料を中心に、石碑の実物資料と刻まれた文字や文様を写し取った拓本を展示した。

展示資料：重要文化財「国王頌徳碑」※破片の一部、重要文化財「新濬那覇江碑文」、重要文化財「ようとのひのもの・極楽山之碑文」、重要文化財「琉球国創建天尊廟天后宮竜王殿関帝祠総記」、重要文化財「板良敷村墓碑」、拓本（安国山樹華木之記、円覚禅寺記、真珠湊碑文、崇元寺下馬碑、ようとのひのもの・極楽山碑文、壺川松尾墓碑、琉球新建儒学碑記、龍潭浚渫碑、重修天女橋碑記、梵字碑、首里新建聖廟碑文、源遠流長、霊脈流芬 等）、首里那覇港図屏風（複製）※屏風に描かれた石碑の紹介

（外間 一先・崎原 恭子）

【民俗部門展示室】

民俗分野の「沖縄のすまい」コーナーでは、毎年季節の行事にあわせて仏壇前にお供え物等を展示している。令和2年度も以下のように行った。

趣 旨：沖縄では旧暦の1日・15日をはじめとして、季節の行事ごとに仏壇などに様々な供え物を飾って祖先を祀り、家族の健康などを願う習わしがある。民俗常設展示室の民家模型にある仏壇にも行事にあわせてお供え物や説明パネルを展示した。

展示期間：旧正月、清明祭、5月4日（ユッカヌヒー）と5月5日（グングウチグニチ）、旧盆、十五夜、冬至、ムーチャー等



旧正月のお供え物とパネルによる写真紹介



正月の膳にはクーブイリチーや豚肉、赤飯などが並ぶ



うるま市勝連南風原村落のムーチャーの様子をパネルで紹介した

（阿利 よし乃）

【常設展示室入口ミニ企画／エントランスホール展】

（1） 稲村賢敷生誕125年記念博物館エントランスミニ展示「稲村賢敷が追いかけた倭寇の姿 一先島諸島と久米島の遺跡を見る」

展示期間：2020年（令和2）6月9日（火）～6月28日（日）

展示場所：パネル展／エントランスホールおよびパネル掲載情報の当館HP上での公開

開催趣旨：宮古島の郷土史研究者である稲村賢敷生誕125年を記念して、宮古島市教育委員会が宮古島市総合

博物館にて企画展を実施するにあわせて、当館においても関連企画展を行った。本展を通して琉球が東アジア海域においてどのような交流を行っていたのか、倭寇をキーワードにして理解を深めていくことを展示の目的とした。

実施内容：宮古島諸島ならびに八重山諸島における14世紀後半から15世紀の遺跡の中でも、稲村賢敷に所縁の深い遺跡の出土遺物並びに当館所蔵の考古資料を展示しながら紹介していった。倭寇の足跡を追いかけた稲村賢敷が訪ね歩いた先島諸島と久米島の遺跡を見ていくことで、稲村が主導した倭寇研究がどのように展開していったのか、そしてその研究が現在、どのような形で継承されているのかにまで踏み込んで展示を行った。また、当館情報センターと連携して稲村賢敷の著書並びに関連書籍の紹介コーナーを設置した。

後援機関：宮古島市教育委員会、琉球・沖縄歴史学会

関連催事：ギャラリートーク（リモート開催）2020年6月17日（水）講師：山本正昭（当館主任学芸員）



エントランスホール・展示の様子



情報センター内での稲村賢敷コーナー

（山本 正昭）

（2）化石展 ―アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界―

展示期間：2020年7月21日（火）～10月25日（日）

場 所：エントランスホール（常設展示室入口前）

展示協力：土橋浩一、ネオパークオキナワ

展示内容：特別展「岩石」のプレイベントとして、アンモナイト化石収集家の土橋氏のコレクションと展示パネルの一部を再構成し、沖縄県立博物館・美術館の化石収蔵資料とともに展示します。展示パネルからは土橋氏のアンモナイトや地球環境、人類への熱い思いと、子ども達へそれらのおもしろさと大切さを伝えたいという気持ちの一部を垣間見ることができます。今なお少年のような瞳と心でアンモナイトを追いかける土橋氏の大きな世界をご覧いただくことによって、コロナ禍の観覧者の皆様が少しでも元気に過ごす気持ちになっていただくことを目的として開催します。



エントランスホール・展示の様子



土橋さんの展示解説は、当館HPIにて動画配信された

（宇佐美 賢）

（3）おきみゅーが所蔵している首里城の考古資料Ⅰ・Ⅱ

展示期間：①Ⅰ期 2020年（令和2）11月5日（木）～12月20日（日）

②Ⅱ期 2021年（令和3）2月9日（火）～3月22日（月）

展示場所：エントランスホール（博物館常設展示入口）

内 容：①Ⅰ期 沖縄県立博物館・美術館が所蔵している首里城から表採された高麗系瓦、大和系瓦、明

朝系瓦計6点を展示。

- ②Ⅱ期 沖縄県立博物館・美術館が所蔵している首里城から表採された青磁、白磁、青花、褐釉陶器計18点を展示。



Ⅰ期は瓦類を展示



Ⅱ期は陶器類を展示

(山本 正昭)

(4) サンゴ礁ウィーク関連催事「八重山の干潟と藻場の貝類展」

展示期間：2021年（令和3）2月23日（火）～3月28日（日）

展示場所：エントランスホール

展示内容：「サンゴ礁ウィーク」（毎年3月5日を含む2週間程度）にちなみ、サンゴ礁の生きものとして八重山の貝類を紹介するミニ展示を実施した。今年度は、例年実施しているワークショップ等のイベントは実施せず、本ミニ展示のみの開催となった。



(菊川 章)

(5) おきみゅーの経歴を知る展示 沖縄陳列館と東恩納博物館

展示期間：2021年（令和3）3月24日（火）～5月9日（日）

展示場所：エントランスホール（博物館常設展示入口）

内 容：沖縄県立博物館・美術館の原点とも言える沖縄陳列館と東恩納博物館についての紹介と旧東恩納博物館建物に葺かれていた丸瓦と平瓦を各1点、展示。



旧東恩納博物館に葺かれていた丸瓦と平瓦

(山本 正昭)

4 特別展「「岩石」一石ころから見える地球のダイナミズムー」

会 期：2020年（令和2）9月8日（火）～11月15日（日）

開館時間：9:00～18:00（金、土は20:00）

会 場：企画展示室・特別展示室1・2

観 覧 料：一般1,100円（880円）、大学生800円（640円）、高校生500円（400円）、中学生以下 無料

※（ ）は前売及び20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方、及び介助者の方は当日料金の半額

観覧者数：7,602名（60日間）

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

助 成：全国科学博物館振興財団

協 力：伊平屋村教育委員会、座間味村、宜野湾市教育委員会、浦添市教育委員会、うるま市教育委員会、北谷町教育委員会、恩納村教育委員会、今帰仁村教育委員会、国立科学博物館、産業技術総合研究所地質調査総合センター、群馬県立自然史博物館、神奈川県立生命の星・地球博物館、益富地学会館、たばこと塩の博物館、奇石博物館、琉球大学、沖縄県立埋蔵文化財センター、JAMSTEC (GODAC 国際海洋環境情報センター)、沖縄石の文化博物館、沖縄地学会、おきなわ石の会、(株)武村石材建設、琉幸建設(株)、(株)山城砕石鉱業、(株)与儀組、米盛建材(有)、(資)沖縄関ヶ原石材、浜元宝石店、天久加工所、(株)シミズ貴石、SEABIRDZ-STUDIO、スタジオde-jin、(株)さらい、(株)南都、国立沖縄青少年交流の家、MicroRange

後 援：沖縄県教育委員会、沖縄県高等学校地学教育研究会、琉球新報、沖縄タイムス社、沖縄テレビ放送(株)、琉球放送(株)、(株)ラジオ沖縄、NHK沖縄放送局、琉球朝日放送株式会社、FMレキオ、新都心通り会

【開催趣旨】

「岩石」は、地球や生命の活動によって作り出され、大地を構成し、地球上の生態系の基盤である。私たちの身の回りには、島々を構成する岩石から、道端に転がっている石ころ、煌びやかに輝く宝石まで、様々な「岩石」とそれを構成する「鉱物」が存在する。それら一つ一つには成り立ちと関連した特徴があり、その裏には地球の活動の大きなドラマが隠れている。そして、我々人類は、地球が作り出した「岩石」や「鉱物」がもつそれぞれの特徴をとらえて様々な形で利用してきた。本展覧会では、沖縄の島々を形作る「岩石」「鉱物」にスポットを当て、それらの裏に隠れた島々の成り立ちやそれを作り出した地球の活動との関係等を明らかにし、島々の新たな魅力を紹介する。さらに古の時代から現代に至るまでの、我々人類や沖縄と石との関わりや、未来に向けて大地から発せられる声についても発信する。本展覧会を機会に、より多くの皆様に「岩石」「鉱物」に触れ、興味関心を深めていただくとともに、様々な「岩石」「鉱物」の標本と、人類が「岩石」「鉱物」から作り出したものを通して、沖縄の自然環境や島々の成り立ち、歴史と文化、人と自然との関わりを理解する機会をつくる。

【展示構成】

第1章 プロローグ：水と岩石と生命の星 地球

固体地球の構成とその成り立ち、生命の起源とその名残を残す岩石（化石）、大気の変化を示す岩石、岩石を生み出す地球の活動について紹介する。

- ・主な展示品：地球モデル（ダジックアース：世界の地質図、プレートと火山分布）、岩石展案内プロジェクトマッピング、地球創生期を語る石たち（隕石、世界最古の岩石：アカスタ片麻岩、イスア片麻岩）、地球の活動と岩石（プレートテクトニクスとプルームテクトニクス、火山活動、地球を構成する岩石（橄欖岩、玄武岩、花崗岩）、地球表面の岩石、沈み込み帯の岩石、岩石のできる場所（概念図、火成作用、堆積作用、変成作用、岩石の分類）、最古の生命の痕跡を残す岩石、大気組成の変化を語る岩石（ストロマトライト（化石と現生）、縞状鉄鉱層、赤色砂岩）、日本最古の岩石（花崗片麻岩）、火山映像

第2章 岩石鉱物の世界へのいざない

岩石鉱物の魅力ある世界を、特徴的な岩石鉱物標本、美しい顕微鏡写真、ハンズオン標本、生活の中に隠れている岩石鉱物等とともに展示し、合わせて岩石鉱物の定義とその成因、岩石鉱物の見かたや調査・研究方法をやさしく紹介する。

- ・主な展示品：人と岩石鉱物の関わり（石器、金属器、芸術と石（顔料）、陶磁器、大理石・御影石石材）、現代社会を支える隠れた岩石鉱物たち（鉱石、スマートフォンの中の鉱物たち、食、美、健康、心を支える岩石鉱物）、美しく楽しい岩石鉱物の世界（光り輝く石たち（蛍光鉱物）、美しく輝く宝石と宝石原石の世界）、ミクロの世界で知る岩石鉱物（岩石とは？ 鉱物とは？、でき方でこんなに違う岩石たち、のぞいてみようミクロの世界）

第3章 沖縄の岩石と化石ー島々の成り立ちー

琉球列島で産出する主な岩石鉱物・化石を展示し、それらの研究によって明らかとなった島の成り立ちと、島で生きる生物と自然の特徴について紹介する。

- ・主な展示品：地学の目で見た琉球列島（琉球列島の知られざる魅力）、海底地形鳥瞰図とプレート断面模型、島々の景観と岩石（ドローン映像）、日本の地質と琉球列島（地質図navi）、島々の岩石たち（地質図）、琉球列島の地質地史映像、県内各地の地質年表、沖縄の岩石と化石（しゃべる

石5種・沖縄の岩石プロジェクションマッピング、大型露頭写真パネル、南の海から運ばれてきた岩石たち、沖縄最古の岩石と化石、赤道付近から移動してきた島 南北大東島、大陸の端の海で堆積した岩石たち、マグマの活動によってできた岩石たち（石垣島、久米島、渡名喜島、粟国島、沖縄島岩脈、現在の火山が作った島 硫黄島、大陸棚の端の島 尖閣列島、沖縄の石灰岩たち、栗石の起源、謎の岩石、変化する岩石 岩石～土壌、琉球列島の化石たち、石や化石から分かる島の生い立ち、島々の地史と生物（固有種）、地質図パズル、島々の立体地形モデル

第4章 沖縄の石と人々：石から見える人々の生活と歴史

先史時代から現代まで、石の利活用、石と信仰、鉱床と資源、現在の石材やヒトが魅せられる宝石まで、人と石との関わりについて、それら石を作り出した地球の活動とともに紹介する。

- ・主な展示品：人類化石（港川人）、琉球列島の人類と石器、土器、古の人々が使った石たち、沖縄の石と海を渡ってきた石たち・・・石器、勾玉、黒曜石（佐賀・北海道産）、ヒスイ（糸魚川産、ミャンマー産）等、最初の石積み、各地に残る石板、昔の生活を支えた石（ヤンバル集落模型、石臼、砥石、しるべ石、石積み、硫黄、石皿、焼物と瓦、漆喰等の原料、フール、石と民話（映像）、歴史を見てきた石たち（美工品、石彫物等：尚家の玉冠、首里城正殿新旧龍柱、石獅子、世持橋羽目、与論グスク模型等）、歴史を刻まれた石たち（石碑5基、重文含む）、石から見える歴史、石垣から見える島々の地質（石積み模型）、沖縄の鉱山、徳之島の製鉄、岩石はすぐそこに！（コンクリートの世界）、現代の生活を変えた石たち 沖縄の鉱石（石炭、銅（キースラガー鉱床）、金（自然金、堆積鉱床、砂金、ナゲット、金箔）、リン、硫黄、生物が作り出した石たち・・・夜光貝、螺鈿漆器、サンゴ、現代社会を支える石たち・・・石灰岩、コンクリート、古い時代の地形図・地質図等、石を加工した道具たち・・・伊平屋村野甫島の栗石の石切り道具、石工の道具、沖縄の石材（石灰岩各種）

第5章 エピローグ：岩石が語る過去と未来

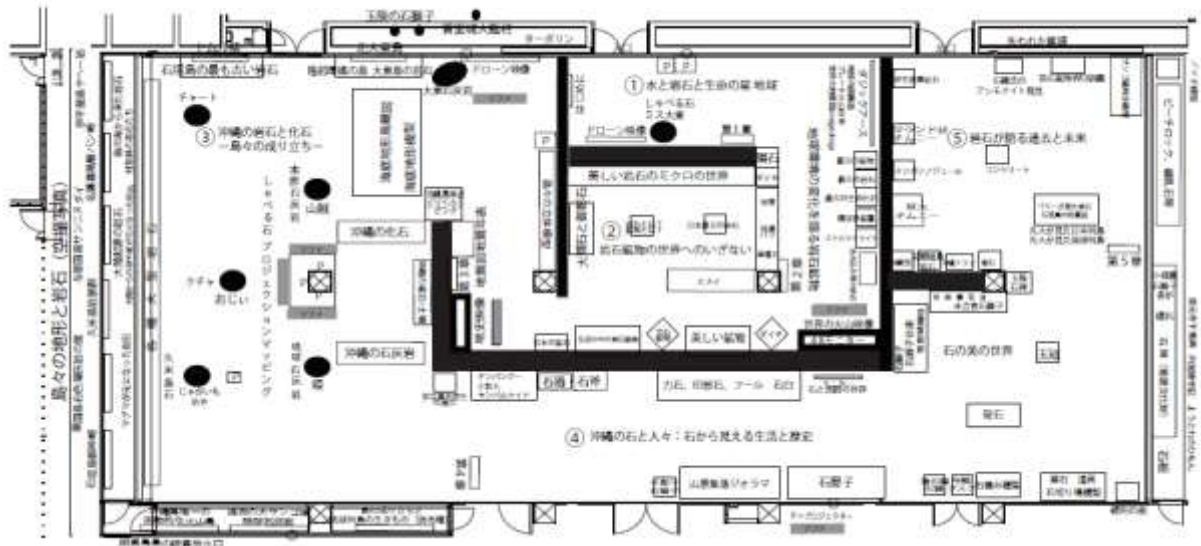
岩石は、古の時代から現在まで様々な形で人類と関わってきた。その中でヒトは自然の中の事物の一つとして、岩石を観察し調べ、岩石を利用するとともに岩石に記されてきた過去の事象を読み解いてきた。そして、今、過去を知ることによって得られた情報を元に、将来、起こる可能性のある現象まで明らかにしようとしている。最終章では沖縄県の地質研究史から始まり、近年注目されている海底資源や、岩石やそれが作る地形を調べることで明らかとなる過去や未来の地球の活動について紹介する。

- ・主な展示品：琉球列島の地質研究史（年表）、先人が見た琉球列島の地形、地質（スケッチ、戦前地形図・地形図、近年の各種地形地質図、航空写真など）、沖縄のアンモナイト化石の発見、軽石は何を語る？ 石が語る災害（津波石と台風石、津波堆積物、断層）、海面の変動を語る石（ノッチ模型、ビーチロック）、沖縄トラフ（地史と海底噴出物）、海底熱水鉱床（巨大チムニー）、チムニー模型、マンガンノジュール）、変化する大地と風化の話、失われた露頭（地質財産記録の重要性、沖縄県岩石鉱物web図鑑の紹介）、地質学研究と人間社会、最新の研究成果パネル展示（琉球大学等）、今、新たに作られつつある岩石（サンゴ礁模型、沖積層、トウフア、ビーチロック、鍾乳石）、



展示風景 第3章 沖縄の岩石と化石

【展示会见取り図】



【関連催事】

(1) プレイイベント 化石展 ―アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界―

日 時：2020年7月21日（火）～10月25日（日）

場 所：エントランスホール

展示協力：土橋浩一、ネオパークオキナワ

(2) 文化講座（講演会）

①「石や化石からわかる島の生い立ち」

日 時：2020年9月19日（土）14：00～16：00

場 所：講堂

講 師：神谷厚昭

参 加 者：100名

②「恐竜が見た森―琉球列島とつながること」

日 時：2020年10月17日（土）14：00～16：00

場 所：講堂

講 師：福井県立恐竜博物館 寺田和雄

参 加 者：110名

(3) 親子体験学習教室 ワークショップ

①「手彫り石獅子作りを通して学ぶ琉球石灰岩の魅力」、手彫り石獅子展

日 時：2020年10月3日（土）10：00～12：30（ワークショップ）、午後（手彫り石獅子展）

場 所：博物館屋外展示場古民家横、古民家（展示）

講 師：スタジオde-jin 若山大地・若山恵里、宇佐美賢（当館主任学芸員）

参 加 者：8名6組

参 加 費：1組 3,000円（材料費）

②石と友達になろう！ 沖縄の石割り体験と黒曜石のペンダント作り

日 時：2020年10月31日（土）13：00～16：30

場 所：博物館実習室

講 師：宇佐美賢（当館主任学芸員）

参 加 者：8名

参 加 費：300円

③沖縄の土で作るクレヨンで絵を書こう

日 時：2020年11月3日（火）10：00～11：30

場 所：博物館実習室

講 師：保久村智恵（沖縄美ら島財団）、宇佐美賢（当館主任学芸員）

参 加 者：8名

参 加 費：300円

(4) 展示解説会

日 時：① 9月19日（土）10：00～11：00 ② 10月3日（土）14：00～15：00
 ③ 10月17日（土）10：00～11：30 ④ 11月3日（火）14：00～15：30
場 所：博物館特別展示室・企画展示室、ホワイエ
講 師：宇佐美賢（当館主任学芸員）
参 加 者：計75名

(5) 野外観察会

① まちなかジオツアー

日 時：2020年11月1日（日）10：00～11：30
場 所：博物館屋外展示と博物館周辺
講 師：宇佐美賢（当館主任学芸員）
参 加 者：20名
参 加 費：50円（保険代）

② 沖縄本島北部の自然観察へ行こう！（学芸員講座1）

日 時：2020年11月7日（土）10：00～11：30
場 所：本部半島（嘉津宇岳）
講 師：宇佐美賢、菊川章（当館主任学芸員）
参 加 者：15名
参 加 費：50円（保険代）

③ 伊平屋村ジオツアー

日 時：2020年11月21日（土）14：00～18：00
場 所：伊平屋村（伊平屋島・野甫島）
講 師：宇佐美賢、菊川章（当館主任学芸員）、嘉手納知子（伊平屋村教育委員会）
参 加 者：20名
参 加 費：100円（保険代）

④ 沖縄本島南部の自然観察へ行こう！（学芸員講座2）

日 時：2021年（令和3）2月13日（土）10：00～12：00
場 所：ぐしちゃん浜～ホロホローの森
講 師：宇佐美賢、菊川章（当館主任学芸員）
参 加 者：15名
参 加 費：50円（保険代）

(6) 高等学校地学教員向け展示解説会（県高等学校地学教育研究会室内研修）

日 時：2020年10月9日（金）
場 所：博物館特別展示室・企画展示室
講 師：宇佐美賢（当館主任学芸員）
参 加 者：16名

（宇佐美 賢）

5 企画展「激動の明治・大正の沖縄 第11代齋藤用之助の足跡から」

会 期：2020年（令和2）5月21日（木）～8月1日（土）
会 場：特別展示室2
観 覧 料：博物館常設展示観覧料と同じ

【開催趣旨】

第11代齋藤用之助は、1879年（明治12）の沖縄県設置、いわゆる琉球処分の際に佐賀県から警察官として来沖。その後、沖縄県職員となり明治29年に首里区長兼中頭郡長に就任。明治31年には那覇区長兼島尻郡長を務めた。以後、1915年（大正4）に島尻郡長を退職するまでの在任期間16年10か月は、他に例のない長期間にわたる在職期間であった。その間、学校の設置や街道整備、港の建設や製糖工場の設立、鉄道の敷設などに尽力している。琉球王国解体から明治・大正という沖縄が大きく変化した時代において産業振興や人材育成に貢献した人物であり、ヤギ料理が大好きだった彼は「ヒージャー郡長」と呼ばれるなど地元住民から慕われていた。

第11代に関する資料については、辞令書や日記、地図など約400点を当館が所蔵している。本展では、第11代が沖縄に赴任し、在職した時期を取り巻く時代背景を探りながら、果たした業績等についてさまざまな資料を通して紹介する。なお、同展示会は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、会期を変更した。

【展示構成】

- (1) 歴史の風景 用之助の足跡から
用之助港 山城海岸 高嶺製糖工場跡 与那原街道 軽便鉄道跡 改租記念碑
那覇商業高校 東風平運動公園 久米島島神社
- (2) 沖縄県設置と用之助
琉球処分と齋藤安一 鍋島と原忠順
- (3) 用之助の日記より
1896年（明治29） 旧慣温存制度から近代沖縄へ
- (4) 用之助の使命
産業振興 社会資本整備 硫黄島島住民移住
- (5) 現代の用之助 歴史を学び現在を生きる
佐賀と久米島の交流

【展示資料】

朱漆桜花堆錦提重、識名園園遊会記念盃、天長節実記、伊藤博文書簡、鍋島から原への手紙、八重山風俗図、那覇首里島瞰図、用之助港命名理由が記された祝詞、明治期琉球写真帳等

【展示の様子】



(外間 一先)

6 企画展「新収蔵品展—令和元年度収蔵資料—」

会 期：2020年（令和2）5月19日（火）～6月21日（日）

会 場：企画展示室、特別展示室1

観 覧 料：一般500円（420円）、高校・大学生300円（250円）、小・中学生以下 無料

※（ ）は、前売り及び20名以上の団体料金

博物館企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管・修理された諸資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展を目指して開催するものである。

【開催趣旨】

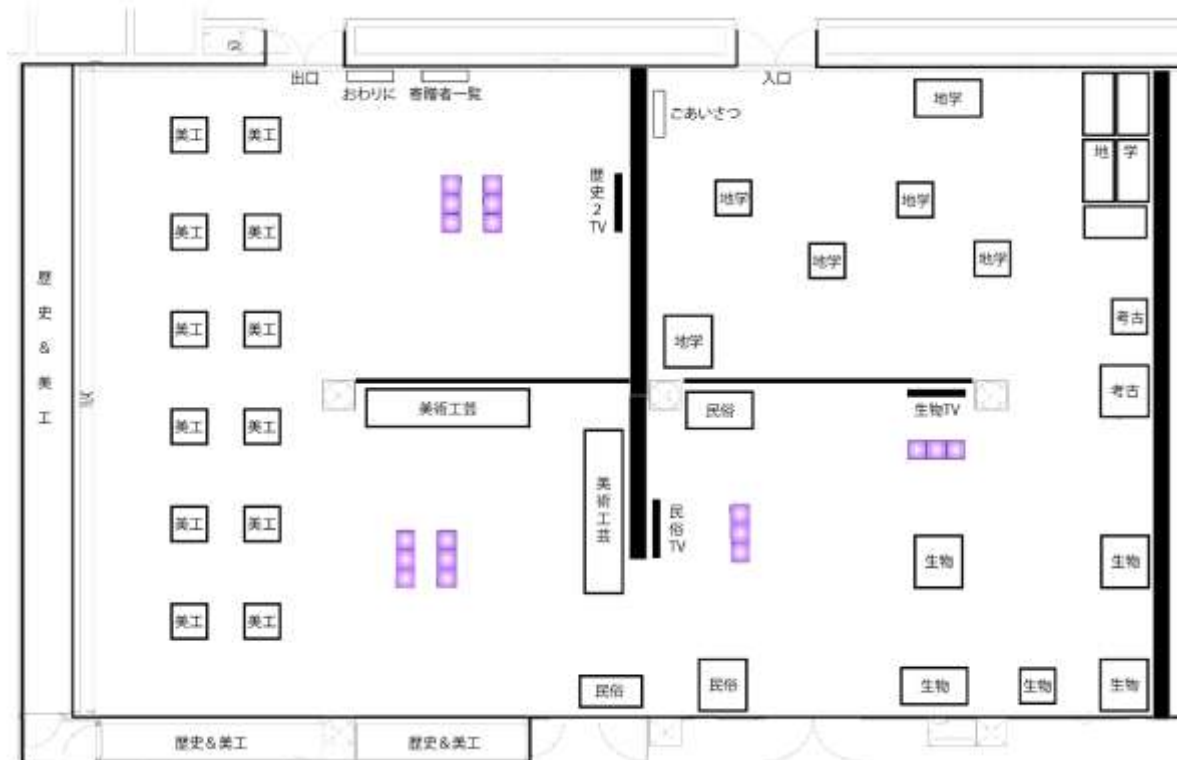
令和元年度に寄贈・収集・購入・修理された諸資料を地学、人類、考古、生物、歴史、美術工芸、民俗の分野ごとに、博物館3階の企画展示室および特別展示室1で展示・公開した。

また、例年開会日に実施している寄贈者への感謝状贈呈式と展示解説会は、新型コロナウイルス感染拡大の状況に鑑み、実施しなかった。

【展示構成】

令和元年度は、寄贈・収集・購入等により97件の新資料を収蔵した。自然史分野の代表的な資料に、自然史分野の代表的な資料に、地学分野では、港川遺跡産出のヘビ化石、西表島産の珪化木、生物分野では、アマミトゲネズミの剥製と交連骨格がある。考古分野では、昨年度の特別展『グスク・ぐすく・城』の開催に伴い、4回にわたる現地調査成果に基づき製作した与論グスクの700分の1サイズのジオラマ模型が出品された。比高差60mを測る地形を巧みに利用しながら平場と石積みを配置したダイナミックなグスクの構造が一目で理解できる優れた造型である。美術工芸分野では、琉球王家最後の国王尚泰の遺品のひとつである紅型衣裳、「木綿水色地松皮菱に菊藤燕遠山流水模様衣裳」をはじめ、仲宗根真補（查丕烈）が描いた「花鳥図」、「黒漆山水楼閣堆錦大盆」、「円覚寺鬼瓦」、「玉御冠」など多彩な資料が出品された。歴史分野では、2020年予定されていた東京五輪開催に寄せ、近代五種の選手として1984年ロサンゼルス五輪および88年ソウル五輪に出場した沖縄県出身選手の泉川寛晃氏から寄贈された選手用のユニフォーム一式が出品された。民俗分野では、当館が近年精力的に整備を進めるWebアーカイブ「ウチナー民話のへや」の新コンテンツ25話を公開した。

【展示会见取り図】



【展示の様子】



(澤浦 亮平)

7 令和2年度 沖縄県立博物館・美術館 緊急企画 博物館コレクション展「博物館の秘蔵品展」

会 期：2020年（令和2）7月14日（火）～8月10日（日）

※新型コロナウイルス感染拡大に係る緊急事態宣言発令のため8月1日（土）をもって閉幕。

開館時間：9:00～18:00（金・土は20:00まで開館）

会 場：企画展示室・特別展示室1

観 覧 料：一般300円（240円）、高大生150円（120円）、中学生以下無料

※（ ）は前売及び20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方、及び介助者の方は当日料金の半額

観覧者数：1,047名

※（ ）内は20名以上の団体料金

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

【開催趣旨】

新型コロナウイルス対策でさまざまな社会・文化活動が自粛を與儀なくされていますが、当博物館では緊急企画として、博物館コレクション展「博物館の秘蔵品」を開催します。

当博物館は、米国海軍軍政府によって設立された沖縄陳列館が1946年4月に沖縄民政府に移管されて設置された「東恩納博物館」と、戦後首里市に開設された「首里市立郷土博物館」にルーツをもち、沖縄の自然、歴史、文化に関する10万点以上のコレクションが収蔵されています。本展覧会ではその中から、当館の7つの部門（地学、生物、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）のテーマに沿って、普段は公開されていない、とっておきの秘蔵品を展示・公開します。多様な博物館コレクションが語る、沖縄の自然、歴史、文化の広がりとおもしろさを、ぜひ体感してみてください。

【展示構成】

地学分野「石になりかけた海の生きもの！ この骨はななに！？」

地学分野（岩石・鉱物・化石）の登録収蔵資料数は、2020年5月現在、3万点以上となります。しかし、その中でこれまでに展示したことがある標本は、極限られた一部にすぎません。そこで今回のコレクション展では、おそらくこれまでに一度も展示したことがないと思われる化石になりかけた骨を展示します。何の骨だと思いますか？

生物分野「骨と剥製ならべちゃいました！」

博物館の動物標本は、当然のことながらピクリとも動きません。でも動かないからこそ、自然の作り出す造形美をじっくり堪能することができるのです。今回は、収蔵庫に眠っている動物たちの剥製と骨格標本を、レントゲン写真のイメージで鏡合わせに並べてみました。剥製からは動物たちの色や形の多様性を、骨格標本からはその機能美をぜひとも感じてみてください！

人類分野「アフリカから沖縄へー700万年の人類史」

人類の進化と拡散の歴史を紐解き、アフリカから世界へ、そして沖縄の島々に到達した人類の姿を、化石資料を通して紹介します。また、さまざまな人骨資料からホモ・サピエンスの多様性についてもお伝えしたいと思います。

考古分野「琉球列島では滅多に見ることができない考古資料」

『琉球列島では滅多に見ることができない考古資料』をコンセプトにして所蔵資料の中で主に日本本土の古墳から出土する遺物と先史時代の石鏃標本を公開します。また、今年度の特別展『岩石展』開催に合わせて様々な石材でつくられた先史時代の石鏃標本約300点を公開します。

歴史分野「歴史ありんくりん（あれこれ）」

歴史分野は琉球王国時代から近現代まで激動の歴史を物語る多種多様なコレクション14,000件以上を収蔵しています。今回は、こうした歴史資料のなかから、重要文化財に指定されている『おもろさうし』、『混効験集』をはじめ、これまでの常設展ではお見せする機会の少なかった資料を厳選して公開いたします。

美術工芸分野「みんな違ってみんな良い！一渡名喜瓶と湯庫大集合！」

1点に向き合ってじっくり見ることが多い美術工芸の資料ですが、今回はたくさんの資料を見比べながら見ることを楽しんでいただきたいと思います。みんな違ってみんな良い！それぞれの個性を楽しんでいただければ幸いです。

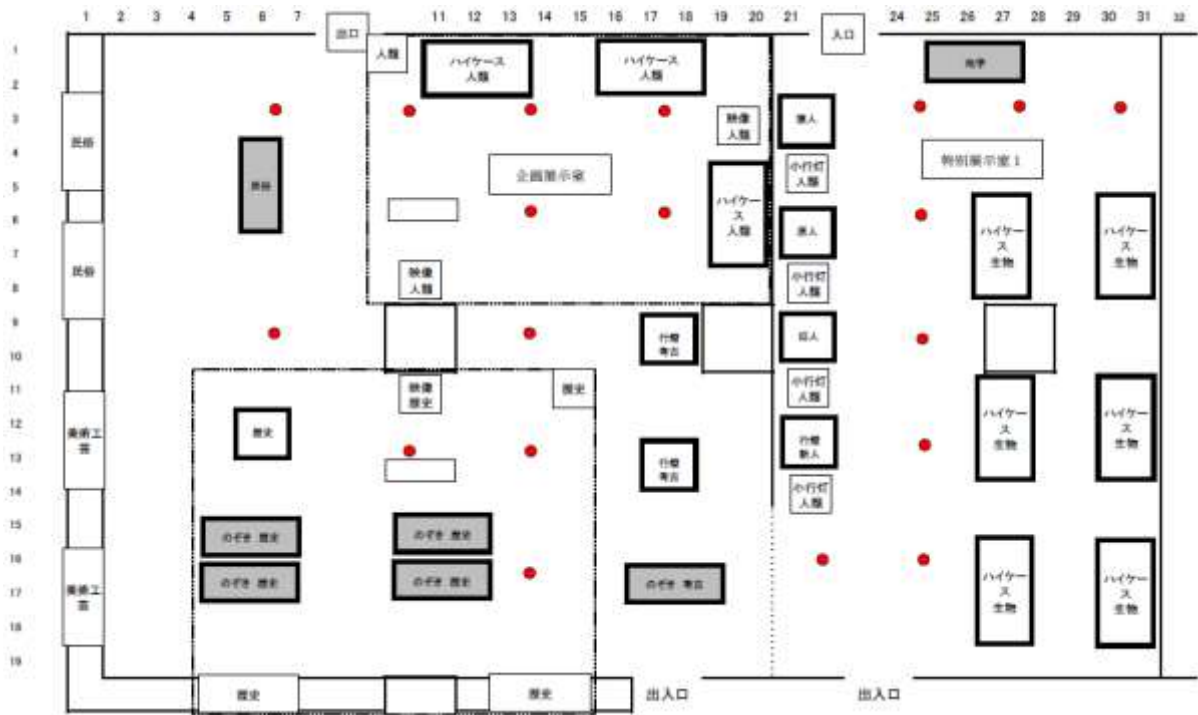
民俗分野「雨の日には何を着る？おきみゅーの蓑コレクション」

蓑（みの）の素材はクバやシュロ（棕櫚）、菅草や藁など自然のもので、手作りで作られていました。おきみゅーに収蔵されている蓑のひとつひとつは、昔の人びとの知恵が詰め込まれた大切な一点ものです。今回のコレクション展では蓑を主役に、そのバリエーションを紹介します。

【展示の様子】



【展示会见取り図】



【関連イベント等】

展覧会解説動画をYouTubeにて配信

- | | | | |
|------------|---------------|------------|---------------|
| ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 1 (地学) | ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 2 (生物) |
| ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 3 (人類) | ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 4 (考古) |
| ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 5 (歴史) | ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 6 (歴史) |
| ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 7 (美術工芸) | ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 8 (美術工芸) |
| ・「博物館の秘蔵品」 | 展示解説 9 (民俗) | | |

(山崎 真治)

8 企画展「沖縄の藍ー自然と人が織りなす製藍の技ー」

会 期：2020年（令和2）12月1日（火）～2021年（令和3）1月24日（日）

開館時間：9:00～18:00（金・土は20:00まで開館）

会 場：企画展示室・特別展示室1

観 覧 料：一般1,000円（800円）、高校・大学生600円（480円）、中学生以下 無料

※（ ）は前売り及び、20名以上の団体料金

観覧者数：5,056名

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

助 成：日本芸術文化振興会

協 力：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館、沖縄県工業技術センター、ちいさな藍美術館、国立民族学博物館、南風原文化センター、名護博物館、四国大学、NPO法人沖縄県工芸産業協働センター、他

後 援：沖縄県教育委員会、本部町教育委員会、沖縄タイムス社、琉球新報社、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球朝日放送、琉球放送、ラジオ沖縄、FM琉球、エフエム沖縄、エフエム那覇、沖縄ケーブルネットワーク

【開催趣旨】

藍染料は、世界各地でその土地の風土にあった植物や製法で作られる。沖縄においても少なくとも500年以上前から藍の色素をもつ植物から染料を作り、人びとの着衣を彩ってきた。本展覧会では、まず世界各地の製藍技術の映像や染織物を展示して藍をめぐる文化の多様性について紹介した。つぎに、沖縄で用いられる藍染料の製藍技術に着目し、植物から人々の手を介して何度となく色合いを変える藍の神秘的な美しさとその不思議について探り、沖縄の製藍業を支えた背景や藍染めの染織品を通して沖縄の藍文化について紹介した。

【展示構成】

プロローグ～ようこそ藍の世界へ～

浮世絵や紺地金泥経等、鉱石等、藍色で形作られたものから藍色のイメージする世界へ誘う。

§ 1 藍染料とは？

緑色の植物から藍色を染め出すために世界各地で生み出された製法の不思議について、植物から染料になるまでのプロセスや世界の含藍植物の分布、製藍の歴史等をパネル展示し、アフリカ、日本、中国、沖縄の藍染料や製藍・藍建てに使う道具や助剤等を展示した。



§ 2 世界の製藍技法と染織文

藍染めは、アフリカ、ヨーロッパ、アジア、アメリカと世界中で行われているが、地域によって用いられる植物も製法も多種多様である。日本の藍も沖縄の藍とは異なる植物や製法で作られている。本章では世界各地の製藍技法と染織品を通して、世界と日本の藍文化を広く紹介した。



§ 3 沖縄の製藍の技

沖縄の製藍で主として利用されている植物は、リュウキュウアイとコマツナギ属のアイである。両者は各々の生育に適した環境で栽培されている。リュウキュウアイは山間の半陰地を好むので沖縄本島北部を中心に、コマツナギ属のアイは、平地の畑で直射日光にあたって育つので、宮古・八重山地方や本島南部で栽培されている。本章では、リュウキュウアイを利用した沖縄の製藍業を中心に、藍壺の遺構調査や文献史料等から得た情報をもとに歴史と技術を紐解く展示をした。



§ 4 藍の製造者（エースジャー）の横顔

良質な藍染料を産み出す決め手は、良いアイ葉と藍を作る人（エースジャー）が経験で培ってきた技である。藍染料を産み出す過程では、良質のアイ葉を育て、葉を水に漬けてからの発酵具合の見極め、分離した発酵液に投入する石灰の量、攪拌時間、といった製造者の「勘所」がカギとなる。本章では、沖縄で藍作りの技を守り伝えてきた人びとについて紹介した。



§ 5 沖縄の藍染めの用の美

沖縄では古くから紅型や芭蕉布、琉球絣、宮古上布、読谷山花織など、あらゆる伝統染織に藍染料が使われてきた。本章では、黒朝衣や藍型衣裳、筒描きの藍型幕、宮古上布や琉球絣の逸品から、普段の生活の中での着衣や風呂敷、手ぬぐい（ティサージ）まで、さまざまな藍染めの作品にスポットを当て、沖縄の藍染め文化を紹介する。



エピローグ～沖縄の藍づくりの未来図～

国選定保存技術「琉球藍製造」保持者であった故伊野波盛正氏の後を受けて、今沖縄の製藍業に新しい動きが芽生えている。沖縄の藍は、伝統染織には欠かせない染料として作り続けられる一方で、現代社会のニーズにそってTシャツやジーンズ、染髪剤等にも使われている。最後に県内の新しい産業や海外の事例を通して、沖縄の藍の可能性について考える展示とした。

【関連催事】

(1) 文化講座「藍植物と世界の製藍」

日 時：2020年12月19日（土）

講 師：井関和代（大阪芸術大学名誉教授）

(2) 2021/1/9（土）学芸員講座「山の暮らしと琉球藍について」

日 時：2021年1月9日（土）

講 師：大湾ゆかり（展示会担当学芸員）

(3) 体験教室①「リュウキュウアイから泥藍を作ってみよう」

日 時：2020年12月5日（土）

(4) 体験教室②「泥藍から布を染めてみよう」（全2回）型染め（藍型）

日 時：2021年1月10（日）、2月20日（日）

(5) 文化講座「藍とわたし」

日 時：2021年1月16日（土）

講 師：新道弘之（ちいさな藍美術館長）

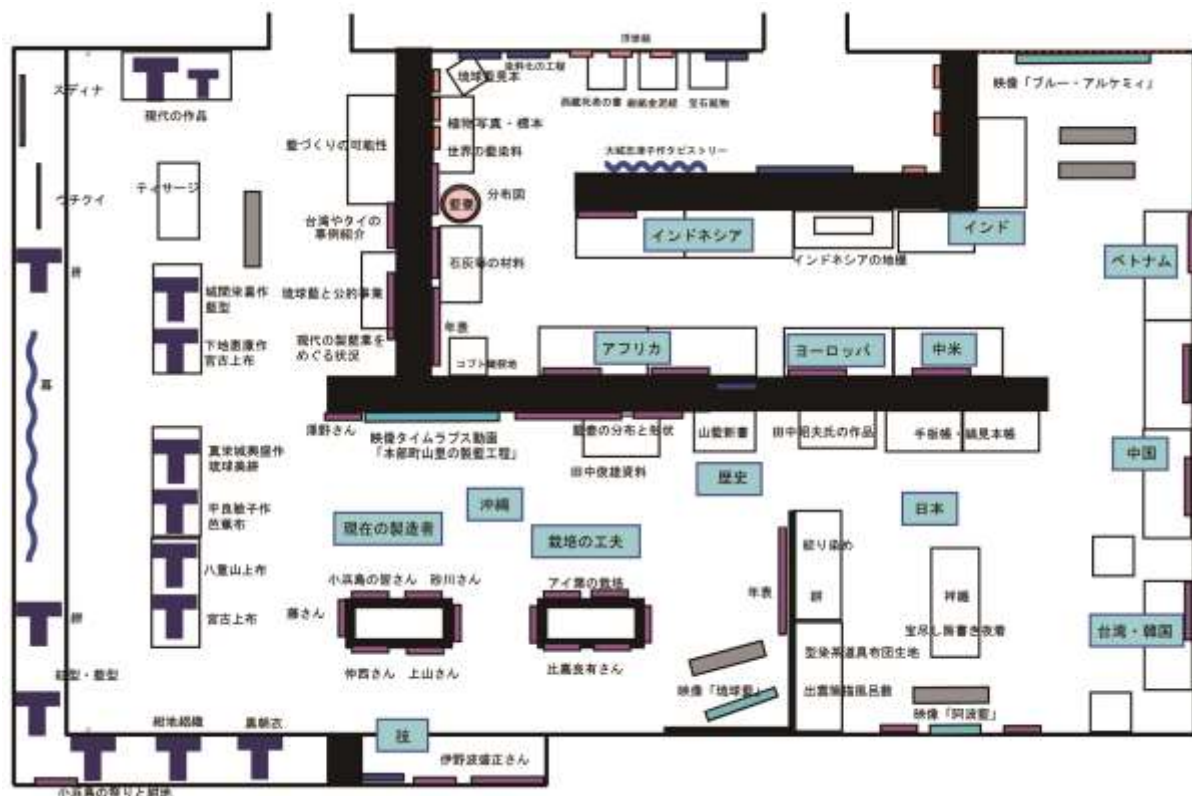
前 半：映像作品「ブルーアルケミイ」の上映

後 半：講演会（リモート開催）

(5) 展示解説会

日 時：①2020年12月4日（金）、②2020年12月11日（金）、③2021年1月15日（金）18:30～19:30

【展示会見取り図】



（大湾 ゆかり）

9 企画展 大嶺薫コレクション「文化復興の礎 戦後最初の博物館長・大嶺薫」

会 期：2020年（令和2）12月1日（火）～2021年（令和3）1月24日（日）

会 場：特別展示室2

観 覧 料：博物館常設展覧会料金と同じ

観覧者数：2,656名

【開催趣旨】

大嶺薫（1905-1970）は、沖縄における戦後最初の博物館長を務めた人物です。戦前から蒐集家として知られ、特に美術工芸に対する造詣が深かったといわれています。

戦後の沖縄は文字通りの焼け野原で、多くの人・モノが失われていました。そのため、米兵の中には沖縄の住民は文化を持たない野蛮な民族であると誤解する者もいました。これを憂いた米軍将校のハンナ少佐は「沖縄陳列館」を設立し、琉球・沖縄文化の発信に努めます。

この陳列館は後に沖縄民政府に移され「東恩納博物館」となりますが、その初代館長として大嶺薫が就任します。これは氏の収集活動で身に着けた知識を見込んだものと言われており、館長就任後も収集活動を精力的に続け博物館の基礎作りに尽力しました。その後、東恩納博物館は統廃合を繰り返し、最終的には現在の沖縄県立博物館・美術館となります。

1953年（昭和28）に館長を退任したのちも精力的に資料収集に努め、戦前・戦後を通して多くの文化財を収集しました。その意志は氏の没後遺族にひきつがれ、1971年（昭和46）、大嶺薫美術館が設立され、沖縄の美術工芸や文化の振興に貢献してきました。1985年（昭和60）3月、同美術館の閉館にともない、収蔵資料3,000点余のコレクションが当時の沖縄県立博物館へ寄贈されました。

戦後、沖縄の多くの文化遺産が消失あるいは海外へ散逸しましたが、大嶺薫はこれら文化財の流出を憂慮し、収集の努めたことは高く評価されるものです。

本展は、大嶺の業績を顕彰するとともに、毎年1回開催するもので、本年度は大嶺薫没後50周年展として「文化復興の礎 戦後最初の博物館長・大嶺薫」をテーマに、大嶺薫と氏が集めた東恩納博物館旧蔵資料、大嶺薫美術館旧蔵資料を紹介します。

【展示構成】※★マークは個人より借用した資料

1. はじめに

大嶺薫の写真、名刺（★）

2. 東恩納博物館と大嶺薫

東恩納博物館と大嶺薫（写真）（★）、東恩納博物館収蔵品台帳（★）、『OKINAWAN EXHIBIT』（★）、扁額「金環園」、朱漆巴紋箔絵食籠、朱漆巴紋牡丹沈金足付盆など

3. 大嶺と交流のあった人々

シュープ大将と大嶺薫（写真）（★）、シュープ大将に招かれて『守礼の光』（★）、米国新聞（大嶺薫訪米記事）シュープ大将邸内（写真）、朝潮多郎と大嶺薫（写真）（★）など

4. 文化財の調査と保護

浦添ようどれ竣工祭の招待状（★）、守礼門復元起工式の招待状（★）、義本王陵の調査依頼書（★）、琉球勾玉研究資料（★）、伝聞得大君御殿勾玉など

5. 大嶺薫美術館設立

大嶺薫美術館設立趣意書、琉球政府公報（1971年10月5日）、大嶺薫美術館パンフレット、「大嶺薫美術館」看板、大嶺薫美術館収蔵品目録（写）など

6. 大嶺薫コレクション

『特別展 美術工芸の美を求めて—大嶺薫コレクション—』展図録、親泊知事からの電報、宜湾朝保筆「福祿寿」、程順則筆「物外楼記」（県指定）、黒漆山水楼閣螺鈿卓（県指定）、鍔、インディアンの彫刻、インディアンの矢じりなど

7. おわりに

本展開催にあたり、大嶺薫氏のことについてご教示いただいた翁長良明氏にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

（伊禮 拓郎）

10 琉球王国文化遺産集積・再興事業 巡回展『手わざ展』

2020年度（令和2）の琉球王国文化遺産集積・再興事業では、前年度、当館で実施した内容をベースにした巡回展を下記のとおり実施した。

新型コロナ感染拡大により、8月に予定していた久米島会場は中止し、宮古島（宮古島総合博物館）、石垣島（石垣市立八重山博物館）、那覇市内（首里城公園 有料区域 世誇殿／沖縄県立芸術大学附属図書・芸術

資料館)で開催した。

【開催趣旨】

琉球王国は、東アジアのなかで独自の文化を築いてきた。しかし、廃藩置県によって王国は解体し、それまでの有形・無形の文化は大和(日本)化と近代化のなかで急速に変容していく。さらに、第二次大戦の戦禍により、王国時代の遺産の多くが失われてしまう。本事業は、上記のそのような背景を踏まえ、王国時代から相伝の8つ分野の手わざによる模造復元製作を行い、その成果品を発信することによって、琉球王国の文化を県内外に広く普及することを目的としている。発信によって、琉球王国が東アジア文化史を語るうえで重要なポイントにある事をアピールし、今後の観光産業や工芸産業へ資することを目的とする。

巡回展では、各会場において模造復元品の展示を通して王国のものづくりの様相を紹介し、王国文化の手わざの素晴らしさとともに琉球・沖縄の美意識を紹介する。

(1) 宮古島会場

会 期：2020年(令和2)11月8日(日)～11月22日(日)

開催時間：9:00～16:30(最終入館は16:00まで) 毎週月曜日休館

会 場：宮古島総合博物館

観 覧 料：無料

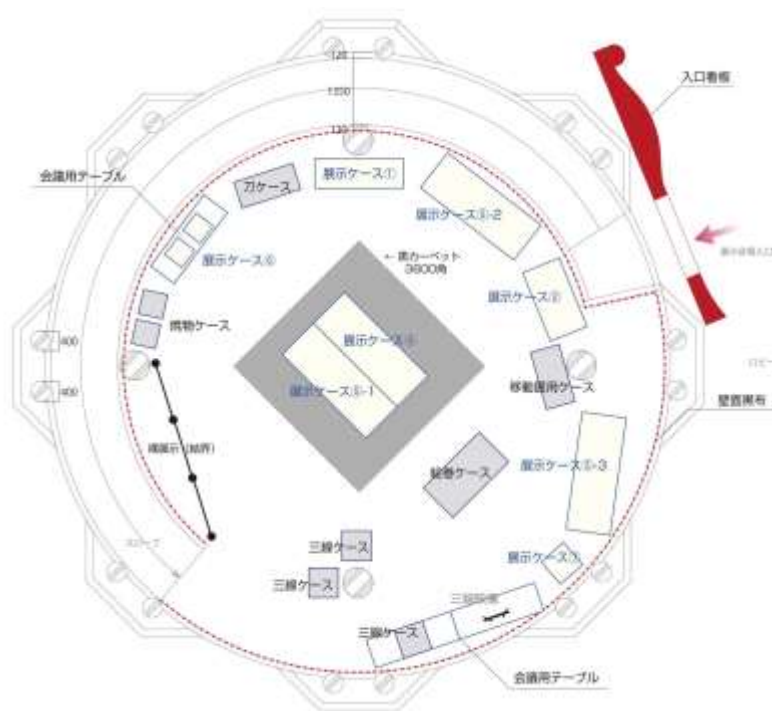
観覧者数：1,053名(開催日：13日)

主 催：沖縄県立博物館・美術館／宮古島総合博物館

後 援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社

協 力：伊是名村教育委員会／九州国立博物館／久米島博物館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／東京国立博物館／那覇市歴史博物館／公益財団法人日本民藝館

【展示の様子・展示会見取り図】



【関連催事】 製作者による講話(参加者：51名)

日 時：2020年11月8日(日) ①10:00～11:00 ②14:00～15:00 ※2回実施
2020年11月22日(日) 14:00～15:00

会 場：宮古島総合博物館

講 師：① 染織：宮古上布保持団体 新里玲子 (糸づくり・上布・ウコンによる地染め)

② 染織：宮古上布保持団体 仲宗根みち子 (糸づくり・藍染の上布)

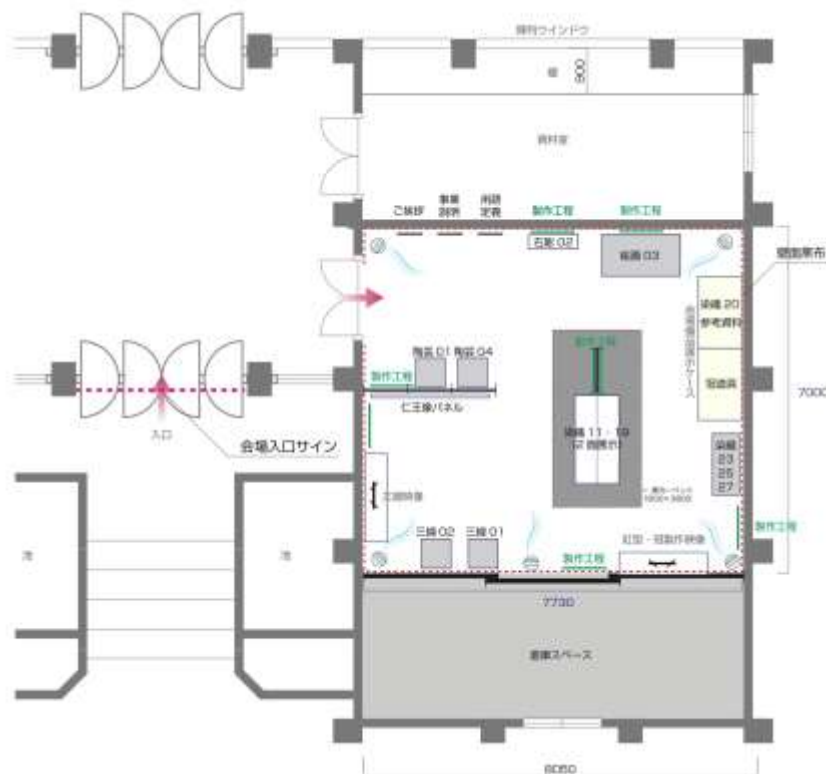
※講話のまえに、学芸員が展覧会解説を行った。

(2) 石垣島会場

会 期：2020年12月6日（日）～12月20日（日）
 開催時間：9:00～17:00（入館は16:30まで） 毎週月曜日休館、祝日
 会 場：石垣市立八重山博物館
 観 覧 料：無料
 観覧者数：552名（開催日：13日）
 主 催：沖縄県立博物館・美術館／石垣市教育委員会（主管 石垣市立八重山博物館）
 後 援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社
 協 力：伊是名村教育委員会／九州国立博物館／久米島博物館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／東京国立博物館／那覇市民文化財部文化財課／那覇市歴史博物館／公益財団法人日本民藝館、



【展示の様子・展示会見取り図】



【関連催事】 製作者による講話（参加者：30名）

日 時：2020年12月6日（日）14:00～15:00 ※15名参加
 2020年12月20日（日）14:00～15:00 ※15名参加
 会 場：石垣市結い心センター
 講 師：染織 新垣幸子（糸づくり・上布・紅花による地染め）
 ※講話のまえに、学芸員が展覧会解説を行った。

(3) 那覇会場

主 催：沖縄県立博物館・美術館
 共 催：一般財団法人沖縄美ら島財団／沖縄県立芸術大学
 後 援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社
 協 力：伊是名村教育委員会／九州国立博物館／久米島博物館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／東京国立博物館／那覇市民文化財部文化財課／那覇市歴史博物館／公益財団法人日本民藝館、



【第一会場】

会 期：2021年（令和3）1月21日（木）～2月28日（日）

開催時間：9:00～17:30（入場券販売締切17:00） 会期中無休

会 場：首里城公園 有料区域 世誇殿

観 覧 料：一般400円（320円）／高校生300円（240円）／小・中学生160円（120円）

※（ ）内は20名以上の団体料金

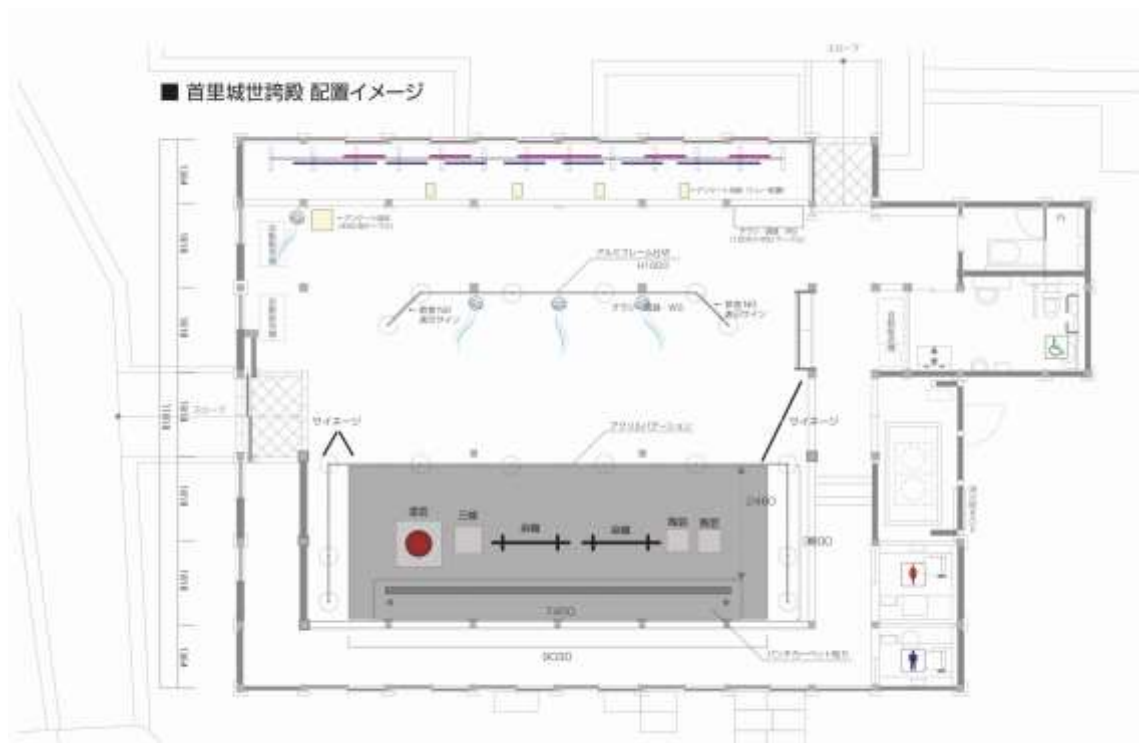
※障がい者手帳をお持ちの方と介助者一名は無料です。

観覧者数：8,032名（開催日：39日）

【展示の様子】



【展示会見取り図】



【関連催事】

関連催事は（一財）沖縄美ら島財団 首里城公園管理センター広報企画係の普及事業として企画・実施。

○第1回 「『手わざ』琉球王国の文化」展について

日 時：2021年1月29日（金）16:00～17:30

講 師：篠原あかね（沖縄県立博物館・美術館）

○第2回 「復元『線彫雲龍文呉須絵手焙』について」

日 時：2021年2月6日（土）13:30～15:00

講 師：松田共司（陶芸北窯）

○第3回 「復元『三線 盛嶋開鐘附胴』について」

日 時：2021年2月13日（土）13:30～15:00

講 師：仲嶺 幹（三線事業協同組合）

○第4回 「復元「紅型衣裳」について」

日 時：2021年2月20日（土）13:30～15:00

講 師：玉那覇有勝（玉那覇紅型工房）、屋比久珠代（縫製）

〈第二会場〉

会 期：2021年（令和3）2月14日（日）～2月28日（日）

開催時間：10:00～17:00 ※2月15日、16日、22日は休館

会 場：沖縄県立芸術大学附属図書・芸術資料館

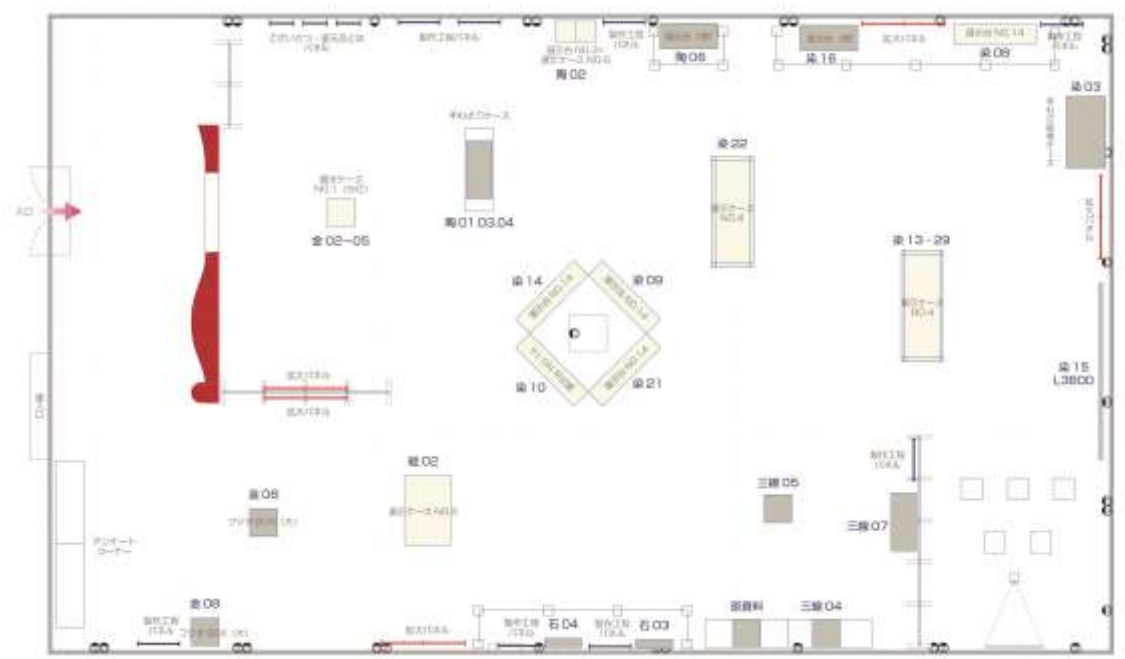
観 覧 料：無料

観覧者数：678名（開催日：12日）

【展示会の様子】



【展示会見取り図】



【関連催事】関連催事は会場にて学芸員による解説会を実施した。

（篠原 あかね・與那嶺 一子）

Ⅲ 教育普及活動

1 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中軸施設であることも求められている。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて各学校における校内外の諸行事が延期、または中止、当館においても4月から5月にかけて臨時休館となり企画展の延期または中止が相次いで発表された。それに伴い、博物館班ボランティア活動も休止となり、感染症対策のため、これまでとは異なる形の活動を余儀なくされた。

博物館の教育普及活動では、学校の計画する授業・行事等で博物館を利用する際に支援する学校連携事業、博物館が企画運営する文化講座、学芸員講座、体験学習教室、ボランティア養成等、大きく2つの事業に分け推進してきた。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行うことになっている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

また、すべての教育普及活動において「博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を踏まえて行った。

○県内学校団体の博物館来館目的（教科内容・自由学習など） ※重複あり

項 目	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	合計
下見（学習プログラム作成打ち合わせ）	16	0	0	0	0	16
民具体験（小学校3年社会科）	16	0	0	0	0	16
各教科（社会科、理科など）	36	0	7	3	0	46
領域（道徳、特活、総学の時間）	8	1	3	1	0	13
民俗ガイド（小規模校対応）	12	0	1	0	0	13
総合展示部門解説ガイド	13	0	1	0	0	14
修学旅行など	7	2	0	0	0	9
博物館活用学習（自由見学）	7	2	0	0	7	16
その他	3	1	0	0	0	4
合 計	118	6	12	4	7	147

※『令和2年度 沖縄県立博物館・美術館 博物館教育普及報告書』p11掲載の『3「民具体験学習」の実施状況』を再集計したものを掲載。

2 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。

一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援がある。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「民具体験・展示解説等」に取り組んだ。「密」な環境になりやすい学校連携事業において、安全対策を第一に考えた教育・普及の在り方を模索しながら、博物館の学芸員・施設職員・ボランティア等と連絡・調整をとりながら予定している事業に取り組んだ。

二つめは、『出前授業等』実施要項の作成及び、『教育普及報告書』『学校連携モデル研究事業2017～2020実践報告書』を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布した。

（1）学校団体受入れ

9月頃から3月にかけて、県内の小学校から民具体験学習のために小学3年生が数多く来館する。この民具体験学習では、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来る。しかし、令和2年度は、新型コロナ感染拡大の影響を受け、ボランティアサポート・ふれあい系の体験活動が休止となり、教師が主体の学習プログラムを組み立てることが出来なかった。よって学習プログラムの内容を一部変更して職員と指定管理者主体で行う民具解説・実演をはじめて実施した。

今年度は、13校がボランティアを活用した学習プログラムを行った。

（2）出前授業等

博物館のもつ資源（もの、情報）を学校教育の場で有効に活用することを趣旨とし実施している。しかし、令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、9月まで休止、10月より実施した。安全対策を取りながら、高等学校4校で出前授業等を実施した。

3 博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を少人数にし、検温・消毒・野外で行うなど対策を十分に行ったうえで実施した。※県の緊急事態宣言発令により一部の教室は延期または中止。）

体験学習教室実施一覧

	題	講師名	内容	参加者
第1回講座 10月3日(土)	石獅子作りを通して学ぶ琉球石灰岩の魅力	若山 大地 若山 恵里	「岩石」関連催事 石獅子作り	6組 8名
第2回講座 11月15日(日)	ものさし鳥タッチカービング	内山 春雄	タッチカービング特別授業	9組
第3回講座 11月15日(日)	沖縄の島々の地形と岩石の特徴を知ろう	宇佐美 賢	盲学校対象、岩石特別授業	9組
第4回講座 12月5日(土)	リュウキュウアイから泥藍を作ってみよう	大城 幸正 池原 幹人	「沖縄の藍」関連催事 泥藍作り	8名
第5回講座 1月10日(日)	泥藍から布を染めてみよう①	加治工 摂 大城 幸正 池原 幹人	「沖縄の藍」関連催事 型染めと絞り染めを製作する	10名
第6回講座 1月31日(日)	勾玉のはなしと勾玉づくり	山本 正昭 宇佐美 賢	勾玉作り	中止
第7回講座 2月6日(土)	ヤコウガイのひみつを知りアクセサリを作ろう！	池村 茂	ヤコウガイの環境問題と歴史を学び、アクセサリを作る	中止
第8回講座 2月21日(日)	泥藍から布を染めてみよう②	加治工 摂 大城 幸正 池原 幹人	「沖縄の藍」関連催事 型染めと絞り染めを製作する	8名

4 博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。

(沖縄県緊急事態宣言発出に伴う休館、および、感染拡大防止対策により、4～8月は文化講座が中止となり、9月から再開した。『博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』に沿って受講者数を会場収容人数の半数までとして実施。一部講座はオンラインによるリモート講演を行った。受講希望者多数の場合、第2会場を設置した。)

文化講座開催一覧

回	期 日	演 題	講師名	定員	参加
513	4月18日(土)	絵を描くこころの起源を探る	齋藤 亜矢	200	中止
514	5月16日(土)	琉球漆芸について	糸数 政次	200	中止
515	6月20日(土)	「琉球処分」期の福州・琉球館や天津・大王廟と琉球人～日本軍の探偵報告から～	後田多 敦	100	中止
516	7月18日(土)	驚いたネ！タネたちの旅の知恵	多田 多恵子	100	中止
517	8月15日(土)	沖縄の紅花 ～花染手巾について～	崎原 克友	100	中止
518	9月19日(土)	石や化石からわかる島の生い立ち	神谷 厚昭	100	中止
519	10月17日(土)	恐竜が見た森 —琉球列島と繋がること—	寺田 和雄	100	110
520	11月14日(土)	ミクロネシアの考古学 *リモート開催	山野ケン陽次郎	100	46
521	12月19日(土)	藍植物と世界の製藍	井関 和代	100	103
522	1月16日(土)	藍とわたし *リモート開催	新道 弘之	100	80
523	2月20日(土)	世界遺産の現状を知る ～海外と沖縄県内の事例から～ *代替えwebリモート録画配信	坂井 隆 横尾 昌樹 渡久地 真 玉城 靖	100	中止
524	3月13日(土)	琉球の石碑	藤田 励夫	100	91

5 学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。

(沖縄県緊急事態宣言発出に伴う休館、および、感染拡大防止対策により、4～5月は学芸員講座が中止となり、6月から再開した。『博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』に沿って受講者数を会場収容人数の半数までとして実施した。受講希望者多数の場合、第2会場を設置した。)

学芸員講座開催一覧

回	期 日	演 題	講師名	定員	参加
1	4月11日(土)	人類学から見た日本・沖縄の民族起源論	山崎 真治	80	中止
2	5月9日(土)	今、明かされる琉球王国の手わざ ― 琉球・沖縄美術工芸史物語 ―	篠原 あかね	80	中止
3	6月13日(土)	記録の中の沖縄 ―Okimuコレクションから―	外間 一先	100	80
4	7月11日(土)	貝摺奉行所で作られた漆器	伊禮 拓郎	100	57
5	8月8日(土)	アフリカから沖縄へー700万年の人類史	山崎 真治	50	中止
6	9月12日(土)	世界遺産登録20周年記念 世界遺産のグスクを見るフィールドツアー	山本 正昭	15	中止
7	10月10日(土)	歯のはなし	澤浦 亮平	50	20
8	10月18日(土)	琉球の正史～中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜～	田名 真之	150	115
9	11月7日(土)	フィールドツアー① 沖縄本島北部の自然観察に行こう！	菊川 章 宇佐美 賢	12	15
10	12月12日(土)	八重山の年中行事と供え物	阿利 よし乃	50	50
11	1月9日(土)	山の暮らしと琉球藍について	大湾 ゆかり	100	96
12	2月13日(土)	フィールドツアー② 沖縄本島南部の自然観察に行こう！	菊川 章 宇佐美 賢	15	15
13	3月6日(土)	琉球王国時代の辞令書ヒストリー ～館収蔵の辞令書を中心に～	崎原 恭子	100	52
14	3月27日(土)	明和津波襲来250年津波の痕跡を探る ―過去の自然災害からその脅威をかいま見る―	山本 正昭	50	60

(大城 久表)

6 学芸員による常設展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。参加者の内訳は、初めて参加するお客様のみならず年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部解説会が中止となったが、人数制限を設けるなど安全対策を講じて取り組んだ。全12回で106名(定員10名、平均参加者数13名)の参加があった。

学芸員による展示解説会開催一覧

	日 時	分 野	講 師 名	定 員	参 加
1	4月9日(木)	人 類	山崎 真治	なし	中止
2	5月14日(木)	考 古	山本 正昭		中止
3	6月11日(木)	美術工芸	篠原 あかね	10	13
4	7月9日(木)	美術工芸	伊禮 拓郎		16
5	8月13日(木)	歴 史	外間 一先		中止
6	9月10日(木)	地 学	宇佐美 賢		14
7	10月8日(木)	人 類	澤浦 亮平		13

	日 時	分 野	講 師 名	定 員	参 加
8	11月12日（木）	考 古	山本 正昭	10	17
9	12月10日（木）	生 物	菊川 章		7
10	1 月14日（木）	民 俗	阿利 よし乃		13
11	2 月11日（木）	歴 史	崎原 恭子		中止
12	3 月11日（木）	人 類	山崎 真治		13
	合 計 人 数				106

7 学芸員によるバックヤードツアー

バックヤードツアーは、より専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指している。安全性を考慮し、学芸員と県職員及び指定管理者スタッフの3名体制で臨んだ。学芸員研究室、研究資料室（書庫）、自然史実験室、トラクヤード、写真撮影室、冷凍室、工作室を基本コースとし、収蔵庫は専門分野を中心に案内した。また、建物の構造やIPM（Integrated Pest Management：総合的有害生物管理）の取り組み、資料の修復について解説するなど、博物館の役割や使命を理解しやすくする工夫をしながら実施した。全12回で44名（定員6名、平均参加者数6名）の参加があった。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部バックヤードツアーが中止となったが、定員を6名に減らし、令和3年1月からは事前申込制にするなど安全対策に講じて取り組んだ。

学芸員によるバックヤードツアー開催一覧

	日 時	分 野	講 師 名	定 員	参 加
1	4月25日（土）	地 学	宇佐美 賢	12	中止
2	5月30日（土）	美術工芸	篠原 あかね		中止
3	6月27日（土）	美術工芸	伊禮 拓郎		6
4	7月25日（土）	歴 史	外間 一先	6	6
5	8月29日（土）	考 古	山本 正昭		中止
6	9月26日（土）	人 類	澤浦 亮平		6
7	10月31日（土）	考 古	山本 正昭		6
8	11月28日（土）	生 物	菊川 章		7
9	12月26日（土）	民 俗	阿利 よし乃		8
10	1月30日（土）	人 類	山崎 真治		中止
11	2月27日（土）	歴 史	崎原 恭子		中止
12	3月20日（土）	民 俗	大湾 ゆかり		5
	合 計 人 数				44

（植田 瑞生）

8 こどもフェスタ秋2020

「夏休み！こどもフェスタ」は、学芸員が夏休みの課題に取り組む子供たちに向けて、沖縄の自然・歴史・文化に関する自由研究のテーマを提供する場である。しかし、「夏休み！こどもフェスタ」が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったため、「こどもフェスタ秋2020」として10/31～11/3（3日間）に例年より募集人数を少人数に設定して実施した。全9回の教室を開講した。

夏休み！博物館学芸員教室開催一覧

期日・教室内容・講師		参 加 者
【10月31日（土）】		
①『削って磨いて、勾玉づくり体験！』	山本 正昭【考古担当】	8名
②『石と友達になろう！』	宇佐美 賢【地学担当】	8名

期日・教室内容・講師		参 加 者
【11月1日（日）】		
③『手羽先で骨格標本を作ろう！』 1	菊川 章【生物担当】	7名
④『手羽先で骨格標本を作ろう！』 2	菊川 章【生物担当】	10名
⑤『貝の矢じりをつくろう！』 1	山崎 真治【人類担当】	5名
【11月3日（火）】		
⑥『沖縄の土で作るクレヨンで絵を描こう！』	宇佐美 賢【地学担当】 保久村 智恵（沖縄美ら島財団）	8名
⑦『動物の歯の石膏レプリカをつくろう！』	澤浦 亮平【人類担当】	6名
⑧『貝の矢じりをつくろう！』 2	山崎 真治【人類担当】	3名

9 博物館ボランティア活動

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入している。第9期博物館ボランティアを募集し、新規ボランティア員の登録が予定されていたが新型コロナウイルス感染症防止対策のため中止となった。また、常設展示（総合展示部門）のガイド養成の募集は令和3年度に実施予定。現在は総勢62名のボランティアを登録している。

※ふれあい体験室専属ボランティアは、令和2年度より博物館ボランティアと統合になった。

（大城 久表）

10 ふれあい体験室

（1）ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は、常設展示として、総合展示・部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せ持っている。

さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

（2）体験キットの位置づけ

展示物(体験キット)は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」に触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができる。

体験キットは、教育普及資料として位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとする。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されている。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていく。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示を行う。

（3）ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（3年生以上）を対象とする。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指す。

（4）体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としている。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもある。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けている。

（5）利用者状況

令和2年度のふれあい体験室利用者数は、1,904人（1日平均46人）であった。昨年度までは年々順調に来場者数が伸びていたが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月から休室せざるを得ず、開室できたのは6月から7月末までの二ヶ月間だけとなった。開室時は、感染症対策として「ふれあい体験室の運営に関するガイドライン」をもとに安全対策に努めた。3月現在、休室が続いている。

（比嘉 麻乃）

11 常設展に関する取り組み

(1) 博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、平成23年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を引き続き常設展入口のラックに設置し、今年度は、2,000枚を配布した。

(2) 博物館・美術館連携事業「博物館・美術館で平和を考えるイベント」

博物館・美術館連携催事として、慰霊の日に「博物館・美術館で平和を考えるイベント」を開催している。美術館で戦争に関する絵画作品を中心に鑑賞ツアーをおこなった後、博物館へ移動し近現代史の展示資料を解説しながら戦前戦後の沖縄について解説する。今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部解説会が中止となり、その代替としてエントランスホールにてパネル展示を実施した。展示期間は6月15日（火）～28日（日）。

(植田 瑞生)

12 普及資料の活用

令和2年度教育普及資料の活用について4月～12月まで新型コロナウイルス感染症拡大防止のため資料貸出休止。1月から一部制限を設け貸出再開。貸出団体数は、6件であった。

教育普及資料貸出一覧（令和2年度）

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	那覇市立城北小学校	民具体験キット	社会科授業	1/8～1/15
2	浦添市立神森小学校	民具体験キット	社会科授業	1/15～1/22
3	那覇市立真嘉比小学校	民具体験キット	社会科授業	1/27～2/3
4	浦添市立内間小学校	民具体験キット	社会科授業	1/29～2/5
5	糸満市立光洋小学校	民具体験キット	社会科授業	2/5～2/12
6	那覇市立銘苅小学校	民具体験キット	社会科授業	2/9～2/16

(大城 久表)

13 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに、展示解説ガイドがある。これは、来館者サービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」で、ボランティアがわかりやすく解説することを目指している。

民俗部門展示室においては、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子供たちを対象に解説ガイドを実施している。歴史を中心とした総合展示部門解説ガイドは、県外専門学校、大学、一般を対象にガイドを行っているが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため全ガイド中止となった。

(1) 民俗部門解説ガイド

	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ボランティア人数
1	修学旅行	沖縄県	10月16日（金）	阿波連小学校	学生	7	2
2	修学旅行	沖縄県	10月22日（木）	仲里小学校	学生	28	3
3	修学旅行	沖縄県	11月6日（金）	カトリック学園海星小学校	学生	27	3
4	修学旅行	沖縄県	2月24日（水）	野甫小学校	学生	6	0
合 計						68	8

(2) 総合展示部門解説ガイド

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、全ガイド中止。

(植田 瑞生)

Ⅳ 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	分担管理	小 計	総 計
自然史	地 学	654	27,924	3,076	1	0	31,655	57,257
	動 物	1,523	18,811	523	141	0	20,998	
	植 物	38	4,563	0	0	0	4,601	
	菌 類	3	0	0	0	0	3	
人 類 資 料		92	30	6	0	2	130	130
美術工芸	絵 画	104	587	2	4	0	697	11,003
	書 跡	180	490	49	6	0	725	
	彫 刻	13	115	136	7	0	271	
	陶磁器	639	3,535	466	538	0	5,178	
	漆 器	238	369	195	19	0	821	
	染 織	1,304	1,822	51	27	0	3,204	
	その他	15	92	0	0	0	107	
歴 史 資 料		2,932	10,327	692	456	0	14,407	14,407
考 古 資 料		298	6,649	2,820	1	0	9,768	9,768
民 俗 資 料		598	6,077	1,072	178	0	7,925	7,925
総 計		8,631	81,391	9,088	1,378	2	100,488	100,490

2 2020年度（令和2）新収蔵資料高

分 類		購 入	寄 贈	収 集	移 管	小 計	総 計
自然史	地 学	19	32	0	0	51	57
	動 物	6	0	0	0	6	
	植 物	0	0	0	0	0	
	菌 類	0	0	0	0	0	
人 類 資 料		0	0	0	0	0	0
美術工芸	絵 画	0	0	0	0	0	37
	書 跡	0	0	0	0	0	
	彫 刻	3	0	0	0	3	
	陶磁器	0	4	0	0	4	
	漆 器	4	0	0	0	4	
	染 織	0	26	0	0	26	
	その他	0	0	0	0	0	
歴 史 資 料		2	0	17	0	19	19
考 古 資 料		0	7	0	0	7	7
民 俗 資 料		3	20	0	0	23	23
総 計		37	89	17	0	143	143

3 2020年度（令和2）新収蔵資料目録

【購 入】

分 類		資 料 名	数量	提供者・所在地	
自然史	生物	ヤンバルクイナ タッチカービング	1	委託製作：内山春雄氏	千葉県
		トビウオ 本剥製	1	委託製作：九州ハクセイ標本社	宮崎県
		アオウミガメ交連骨格	1	委託製作：東京内田科学社	埼玉県
		カワセミ 本剥製	1	委託製作：東京内田科学社	埼玉県
		ミサゴ 本剥製	1	委託製作：東京内田科学社	埼玉県
		ハヤブサ 本剥製	1	委託製作：東京内田科学社	埼玉県
	地学	黒曜石（北海道紋別郡遠軽町産）	1	網走西部森林管理署	北海道
		宝石鉱物（アメシストと水晶の原石～宝石）	8	株式会社シミズ貴石	山梨県
		ギベオン隕石（鉄隕石切断標本）	1	アイソテック株式会社	東京都
		セウムチャン隕石（石鉄隕石）	1	東京サイエンス	東京都
		縞状鉄鉱層（オーストラリア産）	1	東京サイエンス	東京都
		ストロマトライト コレニア・シリンドリカ（中国安徽省産）	1	東京サイエンス	東京都
		アカスタ片麻岩（カナダ産）	1	東京サイエンス	東京都
		ボーキサイト（オーストラリア産）	1	東京サイエンス	東京都
		ルビー・コランダム母岩付（インド産）	1	東京サイエンス	東京都
		モルダバイト（チェコ産）	1	東京サイエンス	東京都
		ダーウィングラス（オーストラリア産）	1	東京サイエンス	東京都
		オウムガイの化石（ベア）（マダガスカル産）	1	東京サイエンス	東京都
		直角石（モロッコ産）	1	東京サイエンス	東京都
		貨幣石ヌムリテス（エジプト産）	1	東京サイエンス	東京都
		ゴキブリの化石（レプリカ）	1	東京サイエンス	東京都
		シャッターコーン	1	東京サイエンス	東京都
		テクタイト（中国産）	1	東京サイエンス	東京都
		上麻生礫岩	1	東京サイエンス	東京都
		マイロナイト	1	東京サイエンス	東京都
美術 工芸	彫刻	円覚寺仁王像	2	一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体	本部町
		聖観音像	1	一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体	本部町
	漆器	朱漆巴紋牡丹沈金透彫足付盆	3	一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体	本部町
		黒漆雲龍螺鈿東道盆	1	一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体	本部町
歴 史		朱漆桜花堆錦提重	1	第14代斎藤用之助	佐賀県
		朱漆竹文角膳	1	第14代斎藤用之助	佐賀県
民 俗		映像「民話の動画コンテンツ」24話一式	1	丸正印刷株式会社・NPO法人沖縄伝承話資料センター	西原町
		映像「ブルーアルケミィー 藍の物語ー」	1	ニューディール・フィルム	
		タイムラプス動画「本部町山里の製藍工程と藍壺の中の七変化」	1	シーバース・スタジオ	

【寄 贈】

分 類		資 料 名	数量	提供者・所在地	
自然史	地学	岩塩（ポーランド ヴィエリチカ産）	1	たばこと塩の博物館	東京都
		岩塩（オーストリアハルシュタット産）	1	たばこと塩の博物館	東京都
		ハロピア化石（今帰仁層）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		石英斑岩の板状研磨標本（名護市産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		本部石灰岩と安山岩の接触部（本部半島産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		貝化石等を含む琉球石灰岩（沖縄市美里産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		貝化石床（久米島町阿嘉産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		シカ化石を含む琉球石灰岩（南城市ジープ洞産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		生痕化石（嘉陽層）	2	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		圧砕岩（本部町産）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		生痕化石（島尻層群豊見城層）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		砂岩泥岩互層の褶曲（嘉陽層）	1	大城逸朗（沖縄石の会会長）	県内各地
		銀鉱石（兵庫県竹野鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		輝水鉛鉱（島根県小馬木鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		閃亜鉛鉱（兵庫県生野鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		重晶石（福島県沼尻鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		方鉛鉱（岐阜県神山鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		輝安鉱（兵庫県中瀬鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		鉄重石（島根県小馬木鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		磁鉄鉱（岡山県山宝鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		赤鉄鉱（岩手県和賀仙人鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		金鉱石（大分県山国旭鉱山産）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		島根県津和野町産の花崗片麻岩（日本最古の岩石、約25億年前）	1	公益財団法人（益富地学会館）	京都府
		軽石（福岡岡の場産）	1	加藤祐三（琉球大学名誉教授）	那覇市
		サヌカイト（香川県坂上市産）	1	宮城直樹	那覇市
		かんらん岩（北海道様似郡様似町幌満産）	1	宮城直樹	那覇市
		ラブラドライト（マダガスカル産）	1	児玉正和	東京都
		ラピスラズリ（アフガニスタン産）	1	児玉正和	東京都
		黄鉄鉱集合結晶	1	児玉正和	東京都
		ストロマトライト（ボリビア産）	1	児玉正和	東京都
		菱マンガン鉱（アルゼンチン産）	1	児玉正和	東京都
考 古		『宮古島の史蹟めぐり』・『郷土研究第4号』・『久松巨石墓発掘記録』（稲村賢敷著作）	3	砂川 章	浦添市
		うるま市伊波採集土器	6	新田邦子	那覇市
美術 工芸	染織	苧麻白地梯梧雀白地型着物（知念績元作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		梯梧雀模様白地型紙（糸掛け）（知念績元作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		古典紋様芭蕉布「波にかえで」（城間榮順作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		波にかえで模様白地型紙（城間榮順作）	6	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		葡萄地落雁桜笹文臚型着物（玉那覇道子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		芒模様白地型紙（玉那覇道子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		落雁桜笹模様染地型紙（玉那覇道子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市

分 類		資 料 名	数量	提供者・所在地	
美術 工芸	染織	藍型両面染「くば笠に梯梧」（藤村玲子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		くば笠に梯梧模様白地型紙（藤村玲子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		縮緬薄茶地月桃文返し型着物（金城昌太郎作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		月桃蝶模様白地型紙（金城昌太郎作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		絹藍地伊集蝶竹文染地型着物（喜友名盛蔵作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		伊集蝶竹模様染地型紙（喜友名盛蔵作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		「熨斗に枝垂れ柳文様」黄色地筒描両面染ウチュクイー（西平幸子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		筒描用糊袋（筒口大）（西平幸子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		筒描用糊袋（筒口小）（西平幸子作）	1	沖縄伝統びん型保存会	那覇市
		絹藍地花倉織琉球衣裳（ルバース・ミヤヒラ吟子作）	1	ルバース ジュリアン	那覇市
		首里花織手巾 朝日（手花織）（ルバース・ミヤヒラ吟子作）	1	ルバース ジュリアン	那覇市
		首里花織手巾 ほたる（緯浮花織）（ルバース・ミヤヒラ吟子作）	1	ルバース ジュリアン	那覇市
		首里花織手巾 天の川（手花織）（ルバース・ミヤヒラ吟子作）	1	ルバース ジュリアン	那覇市
		首里花織手巾 藍花（手結紼）（ルバース・ミヤヒラ吟子作）	1	ルバース ジュリアン	那覇市
		淡青釉緑彩象嵌粟文菊花皿	1	玉城望	大宜味村
		円覚寺鬼瓦	2	玉城望	大宜味村
		面取網代文三彩抱瓶	1	沖縄陶磁器研究会	那覇市
民 俗		ティール	1	平良 ミネ子	大宜味村
		スルガーホーキ	1	平良 ミネ子	大宜味村
		神扇	1	當山 芳枝	中城村
		神扇	1	當山 芳枝	中城村
		ガンドー	1	銘刈 春政	南城市
		三線の胴の蛇皮張りの道具一式	1	銘刈 春政	南城市
		爪の材料	1	銘刈 春政	南城市
		神衣裳（白無地・ネル木綿）	1	西銘 トモ子	与那原町
		神衣裳（白無地・晒木綿）	1	西銘 トモ子	与那原町
		神衣裳（白無地・木綿）	1	西銘 トモ子	与那原町
		神衣裳（白無地・晒木綿）	1	西銘 トモ子	与那原町
		サージ（白無地・晒木綿）	1	西銘 トモ子	与那原町
		絹経縞着物	1	西銘 トモ子	与那原町
		紺地紼着物	1	西銘 トモ子	与那原町
		浅地紼着物	1	西銘 トモ子	与那原町
		紺地紼着物	1	西銘 トモ子	与那原町
		紺地経縞着物（ラミー・シルケット加工）	1	西銘 トモ子	与那原町
		ジーファー	1	西銘 トモ子	与那原町
		ジーファー	1	西銘 トモ子	与那原町
		ジーファー	1	西銘 トモ子	与那原町

【収 集】

分 類	資 料 名	数 量	提供者・所在地	
歴 史	御成橋 橋名板	1	県土木建築部南部土木事務所	那覇市
	かりゆしの島 おきなわ 沖縄のまつり	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ 海洋の民と戦跡と	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ サファイア・ブルーの島々	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ 日本のアマゾンと国境の島	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ 海洋リゾート（本部半島と伊江島）	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ エキゾチックふるさと	1	東京福原フィルムス	
	かりゆしの島 おきなわ 素朴な情熱とのふれあい	1	東京福原フィルムス	
	首里城火災痕の残る部材	9	沖縄総合事務局 国営記念公園事務所	那覇市

4 所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】

2020年3月31日 現在

種 別	名 称		員 数	指定年月日	所有者
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）		1 口	昭53. 6. 15	沖縄県
	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘・旧円覚寺殿中鐘・旧円覚寺楼鐘）		3 口	〃	〃
典 籍	おもろさうし		22冊	昭48. 6. 6	〃
	混効験集		2 冊	〃	〃
	中山世鑑		6 冊	令 2. 9. 30	〃
	蔡鐸本 中山世譜		7 冊	令 2. 9. 30	〃
	蔡温本 中山世譜		12冊	令 2. 9. 30	〃
古文書	琉球国時代石碑	安国山樹華木之記	22基	令元. 7. 23	〃
		官松嶺記			
		円覚禅寺記			
		国王頌徳碑			
		真珠湊碑文			
		崇元寺下馬碑 西			
		一翁寧公之碑			
		ようとれのひのもん・極楽山碑文			
		壺川松尾墓碑			
		板敷橋記			
		勢理客橋碑			
		新濬那覇港碑文			
		琉球新建儒学碑記			
		琉球国創建天尊廟天后宮竜王殿関帝祠総記			
		板良敷村墓碑			
		龍潭浚渫碑			
		重修天女橋碑記			
		改造池城橋碑文			

種 別	名 称		員 数	指定年月日	所有者
古文書	琉球国時代石碑	梵字碑			
		首里新建聖廟碑文			
		竜樋石額（飛泉漱玉）			
		竜樋之碑（霊脈流芬）			
歴史資料	明孝宗勅諭 琉球国中山王尚真宛		1 卷	平11. 6. 7	〃
	間切図	島尻南（兼城間切・高嶺間切・真壁間切・喜屋武間切・摩文仁間切・具志頭間切・東風平間切）	7 枚	平28. 8. 17	〃
		島尻東（玉城間切・知念間切・佐敷間切・大里間切）			
		町方・島尻西（首里・泊・久米・那覇・南風原間切・真和志間切・小禄間切・豊見城間切）			
		中頭南（西原間切・浦添間切・宜野湾間切・中城間切）			
		中頭中（北谷間切・越來間切）			
		国頭（国頭間切 西）			
		離れ（伊平屋島）			

【県指定文化財（有形文化財）】

2020年3月31日 現在

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所有者
絵 画	絹本着色花鳥図殷元良筆	1 幅	昭54. 4. 9	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図殷元良筆	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図殷元良筆	〃	昭57. 3. 4	〃
	紙本着色奉使琉球図	1 卷	昭57. 3. 4	〃
	紙本着色冊封使行列図	1 卷	平15. 7. 11	〃
彫 刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	1 軀 1 枚	昭31. 12. 14	〃
	世持橋勾欄羽目	1 括	〃	〃
	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15. 7. 11	〃
工芸品	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	1 合	昭31. 12. 14	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	〃	〃	〃
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	1 本	〃	〃
工芸品	三線江戸与那	1 丁	〃	〃
	枝梅竹文赤絵碗	1 口	昭54. 9. 3	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃
	色象嵌栗絵菊花皿	〃	〃	〃
	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃
	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭60. 6. 18	〃
	梵鐘（旧普門禪寺鐘）	〃	〃	〃
	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃
	梵鐘 旧大安禪寺鐘（一名 護国寺の鐘）	〃	昭63. 1. 12	〃
	梵鐘（旧永福寺鐘）	1 口	平 2. 2. 6	〃
	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	1 基	〃	〃

種 別	名 称	員 数	指定年月日	所有者
工芸品	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	1 枚	〃	〃
	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	1 合	〃	〃
	黒漆薔薇堆錦軸盆	1 枚	〃	〃
	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	1 合	〃	〃
	三線盛嶋開鐘附胴	1 丁	平6. 3. 15	〃
	三線真壁型銘西平	1 丁	平6. 3. 15	〃
	三線与那城型銘玉城與那	1 丁	平6. 3. 15	〃
書 跡	程順則の書	1 卷	昭42. 4. 11	〃
	扁額徳高 鄭元偉書	1 面	平元. 9. 29	〃
	扁額凌雲 林麟煥書	1 面	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	1 幅	昭31. 12. 14	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	1 通	昭53. 4. 1	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	1 幅	昭56. 3. 30	〃
典 籍	評定所格護定本 中山世鑑	6 冊	昭31. 12. 14	〃
	評定所格護定本 中山世譜	19冊	〃	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	1 点	昭60. 6. 18	〃

5 修理事業

戦後、沖縄戦を経て収集された博物館資料は、戦禍をくぐってきた貴重な資料である。特に琉球王国時代の美術工芸資料のなかには類例がない資料が多くある。資料は適正な温湿度管理のもと収蔵庫で大切に保存しているが、経年による変化で修復が必要な状態になっているものが多い。資料によっては、当館へ収蔵された時点ですでに劣化している資料もある。

当館では、限られた予算の範囲で沖縄の歴史・文化史上重要な資料の修理事業を実施している。令和2年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い予算削減されたが、展示公開の頻度や展示効果の高さを考慮して優先順位をつけて資料を選定・修理を実施した。また、博物館活動のひとつである資料の保存活用を推進するための修理事業についての理解を促すために、令和2年度新収蔵品展では修理コーナーを設けて、修理した資料の展示公開を行った。

その他、令和2年度より住友財団の文化財維持・修復事業を活用し、朱漆巴紋沈金御供飯の修理事業を開始、令和2年度に1期目の修理を完了した。住友財団には、この場を借り、深く感謝の意をここに記す。

【事業内容】

（1）美術工芸・歴史資料修理

予算執行額：1,172,487円

修理件数：4件4点

- ① 査丕烈筆「花鳥図」（1件） 美術工芸（絵画）
- ② 朱漆菊唐草堆錦小箱（1件1点） 美術工芸（漆器）
- ③ 朱漆巴紋牡丹唐草沈金天目台（1件1点） 美術工芸（漆器）
- ④ 黒漆牡丹唐草櫃（1件1点） 美術工芸（漆器）

（2）館蔵朱漆巴紋沈金御供飯修理事業

予算執行額：6,456,685円（内4,000,000円は住友財団の助成による）

- ⑤ 朱漆巴紋沈金御供飯（1件1点） 美術工芸（漆器）



査丕烈筆「花鳥図」

【修理内容】

- ① 令和元年度に寄贈を受けた新収蔵品であるが、保存状態が悪く、虫食いや経年の汚れ、表具の剥離などが見られた。そのため、虫食いを繕いで補修して総裏を打ち、表具・太巻・桐箱を新調した。
- ② 見事な堆錦技法で加飾を施しているが、底面に塗膜の剥離が確認され展示が難しい状態にあった。そのため、塗膜の安定化を中心とする処置を行い、今後安全に保管するため桐箱を新調した。
- ③ 前年度の修理候補であったが、予算の都合上修理が行えなかった。そのため、今年度にクリーニングを中心

とした処置を行い、今後安全に保管するため桐箱を新調した。なお、前年度修理した資料とは別物である。

- ④多数のカビが確認されたため、水及び希釈したエタノールを用い、カビの除去を行った。
- ⑤素地構造の変形とそれに伴う剥離・剥落が見られ、展示が難しい状態にあった。令和2年度は素地構造の安定化を中心とした処置を行い、蓋の変形していた素地をもとに戻すことができた。



朱漆菊唐草堆錦小箱

【修理業者】①石川堂、②～④琉球漆工藝舎、⑤目白漆芸文化財研究所

(伊禮 拓郎)

6 資料保存管理事業 レプリカ・剥製製作（生物資料）

資料収集・保存は、博物館の大きな役割のひとつである。本事業は、県立の博物館施設として、沖縄県に現存する貴重な動植物を剥製やレプリカにして保存することで、その役割の一部を、継続的かつ半永久的に果たしてゆくことを目的としている。本館所蔵のレプリカ・剥製の数、種類は未だ十分とは言えず、今後も展示や研究を視野に入れながら、少しずつ増やしてゆくことが望まれる。

剥製製作予定の標本は、多くが交通事故死等により滅失したものを、拾得者が本館へ寄贈してくれたものである。遺体は剥製にするまで冷凍室で保存している。現在、冷凍室には数百の標本が保管されているため、状態の良い物や保存価値のあるもの（希少性の高いもの）から順に、剥製（またはレプリカ）として再生してゆく。

令和2年度は、以下の動物について剥製、骨格標本およびレプリカを委託製作した。

名 称	提 供	委託製作
ミサゴ 本剥製	どうぶつたちの病院沖縄	東京内田科学社
ハヤブサ 本剥製	〃	〃
カワセミ 本剥製	〃	〃
アオウミガメ 交連骨格		〃
トビウオ 本剥製		九州ハクセイ標本社
ヤンバルクイナ・タッチカービング		内山春雄氏

(菊川 章)

7 資料収集事業

(1) 資料収集

資料収集事業は、文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示において魅力ある展示を構成する上で、資料収集事業は不可欠である。本事業では、沖縄における文化及び歴史的価値の高い資料の購入を計画的に行っている。

令和2年度は「朱漆桜花堆錦提重」及び「朱漆竹文角膳」の2件を購入した。

第11代齋藤用之助が明治期から大正期にかけて沖縄で収集した資料である。第11代齋藤は、明治12年の琉球処分時に佐賀県から警察官として来沖。その後、沖縄県職員となり明治29年に首里区長兼中頭郡長に就任。明治31年には那覇区長兼島尻郡長を務め、大正4年に島尻郡長を退職した。在任中には、学校の設置や街道整備、港の建設や製糖工場の設立、鉄道の敷設などに尽力した。

明治・大正期の資料は沖縄戦によって焼失したものが多く、なかでも時代や製作などの記録が残るモノ資料は貴重である。「朱漆桜花堆錦提重」は琉球漆器の代表的な技法である「堆錦（ついきん）」によって山桜が器前面に施されている。四段重の器には下段から上段にかけて木の幹や枝、桜や小花が途切れることなく続く。このデザインは琉球沖縄の美意識を反映させた代表的な事例である。手提げ部分にも小さなかawaii花柄が施されている。また手提げの底裏部分には「琉球國米次製」とあり、明治期に那覇に寄留し、西本町に開店した米次商店の漆器であることが明確にわかる資料である。

さらに重箱の土台として使用していた「朱漆竹文角膳」の外箱には「大正四年三月 松竹梅沈金 朱塗七寸五段重箱基 齋藤氏」とある。「角膳」（台）と重箱を同時期に購入したと考え、第11代齋藤が島尻郡長を大正4年（1915）4月に退官する直前に入手したものと思われる。時期及び製作、所有者など来歴がはつき

りとした戦前の資料は貴重であり、同資料を調査研究することで、来歴があいまいな他の類似資料の時期及び製作の判断材料にもなり得るものである。

第11代齋藤に関する資料は令和元年度にも購入した。前年度の年報に記載している「琉球豊見城王子朝春（肖像画）」及び『山藍新書』2件に「識名園遊会記念盃」及び「錫製銚子」を加え、令和元年度の購入を4件に訂正する。追加記載した資料の詳細は以下のとおりである。

明治・大正期の資料のなかでも「琉球処分」を象徴するモノ資料は貴重である。尚家や日本政府の紋様に加飾された「識名園遊会記念盃」は行政機関で要職を務めた人物など限られた人のみ所有することができた資料である。また「沖縄糖商同業組合」と銘が入った錫製銚子は伝統的工芸品「大阪浪華錫器」である。さらに本資料は県外にあったことで戦争による被害を免れた。歴史的価値は非常に高いものであり、今回の購入機会を逸すると県外に流出する恐れがある。

「識名園遊会記念盃」は明治16年頃のものであり、齋藤家には1883年頃のもものと伝わっている。日本政府を表す五七桐紋と尚家を表す左巴紋が施されている。琉球王国が明治維新後の日本の中で、沖縄県となったことを象徴する盃といえる。当時、東京にいた尚泰が沖縄に一時帰ったときか識名園が尚家の財産であると日本政府から認められたときに開催された識名園遊会で使用されたとみられる。

法量 大：口径11.8cm高3.5cm 中：口径10.0cm高3.0cm 小：口径9.0cm高2.9cm

「錫製銚子」は明治後半～大正初期のものである。器には「沖縄糖商同業組合新築記念」とある。第11代齋藤が行政に携わる人物として産業振興に貢献していたことをあらわす資料である。錫製で「打出の小槌」や「分銅」「宝珠」など、いわゆる八宝といわれる吉祥紋が陽刻されている。製品は17世から続く大阪府大阪市の伝統的工芸品「大阪浪華錫器」製の銚子であり、沖縄側が注文して製作させた貴重な資料である。

法量 最大幅18.0cm 全高11.0cm

(外間 一先)

(2) 基金

当館の収蔵品は、沖縄の歴史・文化を後世に伝える貴重な資料である。特に先の大戦で戦火を免れた琉球王国時代の資料は現存数が少ないことに加え、文化的・歴史的に非常に価値が高い。当館ではこのような資料を収集し、常設展や企画展において展示公開の機会を設けることにより、沖縄県の文化振興に寄与すると共に県民の学びの場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

資料収集活動の一つである沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という）は、貴重な資料を購入し、県外および国外に流失させないことを目的の一つとしている。当館では、調査研究や展示の充実を図るために、沖縄の歴史・文化の豊かさを表す資料を基金により継続的に収集している。なお収集にあたって外部の有識者による収集委員会を招集し、意見を求めて購入の可否を判断している。本年度の新規購入はなく、平成30年度購入分の買戻しの充当にあてた。

(篠原 あかね)

8 資料貸出

○事業名：浦添市市制施行50周年記念・尚寧王没後400年・てだこのまち首里城応援プロジェクト

「尚寧王展－浦添より首里に照り上がった国王－」

主催：浦添市教育委員会

会場：浦添市美術館

貸出期間：2020年10月12日～11月17日

貸出資料：尚寧王妃墓誌銘木札、石碑「ようとれのひのもん」他 計6件

○事業名：浦添市市政施行50周年記念展・令和2年度第2期常設展「琉球漆芸の今」

会場：浦添市美術館

貸出期間：2020年9月23日～2021年1月17日

貸出資料：黒漆ハゼ螺鈿硯箱（前田孝允作・寄託資料）、朱漆波に千鳥沈金六角食籠（金城唯喜作・寄託資料）、雲龍堆錦文庫（亀島如翼作・当館蔵）

○事業名：国立科学博物館の調査研究

借用先：国立科学博物館

貸出期間：2019年7月8日（月）～2021年3月31日（水）貸出継続中

貸出資料：栗国層群筆ん崎層中の植物化石標本1点

○事業名：展覧会「日本のたてもの一自然素材を活かす伝統の技と知恵」

主催：日本博

会場：東京国立博物館平成館

貸出期間：2020年12月5日（土）～2021年3月8日（月）

貸出資料：首里城正殿模型（1/10スケール）

○事業名：アンモナイト愛好家・土橋浩一の世界

借用先：ネオパークオキナワ

貸出期間：2021年1月14日（木）～3月31日（水）貸出継続中

貸出資料：アンモナイト化石（土橋寄託資料）一式

○事業名：国立歴史民俗博物館 特集展示「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」

主催：国立歴史民俗博物館

会場：国立歴史民俗博物館 企画展示室A

貸出期間：2021年2月15日～5月25日（予定）

貸出資料：円覚寺殿中鐘、宮古島下地の首里大屋子への辞令書、御物城跡出土陶磁器、首里那覇港図屏風 他計17件

○事業名：常設展示「日本の文化（沖縄のくらし）」

主催：国立民族学博物館

会場：国立民族学博物館 本館展示場

貸出期間：2013年12月10日～2023年3月31日

貸出資料：黒釉嘉瓶、張り子、農具・漁具等計33件35点及び映像「ウミのワザ」

9 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、資料の写真画像等の貸出も行っている。毎年、多くの写真借用・資料撮影関連の依頼があり、2020年度は博物館班に260件の申請があった。

【利用区分】は、「1. 写真原板（デジタルデータ）」、「2. 撮影」、「3. 掲載」に分けられる。内訳は、1. 写真原板（デジタルデータ）は、129件、2. 撮影は34件、3. 掲載は144件となっている（※件数は重複する）。

【目的・事項】は、「出版物」が133件、「映画」は0件、「テレビ」が62件、「DVD」が5件、「CD」は2件、「その他」が130件で、「その他」の利用に関しては、調査研究のための資料収集、展示会パネル、インターネット、講演会への使用などがあげられる。ほか「複製」が1件となっている。

申請先は、出版社関係が多く、次いでテレビ番組や映像製作会社、博物館・資料館などの各機関、広告関連会社となっている。

分野ごとに希望の資料をみていくと、歴史分野では、「旧首里城正殿鐘」が最も多く、テレビ番組や沖縄の観光パンフレットまた、文部科学省検定教科書での利用が多い。美術工芸分野では、絵画の申請がもっとも多く、「首里那覇港図屏風」や「冊封使行列図」、「琉球人座楽之図」などで、次いで、染織の紅型衣裳と続く。民俗分野では「三線」が多く、次いで「厨子甕」などの希望が多い。考古では「線刻石版」や土器類。自然史分野では、近年継続して成果報告があげられているサキタリ洞遺跡の出土品や「港川人復元模型」の申請が多い。

今年度は、新型コロナウイルス感染症により、緊急事態宣言期間は休館となった。その間、沖縄県と他府県との往来が制限され、撮影に来館できない状況となった。そのため、制作会社からは収蔵品資料の画像についての問い合わせが増えた傾向にある。

また、申請手続きに関しては、これまで申請書様式をホームページに掲載されておらず、担当者が在宅勤務などで不在のため対応できないなど、利用者に不便を強いていたこともあった。指定管理者含め館内で調整し、新たに「利用の手順についての案内」ならびに、「申請書様式」をホームページに掲載することで、利用に関する問い合わせにも、迅速に対応できるようになった。

（勝連 涼子）

美術館

- I 調査研究等の活動
- II 展示活動
- III 教育普及活動
- IV 資料収集・保存管理

I 調査研究等の活動

1 調査研究の概要

調査研究事業（以下、本事業とする）を美術館活動の根幹と捉え、開館準備の頃より収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点を置いて積極的に取り組んできた。

しかし、今年度はコロナ禍の影響で、他府県及び離島への渡航禁止など調査に制限がかかったこと、さらに館内での機器故障による予算の補填が求められたことから、研究紀要の発行は次年度と合併し刊行することとなった。

前年度に引き続き、各学芸員の調査研究については、コレクション展・企画展の展覧会計画に基づいて、数年にかかる中長期的な調査研究のビジョンを共有し、研究の深度を改善できるよう努めた。

（1） 調査研究の事業内容

- ①美術品の収集に関すること
- ②美術品の保存科学に関すること
- ③美術品の修復に関すること
- ④展示技術に関すること
- ⑤教育普及に関すること
- ⑥美術情報提供システムの活用に関すること
- ⑦ボランティア育成支援に関すること
- ⑧美術館の振興に関すること

（2） 学芸員研究

研究テーマを設定し、一年ないしは数年をかけて調査研究に取り組み研究紀要にまとめる。

（3） 調査研究体制

調査研究活動は学芸員及び美術品調査員で実施した。画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存しており、展覧会事業、収集事業といった内部資料はもとより、個人情報保護の範疇にないものに限る、外部のレファレンスにも対応するよう心掛けている。その場合は熟覧申請等、正式な申請をふまえている。

（4） 外部からのレファレンス対応

- ①NHK名古屋局 久志美紗子に関する調査への協力（2020年7月3日～5日）
- ②石川県立美術館より首里城下図の情報について（2020年9月15日）
- ③岐阜県立美術館よりコレクション作家（鯉江良二）に関する回答（2021年1月20～21日）
- ④足利市立美術館より1950年代以降の沖縄におけるギャラリーの活動について（2020年3月11日）
- ⑤アーツ・イニシエティヴ・オキナワより連携に関する調査（2020年3月22日）

（豊見山 愛）

2 調査・研究・講演・著作論文等

富原 圭子（主任学芸員／教育普及担当）

- 調査・研究
 - ・コレクション3鑑賞サポートシート作成（2020年4月～2021年3月）
 - ・コレクション3ニシムイ美術村中学校鑑賞資料作成（2020年4月～2021年～）
- 研修等
 - ・社会教育主事講習（沖縄県南部合同庁舎等）（2020年1月21日～2月18日）

豊見山 愛（主任学芸員）

- 調査・研究（主として研究課題が展覧会企画業務に関わるものを選定し記述）
 - ・収集候補作品（與那覇朝大）に関する調査（2020年4月3日）
 - ・大城精徳に関する聞き取り調査（2020年6月5日）
 - ・収集候補作品（與那覇朝大）に関する調査（2020年6月24日）
 - ・収集候補作品（川平恵造）に関する調査（2020年6月25日）
 - ・収集候補作品（山川さやか）に関する調査（2020年7月4～5日）
 - ・大城精徳に関する聞き取り調査（2020年7月9日）
 - ・寄託候補作品調査（某社・2020年7月10日）

- ・沖縄銀行展示作品調査（沖縄銀行本社）（2020年8月19日）
- ・琉球銀行展示作品調査（琉球銀行）（2020年8月19日）
- ・収集候補作品（川平恵造）に関する作品状態調査及び聞き取り（2020年9月16～17日）
- ・大城精徳に関する聞き取り調査（2020年10月5～7日）
- ・山元文子に関する聞き取り調査（2020年11月1日）
- ・Tom Max（真喜志勉）展調査（2020年11月28日）
- ・比嘉加津夫に関するご遺族調査（2020年12月4日）
- ・中島イソ子展調査（ギャラリーアート・ミューズ）（2020年12月18日）
- ・屋部憲に関する調査（ご遺族宅）（2021年3月17日）
- ・収集候補作品（川平恵造）に関する調査（2021年3月24日）
- ・阪田清子展に関する調査（アンテルーム那覇）（2021年3月30日）
- 研修等
 - ・法制執務研修（自治研修所）（2020年7月30～31日）
 - ・行政法研修（自治研修所）（2020年9月10～11日）
- 講演・発表等
 - ・「子どもの情景」展キュレータートーク＋学芸員講座（2020年11月28日 美術館講座室・コレクションギャラリー2）
 - ・「木下晋アーティストトーク」聞き手（2020年12月5日 美術館講座室・コレクションギャラリー2）
- 著作・論文等
 - ・「沖縄戦後前衛美術 / TOM MAX」『真喜志勉 TOM MAX Turbulense 1941-2015』多摩美術大学美術館発行 2020年7月
 - ・「描かれた首里城」2020年7月15日、文化面（14）
 - ・「描かれた首里城」2020年8月26日、文化面（14）
 - ・Sai yuhki art works “Lirics2003-2015” 齊悠記、2020年10月31日発行
 - ・九州藝術学会「デ・アルテ」執筆

梶原 正史（保存修復担当学芸員）

- 調査・研究
 - ・稲嶺成祚作品調査（企画展関連）（2020年4月3日）
 - ・稲嶺成祚作品調査（企画展関連）（2020年5月12日）
 - ・金城安太郎作品調査（収集関連）（2020年5月23日）
 - ・企画展借用予定作品状態調査（県立図書館）（2020年5月29日）
 - ・與那覇朝大作品状態調査（収集関連）（2020年6月24日）
 - ・川平恵造作品状態調査（収集関連）（2020年6月25日）
 - ・タカエトシコ作品修復工房へのクーリエ業務（2020年7月26～28日）
 - ・作者不詳の油彩画状態調査（旧銘苅庁舎）（2020年9月3日）
 - ・収集委員会出品作品の状態調査・輸送の梱包についての調査（2020年9月4日）
 - ・大城皓也作品状態調査（収集関連）（2020年10月7日）
 - ・嘉数能愛作品状態調査（収集関連）（2020年10月20～21日）
 - ・真喜志勉、山川さやか作品状態調査（収集関連）（2020年10月22日）
 - ・石川真生作品状態調査（企画展関連）（2020年11月10～11日）
 - ・安谷屋正義作品状態調査（収集関連）（2020年12月6日）
 - ・真喜志勉作品状態調査（収集関連）（2020年12月11日）
- 講演・発表等
 - ・名 称：「学芸員講座 保存修復の現場から」
 - 日 時：2020年9月15日 ※コロナウイルス感染防止のため、中止
 - 場 所：美術館講座室

亀海 史明（学芸員）

- 調査・研究
 - ・石川真生に関するアトリエ調査（豊見城市）（2020年4月3日、14日、17日、5月24日、27～28日、6月3日、5日、10日、13日、16日、19日、24日、26日、7月1～2日、8～10日、17日、21日、29～30日、8月7日、12日、20日、22日、27日、9月11日、16日、23日、25日、28日、10月1日、5日、7～8日、23～25日、27日、12月10～11日、15日、25日、2021年1月7日）
 - ・石川真生に関する文献調査（沖縄県）（2020年4月20日、6月30日、7月13～14日、28日、8月4日、10月28日、12月8日、2021年1月5～6日、2月3日）

- ・石川真生に関する展覧会調査（沖縄県、東京都特別区、神奈川県横浜市）（2020年8月30日、9月6日、10月9～11日）
- ・美術館発信基盤整備事業に関する、二次資料調査（沖縄県）（2020年10月27日、2021年1月19日）
- ・山田實に関する作家調査（那覇市）（2020年10月6日、30日、11月6日）
- ・東松照明に関する展覧会調査（愛知県名古屋市）（2021年3月24日）
- ・石川竜一に関する展覧会調査（東京都特別区）（2021年3月25日）
- ・写真展覧会調査（東京都特別区）（2021年3月26日）

○講演・発表等

- ・名称：「おきみゅーシネマラボ」
日時：2020年10月25日
場所：講堂
- ・名称：「沖縄美術の流れ（写真） 山田實：こどもたちのオキナワ」ギャラリートーク＋学芸員講座
日時：2020年11月7日
場所：美術館講座室
- ・名称：「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」ギャラリートーク
日時：2021年3月6日、27日
場所：企画展示室

○著作・論文等

- ・「石川真生の写真について」『石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。』（展覧会図録）2021年3月

大城 さゆり（学芸員／近現代美術担当）

○調査・研究

- ・「稲嶺成祚展」作品調査（那覇市）（2020年4月3日、5月12日、6月12日）
- ・「稲嶺成祚展」作品調査（県立図書館）（2020年5月29日）
- ・石垣克子展覧会調査（浦添市）（2020年6月1日）
- ・稲嶺成祚聞き取り調査（那覇市）（2020年6月5日）
- ・「稲嶺成祚展」作品調査（那覇市、浦添市、西原町）（2020年6月16日）
- ・胡宮ゆきな展覧会調査（南風原町）（2020年12月2日）
- ・沖縄アジア国際芸術祭展覧会調査（那覇市）（2020年12月3日）
- ・真喜志勉作品調査（浦添市）（2020年12月11日、25日）
- ・コザ暴動プロジェクト展覧会調査（沖縄市）（2020年12月17日）
- ・HAYATO MACHIDA展覧会調査（沖縄市）（2020年12月17日）

○講演・発表等

- ・名称：稲嶺成祚展「学芸員講座＋キュレータートーク」
日時：2020年10月3日
場所：企画ギャラリー
- ・名称：稲嶺成祚展「クロストーク」
日時：2020年10月24日
場所：講堂
- ・名称：絵画特論「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」と近現代沖縄美術
日時：2020年10月27、28日
場所：沖縄県立芸術大学、沖縄県立博物館・美術館企画ギャラリー
依頼機関：沖縄県立芸術大学

○著作・論文等

- ・「大城皓也《島の女》から《紅型の女》へーゴーギャンイメージを基にした沖縄の女性像に関する一考ー」『科研費基盤研究（C）「アジア美術におけるゴーギャン受容」報告書』 後小路雅弘 2020年3月
- ・「絵画の原風景ー稲嶺成祚作品の記号、そして心象風景ー」『令和2年度沖縄県立博物館・美術館企画展 沖縄の美術シリーズⅧ 稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。』沖縄県立博物館・美術館 2020年9月

Ⅱ 展示活動

1 展示活動概要

美術館のコレクション展は、テーマ展示もしくは個展の形式で収蔵作品及び寄託作品を公開している。例年3

期に分けて展示替えを行うが、2020年度は新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言を受けた臨時休館を挟んだため、各展覧会期を延長。展示替えを2期へと変更した。コレクションギャラリー1では映像や写真を紹介し、コレクションギャラリー2では絵画や立体作品、アジア美術等を展示、コレクションギャラリー3では近現代の美術作品を時系列に展示して沖縄の美術史を紹介した。

企画展は学芸員の調査研究を基に、郷土の芸術家や、沖縄ゆかりの国内外の優れた芸術家、あるいは現在活躍する現代美術作家に関する自主企画展を行うほか、他館との連携なども行いながら展示公開している。

(大城 さゆり)

2 コレクション展（常設展）

（1）コレクションギャラリー1

①タイトル：「石田尚志展」【映像・立体】

会 期：2020年2月15日（土）～2020年10月11日（日）〔臨時休館により会期を3か月延長〕

担 当：大城さゆり

内 容：10代後半を沖縄で過ごした石田尚志（1972～）は、線を少しずつ描いては撮影する、という行為を繰り返すドローイング・アニメーションの手法で知られ、その作品は「動く絵（ムーヴィング・ピクチャ）」と称されている。本展では、平成30年度に収蔵した3つの映像作品、《渦巻く光》（2015）、《海の映画》（2007）、《部屋／形態》（1999）を展示した。加えて、《渦巻く光》に関連する立体作品の《ダンス》《彫刻／4：5》と、映像作品《おもちゃ》を特別展示して最新作を紹介した。

②タイトル：「沖縄美術の流れ（写真）山田實〈こどもたちのオキナワ〉」【写真】

会 期：前期 2020年10月20日（火）～2021年1月11日（月）

中期 2021年1月13日（水）～2021年4月4日（日）

後期 2021年4月6日（火）～2021年6月27日（日）

担 当：亀海史明

内 容：山田實（やまだ・みのる、1918-2017）は沖縄県那覇市出身の写真家で、沖縄に住むこどもたちを数多く撮影している。召集を受けて戦地に赴き、戦後、抑留を経て生還した山田は、戦火による荒廃から復興する沖縄を巡り、苦境にありながらも健気に生きるこどもたちを撮り続けた。今回のコレクション展では、当館所蔵の山田實作品から〈こどもたちのオキナワ〉シリーズを紹介した。

（2）コレクションギャラリー2

①タイトル：「大城精徳の仕事」【絵画】

会 期：2020年2月15日（土）～2020年10月11日（日）〔臨時休館により会期を3か月延長〕

担 当：豊見山愛

内 容：大城精徳（あるいは精豊、1928～2007）は沖縄の画家であり、雑誌『琉球の文化』（全5号、1972～74年、琉球文化社）を創刊した郷土文化研究者としても知られている。本展は、平成30年度に新たに収蔵した絵画を含む22点を展示し、大城精徳が描いた沖縄を検証した。加えてアメリカ留学やグループ展、『琉球の文化』に関する資料類も多数展示し、沖縄文化総体に関わる大城精徳の仕事を幅広く紹介した。

②タイトル：「子どもの情景」【絵画・写真・彫刻】

会 期：前期 2020年10月20日（火）～2021年2月28日（日）

後期 2021年3月5日（金）～2021年6月27日（日）

担 当：豊見山愛

内 容：本展覧会は当館のコレクションから、アジアコレクションを含む、子どもと社会とのかかわりをテーマにした38点の美術作品を選び、展示した。

出品作品から見てみると、中国（内モンゴル自治区）出身の現代美術家・ウェイ・ドン（魏東）は、内モンゴル自治区の出身で、子供時代に中国の文化大革命（1966-1976）のため外出がままならず、絵ばかり描いて過ごしていた。《芸術家と風景（権力が大人の遊びであるように羽子は子供の遊びである。）》は、ウェイのように社会状況に翻弄される、子どもの姿を表す。しかし子どもの姿は時に、希望の象徴として描かれる。

戦後沖縄を牽引したニシムイの画家の一人、安谷屋正義が《まんま》を描いた1951年は、那覇市首里儀保町にコンセット（仮設住宅）で生活をしていた。描かれた少女のモデルは長女であり、安谷屋は生命感をこの絵で表現している。

以上のように、本展覧会では、国や時代の違う18作家による表現を、2つの章「子どもへのまなざし」と「子どもからのまなざし」に分けて紹介した。

(3) コレクションギャラリー3

①タイトル：「沖縄美術の流れ」【絵画・彫刻・写真・映像・現代美術】

会 期：前期 2020年10月20日（火）～2021年2月28日（日）

後期 2021年3月5日（金）～2021年6月27日（日）

担 当：富原圭子

内 容：沖縄には、その風土や歴史から育まれてきた独特な文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場や状況に大きく影響されながら培われてきた。本展では、沖縄の近現代美術の流れを概観した。なかでも、戦後沖縄美術を牽引したひとりである安谷屋正義（あだにや・まさよし、1921－1967）に焦点をあて、その作品を紹介した。

※臨時閉館を挟んだため2019年度「沖縄美術の流れ」会期を3か月延長。2020年度展示開始は10月となった。

3 企画展 「沖縄の美術シリーズⅦ 稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」

会 期：2020年（令和2）9月18日（金）～11月3日（火）

会 場：美術館企画ギャラリー1・2

観 覧 料：一般1,100円（880円）高校・大学生500円（400円）小・中学生200円（160円）

※（ ）内は前売・団体料金。※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は半額。

観覧者数：2,994名

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

協 力：沖縄県立図書館、琉球大学教育学部附属小学校、首里カトリック幼稚園、浦添市立港川小学校、仲井真こども園

後 援：沖縄県教育委員会、那覇市教育委員会、沖縄県文化協会、那覇市文化協会、沖縄県美術家連盟、沖縄県造形教育連盟、一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送、ラジオ沖縄、エフエム沖縄、NHK沖縄放送局、f m那覇（順不同）

【開催趣旨】

本展覧会は、沖縄の美術家にスポットをあてた「沖縄の美術シリーズ」の第8回で、沖縄の美術・文化の普及に尽力した画家・稲嶺成祚（1932－）の仕事を、初期から近作まで振り返る回顧展。

稲嶺は1951年に琉球大学美術工芸科に入学し、在学中に沖展への出品を始めてその画業をスタートした。卒業後は1年間東京に滞在して様々な西洋絵画を観る中で、これまで学んだアカデミックな油彩画に疑問を抱くようになり、伝統的な西洋画の様式から脱却した平面的な画面を志向していく。

「何を描くかも大事だが、どのように描くかの方に、より重大なメッセージが入る」と語り、独自の様式を作り出そうと試みる稲嶺。その模索の中で、稲嶺の絵の様式は幾度か変化を迎えた。本展はその作風の変遷をたどり、60年以上にわたる画業の独自性を検証する。

【展示構成】

第1章 写実からの脱却

1932年に真和志村上之屋（現・那覇市上之屋）に生まれた稲嶺成祚は、安里国民学校6年生の時に熊本へと学童疎開し、戦火を逃れる。しかし終戦後に戻った故郷は、石灰岩むき出しの焦土と化してすっかり姿を変えていた。その後那覇高校に進学した稲嶺は、画家・島田寛平が指導する美術クラブに所属し、物資不足の中で米軍の廃品捨て場から筆記用具を探し出して絵を描く日々を送った。同校卒業後は、琉球大学美術工芸科に進学して大城皓也、山元恵一、安次嶺金正、安谷屋正義らの指導の下で絵画の基礎を学ぶ。

しかし沖縄で絵を学ぶことに限界を感じていた稲嶺は、卒業後1年間東京に滞在して研鑽を積むことを決意した。新宿美術研究所に通いながら美術館や画廊を巡る中で、ブリヂストン美術館に展示されていた肖像画の真に迫った写実に衝撃を受け、西洋の様式を追っている西洋に敵わないと考えるようになり、日本画の平面性に着目する。この時から稲嶺は、これまで学んだアカデミックな写実表現と決別し、自らの様式を作り出そうと考えようになった。

沖縄に帰った後はエジプト壁画に着想を得て、平面的に描いた作品を沖展へ応募したが評価されずに落選してしまう。それでも自らの様式を作り出したいという模索を続け、画面は次第に象形文字のような抽象表現へと発展していった。

第2章 記号のプロセス

象形文字から、円、格子へと表現を抽象化していった稲嶺。それらは絵画の平面性を追求した試みであったが、

次第に絵の要素を分解していく抽象絵画の還元主義的な方法に疑問を抱くようになり、具象表現へと転換を見せる。その頃、沖縄造形教育研究所に所属して小学校教員と共に幼児画の指導法を考えていた稲嶺は、子どもが描く単純化された形に注目する。「写真のように描いても自動車、子供が描く稚拙な描線でもやはり自動車とわかる」「最も原始的・記号的な形でも、我々には具象としての意味伝達が可能であるということ、それを使って絵画としての表現にまで高められるはずだ」と、記号的表現に具象絵画の根源を見出した稲嶺は、B52やベトナム戦争など当時の社会状況を記号的な形で描くようになっていく。

幕間 実験部屋

稲嶺は初期から現在に至るまで、10号以下の小さな作品を数多く制作してきた。小さな作品は、自らの様式を生み出そうと探求する稲嶺の実験場でもある。また、1980年代以降に手掛けるようになった壁画の仕事は、その画面の大きさゆえに、それまでとは違った構図を模索するきっかけとなり、稲嶺作品の様式や構図を変化させる転換点になった。そうした作品で展開された様式上の実験の痕跡を紹介するとともに、壁画やポスター等、稲嶺の社会的な仕事に関する資料類を展示する。

第3章 面から線へ

「本土復帰」を経ると稲嶺の画面から沖縄の社会状況を示すモチーフは見られなくなり、風景画が描かれるようになっていった。加えて色の濃淡を無くし、輪郭線のない均一な色面のみで作画を試み、自らの様式の原点となった「平面性」に帰属する。また自らの絵の起点について「かつて『概念的な絵』という言葉がよく使われました。絵を酷評するもっとも強力な武器としてです。『おれは概念的な絵をかいてやろう』と思い立ったのが私の絵の始まりでした。『概念』は事物としての質や量がなく、つまり迫真性がなく、ふわふわしたものです。その軽さと自由自在さを逆手に使おうと思ったのです」と語り、一貫して写実性や技巧によらない「概念的」な絵を突き詰めようとしてきた。

1972年から琉球大学で教鞭をとるようになったことで、壁画などの公的な仕事に携わっていくうちに、中世絵画などにみられる絵画の装飾性に着目し、1980年代以降はあらゆる模様を描き込む線の表現へと展開を見せていく。

第4章 パラレルワールド

1990年代になると線と線の間を色面で埋めるようになり、再び色面の世界へと移行する。いかに空間を埋めるかに注力する中で、背景と人物は同じような色調で塗られ、輪郭線も失われ、モチーフと背景の前後感を極力なくしたよりフラットな空間を作り出そうと試みる。やがて一つの画面は複雑に分割され、異なる時間や空間が同居したパラレルな世界が作られていく。稲嶺は「日常は様々な場面の集合で成り立っている」と言い、「家族」のような身近なテーマこそ「場面の複数性」という特徴が顕著に現れる。

稲嶺は初期から意識している「平面性」や、その後行きついた「場面の複数性」、そして幼児画から見出した具象画の根源としての「記号性」を絵画の文法とし、自身の様式を追求しながら現在まで制作を続けている。

【関連催事】

(1) アーティストトーク

日 時：2020年9月18日（金）10:00～11:00

会 場：企画展示室

参 加 者：50名

講 師：稲嶺成祚（本展覧会作家）

(2) 学芸員によるギャラリートーク

日 時：2020年10月3日（土）14:00～15:00

会 場：企画展示室

参 加 者：14名

講 師：大城さゆり（本展担当学芸員）

(3) 関連展覧会「LET'S OPEN THE WINDOWS」

日 時：2020年9月25日（金）～27日（日）

会 場：県民ギャラリー3

来 場 者：325名

出 品 者：石垣克子（画家・図録執筆者）、宜保朝子（画家・図録執筆者）、HAYATO MACHIDA（画家・図録執筆者）

(4) クロストーク

日 時：2020年10月24日（土）14:00～16:30

会 場：講堂

参 加 者：48名

講 師：【第1部】稲嶺成祚（本展覧会作家）、崎山律子（那覇市文化協会会長）

【第2部】稲嶺成祚、永津禎三（琉球大学名誉教授）、仲間伸恵（琉球大学教育学部准教授）、前田比呂也（寄宮中学校校長）

【展示平面図】



廊 下



4 章



3 章



実験部屋出口



実験部屋



1 章



2 章



実験部屋

(大城 さゆり)

4 企画展 「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」

会 期：2021年3月5日（金）～2021年6月6日（日）

会 場：美術館企画ギャラリー1, 2

観 覧 料：一般1,200円（960円）高校・大学生800円（640円）中学生以下無料

※（ ）内は前売・団体料金。※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方1名は半額。

フリーパス2,400円（会期中入場可能）

観覧者数：1,563名（2021年3月31日時点）

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館

協力：nap gallery

後援：NPO法人沖縄県立美術館支援会happ、一般社団法人沖縄県美術家連盟、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送、エフエム沖縄、エフエム那覇、ラジオ沖縄（順不同）

【開催趣旨】

海外でも広く紹介され、いまなお精力的な制作活動が続ける写真家・石川真生（いしかわ・まお 1953-）。その写真には、立場に囚われ矛盾や葛藤を抱えながらも、個人としてどう生きるべきかを問いかける、人々の生そのものの力強さが写されている。

本展では、作家が所蔵している発表当時のヴィンテージプリントを中心に、初期から最新作までの各シリーズから作品を選び、総数約500点の作品を紹介する。

【関連催事】

（1）マスコミ向け内覧会

日時：2021年3月4日（木）16:00～18:00

会場：エントランス／企画展示室

参加者：50名

（2）ギャラリートーク

日時：2021年3月6日、27日（土）14:00～15:00

会場：企画展示室

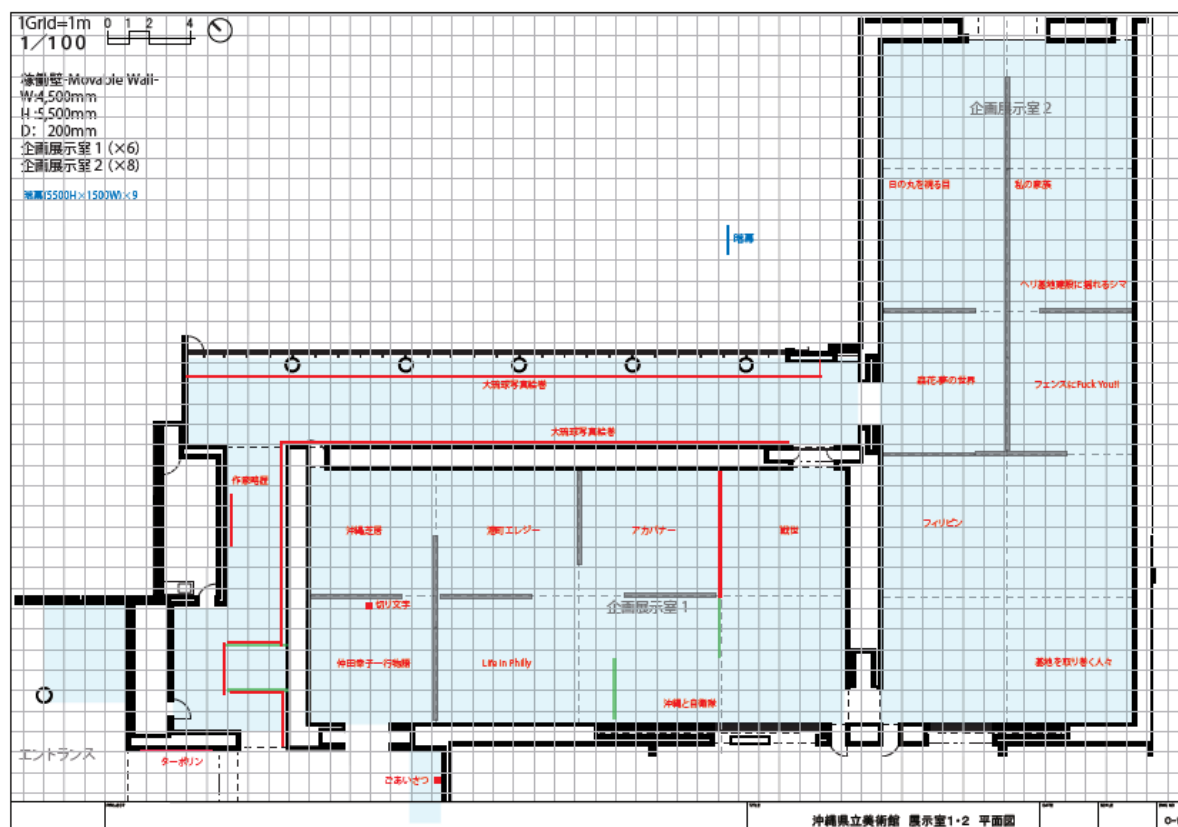
参加者：50名、71名

講師：石川真生



会場風景

【展示平面図】



（亀海 史明）

Ⅲ 教育普及活動

1 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という3つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、ガイドボランティアによる「対話による鑑賞」を展開し、作品の解説だけではなく、初めて美術館に来る子供たちのために対話の中で作品の楽しみ方を伝えている。

実技体験では、夏休み子どもフェスタにおいて多彩なプログラムで多くの児童生徒が参加し、また、展覧会と関連させたワークショップも実施した。その他、学芸員によるキュレータートーク、作品制作者やその関係者によるアーティストトークやギャラリートークなどを美術館講座室と展示室で実施した。

本年度の教育普及事業では、新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、従来から取り組んでいる学校との連携を図る鑑賞プログラムである「学校団体対応プログラム」や当館がバスを手配し美術館に招待する「美術館へ行こう」を縮小し、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」も自粛を余儀なくされることとなった。しかし、その中でも小学校・中学校・高校・大学と美術館の連携授業は、継続することができ、調査・研究を進めることで大きな成果があった。

中学生・高校生向けに製作したニシムイ鑑賞プログラムが昨年完成し、教職員に公開した。今年度は資料を配布し活用をしてもらえるように出前レクチャーを計画していたが実施できず、そのような状況の中、美術館のホームページに「ニシムイ鑑賞プログラム」の授業で使える動画を開設したことで、誰もが学びの機会を持てるようになった。また、2018年から継続しているプログラムとして地元の素材・題材にこだわった、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWAアートワークショップ」は大好評で、今年度も新しいプログラムを開拓した。継続的な取り組みとして、3点の美術品の複製を行い、当館収蔵作品の中から、複製作品を制作することにより、今後「美術館出前授業」や「移動展」にその活用が積極的に行われ、当館の収蔵作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となった。

2 鑑賞活動支援

作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレータートークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティストトーク、ギャラリートークを行った。また来館者に対して鑑賞ボランティアによる「鑑賞ツアー」を、展示室内で作品を観ながら行った。

(1) キュレータートーク・学芸員講座

展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また開催するにあたり進めてきた調査・研究の内容を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会へ向けての情報収集となる。



亀海史明学芸員

回	月 日	曜	展示会名	担 当	参加者
1	9月5日	土	学芸員講座「保存修復の現場から」 ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	梶原正史	—
2	10月3日	土	「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 学芸員によるギャラリートーク	大城さゆり	14
3	11月7日	土	山田 実「こどもたちのオキナワ」 学芸員講座＋キュレータートーク 講師：山田 勉（写真家） 高良由加利（琉球新報元記者・県立高校教諭）	亀海史明	23
4	11月28日	土	美術館学芸員講座「子どもの情景」 学芸員講座＋キュレータートーク	豊見山 愛	24

(2) アーティスト（ギャラリー）トーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家

に対して、新たな気付きや理解がより深まることに繋がっていく。



オープニングギャラリートーク



稲嶺 成祚氏



木下 晋氏

回	月 日	曜	展覧会名	参加者
1	6月30日	土	「石田尚志」関連催事 ギャラリートーク 講師：石田尚志（アーティスト） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	—
2	6月15日	月	「大城精徳の仕事」展関連催事 大城精徳の仕事について語る 講師：宮城篤正（元沖縄県立芸術大学学長、画家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため講話を撮影しホームページで公開	—
3	9月18日	金	「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」オープニングギャラリートーク 講師：稲嶺成祚（画家）	50
4	9月24日 9月25日	木 金	「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 座談会（撮影） 講師：稲嶺成祚（画家）、石垣克子（画家）、 宜保朝子（画家）、HAYATO MACHIDA（画家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前に撮影し会期中エントランスで公開	—
5	12月5日	土	「子どもの情景」関連催事 ギャラリートーク 木下晋トーク 体が壊れても、命は生き続ける。 講師：木下 晋（画家）	25
6	3月6日	土	「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家）	50
7	3月27日	土	「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」関連催事 ギャラリートーク 講師：石川真生（写真家）	71

（3）学校団体対応

学校団体に対して展示作品の鑑賞を支援するプログラムを行った。鑑賞ボランティア員が案内役となり、コレクション展の中から2～3作品程度を選び、グループ別に「対話による鑑賞」を通してお互いに共感し合いながら作品理解を深めた。

	学校招聘事業	事前学習/打ち合わせ	来館日	参加(人)
1	沖縄県立石川高等学校（芸術コース）	7月8日	9月24日	8
2	沖縄市立室川小学校（5年生）	11月5日	11月20日	48
3	糸満市立高嶺中学校（2年生）	10月9日	11月27日	48
4	豊見城市立伊良波中学校（美術部）	鑑賞サポートシート	12月19日	25
5	子どもアトリエ・ネロ	鑑賞サポートシート	12月19日	10
6	宜野座村教育委員会	ニシムイ資料	12月20日	10
7	沖縄県立那覇西高等学校	鑑賞サポートシート	3月5日	中止



学校の教師と鑑賞



子どもアトリエ ネロ鑑賞



学芸員による解説

3 ミュージアム・ツアー

収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内する事業。学芸員の仕事や美術作品に対する保存、展示についても学ぶ機会となっている。前年度からコレクションギャラリーの鑑賞と合わせて行っている。内容は、*トラックヤード*一時保管庫*収蔵庫*工作室*修復室*展示室作品鑑賞

回	月 日	内 容	担 当	参加人数
1	5月23日	伝える（教育普及）	富原圭子	コロナ拡大防止のため中止
2	7月18日	集める（資料収集）	亀海史明	10
3	9月12日	みせる（展示公開）	大城さゆり	8
4	11月3日	まもる（保存・修復）	梶原正史	12
5	2月20日	調べる（調査研究）	豊見山愛	コロナ拡大防止のため中止



（教育普及・伝える）富原学芸員



（保存修復・守る）梶原学芸員



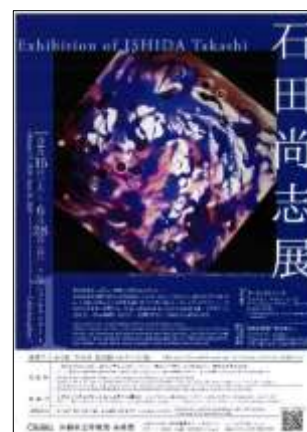
（資料収集・あつめる）亀海学芸員

4 コレクション・企画展関連催事

（1）「石田尚志」展

会 期：2020年2月15日（土）～6月28日（日）

※2020年3月1日に予定していたアーティストトークは、新型コロナウイルスの影響で、開催2日前の2月28日に中止が決定した。トークに際して彫刻作品を設置するパフォーマンスを行う計画であったため、同日に臨時で石田氏が彫刻作品を設置した。



① ギャラリートーク

【日 時】2020年5月31日（日）14:00～15:30（新型コロナウイルス蔓延防止のため中止）

【会 場】美術講座室・コレクションギャラリー1

【講 師】石田尚志氏（写真家）

(2) 「大城精徳の仕事」展

会 期：2020年2月15日（土）～6月28日（日）

① ギャラリートーク＋キュレータートーク

【日 時】令和2年2月29日（土）14:00～15:30
 （新型コロナウイルス蔓延防止のため延期）6月開催
 【会 場】コレクションギャラリー2
 【講 師】宮城篤正（元・沖縄県立芸術大学学長）
 【撮影日】2020年6月15日（月）15:00から16:00

新型コロナウイルス蔓延防止のため中止となったため宮城氏のギャラリートークを撮影し、展示室にて上映した。



宮城篤正氏



宮城氏と豊見山担当学芸員



大城精徳展会場で宮城篤正氏の講話上映

(3) 子どもの情景

会 期：2020年10月20日（火）～2021年6月27日（日）

① 学芸員講座＋キュレータートーク

【日 時】2020年11月28日（土）14:00～15:30
 【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー2
 【講 師】豊見山 愛(担当学芸員)
 【参加者】24名（定員に達したため入場制限した）

② アーティストトーク「体は壊れても、命は生き続ける。」

【日 時】2020年12月5日（土）14:00～15:30
 【会 場】美術館講座室・コレクションギャラリー2
 【講 師】木下 晋(画家)
 【進 行】豊見山 愛(展覧会担当学芸員)
 【参加者】25名（定員に達したため入場制限した）



講座内容の一部

（豊見山作成：転載不可）



木下晋氏（右）と豊見山学芸員



自作の前で語る講師の木下氏

(4) 沖縄美術の流れ

会 期：前期 2020年2月15日（土）～10月11日（日）

【展示内容】

- 第1章 日本化と近代化
- 第1章-2 戦時中
- 第2章 焼け跡からの新たな出発
- 第3章 移り行く景色の中で
- 第4章 いま、ここを見つめる
- 第5章 UCHINANCHU



会 期：後期 2020年10月20日（土）～2021年6月27日（日）

【展示内容】

- 第1章 戦後復興期～前衛の芽生え（1945年～1972年）
- 第2章 安定の中の模索（1972年～1990年代）
- 第3章 複数の沖縄（1995～現在）



① ギャラリートーク インタビュー

【日 時】2020年10月19日（月） 15:00～16:30

【会 場】美術館ホワイエ

【講 師】栗国久直（アーティスト）

【撮影協力】寺本典加・金城ひかり（NPO法人沖縄県立美術館支援会happ）

② ギャラリー鑑賞ツアー

【日 時】2020年12月19日（土） 13:00～

【会 場】コレクションギャラリー3・美術館バックヤード

【解 説】富原圭子（展覧会担当学芸員）

【参加者】10名（親子）

【内 容】鑑賞サポートシートを使った対話型鑑賞



栗国氏にインタビュー



『Cube-Sugar & Strawberry』



鑑賞ツアーでの子どもたちの様子

（5）沖縄美術の流れ（写真）

会 期：前期 2020年10月20日（土）～2021年6月27日（日）

① 学芸員講座＋ギャラリートーク

【日 時】2020年11月7日（土） 14:00～15:30

【会 場】美術館講座室

【参加者】23名

【講 師】山田 勉（写真家）

高良由加利（琉球新報元記者・県立高校教師）

【進 行】亀海史明（展覧会担当学芸員）

【内 容】山田 実『子どもたちのオキナワ1955-1965』を取り上げ、ゲストから山田氏の制作に込めた思いや様子を伺った。



山田 勉氏・高良由加利氏



亀海学芸員解説



(6) 稲嶺成祚 きごうの、ふうけい。

会 期：2020年9月18日（金）～2020年11月3日（火）

① オープニング+ギャラリートーク

【日 時】2020年9月18日（金） 10:00～11:00

【会 場】アトリウム・企画展示室

【参加者】50名

【講 師】稲嶺成祚（画家）

② 学芸員講座+キュレータートーク

【日 時】2020年10月3日（土）14:00～15:00

【会 場】企画展示室

【参加者】14名

【講 師】大城さゆり（展覧会担当学芸員）



稲嶺展オープニング テーブカット



オープニング ギャラリートーク



展示解説

③ 座談会（ビデオ撮影）

当初座談会を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防対策として映像公開に切り替え、画家3名が気になる稲嶺作品を選んで紹介し、稲嶺氏がそれぞれの作品解説をする内容で撮影を行った。映像はエントランスで公開した。

【撮影日】2020年9月24日（木）、25日（金）10:00～11:00

【講 師】稲嶺成祚（画家）石垣克子（画家）

宜保朝子（画家）HAYATO MACHIDA（画家）

④ ワークショップ

【日 時】2020年10月3日（土）10:00～12:00

【会 場】県民アトリエ・子どもアトリエ

【講 師】稲嶺成祚（画家）

【参加者】14名（定員15名）

【内 容】5色の絵の具でどんな作品が出来るか、水彩絵具の特徴や混色の技術を学びながら絵画制作を行った。

⑤ クロストーク

【日 時】2020年10月24日（土）14:00～16:30

【会 場】講堂

【参加者】48名

【講 師】稲嶺成祚（画家）、崎山律子（那覇市文化協会会長）、永津禎三（琉球大学名誉教授）

仲間伸恵（琉球大学准教授）、前田比呂也（那覇市立寄宮中学校校長）



ワークショップ



クロストーク



若手作家との座談会

(7) 石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。

会 期：2021年3月5日（金）～6月6日（日）

① ギャラリートーク

【日 時】2021年3月6日、27日（土）14:00～15:00

- 【会 場】企画展示室
 【参加者】50名、71名
 【講 師】石川真生（写真家）



5 ワークショップ

（１）OKINAWAアートワークショップ2020

沖縄県立博物館・美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することができる。2017年度より、「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを実施した。

身近なモノでモノづくりが出来る素晴らしさや、アイデア・発想につながる考え方の修得を目指したワークショップを集結！

（２）夏休みこどもフェスタ→こどもフェスタ秋

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタは、未就学児から中学生まで幅広い層の参加があり、各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的としている。今年度は7月25・26・27日に予定していたが、新型コロナの影響で中止となった。少し落ち着いた秋に夏休み予定していた内容を実施することができた。昨年度より沖縄県立芸術大学OBを講師として招いている。

① 「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」関連催事 色を楽しもう！ワークショップ

- 【日 時】2020年10月3日(土) 10:00～12:00
 【内 容】5色の絵具を使い、水彩絵具の特徴や混色の技術を学びながら絵画を制作
 【講 師】稲嶺成祚（画家）
 【対 象】小学校3年から高校生
 【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
 【参加者】14名



② OKINAWAアートワークショップ「六角形の畳をつくろう」

- 【日 時】2020年10月17日(土) 9:30～12:00
 【内 容】琉球畳と他県の畳の違いや原材料のピークの生産について学び、畳の帯付けを体験
 【講 師】益田伸次、岩本久和、伊波 孝、下地 智
 【対 象】小学校5年から一般
 【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
 【参加者】20名



③ こどもフェスタ秋①「ヒージャー山羊博士！学んで作って撮影会」

- 【日 時】2020年10月31日(土) 9:30～12:00
 【内 容】沖縄では身近な存在の山羊について生態やルーツ、骨格などを学び、粘土で山羊作りに挑戦
 【講 師】坂元 蘭（画家）、金城辰海（彫刻家）
 【対 象】小学校3年から中学校3年
 【会 場】県民アトリエ、こどもアトリエ
 【参加者】11名

④ こどもフェスタ秋②「首里城の瓦でこねて ねじって つくもがみ！」

【日 時】2020年10月31日（土）13:30～16:30
【内 容】首里城の破損瓦を材料にし、瓦に宿るつくも神をイメージして立体作品を制作
【講 師】有川愛乃、比嘉光里、金城 さくら（学びアトリエわりたまご）
【対 象】小学校1年から4年
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】12名



⑤ OKINAWAアートワークショップ「糸満ハリコ絵付け体験！」

【日 時】2020年11月1日（土）①9:30～11:30 ②13:00～15:00
【内 容】ユッカヌヒーなど沖縄の文化と張り子の関係を学び、実際に絵付けを体験
【講 師】赤嶺康浩（工房ニャン山）
【対 象】小学校3年から一般
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】14名



⑥ OKINAWAアートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦！」

【日 時】2020年11月7日（土）、8（日）10:00～15:00
【内 容】首里城の破損瓦を使い、職人の手ほどきを受けながら本格的な漆喰シーサーを制作
【講 師】山城富画、大城幸祐、城間盛行、田端 忠、古堅智貴（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）
【対 象】小学校1年から一般
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】18名



⑦ OKINAWAアートワークショップ「干支紅型でお正月支度」

【日 時】2020年12月19日（土）①10:00～12:00 ②14:00～16:00
【内 容】紅型の歴史や技法を学びながら、2021年の干支「丑」の紅型づくりを楽しむ
【講 師】吉濱 愛氏、玉城政子氏（城紅型染工房）
【対 象】5才から一般
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】30名



⑧ OKINAWAアートワークショップ「不思議な金属『錫』を溶かしてネームプレートをつくろう」

【日 時】2021年1月16日（土）①10:00～12:00 ②14:00～16:00
【内 容】琉球王朝時代から重宝されていた錫でネームプレート作りに挑戦
【講 師】上原俊展（金細工まつ）
【対 象】小学校5年から一般
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】18名



⑨ OKINAWAアートワークショップ「琉球漆器 沈金を楽しもう」 4月に延期

【日 時】2021年2月20日（土）9:30～12:30
【内 容】歴史や技法、工芸士が使う道具などの解説を聞きながら沈金作品を制作
【講 師】漆実験工房
【対 象】小学校4年から一般
【会 場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】30名予定



6 美術館招待事業（美術館へ行こう2020）

2012年度からスタートした美術館バス招聘事業「美術館へ行こう」も今年で10年目、今年度は本島中部・那覇地区・南部の小中学校に対して公募を行う予定であったが、新型コロナウイルスの影響を考慮し、取りやめにした。しかし、コロナが落ち着いた10月ごろから学校団体鑑賞ツアーの申し込みが増え、再開することが出来た。博物館との連携も図り博物館常設展示室の見学、企画展「岩石展」学芸員展示解説もプログラムに導入した。例年と比べて学校団体の鑑賞は激減したが、10月から2月にかけて団体鑑賞プログラムも含め6校（266名）の児童生徒が美術館に足を運び、作品の鑑賞活動が出来たことは喜ばしいことであった。

今年度は、ボランティアの鑑賞サポートはなかったが、美術館職員による解説や対話による鑑賞を通して多くの気づきと感動が生まれた。この体験が美術館鑑賞のスタートとなり、今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけとなりうると推察される。そしてバックヤードツアーのプログラムも入れることにより美術館について興味が広がった。

【対 象】：本島内小中学校、特別支援学校等

【方 法】：公募により学校を選定

【場 所】：コレクション展示室

【内 容】：鑑賞ボランティアによる鑑賞学習支援



鑑賞の様子

	学校招聘事業	事前学習/打ち合わせ	来館日	参加(名)
1	宜野湾市立志真志小学校（5年1、2組）	9月18日	10月6日	60
2	宜野湾市立志真志小学校（5年3、4組）	9月18日	10月7日	62
3	南城市立百名小学校（6年生）	10月22日	10月30日	32

7 アートコンクール

2017年より、児童・生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し、親しめる美術館づくりを目指した。引き続き実施することとし、今年度はテーマを「むし」として募集したところ約1484点の素晴らしい作品が集まった。嬉しいことに年々参加者が増え、作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞に選ばれ、11月3日に表彰式を挙行了。当日は、入賞者のご家族にたくさん列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

【表彰の様子】



令和2年度 沖縄県立博物館・美術館企画 第3回アートコンクール 入賞者

展示期間2020/10/27～11/23

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部
最優秀賞	◎山城大空 国頭村立城東小6年	◎宮城里采 那覇市立上山中3年	◎福島あかり 県立小禄高2年	◎松堂荘士 豊見城市立ゆたか小特支4年
優秀賞	◎當眞梨心 豊見城市立ゆたか小2年 ◎村社佑真 豊見城市立ゆたか小2年 ◎野底禾琳 豊見城市立ゆたか小3年 ◎宇座菜心 豊見城市立ゆたか小4年 ◎知花羽純 那覇市立城東小5年 ◎小橋川嘉人 伊江村立伊江小6年	◎寄川紅葉 私立カトリック2年 ◎鯉沼采音 那覇市石田中3年 ◎金武来春 浦添市浦西中3年	◎仲里妃奈乃 県立糸満高2年 ◎外間彩音 県立糸満高3年 ◎平良ハイディアン 県立小禄高1年 ◎金城琉南 県立真和志高1年 ◎渡慶次礼央奈 県立浦添商業高1年 ◎瀬戸陽春花 県立浦添工業1年	◎伊良部悠月 豊見城市立ゆたか小特支4年 ◎高原けい 県立美咲特別支援 はなさき分校高等部2年

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部
優良賞	◎赤嶺颯太 豊見城市立ゆたか小2年 ◎外間永起 豊見城市立ゆたか小4年 ◎古堅日椰汰 伊江村立伊江小1年 ◎大城広瀬 伊江村立伊江小6年 ◎照喜名太郎 浦添市立当山小1年 ◎宮里咲希 与那国町立与那国小2年 ◎山中榮太 那覇市立城南小4年 ◎當眞杏奈 読谷村立古堅小5年	◎福地葉子 私立興南中3年 ◎宮城志帆乃 私立興南中3年 ◎金城花音 浦添市立浦西中2年 ◎稲嶺美彩希 浦添市立浦西中3年 ◎石原遙 那覇市立上山中1年 ◎鈴木さくら 国頭村立国頭中3年	◎成田みずな 県立首里高1年 ◎宮平鈴音 県立首里高1年 ◎宇治愛乃 県立首里高2年 ◎勝馬瑠衣 県立首里高2年 ◎中村希望 県立浦添工業1年 ◎津嘉山絵連 県立北谷高2年 ◎前泊美耶 私立興南高1年	◎宮里颯太 豊見城市立ゆたか小特別支援3年 ◎與那覇結萌 豊見城市立ゆたか小特別支援3年 ◎前代音藍 県立美咲特別支援はなさき分校高等部2年
優秀団体賞	・豊見城市立ゆたか小学校 ・伊江村立伊江小学校 ・那覇市立仲井真小学校	・那覇市立上山中学校 ・私立カトリック中学校 ・私立江南中学校	・県立首里高校 ・県立北谷高校 ・私立興南高校 ・県立浦添商業高校	・豊見城市立ゆたか小学校 ・県立美咲特別支援はなさき分校

8 学芸員講座

学芸員とは、日本の博物館法に定められた、博物館における専門的職員、及びその職に就くための国家資格のことである。

学芸員室や研究室と呼ばれる場所を活動の拠点として、作品・資料の収集・保管・調査・研究などを行ったり、定期的に展覧会の企画・開催などを行うことが主な業務になる。文化的な作品・資料の持つ本当の価値を、美術館や博物館といった場所で、たくさんの人々に伝えていくことが最大の使命だと言えるだろう。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、イベント開催の見合わせ期間が年度の初めから続いて、以下3本の開催のみとなってしまうことは、非常に残念であった。

※9月5日(土)「美術品の保存について」ー保存修復の現場からー(梶原正史)は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

回	期 日	曜日	講座名	担当
1	10月3日	土	「稲嶺成祚展」学芸員によるギャラリートーク	大城さゆり
2	11月7日	土	「山田實展」『子どもたちのオキナワ1955-1965』	亀海史明
3	11月28日	日	「子どもの情景」アートに潜むメッセージ	豊見山愛



大城さゆり学芸員



亀海史明学芸員



豊見山愛学芸員

9 教職員講座・実技研修会

沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教諭、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、美術館内のアトリエにおいて図画工作・美術に関する研修を定期的に開催している。

図工・美術における授業の指導力向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での教育普及に役立ててもらうことを目的とした。

今年度は、第58回沖縄県造形教育研究大会(実技研・講演会)の会場として当館が活用される予定だったが、新型コロナウイルスの影響を考慮して、残念ながら中止となった。

予定の内容は下記のとおり。

● 第58回沖縄県造形教育研究大会（実技研・講演会）予定

【日 時】 8月4日（火）中止

【会 場】 美術館 県民・子どもアトリエ・博物館講座室

【参加者】 小学校・中学校・画工美術関係者

【後 援】 沖縄県教育委員会・那覇市教育委員会・沖縄県立博物館・美術館

【協 賛】 ペンてる株式会社

【内 容】 ①ワークショップ ②実践研究発表 ③記念講演会

	午前の部	午後の部
小学部	①ワークショップ（小学部）定員20名 場所：子供アトリエ・県民アトリエ 時間：10:00～12:00（受付9:50） 「 <u>絵具</u> 」指導について（小学校向け） 内容：用具の使い方、混色の仕方 ※絵の具セット一式、筆拭き用布	③（小・中共通）記念講演 定員50名 場所：博物館講座室 時間：13:30～16:00 「 <u>これからの造形美術教育～AI時代の課題</u> 」 講師：奥村高明氏 （日本体育大学児童スポーツ教育学部教授） （元国立教育政策研究所教育課程調査官 （併）文部科学省教科調査官）
中学部	②実践研究発表（中学部）定員15名 場所：博物館実習室 時間：10:00～12:00（受付9:50） 「 <u>美術の授業展開及び情報交換会（中学校向け）</u> 」 ファシリテーター：造形教育連盟役員	※YouTube 「対話から生まれる『教科書美術館』」参照

【2019年度の様子】



10 ボランティア活動

当館の美術館ボランティアスタッフは、学校団体に向けた鑑賞ツアーをサポートするガイドボランティアと美術館関連書籍・新聞を整理する資料整理ボランティアの2つのグループに分かれ、それぞれの特技を生かし活動してきた。今年度は新規ボランティアの養成講座を予定し、準備を進めていたが新型コロナウイルスの影響で新規募集は次年度に見送られた。継続ボランティアの活動にも影響があり、展覧会ごとの勉強会や館外研修、学校団体の対応は中止となった。しかし大変な状況にあっても、展覧会や関連催事、ワークショップなどに参加し、自己研鑽を怠らないボランティアも多く、その姿に勇気づけられる年となった。

【ボランティア養成講座 2020】

講 座	プログラム	期 日	内 容
第1回	活動説明会＋振り返り	4月15日	前年度振り返り・美術班自己紹介・概要説明（中止）
第2回	展示解説	5月13日	コレクション展勉強会（中止）
第3回	活動説明会＋振り返り	7月22日	前年度振り返り・概要説明・展示解説
第4回	館外研修	8月19日	沖縄県立図書館 館外研修（中止）
第5回	今年度の振り返り	3月末日	今年度を振り返り（成果と課題）（中止）

（コレクション展に関する内容と鑑賞法の講義 10:00～12:00） 対象：登録ボランティア員



展示解説講座



大城精徳展示解説



11 出前授業

来館前の出前授業で、先生方に鑑賞授業のレクチャーを行った。ティーチャーズキットやアートカードを活用した鑑賞の授業とマナーについて学んだ。

当日、児童にとってこの体験が美術館鑑賞のスタートとなり、今後の美術館での鑑賞に大きな期待をもたらすきっかけになる。さらに今年度は、中学校鑑賞支援プログラムの作成にも取り組んだ。各自が自分の視点で作品鑑賞できる鑑賞サポートシートも作成した。今年度は、新型コロナウイルスの影響で学校からの依頼はあったが、ほとんど中止になった。

12 慰霊の日関連催事

今年は沖縄戦が終結してから 75 年の節目を迎える。沖縄戦の体験者も高齢となり、私たちの身近にも悲惨な地上戦を直に語ってくれる人が少なくなってきた。学校現場でも、年々沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさや命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会とすることを目的としている。例年エントランスやギャラリーで読み聞かせを行っているが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の緊急事態宣言後にあたり、催事開催が厳しい状況であったため、事前に読み聞かせを録画し、エントランスにおいて10日間モニター上映した。

【場 所】沖縄県立博物館・美術館 1階 エントランス

【日 時】2020年6月19日（金）～6月28日（日）上映

※撮影日 6月12日（金）14時 美術館班会議室

【読み手】宮城アケミ（沖縄大学教授・沖縄県立博物館・美術館鑑賞ボランティア）

【対 象】一般、参加無料

【作 品】①『つるちゃん』金城明美・作

②『へいわってどんなこと?』浜田桂子・作

【内 容】博物館・美術館教育普及連携催事で、館内エントランスにTVモニターを設置し、沖縄戦のドキュメンタリー上映と平和関連の絵本の読み聞かせ、パネル展示を行う。今回は沖縄県立図書館との連携もあり、本の紹介も行った。

①本土復帰30周年記念「沖縄戦記」DVD（博物館）

②沖縄戦パネル（博物館）



撮影の様子



図書館との連携（本の紹介）



エントランスにて上映

13 複製制作

現在美術館が収蔵する各種美術品は、保存管理の面から館外持ち出しを制限しているため、収蔵品を見るためには当館へ直接来館してもらうしかない。美術館教育普及事業の一つとして実施している「美術館出前授業」においては、美術館収蔵作品を紹介する場面と必要性がある。授業展開を深める目的で、できるだけ原画に近い色合いや大きさに、紙印刷したものを利用していたが、子どもたちには、作品を額装された原寸大のレプリカ作品を鑑賞させたいと感じていた。

昨年度より進められてきた複製画計画は、関係者間で何度も意見交換と作品選定を行った上で制作し、「美術館出前授業」・「移動展」での活用が実現した。今年度は、その第2弾として、作品3点を選定し制作にあたった。当館収蔵作品の複製作品を制作することにより、その活用が積極的行われ、作品の紹介とともに沖縄の美術作家への興味関心を抱かせる機会につながればと考えている。



南風原朝光

「サモアールのある静物」

1948年



川平恵造
「Now……（１）」1980年



大嶺政寛
「八重山風景」1970年



展示室にて



色校

14 首里城瓦利活用アイデアプロジェクト

2019年10月31日未明に発生した火災により、琉球王国の象徴であり沖縄県民の誇りであった首里城正殿を含む建物8棟と施設内に展示、保管されていた文化財の多くが焼失する被害を受けた。

首里城の特徴的な赤瓦については、焼け残った瓦等（以下、破損瓦等という）を首里城の思い出として活用したい、との声が県民から多く上がっていた。そこで首里城への「思い」を多くの人が共有し、また形として残していくことを目的として、沖縄県が破損瓦等の利活用についてアイデアの募集を行い、様々なイベントや活動が実施されている。美術館でもこのプロジェクトに選ばれた2団体（下記）と連携し、ワークショップを実施することが出来た。

【主 催】沖縄県、沖縄総合事務局 国営沖縄記念公園事務所、（一財）沖縄美ら島財団

【後 援】那覇市

【参加団体】①学びアトリエわりたまご 代表 比嘉光里 2020年10月31日 実施

②沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合 代表理事 田端 忠 2020年11月7～8日 実施



「こねて ねじって つくも神」



「漆喰シーサーに挑戦！」



参加者制作の様子

首里城の瓦で 2020.10.31
こねて ねじって つくもがみ！

参加者の声（子ども13名）

◎つくも神は、わからなかったけど、ワークショップに参加して意味を知ることが出来たので良かったです。それと、自分で作るつくも神だから、自分の願いを込めて作れるのが良いなと思いました。

◎粘土がとても楽しかったです。（6）

◎粘土で神様が作れて楽しかった。また、参加したいです。

◎むずかしかったけど、がんばった。

◎おをたてたり、土台を作ったりするのが難しかったけど、首里城の瓦を使えたのでうれしかった。

◎つくも神ができてとてもよかったし、首里城のことについても知ることが出来てよかったです。

◎形を作るのが楽しかった。イメージがわいて、面白かった。集中できた。作り終わった後のたっせいかんがよかった。

◎首里城の瓦を触れてよかった。

◎首里城の大切な瓦を使ってかわいく神様が出来たと思います。つくも神様のパワーをもらって元気に成長してほしいと思います。（保護者）

◎首里城の貴重な瓦を利用した企画に参加したいと思い応募しました。首里城について学び瓦に宿るつくも神をイメージしたことでも子ども首里城への思いを改めて感じる機会になりました。ありがとうございました。（保護者）

※付喪神、つくも神（つくもがみ）とは、日本に伝わる、長い年月を経た道具などに神（要出典）や精霊（靈魂）などが宿ったものである。

「九十九神」とも表記する。「九十九」の文字には「長い時間（九十九年）や経験」「多種多様な万物（九十九種類）」などを象徴する意味合いが込められている。人形や木彫りの動物といった、生物の形をした物に付喪神が宿りやすいとされており、また名称に「神」が付いていることから、妖怪ではなく神の類ではないかという説もある。



漆喰シーサーに挑戦！！ 2020.11.7-8

参加者の声（大人17名・子ども1名）

◎楽しかったです。ありがとうございました（8）

◎制作するとはまっていまい途中で取り組んでいました。とても楽しかったです。名工さんたちの制作風景が見ることができて、とても良かったです。ずっと見ていられます。

◎首里城の写真展示や名工の方々の新聞や展示もあり、とても興味深かったです。楽しく制作でき、名工の方々のシーサーはどのように作られるか見ることができ勉強になりました。

◎今回は首里城の瓦を使わせてもらえて、本当に有難いと思いました講師の方々も優しくチャームングで、とても良い時間が過ごせました。家で大事に扱いたいと思いました。

◎とても楽しかったです。次回あれば参加したいです。参加料が寄付ということで感謝いたします。

◎首里城のプロジェクションマッピングを見たばかりだったので、破損瓦を使用できることにびっくり！！使わせていただけることに感謝。我が家の守り神にします。また、参加します。2日間ありがとうございました名工の皆様にご指導いただき感謝です。

◎楽しく作成させてもらいました。今後も継続してほしい企画です。首里城の瓦ということでよい記念になりました。

◎予想外に1体の大きさにびっくりしました。来年はオスのほうを今回以上に丁寧に作りたい。ご指導ありがとうございました。

◎貴重な首里城の瓦を使ってシーサーが作れて有難い気持ちです。現代の名工の先生方に指導して頂いていただけました。直接ご指導くださり、ありがとうございました。首の漆喰づくりのお話が興味深かったです。また、そのような話をうかがいたいです。

◎彩色3色（黒、瓦の色、漆喰の色）とても素敵でした。名工の方のナイフ使いがとてもなめらかで、驚きました。ささいな疑問にもとても丁寧に回答いただきました。

◎前回は頭が下の形（ホーヤシーサー）を作りましたが、今回は立ちシーサーを作りました。色の付け方は似せて兄弟シーサーにしました。とても面白かったです。実家に送る予定です。（兵庫県）すごい先生方なのに、好きになりにさせてくださり、困っているときにさっと助けてくださって感謝です。ありがとうございました。

◎あまり聞けなかったことをたくさん聞けて楽しかったです。

◎去年のポスターで知って参加したかったのですが、子供がいっぱいかなと断念し、参加したいと思い電話確認し、参加出来ました。思った以上に楽しかったです。自由なことだったので、とても楽しくすることが出来ました。そして、講師の方々の作品がとても素晴らしく、目の前で過程を見ることが出来て幸せでした。あと、首里城の瓦についても今回本当に貴重なんだということも聞いてとても大事にしていきたいです。来年も参加したいです。

（富原 圭子）

Ⅳ 資料収集・保存管理

1 収蔵作品現在高

2021年3月31日 現在

分 類	購 入	寄 贈	移 管	その他	小 計	寄 託	総 計
平 面	370	1,459	64	2	1895	199	2,094
立 体	32	241	0	8	281	15	296
写真・映像	392 (映像:20)	2,203 (映像:6)	0	0	2,595 (映像:26)	767 (映像:0)	3,362 (映像:26)
その他	13	12	1	3	29	41	70
総 計	807	3,915	65	13	4,800	1,022	5,822

※「写真・映像」の収蔵数に含まれる、映像作品数をカッコ内に記した。

2 2020年度（令和2） 新収蔵作品高

分 類	購 入	寄 贈	移 管	小 計	寄 託	総 計
平 面	2	39	0	41	12	53
立 体	2	20	0	22	0	22
写真・映像	16	50	0	66	0	66
その他	0	0	0	0	0	0
総 計	20	109	0	129	12	141

3 2020年度（令和2） 新収蔵作品目録

【購 入】

分 類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量
平面	絵画	與那覇 朝大	アカバナ	1980年	油彩、板	1
		吉田 博	糸満市場	1912年	油彩、板	1
立体	彫刻	上條 文穂	紙シリーズⅡ〈植物の境界〉	1990年	ケント紙、木、銅、鉄	1
		波多野 泉	鼓あるいは盤（群れ）	2003年	木心乾漆、金箔	1
写真・映像	写真	伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	72年の夏	1970-72年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	海の旅人	1989-92年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	海の旅人	1989-92年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	海の旅人	1989-92年	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	光と陰の島	不明	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	光と陰の島	不明	ゼラチン・シルバー・プリント	1
		伊志嶺 隆	光と陰の島	不明	ゼラチン・シルバー・プリント	1

【寄 贈】

分 類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
立 体	彫 刻	上條 文穂	面と線の構成	1979年	櫨	1	上條 文穂
		上條 文穂	紙シリーズⅠ「作品1983-6」	1983年	桂、トレーシングペーパー	1	上條 文穂
		上條 文穂	パイプシリーズⅢ 〈作品 1984-1〉	1984年	ステンレスパイプ、木、 トレーシングペーパー	1	上條 文穂
		上條 文穂	漆喰の扉	1998年	漆喰、木、銅、鉄	1	上條 文穂
		上條 文穂	紙シリーズⅡ「堆積の原」	1988年	ケント紙、木、鉄	1	上條 文穂
		上條 文穂	「堆積の原よりー土の骨ー」	1988年	ケント紙、木、他	1	上條 文穂
		上條 文穂	「堆積の原よりー土の骨ー」	1988年	ケント紙、木、他	1	上條 文穂
		上條 文穂	「堆積の原よりー土の骨ー」	1988年	ケント紙、木、他	1	上條 文穂
立 体	彫 刻	上條 文穂	望郷三部作 〈五月の田圃に郭公の声〉	2009年	樟	1	上條 文穂
		上條 文穂	望郷三部作 〈川〉	2008年	樟	1	上條 文穂
		上條 文穂	望郷三部作 〈アリ這う七月の畑〉	2012年	樟	1	上條 文穂
		上條 文穂	水庫	2016年	テラコッタ	1	上條 文穂
		波多野 泉	鼎	1983年	FRP	1	波多野 泉
		波多野 泉	裸婦立像 '86	1986年	FRP	1	波多野 泉
		波多野 泉	どこまでも赤く	1988年	脱活乾漆、ガラス	1	波多野 泉
		波多野 泉	母になる女	1989年	テラコッタ	1	波多野 泉
		波多野 泉	無心ということ(蝶)	1990年	テラコッタ	1	波多野 泉
		波多野 泉	孫と鼠	1991年	テラコッタ	1	波多野 泉
		波多野 泉	城を葺いた男	2013年	脱活乾漆、ガラス、木	1	波多野 泉
		波多野 泉	O氏の肖像	2019年	脱活乾漆、ガラス、木	1	波多野 泉
平 面	絵 画	與那覇 朝大	ハベルとヒンプン	1973年	油彩、キャンバス	1	平良 由美
		與那覇 朝大	うりずん	1986年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	諸屯が浜	1988年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	樹姿	1993年	墨彩/裏板、吊金具	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	桂林朝幌	1997年	墨彩/裏	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	浜の暮らし1	1999年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	城跡	1992年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	作田節	1999年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	勇鶏	1993年	墨彩/裏板(ベニヤ)	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	琉舞の女(花笠)	1999年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		與那覇 朝大	本花風	1999年	油彩、キャンバス	1	金城 吟子
		嘉数 能愛	題不詳	不明	調査中	1	宮川 愛子
		嘉数 能愛	題不詳	不明	調査中	1	宮川 愛子
		嘉数 能愛	題不詳	不明	調査中	1	宮川 愛子
		嘉数 能愛	題不詳	不明	調査中	1	宮川 愛子
		嘉数 能愛	題不詳	不明	調査中	1	宮川 愛子
		川平 恵造	夏シリーズ	2013年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	不詳(夏シリーズ)	1998年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	不詳(夏シリーズ)	1998年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造

分 類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
平 面	絵 画	川平 恵造	不詳（夏シリーズ）	1998年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	不詳（夏シリーズ）	1991年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ（窓）	1991年	ミクストメディア、ベニヤ、 キャンバス付属品にピスタチオ	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ（ピスタチオ）	1991年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ（ピスタチオ）	1991年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ（ピスタチオ）	1990年	ミクストメディア、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	NOW（牛頭骨）	1982年	油彩、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	Key Stone	1980年	油彩、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	Now（花）	1979年	油彩、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	NOW（カーブミラー）	1987年	アクリル、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	NOW・・・	1976年	油彩、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	NOW・・・	1980年	油彩、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ	1990年	アクリル、パネル、キャンバス	1	川平 恵造
		川平 恵造	夏シリーズ（ちぎれた窓）	1991年	パネル、キャンバス	1	川平 恵造
		金城 安太郎	題不詳（虎図）	1955年	桐箱	1	岸本 幸子
		中島 イソ子	自画像—ジョルジョーネ 「老女の肖像」より—	2012年	油彩、キャンバス	1	中島 イソ子
		山川 さやか	エナジー	2011年	油彩、キャンバス	1	山川 さやか
		山川 さやか	御嶽	2009年	パネル、ミクストメディア	1	山川 さやか
		山川 さやか	めざめ	2015年	木枠に綿布、ミクストメディア、 水彩絵具、アクリル、油性ペン	1	山川 さやか
		山川 さやか	MACHI No.4	2003年	パネルに綿布・ミクス トメディア	1	山川 さやか
写 真 ・ 映 像	写 真	奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	檜原 恵子

分 類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
写真・映像	写真	奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈生きる歓び〉より	1974年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1977年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1996年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1997年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子
		奈良原 一高	〈消滅した時間〉より	1998年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	榎原 恵子

【寄託】

分 野		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者
平面	絵画	大城 皓也	島の船つき場	1975年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
		大嶺 政寛	ウタケ	1966年	油彩、キャンバス？	1	オリオンビール株式会社
		大嶺 政寛	首里風景	1966年	油彩、キャンバス？	1	オリオンビール株式会社
		大嶺 政寛	首里城風景	1965年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
		大嶺 政寛	大川風景	1964年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
		儀間 比呂志	生きる	1955年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
		久場 とよ	祭りは終わった	1984年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
		久場 とよ	みかちゃん	1989年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社

分 野	作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者
平面 絵画	久場 とよ	古都幻想	1994年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
	安谷屋 正義	青果（果物）	不明	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
	山里 永吉	天川の女	不明	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社
	瀬嵩 政良	抱瓶のある静物	1997年	油彩、キャンバス	1	オリオンビール株式会社

4 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の文化芸術の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

令和2年度は、1回の美術品等収集委員会を実施し、購入20点、寄贈109点、寄託12点について諮った。作品の収集に当たっては、事前調査をもとに、美術館学芸会議で審査を行い、県内の有識者で構成された収集委員会で審議した。その結果を参考に所定の手続きを経て収集した。今回は、購入、寄贈ともに、絵画、彫刻、写真など数多くの分野にわたった。寄託は、沖縄画家の作品が揃った。

（亀海 史明）

5 保存管理事業

（1）保存環境の整備

沖縄県民の財産である収蔵美術作品の適切な保存を目的として、収蔵庫及び展示スペース内の温湿度が年間を通して一定に維持されるよう管理を徹底し、保存環境の整備を行う。具体的には、IPM管理の徹底による虫菌害予防（ペストコントロールを含む）が、まず挙げられる。収集等の際に、新たな美術作品を館に入れる前の消毒など、対策の強化を重点的に行っている。さらに収蔵作品においては効率的な状態調査を計画し、実施することで、今後の修復計画をよりスムーズかつ安全に行うよう配慮している。

（2）収蔵作品の保存修復

収蔵作品のコンディション調査を行い、生物劣化や物理劣化、化学劣化等に応じた修復計画を立てて、その作業内容に沿った修復家への依頼、招聘を行い、当館保存修復室にて共同で修復作業を行うこととしている。本年度の外部委託の依頼はなかった。

企画及び常設展へ出品するための状態チェック、修復作業、額装及び金具等整備作業、版画作品のマウント作業、借用作品の状態チェックなどを行った。保存修復内容の詳細は以下の通りである。

（3）収蔵品修復（館内処置）

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
大城皓也	黒い二人の人物	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がり剥落周縁の固着。木枠とキャンバスを分離し、裏面の鑑識洗浄。裏面より破れ部分に和紙と合成樹脂によるパッチの接着。画面への合成樹脂の塗布。ホットテーブルによるプレス。ストリップライニング。新しい木枠への張り込み。画面洗浄。額装の改善。	当館収蔵作品
翁長以清	白い坂道	油彩・メソナイト	黄変したニス除去・画面洗浄。額装の改善。	当館収蔵作品
翁長以清	沖縄風景(仮)	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯) 画面に付着した黴の除去・殺菌(エタノール水)	当館収蔵作品
グエン・サン	牛	漆・パネル	額装の改善	R2年度常設展
榎本正治	鳩と少女	油彩・キャンバス	額装の改善	R2年度常設展
木下晋	流浪	鉛筆・ケント紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。 額装の改善	R2年度常設展

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
大村徳恵	寝具の中の親子	油彩・メソナイト	額装の改善	R 2 年度 常設展
喜舎場盛也	いえ	クレヨン・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。 額装の改善	R 2 年度 常設展
照屋勇賢	Dawn(ハイヒール) 8 枚組	インクジェットプ リント・紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。 額装の改善	R 2 年度 常設展
稲嶺成祚	二人の少女	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯) 画面に付着した黴の除去・殺菌(エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	働く女性	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯) 画面に付着した黴の除去・殺菌(エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	自画像	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯・エタノール水)	R 2 年度 企画展
稲嶺成祚	丸	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。 木枠とキャンバスを分離し、裏面の鑑識 洗浄。裏面より破れ部分に和紙と合成樹 脂によるパッチの接着。画面への合成樹 脂の塗布。ホットテーブルによるプレス。 ストリップライニング。新しい木枠への 張り込み。画面洗浄。剥落部への充てん 捕彩。ニス吹付による画面保護。額装の 改善。	R 2 年度 企画展
稲嶺成祚	海に見える風景	油彩・木製パネル	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。 剥落部への充てん捕彩。	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	夜・酒を飲む人々	油彩・木製パネル	画面洗浄(ぬるま湯) 画面に付着した黴の除去・殺菌(エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	町と人々	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。 剥落部への充てん捕彩	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	町	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	花	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯・エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	風神の子	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯・エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	二人	油彩・キャンバス	画面洗浄(ぬるま湯・エタノール水)	R 2 年度企画 展(個人蔵)
稲嶺成祚	港川小学校校門モザイク 画壁画(原画)	油彩・キャンバス	額装の改善	R 2 年度企画 展(個人蔵)
石川真生	企画展出品作品約200 点(前・後期含む)	ゼラチン・シルバー プリント・インクジ ェットプリント等	ブックマウント、作品固定方法の改善 出品作品の折れ伏せ、コールドプレスに よるフラットニング等。	R 2 年度企画 展(個人蔵)

※額装の新調や展示方法などの改善は含まない

注記

・館内処置について

作品における処置は全て当館保存修復学芸員 梶原正史が行った。

額装の改善とは主に入れ子へのフェルト貼りや、スペーサー装着、額縁裏面・泥足の補強、ぐらつき防止のネジ止め、割れの接着、汚損の除去など。

・修復に使用した材料について

作品に悪影響を及ぼすことがないこと、材質的に安定していて、将来的に除去が可能なことを前提に、様々な作品状態にあったものを使用している。

6 作品貸出

美術館では、借用先のファシリティーズレポートの提出と、温湿度管理に関する情報提供を求めた後に、厳正な審査の下で可否を決定している。また、輸送会社へ貸出作品の状態に合わせた梱包仕様の提案を行い、作品貸出及び返却作業には、美術館職員と借用先職員の両者が立ち合い、作品状態の点検を行っている。なお2020年度、美術館収蔵作品の作品貸出はなかった。

(梶原 正史)

一般財団法人 沖縄美ら島財団 (指定管理者)

- I 沖縄美ら島財団の概要
- II 運営方針
- III 組織
- IV 展示活動
- V 教育・イベント活動
- VI 広報事業に関する業務
- VII 調査・研究・講演・著作論文等の活動
- VIII その他

I 沖縄美ら島財団概要

【沿革】

1976年（昭和51）7月、海洋博覧会記念公園管理財団発足。同年8月1日、国営沖縄海洋博覧会記念公園維持管理業務受託開始。1991年（平成3）首里城基金を設立。1992年（平成4）11月、首里城公園（国営沖縄記念公園首里城地区、県営公園の一部、城郭）の維持管理業務受託開始。同年営業契約により特定公園施設（正殿、南殿・番所、北殿、奉神門、御庭等）の管理運営を開始。2002（平成14）11月、営業契約により特定公園施設（沖縄美ら海水族館）の管理運営を開始。2004年（平成16）12月、ISO14001認証取得。2008年（平成20）12月、総合研究センター発足。2012年（平成24）10月1日、一般財団法人沖縄美ら島財団に改称。

【業務内容】

1976年（昭和51）8月開園以来海洋博公園の維持管理業務、1992年（平成4）11月開園以来首里城公園国営公園部分と首里城城郭を含む県営公園部分の維持管理業務の受託を行っている。首里城有料区域及び沖縄美ら海水族館については、独立行政法人都市再生機構との営業契約で運営していたが、2019年（平成31）2月から沖縄県が管理者となったことから、「沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）」及び、「沖縄県国営沖縄記念公園内施設（海洋博覧会地区内施設）」の指定管理者として運営している。2006年度（平成18）からは指定管理者として県営首里城公園、2013年度（平成25）から県立名護青少年の家、2014年（平成26）からなごアグリパーク（名護市農産物6次産業支援拠点施設）の管理運営を行うほか、2015年（平成27）より名護市の小学校跡地に沖縄の自然に関する調査研究・普及啓発活動の拠点施設として「美ら島自然学校」を開校し運営している。2014年より国際通りの沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅら」、2015年より、なごアグリパーク内に設置された沖縄本島北部の農産物加工品や健康食品等を扱うショップ「しまちゅら」を開店・運営している。また、2008年（平成20）に「総合研究センター」を設立し、海洋生物や亜熱帯植物、海洋文化、首里城等琉球王国文化の調査・研究普及啓発、社会貢献・地域連携活動を行い、2014年には文部科学省により科学研究費補助金取扱規程に定める研究機関に指定された。2016年（平成28）4月より沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として同館の管理・運営にあたっている。指定期間は2016年4月～2021年（令和3）3月までの5年間。

II 運営方針

1 管理運営の基本方針

（1）基本的な考え方

沖縄県立博物館・美術館の設置目的及び基本理念等を理解し、業務仕様書に基づき沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課や博物館・美術館との調整を的確に実施し、管理運営上の課題に適切に対応していきます。

また、当財団では以下に示す管理理念の下、6つの基本方針と具体的な取組を展開することで施設が保有する多くの貴重な収蔵品等を守り、育み、伝える使命を果たすとともに、県民をはじめ多くの方に開かれた館となることを目指し21世紀ビジョン等に掲げられた施策目的が達成できるよう努めます。

2 管理理念

理念1：「沖縄の輝き」を守り育み、御万人へ、そして未来へとつなぎます。

沖縄県立博物館・美術館（以降、本館という）が保有する多くの貴重な資料は、守り、育み全ての方へそして未来へつないでいくべき「沖縄の輝き」です。

私たち（一財）沖縄美ら島財団（以下、財団）は「沖縄美ら海水族館」や「首里城公園」等、沖縄県を代表する博物館や文化施設の運営を行うとともに、当財団の「総合研究センター」による独自の調査研究・普及啓発活動により、沖縄の自然、文化、歴史等の「沖縄の輝き」を守り育み、多くの方へ伝えて参りました。そのノウハウや人材、ネットワークを活かし、本館が行う博物館資料の保管や展示、調査研究普及啓発事業を強力にサポートし、県全体の文化芸術や教育学習の発展、調査研究の発展に寄与します。

理念2：観覧者の心へ「沖縄の魅力」をダイレクトに伝えます。

沖縄県は「唯一無二の素晴らしい」自然文化、歴史を持つ「魅力的な」地域です。博物館・美術館には、その沖縄を代表する沢山の収蔵品がありますが、情報量が多くアカデミックな展示であるため、沖縄の魅力が観覧者の心に伝わりにくいという一面もあります。私たちは心に響く「鮮烈な」展示解説やライブプログラムによる「体験」を充実させることで観覧者の心へ「沖縄の魅力」をダイレクトに伝える管理運営を目指します。

理念3：観光客を誘致し「観光立県おきなわ」の推進に寄与します。

「観光立県」を標榜する沖縄県において「沖縄の自然・歴史・文化・美術作品をトータルで紹介」できる本館の役割は非常に重要です。私たちは沖縄県の観光事業を牽引する「沖縄美ら海水族館」や「首里城公園」を支えるブランディング力、プロモーションネットワーク、誘客力を活かし、沖縄を訪れる多くのお客様を、積極的に本館に誘致し、地域の活力向上に寄与します。

3 運営方針

方針1：誰もが使いやすい「開かれた博物館・美術館」を目指します。

・法令の遵守と平等性の確保

本館の基本理念及び管理規則を遵守するとともに個人情報の保護を徹底し、公平・公正で開かれた館の運営を行います。

・リスクマネジメント

事件・事故・災害等のリスクを予め想定して対策と訓練を行い、お客様と資料の安全確保に努めます。

・お客様の立場に立った接客

観光施設で培ったホスピタリティ溢れる接客・接遇を行うとともに、お客様の声を収集し、サービスの向上に努めます。

・「利用しやすい」環境の整備

ユニバーサルデザインの推進と海外観光客対応の強化のため、サインやHP等を見直すとともに県民活動の場としても利用しやすい環境を整えます。

・総合案内機能の向上

沖縄県の自然・歴史文化・美術作品に関する案内やレファレンスサービスの強化を図るとともに沖縄の観光案内も行います。

・衛生的で快適な施設の提供

清掃と衛生管理の徹底を図り誰もが快適に利用できる施設環境を整えます。

方針2：沖縄県が目指す「博物館・美術館の将来像の実現」をサポートします。

・関連計画に掲げられた目標達成への努力

「沖縄21世紀ビジョン」や「沖縄県教育振興基本計画」、「沖縄県立博物館・美術館中長期事業計画」等に表示された将来像の実現と入館者数の達成を目指します。

・本館の「拠点機能」「ネットワークハブ機能」構築のサポート

本館が目指す沖縄県の教育学習や県内文化芸術関連施設、沖縄県の主要観光資源のネットワークハブ機能構築に向けて当財団が保有する国内外観光・学術ネットワークを最大限に活用し、その構築をサポートします。

方針3：「博物館・美術館の本来機能の向上」を強力にサポートします。

・膨大な標本等資料・美術工芸品を活用した展示サポート

当財団が所有する沖縄の生物・植物標本や琉球王朝に関連する美術工芸品を活用し、本館の展示をサポートします。

・調査・研究成果、豊富な普及啓発プログラムの活用

当財団の「総合研究センター」による独自の調査研究の成果や普及啓発プログラムを活用し、本館の調査・研究や普及啓発事業をサポートします。

・本館での学びを助ける「活動フィールド」と「研究人材」の提供

体験・活動フィールドと、それをサポートする人材の提供により本館での学びをサポートします。

・（独）東京文化財研究所主催の「保存担当学芸員講習受講者」による適切な資料管理

首里城公園で美術工芸品を扱う「保存担当学芸員講習受講者」の指導の下、適切な資料管理をサポートします。

方針4：「沖縄県の主要観光施設」に相応しい経営と運営を行います。

・本館の魅力を引き出し高める「ブランディング・マーケティング」の実施

沖縄観光の二大拠点を支えるブランディング・マーケティングノウハウを基に、「経営戦略会議」を引き続き実施し本館の企画や運営を総合的に検討します。

・観覧者の心に響く「展示解説」の工夫と「ライブプログラム」の実施

観覧者の心に響く「鮮烈な展示解説」や観覧者が「参加・体験でき、思い出に残るプログラムやイベント」、展示を短時間で分かりやすく解説する「ガイドツアー」、観覧者の興味・注目を引き付ける「誰かに伝えたい」情報の発信を行います。

・首里城公園や沖縄美ら海水族館との連携による「新たな沖縄観光」の提案

首里城公園と連携した「琉球王朝文化ガイドツアー」や「催し」を実施し、「首里城公園」や「沖縄美ら海水族館」の半券提示で企画展が割引になるサービスや、旅行会社へ営業活動を行う中でクーポン券でのセット割引サービスの導入を検討します。

方針5：県民・観光客に「選ばれる」ために、積極的な誘客・広報活動を行います。

・「県内外広報ネットワーク」を活用した誘客につながる情報発信

国内外での観光プロモーションや県内老人会への個別訪問、お客様の手元に本館の情報が直接届く「スマホアプリ」の活用まで、広域かつ緻密なネットワークを活かした広報・プロモーション展開を行います。

・国内外の観光客に「選ばれるため」に積極的な誘客・広報活動を行います。

旅行社とタイアップした「ツアー等旅行商品」の造成や修学旅行の誘致について旅行社への営業、周辺ホテル・商業施設と連携した誘客広報、県外観光客・海外観光客向けの誘致活動を行います。

・質の高い広報を支える「豊富な人材」の活用

沖縄美ら海水族館及び海洋博公園・首里城公園の広報・PR経験者を「企画広報事業部責任者」に配置します。また、当財団の実績豊富なデザイナーやIT技術者が、デザイン制作及びITを活用したPRをバックアップします。

方針6：「地域に愛され・地域を育む」博物館・美術館を目指します。

・地域コミュニティを育成するイベントや取り組みの実施

お祭りやワークショップ等の「地域と連携したライブイベント」の実施や本館を拠点とした「教室・文化サークル」の運営、カフェやホワイエを活用した「ギャラリー」「定期講演会」等を実施し県民が集い・学び・発表できる「地域活動の舞台づくり」を検討します。

・開館10周年にちなんだ「オリジナルミュージアムグッズ」の開発・販売

館の収蔵品などを活用した「オリジナルミュージアムグッズ」の開発・販売を検討します。

・地域活動団体、博物館・美術館支援組織との「協働」による館の運営

地域活動団体である「那覇新都心通り会」とともに、団体が行う「アートのまちづくり」活動等を連携して行います。また、博物館支援団体「博物館友の会」、美術館支援団体「NPO happ」「博物館・美術館ボランティア」との「連絡会議」を行い、意見や情報交換の活発化、業務連携による事業効率化、研修会等人材育成事業のサポートを行います。

III 組織

1 職員構成

2021年3月31日 現在

	氏 名	担 当 業 務
統 括	内間 仁春	指定管理業務の統括に関すること
副統括	木下 龍太	指定管理業務全般、県や関係期間との調整・危機管理に関すること
総務班	総務・財務 平良 亜紀子	総務全般、予算、申請事務、人事管理に関すること
	仲里 沙也加	報告書作成、契約事務やその他総務全般に関すること
	名嘉 百恵	ショップ、カフェの管理、データ入力に関すること
総務班	利用サービス 具志堅 春樹	施設貸出に関すること、施設維持管理、危機管理に関すること
	花城 喬	施設貸出に関すること、情報システムに関すること
	宮里 宗彦	施設貸出に関すること
	仲本 美奈子	情報センターの管理・運営に関すること
	仲宗根 めぐみ	情報センターの管理・運営に関すること
企画班	学芸業務 金城 美奈子	企画展、自主事業、広報業務に関すること
	國吉 貴奈	企画展、自主事業、広報業務に関すること
	渡久地 雅代	企画展、自主事業、広報業務に関すること
	川島 祥子	企画展、自主事業、広報業務に関すること

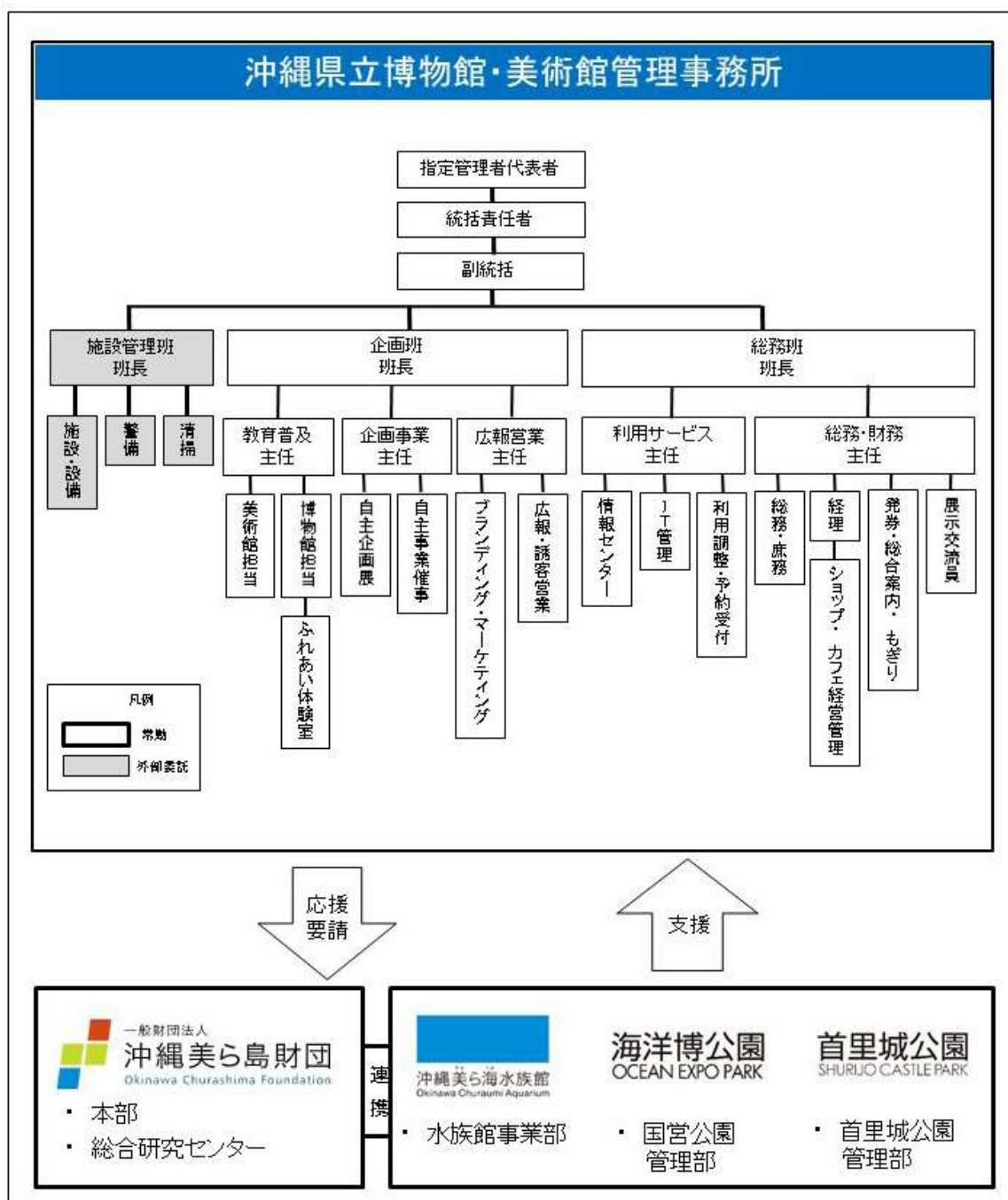
	氏 名	担 当 業 務
企画班	教育普及	
	大濱 萌子	教育普及（博物館・美術館業務）に関すること
	保久村 智恵	教育普及（美術館業務）に関すること
	植田 瑞生	教育普及（博物館）に関すること
	比嘉 麻乃	ふれあい体験室、教育普及に関すること
	広報	
	福治 広規	営業、広報業務に関すること
	金城 正仁	営業、広報業務に関すること

【人事異動】

2021年3月31日 現在

氏 名	適 用
棚原 美帆	2020年10月31日 転出
玉城 照美	2021年1月31日 転出
内間 仁春	2021年3月31日 転出

2. 管理組織図



IV 展示活動

1 展示活動概要

一般財団法人沖縄美ら島財団の指定管理最終年度となる2020年度は、自主企画事業として「描かれた首里城」「名画を読み解く一珠玉の東京富士美術館コレクション」「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」の3つの展覧会を開催した。

(1) 自主企画「描かれた首里城」

会 期：2020年7月23日（木）～9月6日（日）（開催日数40日）

※開館は7/23～8/1、9/6の10日間（8/2～9/5は新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館。9/6は台風10号接近のため13時から開館）

会 場：美術館企画ギャラリー1

観 覧 料：一般500円（400円）、高校・大学300円（240円）

※（ ）は20名以上の団体料金

※ 70歳以上の方および中学生以下は無料

観覧者数：826名（1日平均82.6名）

担当学芸員：川島祥子



展示室内の様子

【開催形式】

主 催：一般財団法人沖縄美ら島財団

協 力：沖縄県立博物館・美術館、沖縄タイムス社

【開催概要】

沖縄県立博物館・美術館および沖縄美ら島財団が所蔵する、首里城をモチーフとして制作された絵画や写真等を展示し、それぞれが制作された時代背景を通し、美術家たちがどのような首里城を描いたのかを紹介した。

【展示内容】

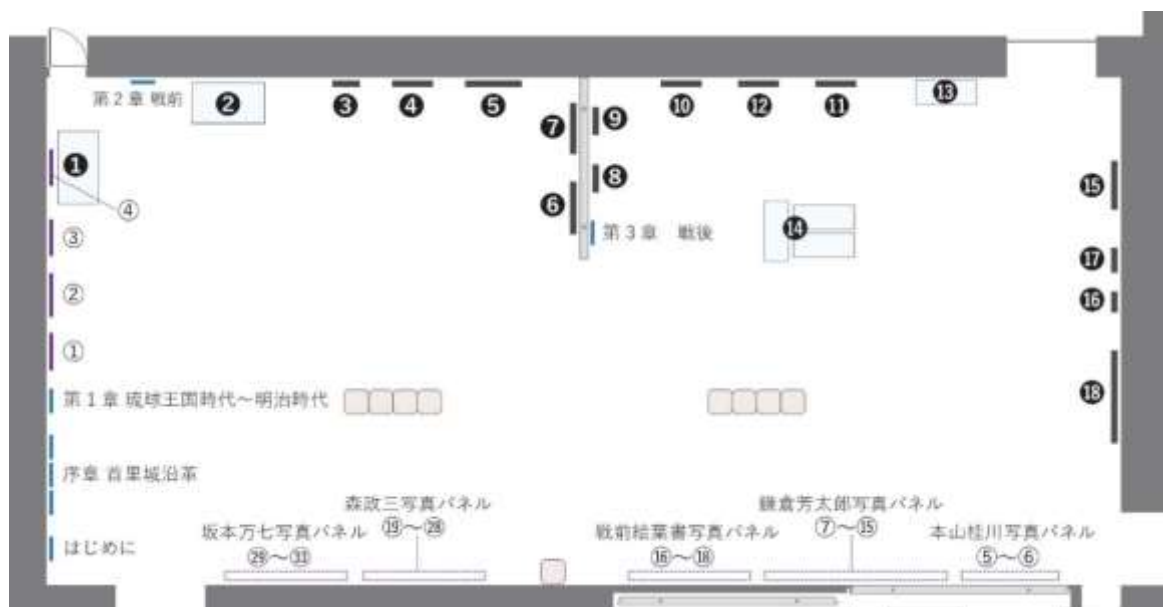
第一章「琉球王国～明治時代」首里城を描いた鳥瞰図等を写真パネルで紹介（絵画1点、写真パネル4点）

第二章「戦前」名渡山愛順、大嶺政寛らの絵画作品を紹介（絵画6点）

第三章「戦後」山田真山をはじめ県内外の美術家が制作した絵画、写真、染色作品、クリスマスカードや琉球切手の原画を紹介（絵画6点、写真4点、染色1点、クリスマスカード1点、琉球切手8点、切手原画3点）

第四章「戦前の写真」鎌倉芳太郎、森政三らが撮影した1920年代～1940年代の写真を紹介（写真パネル29点）

【展示平面図】



(川島 祥子)

（２）自主企画「名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館コレクション」

会 期：2020年12月15日（火）～2021年1月31日（日）（開催日数41日）

会 場：美術館企画ギャラリー 1・2

観 覧 料：一般1,400円（1,200円）、高校・大学1,000円（850円）、小・中学生500円（400円）

※未就学児は無料

※（ ）内は前売及び、20名以上の団体料金

※障がい者手帳をお持ちの方と介助者1名は当日料金の半額

観覧者数：25,293名（1日平均616.9名）

担当学芸員：國吉貴奈

【開催形式】

主 催：一般財団法人沖縄美ら島財団、沖縄テレビ放送株式会社

企画協力：東京富士美術館

協 賛：光村印刷

協 力：ヤマトグローバルロジスティクスジャパン

【開催概要】

東京富士美術館より西洋絵画82点を借用し展示した。ルネサンスから20世紀の現代絵画までの作品を展示し、西洋絵画400年の流れを通覧できる内容とした。また、年代順に作品を見せるだけではなく、西洋に伝統的にあった絵画のジャンルの概念（歴史画、肖像画、風俗画、風景画、静物画）や主題について解説しながら、西洋絵画入門としても楽しめる内容とした。

【展示内容】

油彩画82点、解説パネル12点

【関連催事】

①内覧会

日 時：2020年12月14日（月）16:00～18:00

場 所：美術館企画ギャラリー

参加者数：約60名

②講演会

日 時：2020年12月15日（火）14:00～15:30

場 所：講堂

講 師：五木田 聡（東京富士美術館館長）

参 加 費：無料 ※本展入場券または半券が必要

参加者数：100名（定員100名）

③展示解説会 1 回目

日 時：2020年12月20日（日）14:00～15:00

場 所：企画ギャラリー

講 師：國吉貴奈（沖縄美ら島財団）

参 加 費：無料 ※本展の当日入場券が必要

参加者数：30名（定員10名）

④展示解説会 2 回目

日 時：2021年1月9日（土）14:00～15:00

場 所：博物館講座室

講 師：國吉貴奈（沖縄美ら島財団）

参 加 費：無料 ※本展の当日入場券が必要

参加者数：50名（定員50名）

⑤入場者 1 万人達成セレモニー

日 時：2021年1月13日（水）14:00

会 場：美術館企画ギャラリー入口

プレゼンター：内間仁春（沖縄美ら島財団県博管理事務所統括責任者）



展示会場の様子

内 容：1万人目の来場者となった女性に、本展図録とオリジナルグッズをプレゼントした。

⑥展示解説会3回目

日 時：1月17日（日）14:00～15:00

場 所：博物館講座室

講 師：國吉貴奈（沖縄美ら島財団）

参 加 費：無料 ※本展の当日入場券が必要

参加者数：51名（定員50名）

⑦展示解説会4回目

日 時：1月24日（日）14:00～15:00

※県独自の緊急事態宣言発令のため、開催を中止した。

【展示平面図】



（國吉 貴奈）

（3）自主企画 御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」

会 期：2021年2月9日（火）～3月28日（日）（開催日数41日）

※3月2日（火）～4日（木）はメンテナンスのため休館

※3月15日（月）・22日（月）は臨時開館

※3月21日（日）・28日（日）は開館時間を20時まで延長

会 場：博物館企画展示室、特別展示室1・2

観 覧 料：一般1,300円（1,100円）、大学・高校生800円（650円）、小・中学生500円（400円）

※未就学児無料

※（ ）内は前売及び20名以上の団体料金

※ 障がい者手帳提示者と介助者1名は、当日料金の半額

観覧者数：14,607名（1日平均356.2名）

担当学芸員：川島祥子

【開催形式】

主 催：宮内庁正倉院事務所、沖縄美ら島財団、沖縄タイムス社、朝日新聞社、NHK沖縄放送局

共 催：沖縄県立博物館・美術館

学術協力：奈良国立博物館、九州国立博物館

協 賛：沖縄セルラー電話、琉球銀行、ざまみダンボール、ライブアートボックス

【開催概要】

正倉院宝物とは、奈良・東大寺の倉であった正倉院正倉に伝えられた約9,000件におよぶ品々である。聖武天皇ゆかりの品をはじめ、その多くが奈良時代の作で、調度品、楽器、遊戯具、武器・武具、文房具、仏具、文書、染織品など多彩な分野にわたる。しかし、約1,300年を経た宝物は極めて脆弱であるため、ごく限られた機会でのしか公開がされていない。より多くの人に正倉院宝物の魅力を伝え、その卓越した技術を後世に伝承することを目的とし、模造事業が行われている。人間国宝らによる伝統技術の熟練の技と、最新の科学的調査・研究成果の融合により、宝物の材料や技法、構造までを忠実に再現された再現模造品は、単なる模造ではなく、高い芸術性と学術性を併せ持つ究極の伝統工芸品であるといえる。

新天皇の即位を記念し、これまでに製作された数百点におよぶ再現模造品のなかから、選りすぐりの逸品を紹介し、再現された天平文化の美と技に触れる機会を提供した。

【展示内容】

約1,300年前に正倉院に伝えられた正倉院宝物を、人間国宝らの熟練の技と、最新の科学的調査を融合して制作された、再現模造品73件を展示。

【関連催事】

①正倉院事務所長 特別講演会「正倉院の再現模造の魅力」

日 時：2021年2月9日（火） 13:00～14:00

※県独自の緊急事態宣言が延長されたため中止となったが、当日は無観客で講演を実施。その様子を録画し、後日当館ホームページおよびエントランスホールで公開した。

講 師：西川明彦（宮内庁正倉院事務所長）

②講演会「螺鈿紫檀五絃琵琶の再現プロジェクトについて」

日 時：2021年3月9日（火） 11:00～12:00

場 所：博物館講座室

講 師：山片唯華子（宮内庁正倉院事務所保存課整理室主任研究員）

参 加 費：無料 ※本展観覧券または半券が必要

参加者数：45名（定員50名）

③展示解説会（全2回）

日 時：2021年3月12日（金）／3月19日（金） いずれも18:00～19:00

場 所：博物館講座室

講 師：川島祥子（沖縄美ら島財団）

参 加 費：無料 ※本展観覧券または半券が必要

参加者数：1回目9名、2回目38名（各回定員50名）

④入場者1万人達成セレモニー

日 時：2021年3月19日（金） 11:00

場 所：博物館3階 特別展示室入口

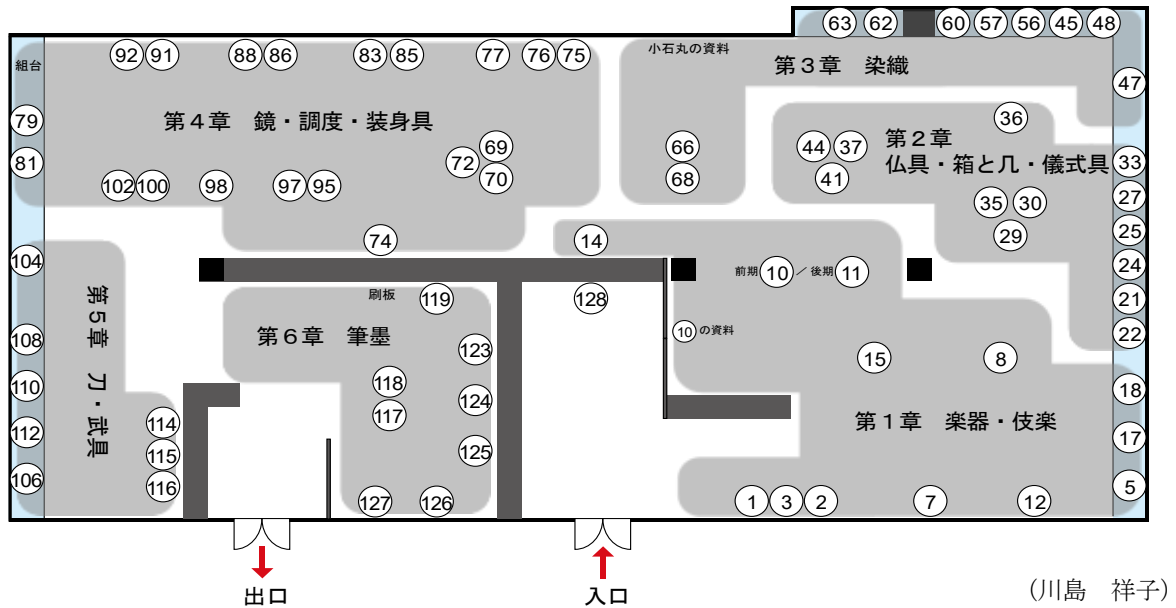
プレゼンター：内間仁春（沖縄美ら島財団県博管理事務所統括責任者）

内 容：1万人目の来場者となった70代女性に、本展図録やオリジナルグッズをプレゼントした。



展示室の様子

【展示平面図】



V 教育・イベント活動

子どもから大人まで幅広い世代の方が気軽に参加でき、楽しみながら学べるプログラムを企画立案し、実施した。ただし一部のイベントは新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止した。

1 ワークショップ等

(1) ふれあい体験室ワークショップ

体験キットおよび展覧会の充実・発展を目的に、博物館の学芸員や専門の指導者と協力して3か月ごとに4つのプログラムを開催した。未就学児から大人まで広い世代に参加してもらえるよう、難易度を調整し短時間で取り組める内容のものを選定した。参加者には、講座の要点をまとめた「博士カード」を配布し、講座を振り返り学びを深められる工夫をした。

講師：比嘉麻乃、保久村智恵（沖縄美ら島財団）

場所：ふれあい体験室前エントランスホール

① 4、5、6月「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

体験キットNo.19「いろいろな玩具」に関連して、沖縄の昔ながらの草編み玩具を画用紙やソフトテープを使って制作した。

時間：10:00「かたつむり」／10:30「馬グラー」

11:00「星コロ」／11:30「ハブグラー」

参加費：300円

日程・参加者数：4月4日（土）なし、11日（土）なし、18日（土）なし、25日（土）なし

5月2日（土）なし、9日（土）なし、16日（土）なし、23日（土）なし、30日（土）なし

6月6日（土）2名、13日（土）8名、20日（土）11名、27日（土）8名

※各日定員24名（各6名）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため4月4日～5月30日中止



② 7、8、9月「ふれたい博士の葉脈標本」

体験キットNo.7「いろいろな木と草」に関連して、葉脈の仕組みや働きについて解説し、リュウキュウコクタンやシークワサーの葉などを使った葉脈標本のしおりを制作した。

制作物：7月「リュウキュウコクタン／シークワサー」

8月「ヤブツバキ／サンダンカ」

9月「クスノハカエデ／ガジュマル」

時 間：10:00／10:30／11:00／11:30

参 加 費：400円

日程・参加者数：7月11日（土）14名、18日（土）6名、25日（土）17名

8月1日（土）なし、8日（土）なし、15日（土）なし、

22日（土）なし、29日（日）なし

9月5日（土）なし、12日（土）なし、19日（土）なし、26日（土）なし

※各日定員24名（各6名）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため8月1日～9月26日中止



③ 10、11、12月 岩石展関連催事「天然石のプレスレットづくり」

博物館特別展「岩石」展に関連して、岩石や鉱物の魅力について解説し、アメジストやローズクォーツなどの天然石を使ってプレスレットを制作した。

時 間：10:00／10:45／11:30

参 加 費：400円

日程・参加者数：10月3日（土）16名、10日（土）14名、24日（土）13名、

31日（土）17名

11月1日（日）18名、7日（土）16名、14日（土）18名、21日（土）18名、

28日（土）18名

12月5日（土）16名、12日（土）17名、19日（土）15名、26日（土）18名

※各日定員18名（各回6名）



④ 1、2、3月「ふれたい博士のティラジャーでコマあそび！」

体験キットNo.15「イノー ～海の食料庫～」に関連して、ティラジャー（マガキガイ）の貝殻を使って、昔のてづくりおもちゃ、カイガラゴマを制作した。

時 間：10:00／10:30／11:00／11:30

参 加 費：300円

日程・参加者数：1月2日（土）4名、9日（土）5名、16日（土）7名、

23日（土）なし、30日なし

2月6日（土）なし、20日（土）なし、27日（土）なし

3月6日（土）2名、13日（土）4名、20日（土）11名、27日（土）6名

※各日定員24名（各6名）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため1月23日～2月27日中止



（比嘉 麻乃）

（2）沖縄県立芸術大学古典芸能公演

沖縄の伝統芸能を学ぶ学生たちの人材育成を目的に、当館の野外展示場やエントランスホールを活用した公演会を実施した。

① 沖縄県立芸術大学生による「琉球古典音楽演奏会」

日 時：7月25日（土）11:00～11:30

場 所：屋外展示場（民家）

出 演 者：歌三線 山内昌也（沖縄県立芸術大学准教授）、歌三線 石川両子

司 会：山内昌也（沖縄県立芸術大学准教授）

参加者数：17名（定員：民家10席）

※参加者数には民家の外（庭）からの見学者も含む。



② 沖縄県立芸術大学生による「琉球古典音楽演奏会」

日 時：7月26日（日）11:00～11:30

場 所：エントランスホール

出 演 者：歌三線 山内昌也（沖縄県立芸術大学准教授）、歌三線 照屋綺恵沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻有志

参加者数：25名（定員：エントランスホール30席）
※雨天のためエントランスホールで実施。

③ 沖縄県立芸術大学生による「琉球古典音楽演奏会」

日 時：10月22日（木）13:00～13:30
場 所：エントランスホール
出 演 者：沖縄県立芸術大学音楽学部琉球芸能専攻有志
参加者数：23名（定員：エントランスホール30席）
※雨天のためエントランスホールで実施。



④ 沖縄県立芸術大学生による「琉球古典音楽演奏会」

日 時：10月27日（火）17:00～17:30
場 所：屋外展示場（民家）
出 演 者：歌三線 照屋綺恵、箏 大城綾音
参加者数：16名（定員：民家10席）
※参加者数には民家の外（庭）からの見学者も含む。

（植田 瑞生）

VI 広報事業に関する業務

2020年度は4月から新型コロナウイルス感染症拡大防止に伴う臨時休館や展覧会、催事の中止・変更を余儀なくされ、都度当館ホームページやSNS、県内主要マスコミ各社※へのニュースリリースを配信し、県民や観光客へ最新の開館情報が行き渡るように努めた。また、三密を避ける対策や感染症対策の取組みについて館ホームページ・SNS、館外掲示板、正面入口前パネル、各種印刷物に掲出し、来館者が安心・安全に観覧できるように広報した。その他、県民の外出自粛が求められている中で、自宅に居ても当館を楽しんでもらうために動画コンテンツ（学芸員による展示解説動画、ワークショップ動画等）を制作し、当館ホームページで公開した。

誘客広報では、県内入域観光客が大きく減少している状況を鑑み、当館SNS（Facebook、Instagram、Twitter）での投稿回数を増やした他、SNS口コミキャンペーン、那覇・浦添市内小学校のクラスごとのチラシ配布、那覇市公共掲示板で展覧会ポスター掲出等、県民向け広報を強化した。また、当館で開催される展覧会や関連イベント、教育普及事業、講演会、県民ギャラリーなどの催しについては「県立博物館・美術館 週間展示会・イベント情報」及びニュースリリースを作成し、県内の主要マスコミ各社へFAXやメールで配信し、情報の告知や取材依頼を行った。

※マスコミ各社：新聞社（沖縄タイムス社、琉球新報社）、テレビ局（NHK沖縄放送局、琉球放送、琉球朝日放送、沖縄テレビ、沖縄ケーブルネットワーク）、ラジオ局（RBCiラジオ、NHK沖縄放送局、ラジオ沖縄、FM沖縄）

その他、OCVB主催「沖縄修学旅行オンラインフェア2021」に参加し、県外旅行社（計8社）へ当館の教育旅行プログラムをPRしたほか、館の新ブランドスローガン「あなたの沖縄に会う」を県内外へ広く周知するために当館ホームページ内の特設ページで公開するなど、コロナ収束後を見据えた誘客活動や広報宣伝活動を行った。

（1）年間行事案内

年度初めに展覧会の会期や内容、講座や解説会の日時などの年間の行事案内を掲載した「2020年度 沖縄県立博物館・美術館 行事案内」（リーフレット15,000部）を作成し、県内外の文化・観光施設やホテル、レンタカー会社、那覇空港案内所、旅行会社などへ配布・設置の依頼をし、配布に努めた。さらにパンフレット配布業者へ委託し全島の観光施設、ホテルなどにも設置した。

（2）チラシ・ポスター

県内の学校や図書館、文化施設、教育機関、銀行、病院などには展覧会ごとにチラシやポスターを配布し、展覧会の告知を行った。また県内の観光施設やレンタカー会社、県内書店、観光案内所、モノレール駅、那覇空港などにもチラシやポスターの設置協力を求めた。また「よみがえる正倉院宝物」ではコープ宅配会員約60,000世帯へチラシを配布した。さらに沖縄美ら島財団独自のネットワーク約700か所にも毎月チラシやポスターを郵送し全島にPRした。

（3）広報誌

季刊広報誌として「おきみゅー通信」（8P・カラー）を発行し、展覧会の見どころや学芸員コラム、イベン

ト情報等を掲載し当館の活動をPRした。「おきみゅー通信」は県内文化施設や自治体のほか、銀行や病院など約1,500か所に送付し県内全域に行き渡るようにした。ホームページ上でも専用ページを設け、最新号からバックナンバーまでも閲覧できるようになっている。

(4) 懸垂幕

館外正面入口側に横2m×縦6mの懸垂幕を設置し、博物館企画展・特別展や美術館企画展の告知を行った。

(5) 館内外ターポリン

館内は博物館企画展示室入口付近に横3m×縦3.8mのターポリンを、美術館企画展示室入口付近に横3.6m×縦3.4mのターポリンを掲出した。館外には多目的広場付近に横2.85m×縦3.4mのターポリンを博物館企画展、美術館企画展でそれぞれ掲出した。また初の試みとしてメインエントランス入り口の自動ドアに「稲嶺成祚展」「岩石展」の横1.3m×縦0.9mフィルムステッカーを掲出し、来館者へ同展の告知を行った。

(6) 公共掲示板

県主催展覧会「岩石展」および「稲嶺成祚展」では那覇市内の公共掲示板(27カ所)へ展覧会ポスターを掲出し、県民への周知を図った。



琉球銀行本店前(久茂地)



おもろまち駅前

(7) 沖縄美ら海水族館・首里城公園との連携(トートトリップキャンペーン)

前年度に引き続き入域観光客の誘客施策として、沖縄美ら島財団が管理運営する「沖縄美ら海水族館」「首里城公園」と連携しトートトリップキャンペーンを実施した。今年度実績:740名(昨年度3,875名)

(8) モノレール駅内広告

沖縄都市モノレール(ゆいレール)では有料スペース県庁前駅ドアステッカー広告で全館や展覧会情報を告知した。そのほか、おもろまち駅改札外付近に当館までの誘導サインの立て看板として港川人の立て看板とチラシラックを設置し、当館の情報を発信した。



県庁前駅ドアステッカー



改札出口正面

(9) 新聞記事・広告 掲載数478回(前年度実績582回)

県内新聞(沖縄タイムス・琉球新報)や副読紙(ほーむぷらざ・週刊レキオ)に毎週、展覧会情報およびイベント情報を提供し、パブリシティを活用した広報を行った。新聞広告ではマスコミ共催の「珠玉の東京富士美術館コレクション」を琉球新報で3回、「よみがえる正倉院宝物」を沖縄タイムスで57回掲載した。

(10) テレビ 放送33回(前年度実績53回) ※放送回数は取材のみカウント

県内テレビ局(沖縄テレビ・琉球放送・琉球朝日放送・NHK沖縄・沖縄ケーブルテレビ)に展覧会や関連催事、ワークショップ等の取材依頼をかけ、ニュースや番組で紹介してもらえるように努めた。今年度の実績ではNHK沖縄「おきなわHOTeye」、沖縄テレビ「OTV Live News it!」「ひーぷー☆ホップ」「ウィンウィン」、琉球放送「RBC THE NEWS」「金曜日のゆうわく」、琉球朝日放送「QAB NEWS Headline」「十時茶まで待てない!」、OCN「OCNインフォメーション」等がある。テレビCMではマスコミ共催の「珠玉の東京富士美術館コレクション」を沖縄テレビ、「よみがえる正倉院宝物」を琉球放送と琉球朝日放送で放映した。

(11) ラジオ 放送7回(前年度実績247回)

県内ラジオ局(RBCiラジオ・FM沖縄・ROK)に展覧会や関連催事、ワークショップ等の取材依頼をかけ、ニ

ユースや番組で紹介してもらえるように努めた。

(12) 雑誌、機関紙 掲載67回（前年度実績76回）

雑誌の取材には積極的に応じ、様々な媒体への露出を高めるよう努力した。県内イベント情報誌「おきなわ倶楽部」「オキナワグラフ」「筥柄暦」「話くわっちー」「モモト」等のパブリシティ枠に展覧会情報を掲載した。また、沖縄美ら島財団が保有する基地向け新聞「星条旗新聞」・雑誌「SAMURAI GATE」の広告枠を利用し県内在住外国人向けに展覧会の告知を行った。その他、県外観光客向けに「ちゅらナビ」「るるぶ沖縄ベスト20」「JAFPLUS」「まっぷる20」「レンタカードライブマップ」「おとな旅プレミアム沖縄'21-22」等で当館を紹介した。

(13) インターネット 掲載125回（前年度実績83回）

様々なイベント情報サイトで広報展開した。今年度の実績では「YahooJAPAN 地域情報」「じゃらんnet」「観光ガイド」「JTBるるぶインターネットサイト」「ミュージアムカフェ」「CALEND-OKINAWA」「筥柄暦」「Art scape」「Internet Museum」「Art Show.jp」「Art Agenda」「美術手帖」「IMA ONLINE」等へ展覧会情報を掲載した。

(14) 動画コンテンツ

コロナ禍の取り組みとして、自宅にいても当館を楽しんでもらえるように、オリジナル動画コンテンツの制作に注力した（展示解説動画28本、講座関連動画6本、ワークショップ動画6本制作）。制作した動画は当館ホームページ内に専用ページを開設し、一般公開した。



「おうちで研究&あそび♪」ページ



おきみゆーYouTubeチャンネルページ

(15) 誘客パンフレット

誘客パンフレットを県内ホテルやレンタカー営業所、ゆいレールおもろまち駅などの全200か所に設置。



日本語版誘客パンフレット



海外用誘客パンフレット【英・繁・簡・韓】

(16) プレイガイド

前売券の販売及びチラシ・ポスターの設置場所としてプレイガイド（ミュージアムショップゆいむい、リウボウサービスカウンター、コープあふれ、ファミリーマート各店（イープラス）、ローソン各店、セブンイレブン各店、ジュンク堂書店那覇店など）で販売を行った。また観光客向けには沖縄ツーリストラウンジ・レンタカー営業所で博物館常設展、美術館コレクション展の前売券の販売を行った。その他「珠玉の東京富士美術館コレクション」「よみがえる正倉院宝物」ではナハテラスと連携し、ホテルショップで両展の観覧券を販売した。

(17) SNS

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う感染症対策や開館情報をはじめ展覧会情報、イベント情報等の最新の館のニュースをFacebookやInstagram、Twitterで発信した。Facebookの「いいね！」（ファン数）は今年度約8,500人（昨年度比／約200人増）、Instagramフォロワーは約5,700人（昨年度比／約1,700人増）、Twitterフォロワー1,700人（昨年度比／約900人増）とLINEフォロワー2,900人（昨年度比／約1,200人増）となった。「岩石展」「稲嶺成祚展」「珠玉の東京富士美術館コレクション」「よみがえる正倉院宝物」はFacebookやInstagramの有料

SNSバナー広告や記事広告を配信し、情報拡散および誘客促進を図った。その他、展覧会ごとにSNSキャンペーンを実施した。なかでも「珠玉の東京富士美術館コレクション」では参加数535件で過去最高数を記録した。

(18) 1 DAY PASSPORT

開催中の全ての展覧会が観覧できるお得な一日利用券として「1 DAY PASSPORT」を販売した。2020年度販売数4,524枚（昨年度比29%）。

(19) 「2020 GWはおきみゅーでみる・つくる・ちょっとゆるる」（5月2～5日）【中止】

県の学芸員や博物館友の会、美術館支援会happと連携し、家族連れのお客様が楽しめる内容を中心に、ワークショップや民話上映会、レオ・レオーニの絵本読み聞かせなどを計画したが、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、中止した。

(20) OkiMu夏の特別企画 OkiMu no 展示室であそぼ♪（7月25～26日）

美術館企画ギャラリーで予定されていた展覧会が中止となり、展示室が空き室になったことに伴い、そこで行う夏休みイベントを企画した。7月から9月にかけて26件のプログラムを予定していたが、「OkiMu de 振り子アート」を2回実施した後、沖縄県の緊急事態宣言が発令されたため、他のプログラムは中止とした。

(21) おきみゅー誕生祭2020（11月3日）

新型コロナウイルス感染症対策として三密回避のために例年よりも規模を縮小し、沖縄県が策定したイベントなど実施ガイドラインに沿って各催事を組み立て、お客様が安心して参加（来館）してもらえるようにチラシやHP等で新型コロナウイルス感染予防対策への協力を呼びかけた。結果として、総入館者数4,345名（昨年同日比107%）のお客様を迎えることができた。来館者のほとんどが県民客で例年に比べ家族連れが多く見られた。

(22) 旧正月はおきみゅーに移行！2021（2月12～14日）【※一部中止】

県独自の緊急事態宣言発出中のため、参加者を募るワークショップや公演等の催事を全て中止とし、三密に該当しない「旧正月のパネル展」「博物館常設展干支めぐり」「ゆいむい干支市」のみ開催した。今回の総入館者数は3,962名（昨年度比65%）となった。

(23) プロムナードコンサート（開催日11月3日、12月27日、3月6日）

沖縄県立美術館支援会happとの連携事業。当初年間計画では月2回（年間24回）程度開催を予定していたが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のための休館やイベント自粛を余儀なくされ、結果3回の開催に留まった。各回、観覧者の氏名・連絡先・健康状態の聞き取りやマスクの着用・ソーシャルディスタンスを確保するアナウンスを行うなど感染症対策を徹底し開催した。

（福治 広規）

VII 調査・研究・講演・著作論文等の活動

1 調査・研究等

金城美奈子（企画班長／学芸員）

○調査・研究等

- ・御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」作品借用・輸送立ち会い（奈良国立博物館／2021年2月1日～3日）

保久村智恵（教育普及担当／学芸員）

○講演・発表等

- ・名 称：こどもフェスタ秋2020「沖縄の土で作るクレヨンで絵を描こう！」
- 日 時：2020年11月3日（火）
- 場 所：博物館実習室
- 依頼機関：沖縄県立博物館・美術館

川島祥子（学芸業務担当／学芸員）

○調査・研究等

- ・自主企画「描かれた首里城」出展作品調査（沖縄県立博物館・美術館（博物館班）／2020年6月30日）
- ・自主企画「描かれた首里城」出展パネル調査（首里城公園管理センター・那覇市／2020年7月20日）

- ・自主企画「描かれた首里城」出展作品調査（沖縄県立博物館・美術館（美術館班）／2020年7月21日）
- ・自主企画「御大典記念 特別展 よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」名古屋会場撤収・作品状態確認立会および奈良国立博物館への輸送立会（松坂屋美術館・愛知県、奈良国立博物館・奈良県／2020年11月23日～11月27日）
- ・自主企画「御大典記念 特別展 よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」沖縄初出作品の状態確認および奈良国立博物館への輸送立会（宮内庁正倉院事務所・奈良県、奈良国立博物館・奈良県／2021年1月27日～1月30日）

○著作論文等

- ・「描かれた首里城 山田真山・米軍統治下の美術家たち」2020年9月2日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き① 模造 螺鈿紫檀五絃琵琶」2021年2月26日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き② 模造 獅子面」2021年2月27日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き③ 模造 黄銅合子」2021年2月28日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き④ 模造 粉地彩絵八角几」2021年3月6日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑤ 模造 紀伊国調橡純」2021年3月11日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑥ 模造 銀平脱鏡箱」2021年3月13日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑦ 模造 白牙把水角鞘小三号刀子」2021年3月14日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑧ 模造 螺鈿箱」2021年3月16日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑨ 模造 黒作大刀」2021年3月17日 沖縄タイムス
- ・連載「正倉院よみがえる輝き⑩ 模造 続修正倉院古文書 第二十巻」2021年3月21日 沖縄タイムス

○講演・発表等

- ・名 称：「よみがえる正倉院宝物―再現模造にみる天平の技―」関連催事 展示解説会
- 期 日：2021年3月12日（金）／3月19日（金）
- 場 所：博物館講座室

國吉貴奈（学芸業務担当／学芸員）

○調査・研究等

- ・自主企画「名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館コレクション」出展作品調査（宮崎県立美術館・宮崎県／2020年9月12日）
- ・自主企画「名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館コレクション」作品状態確認および輸送立ち会い（宮崎県立美術館・宮崎県／2020年11月4日～5日）
- ・自主企画「名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館コレクション」返却立ち会い（東京富士美術館・東京都／2021年2月6～12日）

○講演・発表等

- ・名 称：「名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館」関連催事 展示解説会
- 期 日：2020年12月20日、2021年1月9日、1月17日
- 場 所：企画ギャラリー、博物館講座室

2 職員研修（研修会）

渡久地 雅代（学芸業務担当／学芸員）

○研修会

- ・ウェブセミナー「展示論講座―Withコロナの展示を考えよう」（Zoomにて開催／2021年1月23日・24日）

比嘉麻乃（教育普及業務担当／学芸員）

○研修会

- ・「令和2年度 ミュージアム・エデュケーション研修 ～多様な学び手とのかかわりを考える～」
- 前期：2020年10月7日～10月9日（東京都美術館・東京都）
- 後期：2021年2月8日～2月9日（沖縄県立博物館・美術館にてオンライン研修）

全館共通事業

- I 学芸員実習
- II 国際博物館の日
- III 移動展
- IV 燻蒸・消毒処理
- V 全体研修
- VI 刊行物
- VII 展覧会一覧

I 学芸員実習

1 博物館実習

当館では、1969年（昭和44）に最初の実習生を受け入れてから、2006～2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年2回（6月、8月）に実施している。

しかし、2020年度は新型コロナウイルス感染防止のため、学芸員実習の実施方法を大幅に縮小せざるを得なくなった。例年通りの6月と8月の開催ができず、前期を8月、後期を10月に延期したものの、8月には再度感染が拡大したため、前期は9月に延期することとなった。また、1回あたりの実習期間を1週間（4日～5日間）に短縮し、実習生の数も例年の半分の6名～7名に限定した。実習内容は、従来であれば2週間の実習期間中に実習生を数グループに分けてミニ展示会を開催しているが、2020年度は実習生各自がテーマを決め、資料研究及び展示や教育普及活動等の実施案を作り、これを学芸員全員の前で発表してもらう方法で対応した。

2020年度の実習期間は、前期①（9月8日～11日）、前期②（9月15日～18日）、後期①（10月13日～19日）、後期②（10月20日～26日）までで、実習生各自の課題研究のテーマは、以下のとおりである。

（1）博物館学芸員実習カリキュラム

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第1日	（火）	開講式、オリエンテーション、IPM 特別展案内	博物館活動の概要説明、収蔵庫等施設案内 教育普及実習
第2日	（水）	資料取扱い実習①	資料取扱い実習②
第3日	（木）	資料取扱い実習③ 資料調査演習の担当決めとミーティング	資料調査演習・課題研究
前期第4日	（金）	資料調査演習・課題研究	課題発表、終了式
後期第4日	（金）	資料調査演習・課題研究	資料調査演習・課題研究
後期第5日	（月）	資料調査演習・課題研究、学芸員ゼミ参加	課題発表、終了式

（2）実習生

前期①

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	名嘉 翼	琉球大学	同じムシでもちがうムシ？	菊川
2	松本 俊		私たちの知らない自然を知っている岩石	宇佐美
3	具志 明日香	沖縄国際大学	ティール～今と昔のマイバック～	阿利
4	當銘 満哉		常設展示石獅子キャプション 地元の守り神「シーサー」について学ぼう！	伊禮
5	久次 ななえ	沖縄県立芸術大学	月桃石鹸づくりワークショップ	菊川
6	平安名 まなみ	八洲学園大学	沖縄の着物について	篠原

前期②

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	宮川 菜奈穂	琉球大学	アルバム『Luchu』解説・活用考案	外間
2	大城 展		発見!!土砂災害に潜む真犯人	宇佐美
3	藤原 望海		芭蕉の墨絵	與那嶺
4	小林 美和	沖縄国際大学	顔立ちが特徴的な成人男性3個体の頭蓋骨からその時代の食生活、風習を探る	澤浦
	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
5	金城 亜美	沖縄県立芸術大学	民具とその移り変わり	阿利
6	金城 有香	茨城大学	貝符の展示を考える	山本

後期①

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	勝目 陽菜	琉球大学	石が教えてくれる尖閣諸島	宇佐美
2	瀬長 涼		じーっと見つめてミーカガン（民俗）	阿利
3	劉 陳情		出土銭貨の展示 主題「中世沖縄出土銭の種類別ミニ展示」	山本
4	新垣 涼風	沖縄国際大学	沖縄の刃～島に眠る輝き～	外間
5	山田 珠妃		博物館が担う「モノの保存」と「意味の保存」について	篠原
6	金子 拓海	専修大学	蝶形骨器～蝶の形にみる沖縄の人々の暮らし～	山本
7	大西 彩未	東京農業大学	沖縄のハトについて	菊川

後期②

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	呉屋 絢音	琉球大学	ダイヤモンドは何故美しい？～石の輝き～	宇佐美
2	比嘉 美南海		紅型の色と模様	與那嶺
3	志喜屋 悠乃		日本刀をメインとした展示	外間
4	嘉味田 鈴奈	沖縄国際大学	ヤコウガイ製貝匙展示について	山本
5	照屋 真澄	八洲学園大学	鼓にみる人々の祈りの世界	阿利

（大湾 ゆかり）

2 美術館実習

美術館では、開館3年目の2009年から実習受入を行っている。例年受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10名以内としている。時期は8月中旬から2週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義にあたっている。今年度は新型コロナの影響で実習時期をずらし、講義を分散して実施した。また、県内の沖縄県立芸術大学の11名を受け入れた。

【美術館学芸員実習カリキュラム】

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第1日	月	開講式、オリエンテーション、IPM	美術館業務の考え方・博物館施設説明
第2日	火	美術館活動の概要及び施設・設備	常設展示の実際Ⅰ、共通課題研究
第3日	水	共通課題研究、収集事業概要	資料の修復実習、教育普及事業Ⅰ
第4日	木	共通課題研究、資料の分類	常設展示の実際Ⅱ、保存修復の実際
第5日	金	共通課題研究、常設展の実際Ⅲ	調査研究概要、企画展の実際Ⅰ
第6日	月	共通課題研究、資料に関する情報処理	立体資料の取扱い実習（彫刻）
第7日	火	共通課題研究、平面資料の取扱い（油彩・水彩画）	平面資料の取扱い（版画）
第8日	水	共通課題研究、教育普及Ⅱ	平面資料の取扱い実習Ⅰ・Ⅱ
第9日	木	共通課題研究、作品調査の方法	平面資料の取扱い実習Ⅲ・Ⅳ
第10日	金	共通課題発表、平面資料の実習Ⅴ	実習のまとめ、閉校式



開校式の様子



教育普及講座



調査研究講座

(富原 圭子)

3 職場体験

毎年、指定管理者が窓口となって中学校・高等学校などを対象に職場体験受け入れを行っているが、2020年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため受け入れを見送った。

(保久村 智恵)

II 国際博物館の日

名 称：2020年5月18日「国際博物館の日」

会 期：2020年5月21日（木）～6月7日（日）（16日間）

会 場：パネル展／エントランス・ホールおよびパネル掲載情報の当館HP上での公開

【開催趣旨】

毎年5月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称ICOM：アイコム）によって「国際博物館の日」と定められている。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行う。

【実施内容】

博物館・美術館の活動を広く一般県民に伝えるために、エントランスホールにてパネル展示を実施した。また無料入館日の設定を実施した。

○パネル展 2020年5月21日（木）～6月7日（日）

ICOM・「国際博物館の日」の説明、（一財）沖縄美ら島財団紹介、指定管理者自主企画催事の紹介、博物館の教育普及、博物館の調査研究

※合わせて館HPにて以下の内容を公開。

- ①国際博物館の日2020の紹介
- ②国際博物館の日2020－博物館の調査研究活動－
- ③国際博物館の日2020－博物館の教育普及活動－
- ④国際博物館の日2020－博物館の展覧会－
- ⑤国際博物館の日2020－移動展－
- ⑥沖縄美ら島財団の活動
- ⑦指定管理者自主企画催事のご紹介



エントランスホールでのパネル展の様子

○無料入館日 2018年5月23日（土）（企画展はのぞく）

(山崎 真治)

III 移動展

2020年度（令和2）の移動展は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次年度に延期、12月に開催予定。

以下、記録として2020年度「第13回移動展in渡嘉敷島」実施要項の計画案について記しておく。

【趣 旨】

沖縄県立博物館・美術館では、県民が本県の自然・歴史・文化や芸術を正しく認識できるよう、これまで収集された資料を常設展示やコレクション展示で公開してきた。しかしながら島嶼県である本県では、当館の利用に不便を感じている離島や遠隔地に住む方々が多く、県民が等しく当館を利用することが難しい現状にある。移動展は、離島や遠隔地の方々に収蔵資料の展示をみていただくことによって、沖縄の自然・歴史・文化や、芸術への理解を深めていただくことを目的として実施する。

【開催形式】

主 催：沖縄県立博物館・美術館、沖縄美ら島財団、渡嘉敷村教育委員会
協 力：沖縄博物館友の会、県立美術館支援会happ

【開催地】渡嘉敷村

【会期／開場時間】2020年（令和2）12月11日（金）～12月13日（日）／午前9時～午後5時
※12月11日（金）開会式13:00～13:30（予定：要調整）

【会 場】調整中（渡嘉敷村中央公民館予定）

【入 場 料】無料

IV 燻蒸・消毒処理

2020年度は、2007年度から実施している総合的防害虫管理（IPM）の運用を継続して行い、活動として、年2回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPMモニタリング等を行い、毎月1回のIPM全体会議にて連絡・報告などを行っている。その目的は、収蔵資料の保存管理のため、定期的な消毒作業を行い、保存環境の適正化に努めている。

（1）2020年度 全館燻蒸・消毒処理

○第1回 全館燻蒸・消毒

期 間：2020年6月29日（月）～7月7日（火）9日間

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ブンガノン）

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

○第2回 燻蒸・消毒

期 間：2021年3月1日（月）～3月4日（木）4日間

消毒箇所：収蔵庫（博）・バックヤード（博、美）・博物館実習準備室

使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ブンガノン）

処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

（2）簡易燻蒸・消毒処理

各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館3か所、美術館2か所、県民ギャラリー1か所）を設置、毎日深夜に散布（スミスリン乳剤）開閉する場所の害虫駆除に実施している。

また、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろうくん」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里 宗彦）

V 刊行物

（全 体）

	刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格（頁）	内 容
1	沖縄県立博物館・美術館 年報（平成31・令和元年度実績報告）No. 13	定 期	300	A 4（215）	前年度の博物館・美術館活動報告

(博物館班)

	刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁)	内 容
1	企画展「新収蔵品展 ―令和元年度収蔵資料―	不定期	500	A 4 (24)	企画展図録
2	岩石 THE ROCKー石ころから見える地球のダイナミズム	不定期	500	A 4 (96)	特別展図録
3	沖縄の 藍 自然と人が織りなす製藍の技	不定期	800	A 4 (72)	企画展図録
4	手わざー琉球王国の文化ー	不定期	10,000	A 4 (28)	巡回展図録
5	沖縄県立博物館・美術館 博物館紀要 第14号	定期	600	A 4 (147)	博物館学芸員の調査研究報告書
6	令和2年度 博物館教育普及活動報告書	定期	800	A 4 (71)	博物館教育普及活動報告
7	令和2年度沖縄県立博物館・美術館 学校連携モデル研究事業2017～2020	不定期	800	A 4 (41)	学校連携モデル研究事業報告書
8	明和津波襲来250年 3月文化講座・エントランスミニ展示資料「大津波の痕跡を探る」	不定期	300	A 4 (10)	文化講座及び、展示会図録

(美術館班)

	刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁)	内 容
1	企画展「沖縄の美術シリーズⅧ 稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」図録	不定期	1,000	A 4 変形 (272)	企画展図録
2	令和2年度 美術館教育普及活動報告書	定期	700	B 5	美術館教育普及活動報告書

(指定管理者)

	刊 行 物 名	種 類	部 数	規 格 (頁)	内 容
1	おきみゅー通信春号	季刊誌	6,000	A 4 (8)	館広報誌
2	おきみゅー通信夏号	季刊誌	3,000	A 4 (8)	館広報誌
3	おきみゅー通信秋号	季刊誌	6,000	A 4 (8)	館広報誌
4	おきみゅー通信冬号	季刊誌	6,000	A 4 (8)	館広報誌
5	2020年度展覧会年間スケジュールリーフレット	年1回	15,000	蛇腹折(14)	年間展覧会スケジュール
6	GWはおきみゅーでみる・つくる・ゆくる	年1回	10,000	A 4	イベント告知チラシ
7	おきみゅースタンプラリー (誕生祭ver)	年1回	1,300	A 5	スタンプラリー台紙
8	館内周遊ラリー「ここみてナイン」台紙	不定期	1,000	A 5	館内周遊ラリー
9	貸施設案内パンフレット (増刷)	不定期	1,500	A 3 ヨコ変形 蛇腹折	貸施設紹介パンフレット
10	旧正月はおきみゅーに行こう! 2021	〃	2,100	A 4	イベント告知チラシ
11	訂正料金表チラシ	不定期	12,000	A 7 変形	訂正料金告知チラシ

VI 展覧会一覧 (2020年度)

	展 示 会 名	場 所	主 催	期 間
1	博物館常設展 海と島に生きる ―豊かさ、美しさ、平和を求めて―	博物館常設展示室 総合展示室	沖縄県 (博物館班)	4/1～3/31
2	博物館常設展部門展示 「那覇港～往来する人とモノ～」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県 (博物館班)	通年
3	博物館常設展部門展示 正月、清明、ユッカヌヒー、旧盆、十五夜、ムーチー、冬至 (仏前供物替え)	博物館常設展示室 民俗部門展示室	沖縄県 (博物館班)	各時季
4	石田尚志展	コレクションギャラ リー1	沖縄県 (美術館班)	2020/2/15～10/11 (会期延長)
5	大城精徳の仕事	コレクションギャラ リー2	沖縄県 (美術館班)	2020/2/15～10/11 (会期延長)

	展 示 会 名	場 所	主 催	期 間
6	博物館常設展部門展示 「よみがえれ首里城 ―王国の輝き―」	博物館常設展示室 美術工芸部門展示室	沖縄県（博物館班）	4/14～9/6
7	企画展「激動の明治・大正の沖縄 第11 代斎藤用之助の足跡から」	特別展示室2	沖縄県（博物館班）	5/2～6/21
8	企画展 「新収蔵品展―令和元年度収蔵資料―」	企画展示室、特別展示 室1	沖縄県（博物館班）	5/19～6/21
9	稲村賢敷生誕125年記念博物館エントランスミニ展示「稲村賢 敷が追いかけた倭寇の姿―先島諸島と久米島の遺跡を見る―」	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	6/9～6/28
10	ふわ・ぶか・もぐ・きら 世界の珍しい タネ展	企画展示室、特別展示 室1、2	（一財）沖縄美ら島 財団	7/11～8/23 ※新型コロナウイルス感 染拡大防止のため延期
11	緊急企画 博物館コレクション展「博物 館の秘蔵品展」	企画展示室、特別展示 室1	沖縄県（博物館班）	7/14～8/10
12	子どもの情景	コレクションギャラ リー2	沖縄県（美術館班）	7/17～10/11
13	化石展 ―アンモナイト愛好家・土橋浩一 の世界―	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	7/21～10/25
14	描かれた首里城	美術館企画ギャラリ ー1	（一財）沖縄美ら島 財団	7/23～9/6 ※緊急事態宣言発令のた め8/2～9/5まで臨時休館
15	特別展 「「岩石」―石ころから見える地 球のダイナミズム―」	企画展示室、特別展示 室1、2	沖縄県（博物館班）	9/8～11/15
16	博物館常設展部門展示「自然が織りなす 琉球の美―岩石展・琉球藍展関連展示―」	博物館常設展示室 美術工芸部門展示室	沖縄県（博物館班）	9/15～1/31
17	博物館常設展部門展示 「中山世鑑・蔡 鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	9/15～11/8
18	企画展「沖縄の美術シリーズⅧ 稲嶺成祚 展 きごうの、ふうけい。」	企画ギャラリー1、2	沖縄県（美術館班）	9/18～11/3
19	「沖縄美術の流れ・写真―山田實」展	コレクションギャラ リー1	沖縄県（美術館班）	10/20～6/27
20	「子どもの情景」展	コレクションギャラ リー2	沖縄県（美術館班）	10/20～6/27
21	おきみゅーが所蔵している首里城の考古 資料 I期	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	11/5～12/20
22	博物館常設展部門展示 「松村宗棍の伝書（遺訓、遺稿）」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	11/17～1/11
23	企画展「沖縄の藍―自然と人が織りなす 製藍の技―」	企画展示室、特別展示 室1	沖縄県（博物館班）	12/1～1/24
24	大嶺薫コレクション展 「文化復興の礎 戦後最初の博物館長・大嶺薫」	特別展示室2	沖縄県（博物館班）	12/1～1/24
25	名画を読み解く―珠玉の東京富士美術館 コレクション	美術館企画ギャラリ ー1・2	（一財）沖縄美ら島財 団、沖縄テレビ放送	12/15～1/31
26	博物館常設展部門展示「登録20周年記念 世 界遺産出土品巡回展～未来に継ぐ琉球の宝」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	1/19～2/23
27	御大典記念 特別展 よみがえる正倉院 宝物―再現模造にみる天平の技―	企画展示室、特別展示 室1、2	（一財）沖縄美ら島財 団、沖縄タイムス社	2/9～3/28
28	企画展「石川真生展：醜くも美しい人の 一生、私は人間が好きだ。」	美術館企画ギャラリ ー1、2	沖縄県（美術館班）	前期：3/5～4/25 後期：4/27～6/27
29	博物館常設展部門展示「修理と復元でよみが える！―琉球の美を未来へ伝えるために―」	博物館常設展示室 美術工芸部門展示室	沖縄県（博物館班）	2/9～5/30
30	おきみゅーが所蔵している首里城の考古 資料 II期	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	2/9～3/22
31	サンゴ礁ウィーク関連催事「八重山の千 潟と藻場の貝類展」	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	2/23～3/28

	展 示 会 名	場 所	主 催	期 間
32	博物館常設展部門展示 「刻まれた歴史－石碑・拓本－」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	3 / 4 ～ 6 / 27
33	おきみゅーの経歴を知る展示 沖縄陳列 館と東恩納博物館	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	3 / 24 ～ 5 / 9

その他の活動

- I 沖縄県博物館協会
- II 全国組織との関わり
- III 沖縄県立博物館友の会
- IV NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ

I 沖縄県博物館協会

【総会及び春の研修会】

期 日：2020年5月14日（木）～15日（金）

（新型コロナウイルス感染症予防のため、総会は書面決議。15日の研修会は中止）

場 所：書面決議

内 容：議案第1号 令和元年度事業実施報告について
議案第2号 令和元年度収支決算報告について
議案第3号 令和2年度事業計画案について
議案第4号 令和2年度予算案について
議案第5号 役員の改選について
議案第6号 沖縄県博物館協会・春の研修会及び秋の研修会の割当について
その他 新規入会者について
事務局からの連絡事項

【令和元年度の顕彰者表彰】

期 日：2021年3月16日（火）

場 所：宜野座村役場 村長室

表 彰 者：田里一寿（宜野座村教育委員会）

表彰式参列者：當眞淳（宜野座村長）、外間一先、宇佐美賢（県立博物館・美術館）他

【秋の研修会】新型コロナウイルス感染症予防のため、11月に予定していた研修会を中止。

II 全国の組織との関わり

1 日本博物館協会

（1）全国博物館長会議、参与会・支部長会

日 時：2020年6月16日～17日予定→開催中止

場 所：日本博物館協会黒田記念館別館

（2）全国博物館大会

日 時：2020年11月25日～26日

場 所：横浜市開港記念会館講堂

参加者：なし

2 九州博物館協議会

（1）九州博物館協議会理事会・総会・現地研修

日 時：2020年5月21日～22日予定→開催中止、書面開催

場 所：佐賀県

（2）九州博物館協議会秋季研修会

日 時：2020年11月5日～6日

場 所：沖縄県立博物館・美術館/首里城公園

参加者：田名真之（館長）、学芸員全員

3 全国歴史民俗系博物館協議会

（1）令和2年度総会

日 時：開催中止、書面開催

場 所：宮城県（東北歴史博物館）→次年度に延期

Ⅲ 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。

本年度の会員の内訳は、一般会員263名、家族会員41家族（84名）、賛助会員3か所。
博物館・美術館の諸事業に積極的に参加し、博物館ボランティア活動への支援、広く県民を対象とした文化講演会や会員を対象とした研修会を開催し、博物館常設展示室への展示交流員事業を実施した。

2020年度（令和2）の事業内容は以下のとおり。

	事業名及び事業内容	
1	【体験教室】『琉球王国の銭を知る、見る、つくる』 開催日：2020年5月 講 師：山本正昭主任学芸員	新型コロナウイルスの影響で中止
2	【展示交流員研修】『展示交流員研修・懇親会』 開催日：2020年8月	新型コロナウイルスの影響で中止
3	【文化講演会】 開催日：2020年9月5日（土）	新型コロナウイルスの影響で中止
4	【民俗探訪】『地域散策』 開催日：2020年10月	新型コロナウイルスの影響で中止
5	【民俗探訪】『地域散策』 開催日：2020年11月	新型コロナウイルスの影響で中止
6	【民俗探訪】『読谷村探訪』 開催日：2020年12月 内 容：読谷村探訪	新型コロナウイルスの影響で中止
7	【体験教室】『琉球王国の銭を知る、見る、つくる』 開催日：2021年2月 講 師：山本正昭主任学芸員	新型コロナウイルスの影響で中止
8	【県外研修】 開催日：2021年2月	新型コロナウイルスの影響で中止
9	【自然観察会】 開催日：2021年3月	新型コロナウイルスの影響で中止

（1）会誌発行

年1回『博友』

（2）会員への情報提供

- ①友の会通信「ちゃーびら」隔月発行・送付
- ②友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

（3）サークル活動

家譜サークル（毎月1回勉強会実施）
辺境&市場サークル（海外研修の実施）

（4）博物館サポート

- ①博物館常設展示室展示交流員の配置業務
- ②文化講演会および学芸員講座当日の資料整理と受付
- ③「ボランティア通信」発送、支援
- ④博物館・美術館移動展支援

Ⅳ happ（特定非営利活動法人 沖縄県立美術館支援会happ）



happは2005年（平成17年）に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生。スカンジナビア語の「happ（幸運）」が由来。h=happiness（しあわせ）・happening（できごと）、a=art（アート）p=people（人々）、p=place（場所）。

1 基本理念

沖縄県立美術館と連携し、優れた文化芸術に触れる活動や文化を創造する活動に参加できる機会を広く提供することにより、地域に根ざした魅力ある美術館づくりに寄与することを目指す。

2 基本方針

(1) 「沖縄県立美術館との連携」

- ①美術館側の学芸員や副館長との連携の強化を図る。
- ②展示企画を行う指定管理者との連携を円滑に行うことを目指すために、相互間の月例会議を設ける。
- ③美術館に多くの来客を呼び込み、楽しんで頂けるように互いの協力体制の強化を目指す。

(2) 「文化を創造する活動に参加出来る機会を広く提供する」

- ①学芸員の協力の必要性を重要視する。
- ②日頃からの学芸員との協力体制を整える。
- ③来客者やクリエイター（作家）にその文化を創造する機会を多く作り育てること。

(3) 「地域に根ざした魅力ある美術館づくりに寄与する」

- ①美術館の館内において、より魅力を感じ、楽しんで頂ける企画を立案する。
- ②多くの方々に美術館に通って頂き「私の美術館、僕の美術館」と言われるような美術館づくりに寄与することを目指す。

3 2020年度 事業報告（総括表）2020年4月1日～2021年3月31日

(1) 自主事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
オタカラレター事業	会報誌オタカラレターの発行 夏号	8月	
沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成事業	「プロムナードコンサートの継続発展と地域社会との芸術交流と文化・芸術に関する教育普及に貢献するための季刊誌「オタカラレター」発行	11月1日～3月15日 計3回公演	野外展示場、エントランスホール
happ会員限定 ギャラリートーク事業	①名画を読み解くー珠玉の東京富士美術館コレクションー ②御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物ー再現模造にみる天平の技ー」	1月18日、3月14日 計2回	美術館企画展示室
物品販売事業	関連冊子の販売	通年	ショップゆいむい
ミュージコン事業	ゆんたくミュージアムツアー＋懇親会	COVID-19の影響により中止	—

(2) 共催・協力事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
【協力】沖縄県芸術文化祭事業	2020年度 「沖縄県芸術文化祭」文化芸術活動奨励映像コンテンツ委託事業 企画：株式会社ククルビジョン 冊子制作『沖縄県芸術文化祭 鑑賞のヒントゆんたくでアートに親しもう』	発行6000部	—
【協力】沖縄県立博物館・美術館企画展覧会	沖縄の美術シリーズⅧ 稲嶺成展 展 きごうの、ふうけい。 広報協力：オタカラレター掲載、SNS情報発信	9月18日～11月3日	美術館 企画展示室

事業名	事業内容	日時	開催場所
【協力】沖縄県立博物館・美術館 企画展覧会	石川真生展 醜くも美しい人の一生 私は人間が好きだ 広報協力:オタカラレター掲載、SNS 情報発信	3月5日～6月6日	美術館 企画展示室
【協力】沖縄県立博物館・美術館 企画展覧会	沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科 卒業・修了作品展 広報協力:オタカラレター掲載、SNS 情報発信	2月10日～14日	美術館 企画展示室
【協力】沖縄県立博物館・美術館 教育普及事業	展覧会関連催事 常設展 沖縄美術の流れ ギャラリー アーティスト栗国久直映像インタビュー／展示替え見学手伝い	10月19日(月)	ホワイエ、美術館 コレクションギャラリー
【協力】ゆんたくミュージアム事業	美ら島財団主催 ゆんたくデー 対話型鑑賞ツアー	COVID-19の影響により中止	—
【協力】なは紙ヒコーキ大会事業	2020年なは紙ヒコーキ大会 似顔絵コーナー出展	COVID-19の影響により中止	—

(3) 委託事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
監視ボランティア事業	展示交流員、展示監視業務	通年	美術館コレクション ンギャラリー
監視事業	沖縄しまたて協会主催 写真コンクール 受付・展示監視業務	12月1日～5日	県民ギャラリー
こどもフェスタ事業	夏休み！こどもフェスタ2020 似顔絵 を描こう	COVID-19の影響により中止	—
沖縄県芸術文化祭事業	令和2年度 沖縄県文化振興会主催 美術体験教室似顔絵体験教室	COVID-19の影響により中止	—

(4) 事業報告(詳細)

①happ会員限定ギャラリートーク事業

〔概要〕happ会員限定の館内展覧会のギャラリートークを開催。休館日や閉館後など特別な空間で鑑賞を楽しんでもらう。解説は主に担当学芸員に協力いただいた。参加者の感想「描かれた絵の読み解き、社会の背景などより深く絵を楽しむことが出来た」、「入るとすぐに絵画からの力に圧倒される。ボナパルト「ナポレオン」について説明していただき何もかも初めての事で本当に勉強になった」ぜひ継続してほしいと好評。

- a) 2021年1月18日 美術館企画展名画を読み解く -珠玉の東京富士美術館コレクション- (参加者22名)
解説学芸員：沖縄美ら島財団 國吉貴奈
- b) 2021年3月14日 博物館企画展 御大典記念 特別展「よみがえる正倉院宝物-再現模造にみる天平の技-」(参加者12名)
解説学芸員：沖縄美ら島財団 川島祥子

〔担当〕小林純子、事務局：寺本典加、金城ひかり



②【沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成事業】プロジェクト「プロムナードコンサート」の継続発展と地域社会との芸術交流と文化・芸術に関する教育普及に貢献するための季刊誌「オタカラレター」の発行について

a) オタカラレター発行

〔オタカラレター発行の目的〕①地域社会との芸術交流促進 ②沖縄県立博物館・美術館への集客増のた

めのツールとして制作。プロムナードコンサート情報、美術館コレクション展や企画展の開催案内、学芸員による専門的な作品解説、アーティストと学芸員のインタビューなど掲載。会社・企業、地域で活動している方へのインタビューなどを積極的に行った。那覇新都心通り会、銘苅小学校区まちづくり協議会に取材協力いただき共に地域に根差した美術館を目指し、文化事業に関心のある個人や法人へ美術館の魅力を伝えることが出来た。

〔担当〕金城章、仲本賢、寺本典加、金城ひかり

〔発行部数〕

○2020年8月/夏号 発行数 600部

○2021年1月10日/秋号700部

○2021年2月10日/冬号1700部

○2021年3月12日/春号1000部

○全カラー12P、A4サイズ



ショップゆいむいにてオタカラを配置いただき、展覧会のPRを行った



石川真生さん、亀海学芸員対談取材の様子



b) 沖縄県立芸術大学との連携

今回、初めての試みで沖縄県立芸術大学と連携し、秋号では表紙デザイン、レイアウト、写真撮影など学生が手掛けた。冬号では、卒業展特集として学校訪問を行い取材。卒業展の会期中、受付にて冊子300部を配布。



c) おきみゅープロムナードコンサート

〔目的〕美術館における地域団体(プロ、アマチュアの演奏家)との発表など活躍の場を広げる機会の創出、一人でも多くの県民に文化・芸術に触れる機会づくり。計3回公演、鑑賞者は計450名。沖縄美ら島財団との連携を取り、アートと音楽のコラボレーション公演を実施。全公演鑑賞無料。

〔担当〕沖縄美ら島財団 金城美奈子、福治広規、金城正仁、happ上原正弘、寺本典加、金城ひかり



- 《プロムナードコンサート in おきみゅー誕生祭》(300名) おきみゅーでゆったり「芸術の秋」を味わいませんか？
 日時：11月3(土)16:00～17:30
 会場：美術館屋外展示場
 出演：ジュニアジャズオーケストラおきなわ那覇ウェスト、琉球フィルハーモニック ジャズプレイヤーズ、沖縄芸術アカデミーヴォイスアンサンブル、黒島舞季子(ソプラノ)、平良明子(ピアニスト)
- 《おきみゅープロムナードコンサート「歌とピアノが奏でる西洋絵画への誘い♪」(50名)展覧会「名画を読み解く 珠玉の東京富士美術館コレクション」
 日時：12月27日(日)16:00～16:45
 会場：エントランスホール(座席数30席)、
 出演：ソプラノ：黒島舞季子、平山留美子、ピアニスト：平良明子、沖縄芸術アカデミーヴォイスアンサンブル
- ※COVID-19の影響の影響により延期 1月予定《「珠玉の東京富士美術館コレクション」×「名曲とともに」名画を鑑賞しませんか？》クラシック名曲2時間演奏。企画展示室前、出演：大度室内楽団
 →《土曜日の夕方のひとときを、名曲を聴きながら博物館・美術館で過ごしませんか？》(100名)クラシック名曲4時間演奏
 日時：3月6日(土)16:00～20:00
 会場：エントランスホール(ふれあい体験室前)
 出演：大度室内楽団

○※COVID-19の影響の影響により延期 2月予定→4月4日、出演：那覇ジュニアオーケストラ

③【協力】展覧会関連催事 沖縄美術の流れ ギャラリーインタビュー

- 沖縄県立博物館・美術館 教育普及
- 栗国久直(アーティスト)映像インタビュー
- 協力 NPO法人沖縄県立美術館支援会happ
- 日時 2020年10月19日(月)15:00～16:30
- 場所 美術館ホワイエ
- 担当 事務局 寺本典加、金城ひかり



美術館常設展展示作品『Cube-Sugar&Strawberry』の構想から完成に至るまでのエピソード、デビュー作品から現在までの作品テーマなど、インタビューを行なった。撮影したインタビュー映像は会期中ホワイエで上映。

(寺本 典加)

関係法規抄録

- 博物館法
- 博物館法施行規則
- 沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
- 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
- 沖縄県立博物館・美術館管理規則
- 沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領
- 沖縄県立博物館・美術館共催及び後援等に関する取扱要領
- 沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱
- 博物館法施行令
- 博物館の登録に関する規則

関係法規抄録

○博物館法（抄）

昭和26年12月1日 法律第285号
〔最終改正〕 令和元年6月7日 法律第26号

第1章 総則

（この法律の目的）

第1条 この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。

（定 義）

第2条 この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法 による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2条第1項 に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。

2 この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。

3 この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。）をいう。

（博物館の事業）

第3条 博物館は、前条第1項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。

- （1）実物、標本、模写、模型、文獻、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
 - （2）分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
 - （3）一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
 - （4）博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
 - （5）博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
 - （6）博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
 - （7）博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
 - （8）当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和二十五年法律第二百四十四号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
 - （9）社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
 - （10）他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
 - （11）学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
- 2 博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。

（館長、学芸員その他の職員）

第4条 博物館に、館長を置く。

- 2 館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
- 3 博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
- 4 学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
- 5 博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
- 6 学芸員補は、学芸員の職務を助ける。

（学芸員の資格）

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。

- （1）学士の学位（学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第2項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものに限る。）を含む。）を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
 - （2）大学に2年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、3年以上学芸員補の職にあつたもの
 - （3）文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前二号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
- 2 前項第2号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。

（学芸員補の資格）

第6条 学校教育法第90条第1項 の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。

（学芸員及び学芸員補の研修）

第7条 文部科学大臣及び都道府県教育委員会は、学芸員及び学芸員補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。

（設置及び運営上望ましい基準）

第8条 文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。

（運営の状況に関する評価等）

第9条 博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。

（運営の状況に関する情報の提供）

第9条の2 博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するように努めなければならない。

第2章 登録

(登録)

第10条 博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県教育委員会（当該博物館（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市をいう。以下この条及び第29条において同じ。）の区域内に所在する場合にあっては、当該指定都市教育委員会。同条を除き、以下同じ。）に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

(登録の申請)

第11条 前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県教育委員会に提出しなければならない。

- (1) 設置者の名称及び私立博物館にあっては設置者の住所
- (2) 名称
- (3) 所在地
- 2 前項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。
 - (1) 公立博物館にあっては、設置条例の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
 - (2) 私立博物館にあっては、当該法人の定款の写し又は当該宗教法人の規則の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

(登録要件の審査)

第12条 都道府県教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第1項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。

- (1) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
- (2) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
- (3) 第2条第1項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
- (4) 1年を通じて150日以上開館すること。

(登録事項等の変更)

第13条 博物館の設置者は、第11条第1項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第2項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県教育委員会は、第11条第1項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

(登録の取消)

第14条 都道府県教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から2年間はこの限りでない。

2 都道府県教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

(博物館の廃止)

第15条 博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県教育委員会に届け出なければならない。

2 都道府県教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消ししなければならない。

(規則への委任)

第16条 この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県教育委員会の規則で定める。

第17条 削除

第3章 公立博物館

(設置)

第18条 公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

(所管)

第19条 公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第1項の条例に定めるところにより地方公共団体の長がその設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされた博物館にあっては、当該地方公共団体の長。第21条において同じ。）の所管に属する。

(博物館協議会)

第20条 公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。

2 博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。

第21条 博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。

第22条 博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

(入館料等)

第23条 公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

(博物館の補助)

第24条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。

2 前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。

第25条 削除

(補助金の交付中止及び補助金の返還)

第26条 国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第一号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第三号及び第四号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

- (1) 当該博物館について、第十四条の規定による登録の取消があつたとき。
- (2) 地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
- (3) 地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
- (4) 地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第4章 私立博物館

(都道府県教育委員会との関係)

第27条 都道府県教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。

2 都道府県教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。

(国及び地方公共団体との関係)

第28条 国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第5章 雑則

(博物館に相当する施設)

第29条 博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県教育委員会（当該施設（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会）が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第2項の規定を準用する。

附 則

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から起算して3箇月を経過した日から施行する。

(経過規定)

2 第6条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校専攻科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。

附 則（昭和27年8月14日 法律第305号）抄

(施行期日)

1 この法律は、附則第6項及び附則第16項から附則第26項までの規定を除き、公布の日から施行し、附則第6項及び附則第16項から附則第26項までの規定は、公布の日から起算して6箇月をこえない期間内において政令で定める日から施行する。

附 則（昭和30年7月22日 法律第81号）

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から施行する。

(経過規定)

2 改正前の博物館法（以下「旧法」という。）第5条第1項第2号、第4号又は第5号に該当する者は、改正後の博物館法（以下「新法」という。）第5条の規定にかかわらず、学芸員となる資格を有するものとする。

3 旧法附則第6項の規定により人文科学学芸員又は自然科学学芸員となる資格を有していた者は、新法第5条の規定にかかわらず、この法律の施行の日から起算して1年間は、学芸員となる資格を有するものとする。

4 新法第5条第2号の学芸員補の職には、旧法附則第4項に規定する学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職を含むものとする。

附 則（昭和31年6月30日 法律第163号）抄

(施行期日)

1 この法律は、昭和31年10月1日から施行する。

附 則（昭和34年4月30日 法律第158号）抄

(施行期日)

1 この法律は、公布の日から施行する。

附 則（昭和46年6月1日 法律第96号）抄

(施行期日等)

1 この法律は、公布の日から施行する。

(経過措置)

5 この法律の施行前に第13条の規定による改定前の博物館法第29条の規定により文部大臣がした指定は、第13条の規定による改正後の博物館法第29条の規定により文部大臣又は都道府県教育委員会がした指定とみなす。

附 則（昭和58年12月2日 法律第78号）抄

1 この法律（第1条を除く。）は、昭和59年7月1日から施行する。

附 則（昭和61年12月4日 法律第93号）抄

(施行期日)

第1条 この法律は、昭和62年4月1日から施行する。

(政令への委任)

第42条 附則第2条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。

附 則（平成3年4月2日 法律第23号）抄

(施行期日)

1 この法律は、平成3年7月1日から施行する。

附 則（平成3年4月2日 法律第25号）抄

(施行期日)

1 この法律は、平成3年7月1日から施行する。

附 則（平成5年11月12日 法律第89号）抄

(施行期日)

第1条 この法律は、行政手続法（平成5年法律第88号）の施行の日から施行する。

(諮問等がされた不利益処分に関する経過措置)

第2条 この法律の施行前に法令に基づき審議会その他の合議制の機関に対し行政手続法第13条に規定する聴聞又は弁明の機会の付与の手続その他の意見陳述のための手続に相当する手続を執るべきことの諮問その他の求めがされた場合においては、当該諮問その他の求めに係る不利益処分の手続に関しては、この法律による改正後の関係法律の規定にかかわらず、なお従前の例による。

(政令への委任)

第15条 附則第2条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関して必要な経過措置は、政令で定める。

附 則 (平成11年7月16日 法律第87号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、平成12年4月1日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 第1条中地方自治法第250条の次に5条、節名並びに2款及び款名を加える改正規定（同法第250条の9第1項に係る部分（両議院の同意を得ることに係る部分に限る。）に限る。）、第40条中自然公園法附則第9号及び第10項の改正規定（同法附則第10項に係る部分に限る。）、第244条の規定（農業改良助長法第14条の3の改正規定に係る部分を除く。）並びに第472条の規定（市町村の合併の特例に関する法律第6条、第8条及び第17条の改正規定に係る部分を除く。）並びに附則第7条、第10条、第12条、第59条ただし書、第60条第4項及び第5項、第73条、第77条、第157条第4項から第6項まで、第160条、第163条、第164条並びに第202条の規定 公布の日

(国等の事務)

第159条 この法律による改正前のそれぞれの法律に規定するもののほか、この法律の施行前において、地方公共団体の機関が法律又はこれに基づく政令により管理し又は執行する国、他の地方公共団体その他公共団体の事務（附則第161条において「国等の事務」という。）は、この法律の施行後は、地方公共団体が法律又はこれに基づく政令により当該地方公共団体の事務として処理するものとする。

(処分、申請に関する経過措置)

第160条 この法律（附則第1条各号に掲げる規定については、当該各規定。以下この条及び附則第163条において同じ。）の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定によりされた許可等の処分その他の行為（以下この条において「処分等の行為」という。）又はこの法律の施行の際現に改正前のそれぞれの法律の規定によりされている許可等の申請その他の行為（以下この条において「申請等の行為」という。）で、この法律の施行の日においてこれらの行為に係る行政事務を行うべき者が異なることとなるものは、附則第2条から前条までの規定又は改正後のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の経過措置に関する規定に定めるものを除き、この法律の施行の日以後における改正後のそれぞれの法律の適用については、改正後のそれぞれの法律の相当規定によりされた処分等の行為又は申請等の行為とみなす。

2 この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定により国又は地方公共団体の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、これを、改正後のそれぞれの法律の相当規定により国又は地方公共団体の機関に対して報告、届け出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、この法律による改正後のそれぞれの法律の適用をする。

(不服申立てに関する経過措置)

第161条 施行日前にされた国等の事務に係る処分であって、当該処分をした行政庁（以下この条において「処分庁」という。）に施行日前に行政不服審査法に規定する上級行政庁（以下この条において「上級行政庁」という。）があったものについての同法による不服申立てについては、施行日以後においても、当該処分庁に引き続き上級行政庁があるものとみなして、行政不服審査法の規定を適用する。この場合において、当該処分庁の上級行政庁とみなされる行政庁は、施行日前に当該処分庁の上級行政庁であった行政庁とする。

2 前項の場合において、上級行政庁とみなされる行政庁が地方公共団体の機関であるときは、当該機関が行政不服審査法の規定により処分することとされる事務は、新地方自治法第2条第9項第1号法定受託事務とする。

(その他の経過措置の政令への委任)

第164条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

(検討)

第250条 新地方自治法第2条第9条1号に規定する第1号法定受託事務については、できる限り新たに設けることのないようにするとともに、新地方自治法別表第1に掲げるもの及び新地方自治法に基づく政令に示すものについては、地方分権を推進する観点から検討を加え、適宜、適切な見直しを行うものとする。

第251条 政府は、地方公共団体が行う事務及び事業を自主的かつ自律的に執行できるよう、国と地方公共団体との役割分担に応じた地方財源の充実確保の方途について、経済情勢の推移等を勘案しつつ検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。

附 則 (平成11年12月22日 法律第160号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律（第2条及び第3条を除く。）は、平成13年1月6日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 第995条（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律附則の改正規定に係る部分に限る。）、第1305条、第1306条、第1324条第2項、第1326条第2項及び第1344条の規定 公布の日

附 則 (平成11年12月22日 法律第220号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律（第1条を除く。）は、平成13年1月6日から施行する。

(政令への委任)

第4条 前2条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。

附 則 (平成13年7月11日 法律第105号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

- (1) 略
- (2) 第56条に1項を加える改正規定、第57条第3項の改正規定、第67条に1項を加える改正規定並びに第73条の3及び第82条の10の改正規定並びに次条及び附則第5条から第16条までの規定 平成14年4月1日

附 則 (平成18年6月2日 法律第50号) 抄

この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。

附 則 (平成19年6月27日 法律第96号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、公布の日から起算して6月を越えない範囲内において政令で定める日から施行する。

附 則 (平成20年6月11日 法律第59号) 抄

(施行期日)

- (1) この法律は、公布の日から施行する。

附 則 (平成23年6月22日 法律第70号) 抄

(施行期日)

第1条 この法律は、平成24年4月1日から施行する。ただし、次条の規定は公布の日から、附則第17条の規定は地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（平成23年法律第105号）の公布の日又はこの法律の公布の日のいずれか遅い日から施行する。

附 則 (平成23年6月24日 法律第74号) 抄

（施行期日）

第1条 この法律は、公布の日から起算して20日を経過した日から施行する。

附 則（平成23年8月30日 法律第105号）抄

（施行期日）

（1） 略

（2） 第2条、第10条（構造改革特別区域法第18条の改正規定に限る。）、第14条（地方自治法第252条の19、第260条並びに別表第1騒音規制法（昭和43年法律第98号）の項、都市計画法（昭和43年法律第100号）の項、都市再開発法（昭和44年法律第38号）の項、環境基本法（平成5年法律第91号）の項及び密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成9年法律第49号）の項並びに別表第2都市再開発法（昭和44年法律第38号）の項、公有地の拡大の推進に関する法律（昭和47年法律第66号）の項、大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法（昭和50年法律第67号）の項、密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成9年法律第49号）の項及びマンションの建替えの円滑化等に関する法律（平成14年法律第78号）の項の改正規定に限る。）、第17条から第19条まで、第22条（児童福祉法第21条の5の6、第21条の5の15、第21条の5の23、第24条の9、第24条の17、第24条の28及び第24条の36の改正規定に限る。）、第23条から第27条まで、第29条から第33条まで、第34条（社会福祉法第62条、第65条及び第71条の改正規定に限る。）、第35条、第37条、第38条（水道法第46条、第48条の2、第50条及び第50条の2の改正規定を除く。）、第39条、第43条（職業能力開発促進法第19条、第23条、第28条及び第30条の2の改正規定に限る。）、第51条（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第64条の改正規定に限る。）、第54条（障害者自立支援法第88条及び第89条の改正規定を除く。）、第65条（農地法第3条第1項第9号、第4条、第5条及び第57条の改正規定を除く。）、第87条から第92条まで、第99条（道路法第24条の3及び第48条の3の改正規定に限る。）、第101条（土地区画整理法第76条の改正規定に限る。）、第102条（道路整備特別措置法第18条から第21条まで、第27条、第49条及び第50条の改正規定に限る。）、第103条、第105条（駐車場法第4条の改正規定を除く。）、第107条、第108条、第115条（首都圏近郊緑地保全法第15条及び第17条の改正規定に限る。）、第106条（流通業務市街地の整備に関する法律第3条の2の改正規定を除く。）、第108条（近畿圏の保全区域の整備に関する法律第16条及び第18条の改正規定に限る。）、第120条（都市計画法第6条の2、第8条、第10条の2から第12条の2まで、第12条の4、第12条の5、第12条の10、第14条、第20条、第23条、第33条及び第58条の2の改正規定を除く。）、第121条（都市再開発法第7条の4から第7条の7まで、第60条から第62条まで、第66条、第98条、第99条の8、第139条の3、第141条の2及び第142条の改正規定に限る。）、第125条（公有地の拡大の推進に関する法律第9条の改正規定を除く。）、第128条（都市緑地法第20条及び第39条の改正規定を除く。）、第131条（大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第7条、第26条、第64条、第67条、第104条及び第109条の2の改正規定に限る。）、第142条（地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律第18条及び第21条から第23条までの改正規定に限る。）、第145条、第146条（被災市街地復興特別措置法第5条及び第7条第3項の改正規定を除く。）、第149条（密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律第20条、第21条、第191条、第192条、第197条、第233条、第241条、第283条、第311条及び第318条の改正規定に限る。）、第155条（都市再生特別措置法第51条第4項の改正規定に限る。）、第156条（マンションの建替えの円滑化等に関する法律第102条の改正規定を除く。）、第157条、第158条（景観法第57条の改正規定に限る。）、第160条（地域における多様な需要に応じた公的賃貸住宅等の整備等に関する特別措置法第6条第5項の改正規定（「第2項第2号イ」に改める部分を除く。）並びに同法第11条及び第13条の改正規定に限る。）、第162条（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第10条、第12条、第13条、第36条第2項及び第56条の改正規定に限る。）、第165条（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第24条及び第29条の改正規定に限る。）、第169条、第171条（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第21条の改正規定に限る。）、第174条、第178条、第182条（環境基本法第16条及び第40条の2の改正規定に限る。）及び第187条（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律第15条の改正規定、同法第28条第9項の改正規定（「第4条第3項」を「第4条第4項」に改める部分を除く。）、同法第29条第4項の改正規定（「第4条第3項」を「第4条第4項」に改める部分を除く。）並びに同法第34条及び第35条の改正規定に限る。）の規定並びに附則第13条、第15条から第24条まで、第25条第1項、第26条、第27条第1項から第3項まで、第30条から第32条まで、第38条、第44条、第46条第1項及び第4項、第47条から第49条まで、第51条から第53条まで、第55条、第58条、第59条、第61条から第69条まで、第71条、第72条第1項から第3項まで、第74条から第76条まで、第78条、第80条第1項及び第3項、第83条、第87条（地方税法第587条の2及び附則第11条の改正規定を除く。）、第89条、第90条、第92条（高速自動車国道法第25条の改正規定に限る。）、第101条、第102条、第105条から第107条まで、第112条、第117条（地方における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律（平成22年法律第72号）第4条第8項の改正規定に限る。）、第119条、第121条の2並びに第123条第2項の規定 平成24年4月1日

（政令への委任）

第82条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（平成23年12月14日 法律第122号）抄

（施行期日）

第1条 この法律は、公布の日から起算して2月を越えない範囲内において政令で定める日から施工する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。

（1） 附則第6条、第8条、第9条及び第13条の規定 公布の日

附 則（平成26年6月4日 法律第51号）抄

（施行期日）

第1条 この法律は、平成27年4月1日から施行する。

（処分、申請等に関する経過措置）

第7条 この法律（附則第1条各号に掲げる規定については、当該各規定。以下この条及び次条において同じ。）の施行前にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定によりされた許可等の処分その他の行為（以下この項において「処分等の行為」という。）又はこの法律の施行の際にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定によりされている許可等の申請その他の行為（以下この項において「申請等の行為」という。）で、この法律の施行の日においてこれらの行為に係る行政事務を行うべき者が異なることとなるものは、附則第2条から前条までの規定又はこの法律による改正後のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の経過措置に関する規定に定めるものを除き、この法律の施行の日以後におけるこの法律による改正後のそれぞれの法律の適用については、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定によりされた処分等の行為又は申請等の行為とみなす。

（2） この法律の施行前にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定により国又は地方公共団体の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、これを、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定により国又は地方公共団体の相当の機関に対して報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、この法律による改正後のそれぞれの法律の規定を適用する。

（政令への委任）

第9条 附則第2条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

附 則（平成29年5月31日 法律第41号）抄

（施行期日）

第1条 この法律は、平成31年4月1日から施行する。ただし、次条及び附則第48条の規定は、公布の日から施行する。

（政令への委任）

第48条 この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。

附 則（令和元年6月7日 法律第26号）抄

（施行期日）

第1条 この法律は、公布の日から施行する。

（政令への委任）

第4条 前2条に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

○博物館法施行令

昭和27年3月20日 政令第47号
〔最終改正〕昭和34年4月30日 政令第157号

内閣は、博物館法（昭和26年法律第285号）第25条第2項の規定に基き、及び同条の規定を実施するため、この政令を制定する。

（政令で定める法人）

第1条 博物館法（以下「法」という。）第2条第1項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。

- 1 日本赤十字社。
- 2 日本放送協会。

（施設、設備に要する経費の範囲）

第2条 法第24条第1項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。

- 1 施設費 施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
- 2 設備費 博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。

附 則

この政令は、公布の日から施行する。

附 則（昭和30年8月24日 政令第192号）抄

- 1 この政令は、公布の日から施行し、昭和30年7月22日から適用する。

附 則（昭和31年6月30日 政令第222号）抄

（施行期日）

- 1 この政令は、昭和31年10月1日から施行する。

附 則（昭和34年4月30日 政令第157号）抄

（施行期日）

- 1 この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月4日 文部省令第24号
〔最終改正〕令和元年7月1日 文部科学省令第9号

博物館法（昭和26年法律第285号）第5条及び第29条の規定に基き、博物館法施行規則（昭和27年文部省令第11号）の全部を改正する省令を次のように定める。

目次

- 第1章 博物館に関する科目の単位（第1条・第2条）
 - 第2章 学芸員の資格認定（第3条—第17条）
 - 第3章 博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるにあたって参酌すべき基準（第18条）
 - 第4章 博物館に相当する施設の指定（第19条—第24条）
 - 第5章 雑則（第25条—第29条）
- 附則

第1章 博物館に関する科目の単位

（博物館に関する科目の単位）

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第5条第1項第1号に規定する博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3

- 2 博物館に関する科目の単位のうち、すでに大学において修得した科目の単位又は第6条第3項に規定する試験科目について合格点を得ている科目は、これをもつて、前項の規定により修得すべき科目の単位に替えることができる。

（博物館実習）

第2条 前条に掲げる博物館実習は、博物館（法第2条第1項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県若しくは指定都市（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市をいう。以下同じ。）の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。）における実習により修得するものとする。

- 2 博物館実習には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

第2章 学芸員の資格認定

（資格認定）

第3条 法第5条第1項第3号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は審査認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。

（資格認定の施行期日等）

第4条 資格認定は、毎年少なくとも各1回、文部科学大臣が行う。

2 資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で公告する。ただし、特別の事情がある場合には、適宜な方法によつて公示するものとする。

(試験認定の受験資格)

第5条 次の各号のいずれかに該当する者は、試験認定を受けることができる。

- (1) 学士の学位(学位規則(昭和28年文部省令第9号)第2条の2の表に規定する専門職大学を卒業した者に授与する学位を含む。第9条第3号イにおいて同じ。)を有する者
- (2) 大学に2年以上在学して62単位以上を修得した者で2年以上学芸員補の職(法第5条第2項に規定する職を含む。以下同じ。)にあつた者
- (3) 教育職員免許法(昭和24年法律第147号)第2条第1項に規定する教育職員の普通免許状を有し、2年以上教育職員の職にあつた者
- (4) 4年以上学芸員補の職にあつた者
- (5) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

(試験認定の方法及び試験科目)

第6条 試験認定は、大学卒業の程度において、筆記の方法により行う。

2 試験認定は、2回以上にわたり、それぞれ1以上の試験科目について受けることができる。

3 試験科目は、次表に定めるとおりとする。

試験科目	試験認定の必要科目	
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目
	博物館概論	
	博物館経営論	
	博物館資料論	
	博物館資料保存論	
	博物館展示論	
	博物館教育論	
	博物館情報・メディア論	
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する2科目
	美術史	
	考古学	
	民俗学	
	自然科学史	
	物理	
	化学	
	生物学	
	地学	

(試験科目の免除)

第7条 大学において前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を修得した者又は文部科学大臣が別に定めるところにより前条に規定する試験科目に相当する学修を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

第8条 削除

(審査認定の受験資格)

第9条 次の各号のいずれかに該当する者は、審査認定を受けることができる。

- (1) 学位規則による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (2) 大学において博物館に関する科目(生涯学習概論を除く。)に関し2年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者であつて、2年以上学芸員補の職にあつた者
- (3) 次のいずれかに該当する者であつて、都道府県の教育委員会の推薦する者
 - イ 学士の学位を有する者であつて、4年以上学芸員補の職にあつた者
 - ロ 大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者であつて、6年以上学芸員補の職にあつた者
 - ハ 学校教育法(昭和22年法律第26号)第90条第1項の規定により大学に入学することのできる者であつて、8年以上学芸員補の職にあつた者
 - ニ その他11年以上学芸員補の職にあつた者
- (4) その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

(審査認定の方法)

第10条 審査認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

(受験の手続)

第11条 資格認定を受けようとする者は、受験願書(別記第1号様式により作成したもの)に次に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法(昭和42年法律第81号)第30条の9の規定により機構保存本人確認事項(同法第7条第8号の2に規定する個人番号を除く。)の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第3号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

- (1) 受験資格を証明する書類
- (2) 履歴書(別記第2号様式により作成したもの)
- (3) 戸籍抄本又は住民票の写し(いずれも出願前6月以内に交付を受けたもの)
- (4) 写真(出願前6月以内に撮影した無帽かつ正面上半身のもの)

2 前項に掲げる書類は、やむを得ない事由があると文部科学大臣が特に認めた場合においては、他の証明書をもつて代えることができる。

3 第7条の規定に基づき試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類を提出しなければならない。

4 審査認定を願い出る者については、第1項各号に掲げるもののほか、次に掲げる資料又は書類を提出しなければならない。

- (1) 第9条第1号又は同条第2号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等
- (2) 第9条第3号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等又は博物館に関する顕著な実績を証明する書類
- (3) 第9条第4号により出願する者にあつては、前2号に準ずる資料又は書類

(試験認定合格者)

第12条 試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）の全部について合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。以下、「筆記試験合格者」という。）であつて、1年間学芸員補の職にあつた後に文部科学大臣が認定した者を試験認定合格者とする。

2 筆記試験合格者が試験認定合格者になるためには、試験認定合格申請書（別記第3号様式によるもの）を文部科学大臣に提出しなければならない。

（審査認定合格者）

第13条 第10条の規定による審査に合格した者を審査認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第14条 試験認定合格者及び審査認定合格者に対しては、合格証書（別記第4号様式によるもの）を授与する。

2 筆記試験合格者に対しては、筆記試験合格証書（別記第5号様式によるもの）を授与する。

3 合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

（合格証明書の交付等）

第15条 試験認定合格者又は審査認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第6号様式によるもの）を交付する。

2 筆記試験合格者が、その合格の証明を申請したときは、筆記試験合格証明書（別記第7号様式によるもの）を交付する。

3 1以上の試験科目について合格点を得た者（筆記試験合格者を除く。次条及び第17条において「筆記試験科目合格者」という。）がその科目合格の証明を願い出たときは、筆記試験科目合格証明書（別記第8号様式によるもの）を交付する。

（手数料）

第16条 次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
1 試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
2 審査認定を願い出る者	3,800円
3 試験認定の試験科目の全部について免除を願い出る者	800円
4 合格証書の書換え又は再交付を願い出る者	700円
5 合格証明書の交付を願い出る者	700円
6 筆記試験合格証明書の交付を願い出る者	700円
7 筆記試験科目合格証明書を願い出る者	700円

2 前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第3条第1項の規定により申請等を行つた場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。

3 納付した手数料は、これを返還しない。

（不正の行為を行つた者等に対する処分）

第17条 虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

2 試験認定合格者、審査認定合格者、筆記試験合格者又は筆記試験科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与し、又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。

3 前2項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第3章 博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たつて参酌すべき基準

第18条 法第22条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

第4章 博物館に相当する施設の指定

（申請の手続）

第19条 法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第9号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第2号第1項に規定する独立行政法人をいう。

第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県又は指定都市が設置する施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会（当該施設（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会。第21条において同じ。）に、それぞれ提出しなければならない。

- （1）当該施設の有する資料の目録
- （2）直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
- （3）当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
- （4）当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第20条 文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。

- （1）博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
- （2）博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
- （3）学芸員に相当する職員がいること。
- （4）一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
- （4）1年を通じて100日以上開館すること。

2 前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第21条 文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県又は指定都市が設置する施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条 削除

第23条 文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第20条第1項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。

(指定の取消)

第24条 文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第20条第1項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第5章 雑則

(学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第25条 第5条第1号及び第9条第3号イに規定する学士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

(1) 旧大学令(大正7年勅令第388号)による学士の称号を有する者

(2) 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第155条第1項第2号から第8号までのいずれかに該当する者

(短期大学の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第26条 第5条第2号及び第9条第3号ロに規定する大学に2年以上在学し、62単位以上を修得した者には、次に掲げる者を含むものとする。

(1) 旧大学令、旧高等学校令(大正7年勅令第389号)、旧専門学校令(明治36年勅令第61号)又は旧教員養成諸学校官制(昭和21年勅令第208号)の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者

(2) 学校教育法施行規則第155条第2項各号のいずれかに該当する者

(修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第27条 第9条第1号に規定する修士の学位を有する者には、学校教育法施行規則第156条各号のいずれかに該当する者を含むものとする。

(博士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第28条 第9条第1号に規定する博士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。

(1) 旧学位令(大正9年勅令第200号)による博士の称号を有する者

(2) 外国において博士の学位に相当する学位を授与された者

(専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者)

第29条 第9条第1号に規定する専門職学位を有する者には、外国において専門職学位に相当する学位を授与された者を含むものとする。

附則

1 この省令は、公布の日から施行する。

2 試験認定を受ける者のうち、博物館法の一部を改正する法律(昭和30年法律第81号)附則第3項の規定により学芸員となる資格を有する者にあつては、第6条第2項の規定にかかわらず、選択科目の試験を免除する。

附則(昭和41年11月2日文部省令第42号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(昭和42年11月9日文部省令第19号)抄

(施行期日)

1 この省令は、昭和42年11月10日から施行する。

附則(昭和46年6月1日文部省令第22号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(昭和47年4月27日文部省令第16号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(昭和50年7月26日文部省令第27号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(昭和56年3月23日文部省令第8号)

この省令は、昭和56年4月1日から施行する。

附則(昭和58年5月10日文部省令第21号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(昭和59年3月23日文部省令第2号)

この省令は、昭和59年4月1日から施行する。

附則(昭和62年3月28日文部省令第4号)

この省令は、昭和62年4月1日から施行する。

附則(平成元年3月29日文部省令第8号)

この省令は、平成元年4月1日から施行する。

附則(平成元年4月1日文部省令第18号)

この省令は、公布の日から施行する。

附則(平成3年3月16日文部省令第3号)

この省令は、平成3年4月1日から施行する。

附則(平成3年6月19日文部省令第31号)

この省令は、平成3年7月1日から施行する。

附則(平成5年4月23日文部省令第24号)

1 この省令は、公布の日から施行する。

2 この省令による改正後の学位規則第12条の規定にかかわらず、同条に規定する報告の様式については、平成6年3月31日までの間は、なお従前の例によることができる。

附則(平成6年3月22日文部省令第4号)

この省令は、平成6年4月1日から施行する。

附則(平成8年8月28日文部省令第28号)

1 この省令は、平成9年4月1日から施行する。

2 この省令の施行の日前に、改正前の博物館法施行規則(以下「旧規則」という。)第1条第1項に規定する科目の単位の全部を習得した者は、改正後の博物館法施行規則(以下「新規則」という。)第1条に規定する科目の単位の全部を修得したものとみなす。

3 この省令の施行の日前に、次の表の上欄に掲げる旧規則第1条第1項に規定する科目の単位を修得した者は、下欄に掲げる新基礎第1条に規定する科目の単位を修得したものとみなす。

社会教育概論	1単位	生涯学習概論	1単位
博物館学	4単位	博物館概論	2単位

		博物館経営論	1単位
		博物館資料論	2単位
		博物館情報論	1単位
視聴覚教育	1単位	視聴覚教育メディア論	1単位
教育原理	1単位	教育学概論	1単位

4 この省令の施行の日前に、次の表の上欄に掲げる旧規則第6条第2項に規定する試験科目に合格した者は、下欄に掲げる新規則第6条第2項に規定する試験科目に合格したものとみなす。

社会教育概論	生涯学習概論
視聴覚教育	視聴覚教育メディア論
教育原理	教育学概論

附則（平成9年3月18日文部省令第1号）

この省令は、平成9年4月1日から施行する。

附則（平成10年12月18日文部省令第45号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成12年2月29日文部省令第7号）

この省令は、平成12年4月1日から施行する。

附則（平成12年10月31日文部省令第53号） 抄

（施行期日）

第1条 この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成11年法律第88号）の施行の日（平成13年1月6日）から施行する。

附則（平成15年3月28日文部科学省令第10号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成15年3月31日文部科学省令第15号） 抄

（施行期日）

第1条 この省令は、平成15年4月1日から施行する。

附則（平成15年12月19日文部科学省令第56号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成16年3月30日文部科学省令第13号）

この省令は、平成16年4月1日から施行する。

附則（平成16年3月31日文部科学省令第15号） 抄

（施行期日）

第1条 この省令は、平成16年4月1日から施行する。

附則（平成18年3月31日文部科学省令第11号） 抄

（施行期日）

第1条 この省令は、平成19年4月1日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第2条 この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、准教授としての在職とみなす。

（1） 略

（2） 博物館法施行規則第9条第2号

附則（平成20年6月11日文部科学省令第18号）

この省令は、社会教育法等の一部を改正する法律（平成20年法律第59号）の施行の日（平成20年6月11日）から施行する。

附則（平成21年4月30日文部科学省令第22号）

1 この省令は、平成24年4月1日から施行する。

2 この省令の施行の日前に、改正前の博物館法施行規則（以下「旧規則」という。）第1条に規定する博物館に関する科目（以下「旧科目」という。）の単位の全部を修得した者は、改正後の博物館法施行規則（以下「新規則」という。）第一条に規定する博物館に関する科目（以下「新規則」という。）の単位の全部を修得したものとみなす。

3 この省令の施行の日前から引き続き大学に在学している者で、該当大学を卒業するまでに旧科目の単位の全部を取得した者は、新科目の単位の全部を修得したものとみなす。

4 この省令の施行の日前から引き続き大学に在学しているもので、当該大学を卒業するまでに次の表中新科目の欄に掲げる科目の単位を修得した者は、当該科目に相当する旧科目の欄に掲げる科目の単位を修得したものとみなす。

新科目	単位数	旧科目	単位数
生涯学習概論	2	生涯学習概論	1
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	1
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館教育論	2	博物館概論	1
博物館情報・メディア論	2	博物館情報論	1
		視聴覚教育メディア論	1
博物館実習	3	博物館実習	3
博物館概論	2	博物館学	6
博物館経営論	2	視聴覚教育メディア論	1
博物館資料論	2		
博物館情報・メディア論	2		
博物館経営論	2	博物館学各論	4
博物館資料論	2	視聴覚教育メディア論	1
博物館情報・メディア論	2		

5 この省令の施行の日前に、次の表中旧科目の欄に掲げる科目の単位を修得した者が、新たに学芸員となる資格を得ようとする場合には、すでに修得した旧科目の単位は、当該科目に相当する新科目の単位とみなす。

旧科目	単位数	新科目	単位数
生涯学習概論	1	生涯学習概論	2
博物館概論	2	博物館概論	2

博物館経営論	1	博物館経営論	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館情報論	1	博物館情報・メディア論	2
視聴覚教育メディア論	1		
博物館実習	3	博物館実習	3
博物館学	6	博物館概論	2
		博物館経営論	2
		博物館資料論	2
博物館学 視聴覚教育メディア論	6	博物館概論	2
	1	博物館経営論	2
		博物館資料論	2
		博物館情報・メディア論	2
博物館学各論	4	博物館経営論	2
		博物館資料論	2
博物館学各論 視聴覚教育メディア論	4	博物館経営論	2
	1	博物館資料論	2
		博物館情報・メディア論	2

6 この省令の施行の日前に、旧規則第6条第2項に規定する試験科目（以下「旧試験科目」という。）の全部（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）に合格した者は、新規則第6条第3項に規定する試験科目（以下「新試験科目」という。）の全部に合格したものとみなす。

7 この省令の施行の日前から引き続き大学に在学している者のうち次に掲げる要件のいずれかに該当する者は、その願い出により、新試験科目の全部に合格したものとみなす。

- (1) 該当大学を卒業するまでに、旧試験科目のすべてについて、それらに相当する科目の単位を大学において修得していること。
- (2) 該当大学を卒業するまでに、旧試験科目のうち次に掲げるもの以外のものについて、それらに相当する科目の単位を大学において修得していること。

イ この省令の施行の日前における旧規則第7条第1項の講習等の修了により、当該科目についての試験を免除することとされていた旧試験科目

ロ この省令の施行の日前における旧規則第6条第2項の規定による試験において、合格点を得た旧試験科目

8 この省令の施行の日前から引き続き専修学校の専門課程（旧規則第7条第1項の講習等を提供していたものに限る。以下この項及び第11項において同じ。）に在学している者のうち次に掲げる要件のいずれかに該当する者は、その願い出により、新試験科目の全部に合格したものとみなす。

- (1) 該当専修学校の専門課程を卒業するまでに、旧試験科目のすべてについて、それらに相当する講習等を専修学校の専門課程において修了していること。
- (2) 当該専修学校の専門課程を卒業するまでに、旧試験科目のうち次に掲げるもの以外のものについて、それらに相当する講習等を専修学校の専門課程において修了していること。

イ この省令の施行の日前に、大学において、当該科目に相当する科目の単位を修得している旧試験科目

ロ この省令の施行の日前における旧規則第7条第1項の講習等の修了により、当該科目についての試験を免除することとされていた旧試験科目

ハ この省令の施行の日前に受けた旧規則第6条第2項の規定による試験において、合格点を得た旧試験科目

9 この省令の施行の日前に、次の表中旧試験科目の欄に掲げる科目に合格した者は、当該試験科目に相当する新試験科目の欄に掲げる科目に合格したものとみなす。

旧試験科目	新試験科目
生涯学習概論	生涯学習概論
博物館学	博物館概論 博物館経営論 博物館資料論
博物館学 視聴覚教育メディア論	博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論
文化史	文化史
美術史	美術史
考古学	考古学
民俗学	民俗学
自然科学史	自然科学史
物理	物理
科学	科学
生物学	生物学
地学	地学

10 この省令の施行の日から平成24年12月31日までの間に行う新規則第2章に定める試験認定において、旧規則第5条第2号から第4号までのいずれかに該当する者が、新規則第12条第1項の筆記試験合格者となった場合は、新規則第12条第1項の規定にかかわらず、文部科学大臣の認定を受けるに当たり、筆記試験合格者となった後から1年間学芸員補の職にあることを要しない。

11 この省令の公布の日から引き続き専修学校の専門課程に在職している者が、当該専修学校の専門課程を卒業して新規則第12条第1項の筆記試験合格者となった場合は、新規則第12条第1項の規定にかかわらず、文部科学大臣の認定を受けるに当たり、筆記試験合格者音なった後から1年間学芸員補の職にあることを要しない。

附則（平成23年12月1日文部科学省令第44号）抄
(施行期日)

1 この省令は、平成24年4月1日から施行する。

附則（平成24年3月30日文部科学省令第16号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成24年6月29日文部科学省令第24号）
（施行期日）

1 この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律（平成21年法律第77号）の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律（平成21年法律第79号）の施行の日（平成24年7月9日）から施行する。

（経過措置）

2 この省令の施行の日から起算して6月を経過する日までの間における改正後の博物館法施行規則第11条第1項第3号の規定の適用については、同号中「住民票の写し」とあるのは、「住民票の写し（日本の国籍を有しない者にあつては、住民票の写し又は出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律第4条の規定による廃止前の外国人登録法（昭和27年法律第125号）に規定する登録原票の写し若しくは登録原票記載事項証明書）」とする。

附則（平成26年9月3日文部科学省令第26号）

この省令は、平成27年4月1日から施行する。

附則（平成27年10月2日文部科学省令第34号）抄
（施行期日）

1 この省令は、平成27年10月5日から施行する。

附則（平成29年10月31日文部科学省令第39号）

この省令は、平成31年4月1日から施行する。

附則（令和元年6月21日文部科学省令第5号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（令和元年7月1日文部科学省令第9号）

（施行期日）

1 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

2 この省令の施行の際、現に存する改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

- 別記第1号様式 ※記載省略
- 別記第2号様式 ※記載省略
- 別記第3号様式 ※記載省略
- 別記第4号様式 ※記載省略
- 別記第5号様式 ※記載省略
- 別記第6号様式 ※記載省略
- 別記第7号様式 ※記載省略
- 別記第8号様式 ※記載省略
- 別記第9号様式 ※記載省略

○博物館の登録に関する規則

昭和50年5月8日 教育委員会規則第5号
〔最終改正〕平成6年3月31日 教育委員会規則第2号

博物館の登録に関する規則をここに公布する。

（趣 旨）

第1条 この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。

（登録原簿等の様式）

第2条 法第10条、第11条第1項及び第11条第2項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第1号様式
法第11条第1項	博物館登録申請書	第2号様式
法第11条第2項	博物館資料目録	第3号様式

（博物館登録申請書の添付書類）

第3条 博物館登録申請書には、法第11条第2項に規定する書類のほか、職員名簿（第4号様式）を添付するものとする。

（登録要件の審査）

第4条 法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第1項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。

（登録事項等の変更）

第5条 法第13条第1項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第5号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年3月末日に届け出るものとする。

（博物館の廃止）

第6条 法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第6号様式）により行うものとする。

（公 示）

第7条 県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。

附 則

この規則は、公布の日から施行し、昭和50年4月1日から適用する。

附 則（昭和56年3月30日教育委員会規則第4号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成6年3月31日教育委員会規則第2号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

第 1 号様式
(第 2 条関係)

No. _____

備 考	所 在 地	名 称	※設置者 の名称及 び住所	事 項		博物館登録原簿
				記号番号	年月日	
				第 号	年月日	登 録
				年月日	年月日	登 録 変 更
				年月日	年月日	登 録 変 更

(※公立の場合は設置者の名称のみ記入)

(A 4 版)

第 2 号様式
(第 2 条関係)

博物館登録申請書

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

申請者 氏名 印

博物館法第11条第 1 項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考 この申請書には、次の書類を添付すること。

- (1) 公立博物館にあつては設置条例の写し、私立博物館にあつては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
- (2) 館則の写し
- (3) 直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
- (4) 当該年度における事業計画書及び公立博物館にあつては予算の歳出の見積もり、私立博物館にあつては収支の見積もりに関する書類
- (5) 博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
- (6) 学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第 3 号様式
(第 2 条関係)

博物館資料目録

博物館名

資 料 の 種 別			資料の種類及び数量				
自然科学に関する資料							
人文科学に関する資料							
種別	番号	名称	規格	品質	数量	取得年月日	備考

(A 4 版)

第 4 号様式
(第 3 条関係)

職員名簿

博物館名

番号	氏名	職名	最終 学歴	博物館職員と しての勤務年数	担当職務	備考

(A 4 版)

第 5 号様式
(第 5 条関係)

博物館登録事項変更届出書

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名 印

博物館法第 1 3 条第 1 項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変 更 年 月 日		年 月 日
変 更 の 理 由		
変 更 事 項 の 種 類		
変更事項の内容	旧	
	新	

(A 4 版)

第 6 号様式
(第 6 条関係)

博物館廃止届

文 書 番 号
年 月 日

沖縄県教育委員会 殿

施 設 名
届出者氏名 印

博物館法第 1 5 条第 1 項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃 止 年 月 日	年 月 日
廃 止 し た 理 由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

(A 4 版)

○**沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則**
平成23年3月31日 教育委員会規則第2号

沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則をここに公布する。

(趣 旨)

第1条 この規則は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条の7の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任することに関し、必要な事項を定めるものとする。

(委 任)

第2条 沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務のうち、次に掲げる事務以外の事務を沖縄県部等設置条例（昭和47年沖縄県条例第32号）第2条第8号の規定により設置される文化観光スポーツ部の長（以下「部長」という。）に委任する。ただし、沖縄県立博物館・美術館管理規則（平成19年沖縄県教育委員会規則第1号）第2条第3項ただし書の規定による認定に関する事務にあつては、知事が定める沖縄県立博物館・美術館の組織に関する規則の規定により設置される館長に委任する。

- (1) 沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）及び沖縄県立博物館・美術館管理規則（以下「条例等」という。）の改正及び廃止に関すること。
- (2) 博物館法（昭和26年法律第285号）第21条及び沖縄県立博物館・美術館管理規則第12条第1項の規定による博物館・美術館協議会の委員の任免に関すること。

(合議等)

第3条 前条の規定により事務の委任を受ける者は、当該事務の執行について、この規則以外の教育委員会規則その他の規定により教育委員会又はその補助職員に対し、合議、協議、報告等（以下「合議等」という。）を要する定めのある事務については、合議等をしなければならない。

2 前条の規定にかかわらず、委任された事務に関し、重要かつ異例の事態が生じたときは、あらかじめ、その処理方針について、教育委員会の承認を受けなければならない。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、平成23年4月1日から施行する。

(経過措置)

2 この規則の施行の際条例等の規定により教育委員会がした処分その他の行為で現にその効力を有するもの又はこの規則の施行の日（以下「施行日」という。）前に条例等の規定により教育委員会に対してなされた申請その他の行為で、施行日以後においては部長に委任されることとなる事務に係るものは、施行日以後における条例等の適用については、部長がした処分その他の行為又は部長に対してなされた申請その他の行為とみなす。

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

3 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第11条第8号を次のように改める。

(8) 博物館・美術館に関すること（沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成23年沖縄県教育委員会規則第2号）により委任される事務に関するものを除く。）。

(沖縄県立教育機関組織規則の一部改正)

4 沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第2号）の一部を次のように改正する。

第1条中「、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）」を削る。

第4条を削り、第4条の2を第4条とする。

第6条を次のように改める。

(職制等)

第6条 総合教育センター、図書館、埋蔵文化財センター及び青少年の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

2 所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第7条及び第8条を削り、第9条を第7条とする。

第9条の2の表中「総合教育センター（総務班を除く。） 博物館・美術館」を「総合教育センター（総務班を除く。）」に改め、同条を第8条とする。

第10条を第9条とし、第11条を第10条とし、第11条の2を第11条とする。

第12条第1項中「及び博物館・美術館」を削る。

第21条を第23条とし、第20条を第22条とし、第19条を第21条とする。

第18条中「第7条から第16条まで」を「第6条から第18条まで」に改め、同条の表中

「	学芸員	上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務に従事す	」
及び			

「	学芸員補	上司の命を受け、学芸員の職務を助ける。	」
---	------	---------------------	---

を削り、同条を第20条とする。

第17条を第19条とする。

第16条中「第7条」を「第6条」に改め、同条を第18条とする。

第15条を第17条とし、第14条を第16条とし、第13条を削り、第12条の4を第15条とする。

第12条の3第1項中「、博物館・美術館」を削り、同条を第14条とする。

第12条の2を第13条とする。

(沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則の一部改正)

5 沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第22号）の一部を次のように改正する。

第4条第2項中「沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、」を「沖縄県立埋蔵文化財センター及び」に改める。

○**沖縄県博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則**

平成23年3月31日 規則第8号
〔一部改正〕 令和2年3月31日 規則第29号

沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則をここに公布する。

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成23年沖縄県教育委員会規則第2号。以下「教育委員会事務委任規則」という。）第2条の規定により知事の補助職員に委任された沖縄県立博物館・美術館（沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成19年沖縄県条例第72号）で設置された沖縄県立博物館・美術館をいう。以下「博物館・美術館」という。）の管理に関する事務を執行するため

の組織その他必要な事項について定めるものとする。

(博物館・美術館の管理に関する事務の所掌)

第2条 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により文化観光スポーツ部の長（以下「文化観光スポーツ部長」という。）に委任された事務は、沖縄県行政組織規則（昭和49年沖縄県規則第18号。以下「行政組織規則」という。）第76条の規定により設置する文化観光スポーツ部文化振興課が所掌する。

2 博物館・美術館の管理に関する事務のうち、前項に定める事務以外の事務は、博物館・美術館が所掌する。

(内部組織)

第3条 博物館・美術館に総務班、博物館班及び美術館班を置く。

(所掌事務)

第4条 総務班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 予算、決算その他会計事務に関すること。
- (2) 公印の保管に関すること。
- (3) 職員の服務及び福利厚生に関すること。
- (4) 博物館・美術館協議会に関すること。
- (5) 指定管理者との連絡調整に関すること。
- (6) 他班の所掌に属さない事務に関すること。

2 博物館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 博物館資料の利用に関すること。
- (3) 博物館施設及びその他施設の利用に関すること。
- (4) 博物館資料の調査研究に関すること。
- (5) 博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。)
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。)

3 美術館班の分掌事務は、次のとおりとする。

- (1) 博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。
- (2) 美術館資料の利用に関すること。
- (3) 美術館施設の利用に関すること。
- (4) 美術館資料の調査研究に関すること。
- (5) 美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- (6) 美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- (7) 他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。)
- (8) 教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。)

(職の設置)

第5条 博物館・美術館に、館長、副館長、班長、主査、主事及び学芸員を置く。

2 博物館・美術館に、特に必要と認められるときは、主任学芸員、主任専門員、主任、専門員及びその他の職員を置くことができる。

(職の職務内容)

第6条 前条に掲げる職の職務内容は、上司の命を受けて次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 館長は、博物館・美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。
- (2) 副館長は、博物館・美術館の事務を整理し、館長を補佐する。
- (3) 班長は、班の事務を処理する。
- (4) 主査は、博物館・美術館の特定事務を分掌する。
- (5) 主事は、一般的な事務を処理する。
- (6) 学芸員は、学芸業務に従事する。
- (7) 主任学芸員は、学芸業務を処理する。
- (8) 主任専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。
- (9) 主任は、一般的な事務を分掌する。
- (10) 専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。

(その他組織に関する事項)

第7条 第3条から前条までに定めるもののほか、博物館・美術館の組織に関し必要な事項は、博物館・美術館を行政組織規則第5条に規定する公の施設を管理する機関とみなして、同規則の規定を適用する。

一部改正〔令和2年規則29号〕

(委任された事務に係る決裁等)

第8条 教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により、文化観光スポーツ部長に委任された事務は、沖縄県事務決裁規定（昭和48年沖縄県訓令第89号）の規定の例により文化観光スポーツ部長が決裁するものとする。

2 教育委員会事務委任規則第2条ただし書の規定により、館長に委任された事務の決裁は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則（昭和53年沖縄県規則第67号）の規定（第3条、第5条及び第13条を除く。）を準用する。この場合において、同規則の規定中「知事」とあるのは「沖縄県教育委員会」と、「所長等」とあるのは「館長」と読み替えるものとする。

3 前2項に定めるもののほか、文化観光スポーツ部長及び館長は、教育委員会事務委任規則第2条の規定により委任された事務の執行に関し重大な疑義が生じたときは、沖縄県教育委員会に協議する等をして適正に事務を処理しなければならない。

4 館長は、前2項の規定又は教育委員会事務委任規則第3条の規定が適用される事務については、文化観光スポーツ部長を経由して同条に規定する手続きを講ずるものとする。

(委任された事務以外の事務の委任及び決裁)

第9条 博物館・美術館の管理に関する事務を執行する組織及び職員の管理その他必要な事務の処理は、館長を沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則第2条第1項第1号に規定する所長等とみなして、同規則の規定を適用する。この場合において、館長は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則の規定の適用に関し疑義を生じたときは、知事に協議しなければならない。

(委任)

第10条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関する事務の執行に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長に委任された事務については文化観光スポーツ部長が、館長に委任された事務については館長がそれぞれ定める。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則（令和2年3月31日規則第29号抄）

（施行期日）

- 1 この規則は、令和2年4月1日から施行する。（後略）

〇沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日 条例第72号
〔最終改正〕平成31年3月29日 条例第5号

沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例をここに公布する。

（設 置）

- 第1条 歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第2条第1項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。

（位置及び施設）

- 第2条 博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち3丁目1番1号とする。

- 2 博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。

- （1）博物館施設
- （2）美術館施設
- （3）その他施設

（事 業）

- 第3条 博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。

- （1）博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
- （2）博物館・美術館資料の利用に関すること。
- （3）博物館・美術館の施設の利用に関すること。
- （4）博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
- （5）博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
- （6）博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- （7）他の博物館等との相互協力に関すること。
- （8）教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
- （9）前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。

（博物館・美術館の管理）

- 第4条 博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定により、法人その他の団体であつて教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。

（指定管理者の業務）

- 第5条 指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。

- （1）博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
- （2）第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
- （3）第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第2項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
- （4）第19条及び同条第3項において準用する第11条第5項から第7項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第3項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第3項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
- （5）博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
- （6）前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務

（指定管理者の指定の申請）

- 第6条 第4条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。

（指定管理者の指定）

- 第7条 教育委員会は、前条の規定による申請があつたときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。

- （1）事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
- （2）事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
- （3）事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
- （4）前3号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。

（指定管理者の指定等の告示）

- 第8条 教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。

- 2 前項の規定は、地方自治法第244条の2第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。

（休館日）

- 第9条 博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。

- （1）月曜日
- （2）12月29日から翌年の1月3日までの日

- 2 前項第1号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例（昭和49年沖縄県条例第42号）第2条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。

- 3 前2項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。

（開館時間）

- 第10条 博物館・美術館の開館時間は、午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあつては、午後8時）までとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時

に変更することができる。

(観覧料)

第11条 常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

- 2 常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第1に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 3 企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,150円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。
- 4 前2項の規定にかかわらず、1年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第2に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 5 指定管理者は、第2項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。
- 6 教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。
- 7 観覧料は、指定管理者の収入とする。

一部改正〔平成26年条例11号・第31年5号〕

(観覧料の減免)

第12条 指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

(観覧料の返還)

第13条 既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

(利用の許可)

第14条 別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

- 2 指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めたときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。
- 3 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第1項の許可をしないことができる。
 - (1) 公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。
 - (2) 公益を害するおそれがあると認められるとき。
 - (3) 施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。
 - (4) 前3号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

(利用期間)

第15条 施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

(権利の譲渡等の禁止)

第16条 利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

(許可の取消し等)

第17条 指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第1項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

- (1) この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。
- (2) 偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。
- (3) 許可に付した条件に違反したとき。
- (4) 第14条第3項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

(原状回復の義務)

第18条 利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

- 2 指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

(利用料金)

第19条 利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

- 2 利用料金は、別表第3に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。
- 3 第11条第5項から第7項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

(事業報告書の提出)

第20条 指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

(博物館・美術館協議会)

第21条 博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

- 2 協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

- 3 委員の定数は、15人以内とする。
- 4 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 5 委員は、再任されることができる。
- 6 第2項から前項までに定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

一部改正〔平成24年条例46号〕

(教育委員会規則への委任)

第22条 この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、公布の日から起算して1年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（平成19年6月教育委員会規則第11号で、同19年11月1日から施行）

(準備行為)

- 2 第7条の規定による指定管理者の指定、第11条第5項の規定による観覧料の承認及び第19条第3項において準用する第11条第5項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第6条から第8条まで、第11条第2項から第6項まで並びに第19条第2項並びに同条第3項において準用する第11条第5項及び第6項の規定の例により行うことができる。

(沖縄県立教育機関設置条例の一部改正)

- 3 沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。
第1条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。
第5条及び第6条を削り、第6条の2を第5条とし、第7条を第6条とし、第7条の2を第7条とする。
第8条中「、第5条及び第6条の2」を「及び第5条」に改める。

(沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正)

- 4 沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。
第2条第1項中「別表第1又は別表第2」を「別表」に改め、同条第2項を削る。
別表第1を削り、別表第2を別表とする。

附 則（平成24年3月30日条例第46号）

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

附 則（平成26年3月31日条例第11号抄）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成31年3月29日条例第5号）

(施行期日)

- 1 この条例は、平成31年10月1日から施行する。

(経過措置)

- 2 この条例による改正後のそれぞれの条例規定は、この条例の施行の日以後に徴収し、又は納めるべき使用料、採取料、占用料、着陸料等及び駐車料について適用し、同日前に徴収し、又は納めるべき使用料、採取料、占用料、着陸料等及び駐車料については、なお従前の例による。

別表第1（第11条関係）

区分		基準額（1人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	420円	340円
	大学生及び高校生	270円	210円
	中学生及び小学生	150円（県外の中学生及び小学生に限る。）	120円（県外の中学生及び小学生に限る。）
美術館施設	一般	320円	260円
	大学生及び高校生	210円	170円
	中学生及び小学生	100円（県外の中学生及び小学生に限る。）	80円（県外の中学生及び小学生に限る。）

備考

- 1 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
2 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
3 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
4 「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。

一部改正〔平成26年条例11号・31年5号〕

別表第2（第11条関係）

区分		基準額（1人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,250円	780円	470円（県外の中学生及び小学生に限る。）
	常設展、企画展及び特別展	4,400円	2,720円	1,680円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,180円）
美術館施設	常設展	950円	630円	320円（県外の中学生及び小学生に限る。）
	常設展及び企画展	4,080円	2,720円	1,370円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,030円）

備考

- 1 「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
2 「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
3 「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。

一部改正〔平成26年条例11号・31年5号〕

別表第3（第14条、第19条関係）

1 施設利用料金

(1) 博物館施設利用料金

区分		基準額（1日につき）
企画展示室	入場料を徴収しない場合	30,480円
	入場料を徴収する場合	91,450円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	29,920円
	入場料を徴収する場合	119,750円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,430円

	入場料を徴収する場合	28,280円
講座室	入場料を徴収しない場合	16,650円
	入場料を徴収する場合	49,970円

(2) 美術館施設利用料金

区分		基準額（1日につき）
県民ギャラリー1		8,480円
県民ギャラリー2		7,850円
県民ギャラリー3		7,850円
県民ギャラリースタジオ		8,590円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,330円
	入場料を徴収する場合	22,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,850円
	入場料を徴収する場合	23,570円
企画展示室1	入場料を徴収しない場合	34,370円
	入場料を徴収する場合	103,080円
企画展示室2	入場料を徴収しない場合	42,640円
	入場料を徴収する場合	127,920円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,530円
	入場料を徴収する場合	28,600円

(3) その他施設利用料金

区分		基準額（1時間につき）
講堂	入場料を徴収しない場合	3,570円
	入場料を徴収する場合	10,680円

2 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房設備	1時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	1回1点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

- 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。
- 利用料金の基準額が1時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。
 - 午前9時から午後6時（金曜日及び土曜日にあっては、午後8時）までの間は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の120を乗じて得た額
 - 午後6時（金曜日及び土曜日にあっては、午後8時）後は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の2分の1の額に100分の150を乗じて得た額

一部改正〔平成26年条例11号・31年5号〕

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年3月16日 教育委員会規則第1号
〔最終改正〕平成31年3月29日 教育委員会規則第2号

沖縄県立博物館・美術館管理規則をここに公布する。

(趣 旨)

第1条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第1号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

(寄贈及び寄託)

- 第2条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第1号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第2号様式）を提出しなければならない。
- 受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書（第3号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第4号様式）を交付するものとする。
 - 寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。
 - 第2項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。

5 第2項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

(寄贈資料及び寄託資料の管理等)

第3条 寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。

2 寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

(指定管理者の指定の申請)

第4条 条例第6条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第5号様式）によるものとする。

2 条例第6条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。

- (1) 法人である団体にあつては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
- (2) 法人でない団体にあつては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）
- (3) 申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
- (4) 最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日の属する事業年度に設立された法人にあつては、その設立時における財産目録）
- (5) 役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
- (6) 前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

(観覧券の交付)

第5条 指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

(観覧料の免除)

第6条 条例第12条第1項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第6号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。

2 条例第12条第2項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。

- (1) 県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (2) 県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
- (3) 70歳以上の者が常設展を観覧する場合
- (4) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
- (5) 知的障害者で都道府県知事又は地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第1項の指定都市の市長から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
- (6) 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

(入館の禁止等)

第7条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。

- (1) 館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
- (2) その他指定管理者が適当でないと認める者

(施設利用の許可等)

第8条 条例別表第3に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第7号様式）を提出しなければならない。

(利用期間)

第9条 条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。

- (1) 博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室1及び企画展示室2並びにこれらの施設の冷房設備 6月
- (2) 前号に掲げる施設等以外の施設 7日

2 条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第8号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

(利用料金の免除)

第10条 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第3条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。

2 条例第19条第3項において準用する第12条第2項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第9号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

3 指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

(事業報告書の内容等)

第11条 条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。

- (1) 博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
- (2) 業務に係る収支状況
- (3) 博物館・美術館の利用状況
- (4) 前3号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

(博物館・美術館協議会の組織等)

第12条 博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。

- 2 協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
- 3 会長は協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
- 5 協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 6 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
- 7 協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。

8 協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。

9 協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。

10 その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

(観覧料の割引)

第13条 条例別表第1備考4に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

(附属設備の利用料金の基準額)

第14条 条例別表第3第2項の表に規定する教育委員会規則で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

(補 則)

第15条 この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月1日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

(準備行為として行う申請に必要な申請書等)

2 条例附則第2項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第4条の規定の例による。

(沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止)

3 次に掲げる規則は、廃止する。

(1) 沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）

(2) 沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

(沖縄県教育庁組織規則の一部改正)

4 沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第1号）の一部を次のように改正する。

第31条第3号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。

第33条第4号中「沖縄県立博物館協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

附 則（平成24年2月21日教育委員会規則第1号）

この規則は、公布の日から施行する。

附 則（平成26年3月31日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則（平成27年3月24日教育委員会規則第4号抄）

(施行期日)

1 この規則は、平成27年4月1日から施行する

附 則（平成31年3月29日教育委員会規則第2号）

この規則は、平成31年10月1日から施行する。

別表（第14条関係）

1 附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	1 台	320円
	花台	1 台	100円
	司会台	1 台	150円
音響器具	メインスピーカー	1 式	1,050円
	コンデンサーマイク	1 本	320円
	ワイヤレスマイク	1 本	630円
	ダイナミックマイク	1 本	210円
	ビデオテープレコーダー	1 台	730円
	DVDプレーヤー	1 台	1,310円
	CD、MDプレーヤー	1 台	420円
	HD/DVDレコーダー	1 台	1,310円
照明器具	ボーダーライト	1 列	320円
	サスペンションライト	1 列	520円
	アッパーホリゾンライト	1 列	730円
	シーリングライト	1 列	630円
	センターピンスポットライト	1 台	420円
その他	書画カメラ	1 台	840円
	ビデオプロジェクター	1 台	1,470円
	電動スクリーン	1 式	1,150円
	35ミリフィルム映写機	1 式	5,240円

備考 附属設備利用料金の基準額は、1ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、4時間ごとに1ステージとみなす。

2 冷房設備の利用料金

区分		単位	基準額
博物館施設	企画展示室	1 時間までごとに	660円
	特別展示室	1 時間までごとに	870円
	実習室	1 時間までごとに	200円
	講座室	1 時間までごとに	360円
美術館施設	県民ギャラリー1	1 時間までごとに	180円
	県民ギャラリー2	1 時間までごとに	170円
	県民ギャラリー3	1 時間までごとに	170円
	県民ギャラリースタジオ	1 時間までごとに	190円
	県民アトリエ	1 時間までごとに	150円
	子供アトリエ	1 時間までごとに	170円

	企画展示室 1	1 時間までごとに	740円
	企画展示室 2	1 時間までごとに	930円
	講座室	1 時間までごとに	210円
	講堂	1 時間までごとに	620円
その他施設			

第1号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄贈申込書	
年 月 日	
沖縄県立博物館・美術館長 殿	
申込者 住 所 氏 名	印
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。	
記	
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 資料所在地	
7 時価見積額	
8 寄贈の理由	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第2号様式
(第2条関係)

博物館・美術館資料寄託申請書	
年 月 日	
沖縄県立博物館・美術館長 殿	
申請者 住 所 氏 名	印
私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。	
記	
1 種 別	
2 作 者 名	
3 作 品 名	
4 製作年月日	
5 附 属 品	
6 資料所在地	
7 寄 託 期 間	年 月 日 から 年 月 日 まで

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第 3 号様式
(第 2 条関係)

博物館・美術館資料受贈受諾書

年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長 印

年 月 日付け申込のあつた博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾
します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第 2 条第 4
項の規定により返却されません。

記

1 種 別

2 作 者 名

3 作 品 名

4 製作年月日

5 附 属 品

6 資料所在地

7 時価見積額

8 寄贈の理由

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列 4 判とする。

第 4 号様式
(第 2 条関係)

博物館・美術館資料受託承認書

年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長 印

年 月 日付け申請のあつた博物館・美術館資料の寄託については下記により受託
します。

記

1 種 別

2 作 者 名

3 作 品 名

4 製作年月日

5 附 属 品

6 受託期間

年 月 日 から
年 月 日 まで

7 備 考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列 4 判とする。

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第7号様式
(第8条関係)

博物館・美術館施設利用許可申請書	
年 月 日	
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	殿
	申請者 氏 名 電 話
印	
下記により貴館施設を利用したいので、申請します。	
記	
1 利用者 団 体 名 代表者名 住 所	印 職業 () 電 話
2 利用目的	
3 利用する施設	
4 利用する日時及び期間 自： 年 月 日 時 分 } () 日間 至： 年 月 日 時 分 }	
5 予定参加人数 人	
許 可 証	
年 月 日付け申請の () 使用の件、申請どおり許可します。	
年 月 日	
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	
印	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第8号様式
(第9条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願	
年 月 日	
沖縄県立博物館・美術館 指定管理者	殿
	申請者 住 所 団 体 名 代表者氏名 電 話 番 号
印	
沖縄県立博物館・美術館管理規則第9条第2項の規定により次のとおり利用期間の変更を願 い出ます。	
記	
1 催物の名称	
2 利用する日時及び期間 自： 年 月 日 時 分 } () 日間 至： 年 月 日 時 分 }	
3 利用期間の変更を願ひ出る理由	
4 備考	

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列4判とする。

第 9 号様式
(第 1 0 条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年 月 日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者

殿

申請者 住 所
団 体 名
代表者氏名
電 話 番 号

印

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

1 催物の名称

2 利用目的

3 催物の内容

4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分 } () 日間

5 減額・免除を申請する理由

6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列 4 判とする。

第 1 0 号様式
(第 1 0 条関係)

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者

印

次のとおり利用料金の免除を承認します。

記

1 催物の名称

2 利用目的

3 催物の内容

4 利用する日時及び期間
自： 年 月 日 時 分
至： 年 月 日 時 分 } () 日間

5 利用料金免除額

6 備考

備考 用紙の大きさは、日本工業規格A列 4 判とする。

○沖縄県立博物館・美術館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年3月14日 教育長決裁
平成28年12月28日 最終改正

(目 的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

(定 義)

第2条 この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

- (1) 展示会等における原資料等の借用。
- (2) 同資料の撮影。
- (3) 原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。
- (4) 撮影等による複製品の製作。
- (5) 原資料等の閲覧。
- (6) 教育普及資料の借用。

(許可の基準)

第3条 博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

- (1) 資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。
- (2) 好ましくない用途に供されると認められる場合。
- (3) 館の事務処理に支障が生じると認められる場合。
- (4) 資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。
- (5) 過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。
- (6) その他、許可することが適当でないと認められる場合。

(許可申請の手続き)

第4条 資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

- (1) 原資料等の借用（第1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2号様式）
- (3) 複製品の製作（第3号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5号様式）

(審査及び決定)

第5条 前条の規定による申請があつた場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

- (1) 事業の趣旨及び内容。
- (2) 事業の主体者。
- (3) 事業計画。
- (4) その他必要な事項。

(許可書の交付)

第6条 資料利用を許可する決定を行つたときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおり条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

- (1) 原資料等の借用（第1-1号様式）
- (2) 写真撮影、原板・印画の借用（第2-1号様式）
- (3) 複製品の製作（第3-1号様式）
- (4) 原資料等の閲覧（第4-1号様式）
- (5) 教育普及資料の借用（第5-1号様式）

2 館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附 則

この要領は、平成14年4月1日から実施する。

附 則

この要領は、平成19年11月1日から実施する。

別表（第6条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 (各申請様式)	資 料 利 用 の 許 可 条 件	
	共 通 条 件	個 別 条 件
原資料等の借用 (第1号様式)	①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。 ④借用によつて生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
写真撮影、原板・印画の借用 (第2号様式)		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作 (第3号様式)		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は3週間以内とする。 ⑥資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
原資料等の閲覧 (第4号様式)		①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。 ③閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
教育普及資料の借用のの (第5号様式)		①与期間は1週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

第1号様式（第4条関係）

資料利用申請書
(原資料等の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： 印
 申請者 団 体 名：
 （担当者氏名）
 住 所：〒
 TEL：
 FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事業名			
借用希望期間	年 月 日 ～ 月 日		
目的			
展示等場所			
資料名	員数	備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
 - ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第1-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(原資料等の借用)博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事業名			
借用期間	年 月 日 ～ 月 日		
目的			
展示等場所			
資料名	員数	備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧貸与期間は原則として2ヶ月以内とする。
 - ⑨借用によって生じた成果品を当館に1部（1点）を納付すること。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第2号様式（第4条関係）

資料利用申請書 (写真撮影、原板・印画の借用)					
平成 年 月 日					
沖縄県立博物館・美術館長 殿					
代表者名：					印
申請者 団 体 名：					
(担当者氏名)					
住 所：〒					
TEL：					
FAX：					
下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。					
記					
利 用 区 分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日 ～ 月 日 時 ～ 時				
目 的	事 項	名 称	部 数	制作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テレビ				
	DVD C D その他				
資 料 名			数 量	仕 様	備 考
1.					
2.					
3.					

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第2-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書 (写真撮影、原板・印画の借用)					
博 美 第 号 平成 年 月 日					
殿					
沖縄県立博物館・美術館長					
平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。					
記					
利 用 区 分	1 写真原板使用	2 撮影	3 掲載	※○で囲む	
日 時・期 間	年 月 日 ～ 月 日 時 ～ 時				
目 的	事 項	名 称	部 数	制作予定日	備 考
	出版物				
	映 画				
	テレビ				
	DVD C D その他				
資 料 名			数 量	仕 様	備 考
1.					
2.					
3.					

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
- ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
- ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
- ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
- ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
- ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
- ⑦製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
- ⑧写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
- ⑨郵送費は申請者が負担すること。
- ⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。

前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3号様式（第4条関係）

資料利用申請書
(複製品の製作)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： 印
 申請者 団 体 名：
 （担当者氏名）
 住 所：〒
 TEL：
 FAX：

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	1 写真原板使用		2 撮影		3 掲載		※○で囲む	
希望日時・期間	年 月 日		～ 月 日		時 ～ 時			
目 的								
製 作 仕 様								
製 作 予 定 日	平成 年 月 日		製作点数		点		販売価格 円	
資 料 名			数 量		仕 様		備 考	
1.								
2.								
3.								

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
 ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第3-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(複製品の製作)博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた特別利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	1 写真原板使用		2 撮影		3 掲載		※○で囲む	
日 時 ・ 期 間	年 月 日		～ 月 日		時		～ 時	
目 的								
製 作 仕 様								
製 作 予 定 日	平成 年 月 日		製作点 数	点	販 売 価 格	円		
資 料 名			数 量	仕 様	備 考			
1.								
2.								
3.								

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 ⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
 ⑦撮影等製作過程における事故等によって与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
 ⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
 ⑨製作された写真デュープやビデオ、CD等を当館に無償で1部（1点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
 ⑩写真原板の貸与期間は3週間以内とする。
 ⑪資料利用によって製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4号様式（第4条関係）

資料利用申請書
(原資料等の閲覧)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： 印
 申請者 団 体 名：
 (担当者氏名)
 住 所：〒
 TEL：
 FAX：

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目	的						
閲覧希望日時	平成	年	月	日	時～時	閲覧人員	
資料名			員数		備考		
1. 2. 3. 4. 5.							

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
 - ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 - ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 - ⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第4-1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(原資料等の閲覧)博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目 的			
閲覧日時	平成 年 月 日 時～ 時	閲覧人員	
担当学芸員			
資料名	員数	備考	
1. 2. 3. 4. 5.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
 - ⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
 - ⑦閲覧する資料は、原則として1日5点以内とする。
 - ⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に1部（1点）納付すること。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第5号様式（第4条関係）

資料利用申請書
(教育普及資料の借用)

平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館長 殿

代表者名： 印
 申請者 団 体 名：
 (担当者氏名)
 住 所：〒
 TEL：
 FAX：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
希望日時・期間	年 月 日 (時) ～ 年 月 日 (時)		
行 事 名		参 加 人 員	
目 的			
資料名	数量	備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※留意事項

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第5－1号様式（第6条関係）

資料利用許可書
(教育普及資料の借用)博 美 第 号
平成 年 月 日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

平成 年 月 日付けで申請のあつた資料利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	1 学校 (学年・学級) 行事	2 地域・団体行事	3 その他
日 時 ・ 期 間	年 月 日 (時) ～ 年 月 日 (時)		
行 事 名		参 加 人 員	
目 的			
資料名	数量	備考	
1.			
2.			
3.			
4.			

※許可条件

- ①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
 - ②資料の利用に当たっては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
 - ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
 - ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
 - ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
 - ⑥貸与期間は1週間以内とする。
 - ⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
 - ⑧資料の利用にあたっては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
 - ⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
- 前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

○沖縄県立博物館・美術館共催及び後援等に関する取扱要領

平成23年 5月23日 部長決裁

(目的)

第1条 この要領は、沖縄県立博物館・美術館が共催又は後援等を行う事業について必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第2条 この要領において、次の各号に定める用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 共催事業の企画、運営に参画し、また経費の一部を負担するなど、当該事業について責任の一部を負担することをいう。
- (2) 後援等、後援、協力、協賛等で、当該事業の趣旨に賛同し、事業の実施について協力することをいう。

(名義)

第3条 この要領による共催又は後援等の名義は「沖縄県立博物館・美術館」とする。

(承認基準)

第4条 共催又は後援等の承認基準は別表1のとおりとする。

2 前項の規定にかかわらず、博物館活動の見地から館長が特に必要があると認めるものについては、共催又は後援等の承認をすることができるものとする。

(申請手続き)

第5条 共催又は後援等の承認を受けようとするものは、別記第1号様式又は次の事項を記載した書面を、原則として事業開催の14日前までに、沖縄県立博物館・美術館長に提出するものとする。

- (1) 事業の名称、目的及び内容
- (2) 主催者の職、氏名及び事務局等連絡先
- (3) 開催日時(期間)及び開催場所
- (4) 参加対象者及び参加見込者数
- (5) 他の共催者及び後援者等(予定者を含む)
- (6) 参加料金その他参考事項

(決定)

第6条 前条の規定による申請があった場合、沖縄県立博物館・美術館長はその内容を審査し、適当と認められるときは別記第2号様式の回答書により、承認できないときはその旨を、それぞれ当該申請者に通知するものとする。

(事業計画の変更)

第7条 共催又は後援を承認した事業であっても、申請時の事業計画を変更し、又は中止しようとするときは、申請者は速やかに当該変更又は中止に係る内容について届け出なければならない。

(承認の取消)

第8条 共催又は後援等を承認した事業であっても、その内容が第4条の承認基準に該当しなくなったときは、その承認を取り消すものとする。

2 前項の規定による承認の取消については、第6条の規定を準用する。

(事業の完了報告)

第9条 共催又は後援等を承認した事業のうち、必要があると認める場合は、別記第3号様式もしくはそれに変わる書面で報告を求めることができる。

(雑則)

第10条 共催又は後援の承認の手続きを経ずに、第3条に規定する名義を無断使用した場合(承認前に既に印刷し、公表した場合を含む。)は、警告書を出すとともに、以後の共催又は後援等の承認は認めないものとする。

附 則

この要領は、平成23年 5月23日から施行する。

別表1(第4条関係)

共催又は後援等の承認基準

主催者についての承認基準	1 国、地方公共団体及びこれらの機関並びにその連合体 2 教育機関及び教育研究団体 3 新聞社、放送局等報道関係 4 公益法人その他教育、芸術、文化又はスポーツの向上普及に寄与する事業を行う団体(宗教団体又は政治団体を除く。)
事業内容についての承認基準	1 県及び県教育委員会の運営方針に反しないものであり、教育施策上からの効果が期待できるものであること。 2 博物館・美術館の所掌業務と関連するもので、高い公益性を有すると認められるもの。 3 政治的、宗教的又は商業的活動に関する宣伝、勧誘等を意図するものでないこと。 4 特定の団体の利益を目的とするものでないこと。 5 事業の内容及び規模からみて、営利を目的とするものでないと客観的に判断されるものであること。

備考

- 1 主催者については、主催者についての承認基準の1から4までのいずれかに該当するものでなければならない。
- 2 事業内容については、事業内容についての承認基準のすべての項目に該当するものでなければならない。

第1号様式

平成 第 年 月 号 日	
沖縄県立博物館・美術館 館長 殿	
申請者 代表者名 印 団体名 所在地 (電話)	
行事の共催、後援等について（申請）	
次のとおり行事を開催するについて、沖縄県立博物館・美術館の共催（後援）（協力）（協賛）の承認を得たいので、申請します。	
記	
1 事業名	
2 事業の趣旨・内容 (なるべく具体的に記入すること。)	
3 主催者、共催者 及び後援者	
4 参加者及び参加方法	
5 参加者数	
6 開催日時及び場所	
7 経費負担の区分	
8 その他の必要事項	

第2号様式

博 美 第 号 平成 年 月 日	
殿	
沖縄県立博物館・美術館 館長	
の について（回答）	
平成年月日付け第号で申請のあった標記のことについては、以下の条件を付して承認します。	
記	
1 事業名	
2 名義使用の方法	
3 名義使用の期間	
4 経 費	
5 実施結果の報告の有無	
6 その他	

第3号様式

第 号
平成 年 月 日

沖縄県立博物館・美術館殿

申請者
代表者名
団体名
所在地
(電話)

の結果について(報告)

平成年月日付博美第 号により承認のあった標記の事業の結果について、
次のとおり報告します。

記

I 事業報告

1 事業名	
2 事業の概要	
3 参加者	
4 日時及び場所	
5 所見 (事業の効果等を含む)	
6 備考	

II 収支決算

1) 収入の部		2) 支出の部	
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計	円		円

○沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱

平成20年2月19日 教育長決裁

(設 置)

第1条 沖縄県立博物館・美術館が収取しようとする美術品等（以下「美術品等」という。）に関し、必要な事項を検討するため、沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会（以下「委員会」という。）を設置する

(任 務)

第2条 委員は次の事項について意見を述べる。

- (1) 美術品等の評価に関すること。
- (2) その他美術品等の収集に関すること。

(組 織)

第3条 委員会は、委員7人以内で組織する。

2 委員は次の各号にそれぞれ該当する者のうちから、会議ごとに教育長が選任する。

- (1) 美術品等について専門的な知識及び学識経験を有する者。
- (2) 美術品等と利害関係が無く、公正な判断ができる者。

(会長及び副会長)

第4条 委員会に、会長及び副会長を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選によってこれを定める。
- 3 会長は、会務を総理し、委員会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある場合には、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 委員会は教育長が招集する。

2 委員会は、委員の過半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

(守秘義務)

第6条 委員は、職務上知りえた秘密を他に漏らしてはならない。

(庶 務)

第7条 委員会の庶務は、沖縄県立博物館・美術館において処理する。

(雑 則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、沖縄県立博物館・美術館長が別に定める。

附 則

この要領は、平成20年2月19日から実施する。

沖縄県立博物館・美術館年報 No.14 (令和2年度実績)

2021 年 (令和3) 11 月 17 日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館

住 所：〒900-0006

沖縄県那覇市おもろまち3丁目1番1号

T E L : 098-941-8200 (代表)

F A X : 098-941-2392 (代表)

ホームページ：<https://okimu.jp>

(沖縄県立博物館・美術館ホームページ)

印 刷：沖縄自分史センター 株式会社

住 所：〒903-0804

沖縄県那覇市首里石嶺町4丁目288